

劑ノ皮下注射ノ他、餘義ナク「クロロ | フォルム」麻醉ヲ行フコトアリ。

V 談話障礙 Sprachstörungen

29 吃 Stottern

吃トハ發語ノ心理的要素ヲ多分ニ含メル痙攣様遲滯ヲ主徴トスル言語障礙ナリ、我國ニ於テ大正十四年以後ノ調査ニヨレバ 14 歳以下ノ兒童ノミニテモ實ニ 153,000 餘アリ(貝田)、而シテ 2-5 歳ニ多ク、男兒ハ女兒ヨリモ三倍多シ。

原因 遺傳關係ハ甚複雑ニシテ調査困難ナリ、素因ノ遺傳トナスヲ可トス、多クハ模倣、情緒ノ激動、疾病後等ニ起ルコト多シ。

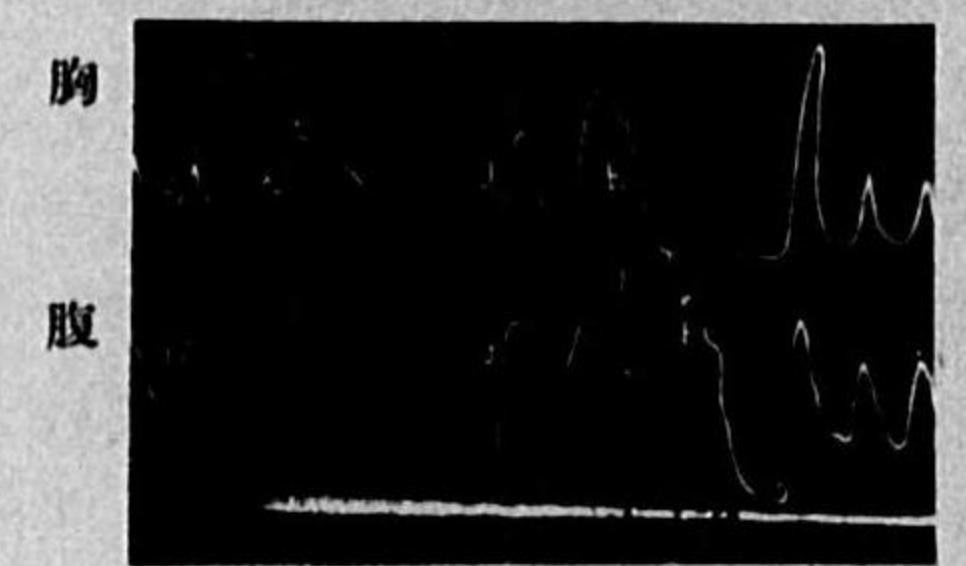
症狀 談話ニ於テ初メノ言葉ヲ繰返スモノノミガ吃ニアラズ、發音ニ關係アル諸筋肉ノ痙攣様收縮ハ著明ナリ、故ニ先ツ呼吸曲線ヲ描キテ見ルニ、平常呼吸時ニハ少シモ曲線ニ異常ナクシテ、發語時ニハノミ異常現ハレ、聲帶逆運動(後輪狀披裂筋ノ收縮不十分ナル爲ナリ)、呼吸頻數、間代性若クハ強直性痙攣呼吸等ヲ示ス。

發聲時ノ喉頭ヲ見ルニ發聲前ニ聲帶ガ不安定ナル運動ヲナシ、或ハ反回神經麻痺ノ如ク聲門ノ開ケルコトモアリ、其状態ハ種々ナリ、尤正常人ニテ

第二百七十八圖 吃者呼吸曲線 胸腹兩壁呼吸運動曲線ガ關係諸筋ノ痙攣ノ爲ニ一致セザル山ト谷ヲ起ス



胸呼吸 腹呼吸 吸氣ニテノ談話 痙攣性吸氣



胸 腹 吸氣時ニ於ル腹 胸腹呼吸ノ離反呼吸ノ硬直性靜止 Nadoleczny = ヨル

モ神經質ノモノニハ發聲時ニ聲唇ノ態度ガ之ニ類スルモノ稀ナラズ。

診斷 普通外部ニ現ハルル症狀ハ吾人ノヨク知レル所ニシテ容易ナレドモ、中ニハ眞面目ニ改リタル所ニテハ少シモ吃ヲ呈セザルモノ、或ハ電話時ノミニ吃スルモノ等、種々ノ異常アル場合ニハ甚困難ナリ、故ニ種々ノ場合ヲ檢セザレバ早計ニハ決シガタシ、又

世人ハ他ノ言語障礙ヲモ吃ト稱スルコトアルヲ以テ、常ニ夫等ヲ區別シ、吃ニ伴フ身體狀態ヲ知り置クコトハ豫後及ビ治療上ニモ必要ナリ。

即チ全身検査殊ニ呼吸ニ關スル検査、精神状態、言語ニ關スル調査(發音障礙ナキカ否ヤ、模倣發語ハ正シキカ吃ルカ否ヤ、音讀等)ヲナスベシ。

吃ト啞トヲ誤ルコト屢アリ、啞ハ發音ノ障礙ニシテ、吃トハ全然異ルモノナリ、而シテ兩者ヲ合併スルモノアリ。鑑別スベキハ次ノ如シ。

◎早口(Poltern)……ハ注意力集中ノ缺陷、談話空氣ト談話動作ノ相互隨伴作用ノ異常、急速ナル談話速度等ノ爲ニ語、句ヲ落シ、或ハ嚙下シ、或ハ加フル一種ノ言語障礙ナリ、之ハ通常容易ニ吃ト區別スルコトヲ得。

◎音聲難發症(Aphthongie)……ハ舌下神經支配ノ下ニアル諸筋ガ發語時ニ強キ痙攣ヲ起ス爲ニ、少シモ發語シ得ザルモノニシテ、獨立スベキ疾患ニアラズシテ、強度ノ吃ニ隨伴スル症狀ナリ。

◎舞蹈病(Chorea minor)ニ來ル痙攣……ハ發語時ノミナラズ、常ニ他ノ筋肉ニモ痙攣起ルガ故ニ容易ニ區別シ得。

◎其他延髓球麻痺(Bulbärparalyse) 痙攣等ニヨリ、延髓核部ノ胃サレタル時、若クハ腦皮質殊ニ前頭、側頭、頭頂

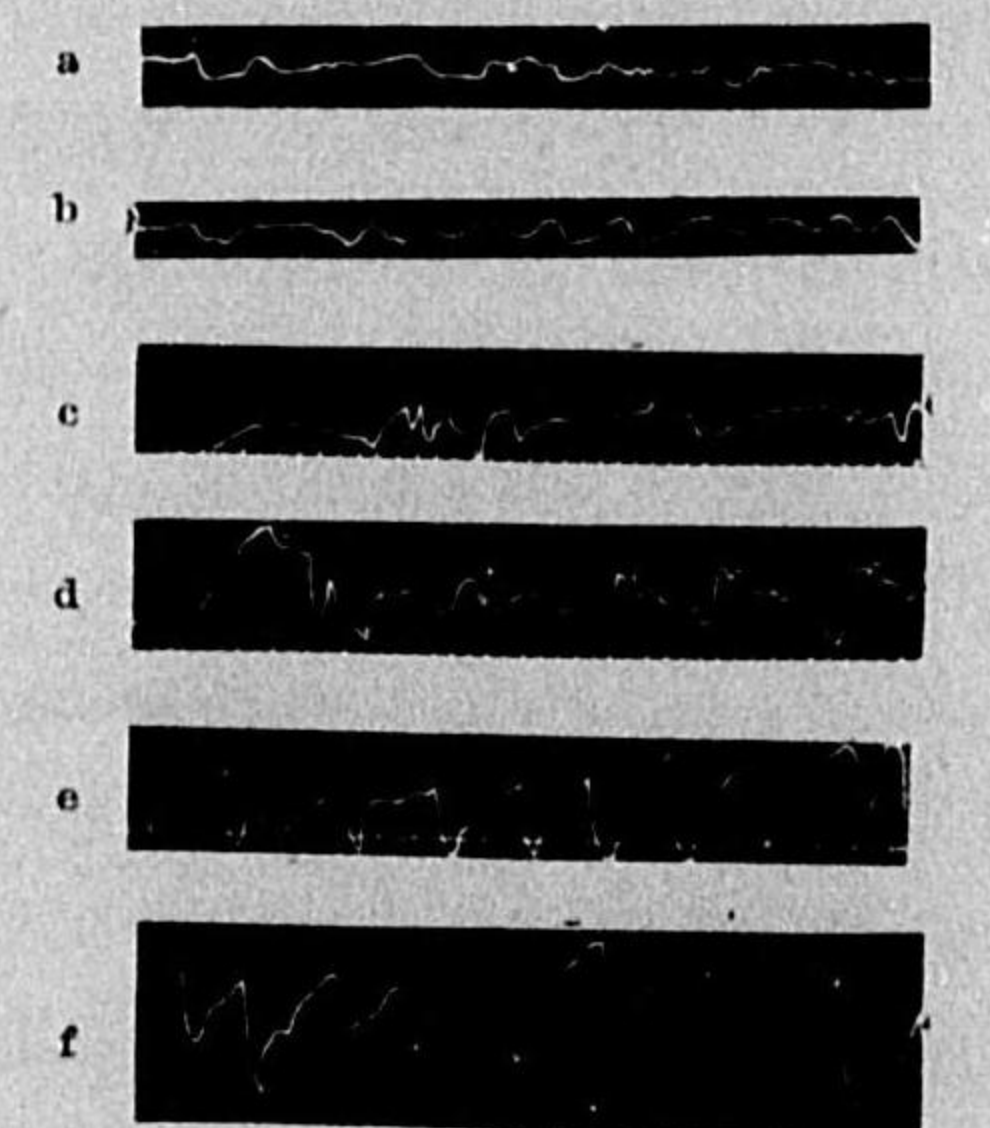
骨部ノ胃サレタル時モ吃ヲ起スコトアリ、故ニ他ノ症狀ト併セテ鑑別ヲ要ス。

◎詐病看破(Entarvung der Simulation) 時トシテ外傷性神經症及ビ徵兵検査等ノ場合ニ問題トナル、而シテ吃ノ模倣ハ比較的容易ナルガ故ニ之ヲ看破スルニモ可ナリ困難アリ。

グッツマン(Gutzmann)ノ鑑定法

a) 呼氣ノ長サガ常人ヨリ短シ、若シ 10 秒以上ノ呼氣時間ヲ示スモノハ詐病ナリ、但シ以前ニ吃音矯正法トシテ呼吸練習ヲナシタルモノハ、呼氣時間ガ屢正常人ト同ジ、依テ病歴ヲ調査スベキナリ。

第二百七十九圖 吃ノ矯正中ノ横隔膜運動曲線



a 最上段ハ不規則痙攣 b 矯正第二日 c 第四日 d 第六日 e 第十一日 f 第十四日、次第ニ健常曲線ニ移行スルコトヲ示ス

b) 絶對的ノモノニアラザレド吃者ノ肺活量ハ常人ヨリモ小ナリ。

c) 呼吸曲線描寫ニ依リ横隔膜運動ニ瘻樣曲線アルヲ見ルベシ、(挿圖二百七十八參照)可ナリ特有ナルモノヲ示ス、余ハ近藤兼市ノ研究ニ携ハリ第二百七十九圖ノ如キ特徴アルモノヲ見タリ。

其他飲酒後ニ檢スル法、鼻翼運動ニヨル法(Fröschels)等アリ、共ニ絶對的價値ハナシ(貝田)。

以上ノ如ク絶對的ノ看破法ハナシ、唯臨牀的ニ常人トノ呼吸曲線ヲ比較スルコトハ病歴ト共ニ可ナリ有力ナル方法ナリ。

豫後 判定ハ困難ナリ、貝田ガ諸家ノ見ル所ヲ綜合セルハ最信頼シ得ベシ。

a) 吃ノ強弱ニハ無關係ナリ、重ニ患者ノ治癒欲求ノ強弱ニ關スルコト多シ。

b) 年齢ノ若キ程佳良ナリ、説明ヲ理解シ得ザル幼者ヲ除キ、幼年者ハ暗示反應性ニ富ミ、精神状態モ變化セシメ易キ爲ナリ。

c) 諸種ノ矯正法ヲ受ケ、而モ治セズ、治癒トイフコトニ失望セルモノニハ不良ナリ。

d) 安ジテ治療ヲ繼續シ得ル境遇ニ

アルモノニハ佳良ナリ。

e) 神経系疾患アルモノニハ不良。

f) 患者自身ガ治療ヲ批判セントスル知識階級ヨリモ、却テ無知ナル人ニ佳良ナリ。

g) 吃ノ療法ハ症状ヲ除クノミニシテ根本的ニ病因ヲ如何トモナシガタシ、故ニ自心シテ療法ヲセザレバ再發スルコトアリ、而シテ治癒率ハ患者ノ種類、受療態度其他ニヨリ種々ナレド現今歐州諸國ノ統計ニテハ70—80%ナリ。

療法 全身療法ヲ怠ル可ラズ、次ニ特殊ノ矯正法ヲ行フ。

全身療法ノ大切ナルコトハGutzmannガ食餌ノ改良ノミニヨリテ吃ヲ治癒セシメタリトイフコトヲ以テモ明ナリ、其他生活ヲ規則正シクシ、ヨク眠ラシメ、飲酒、喫烟ヲ避ケ、強壯法ヲ行ヒ氣分轉換法ヲ考ヘ快活ナラシム。

藥物療法トシテ種々ノ記載アリ、然レドモ夫等ハ重ニ内分泌臟器製劑ニシテ、吃ト内分泌トノ關係ガ未ダ明ナラザル如ク、效果ニ就テモ可否ヲ決スル能ハズ、唯外傷後ニ起リタル新鮮例ニハ精神療法ニ併セテ臭素劑ヲ處方スルコトアリ。

特殊療法トシテハGutzmann式呼吸發聲練習法トリーぶまん(Lieb-

mann)ノ發聲練習法等アリ。

こーえん(Coën)ハ吃ノ原因ヲ重ニ呼吸量ノ低減ニアリシテ、力ヲ呼吸練習法ニ注ギ、吸氣ト呼氣ノ種々ノ組合セ練習ヲ反復シ、次ニ長短種々ノ發聲、發音ヲ練習スル方法ヲトリタリ。Gutzmann法ハ更ニ之ニ加フルニ全身ノ體操ヲ加ヘ、發聲練習ニ於テ呼氣中ニ吐氣(Hauchen)→呬語(Flüstern)→發聲(Stimme)ノ三階段ヲ練習セシメ、遂ニ十二ヶ條ノ話法ヲ擧ゲタリ。

Liebmann法ハ前者ト異リ、呼吸、發音等ノ機械的方面ニ餘リニ注意ヲ奪ハルルコトヲ指摘シ、考ヘルコトト話スコトヲ二ツニ別テタルコトハ、自動的ニ話シ得ルモノナルコトヲ教エ、呼吸ヲナルベク自然的ニシ、緩徐ニ話シ、決シテ吃ルコトヲ氣ニ病マズ、沈黙ノ癖ヲヤメ遠慮ナク話スコトヲ論シテ談話、演說等ヲ模倣セシメ、短語ヨリ長文、長話ニ至ラシムル方法ヲトリタリ。

斯ル際、言語發育的吃兒ニ唯此方法ヲ用ユトモ却テ惡化スルモノナレバ、幼吃者ニハ繪本ヲ以テ説明シ、物語ル内容ヲ豊富ニシテ、次ニ模倣セシメ呼吸、發音等ニ殊更ニ注意ヲ向ケシメズ、寧ろ聽取ト内容ニ注意セシムレバ筋運動ヲ容易ニスルモノナリ。

元來慢性吃ノ治療ハ甚困難ナレドモ未ダ餘リ羞耻ヲ感ゼザル幼者ニハ此Liebmann法ガ效アルガ如シ。

我國ニモ森田正馬式トモ稱スベキ方法ハLiebmann説ノ一部ニ似タル處アリ、即チ吃症状ニ從順ニ決シテ之ヲ怖レズ、靜カニ己ヲ其中ニ入レ己ノ吃ヲ觀察シ、自然ニ吃ヨリ解放サレントスルモノナリ、又我國ニテ吃療法ノ創始タル伊澤修二式(或ハ樂石社法)ナルモノハ吃ヲ横隔膜ノ脆弱ニ因ストナシ、主トシテ之ヲ增強セシムル一種ノ練習法ナリ、而シテ五十音中ハ、ヒ、フ、ヘ、ホ、ノ口形ヲツクリタル儘呼吸練習ヲ行フ。

要之、從來種々ノ矯正的治療法アレド、本症ハ發想(Proposition)ト音的象徵化トノ障礙ナルガ故ニ

i) 發聲セントスル內的言語(テキスト)ヲ明細ニ整理シ

ii) 之ヲ緩徐ニ發聲スルコトヲ主眼トシ、他ノ從屬的ナル暗示、全身療法等ヲ併合スルヲ可トス(貝田)。

發音練習ニハ貝田ハ殊更ナル口形ヲトラシムルコトナク、日常ノ言語及ビ以前ヨリ遊戯的ニ用ユル歌詞等ヲ用ヒタリ、例之

月毎に見る月なれど此月の

今宵の月に似る月ぞなき

思へども思ひ思はず思ふ時
思ふ人をや思はざりけむ
ノ如ク甚興味アリ。

30 訥或ハ訛癱
Stammeln

吃ト異リ談話ノ進行ヲ阻害セラレズ
シテ、或一定音ヲ發音シ得ザルモノヲ
イフ、時トシテ一音ノミナラズ數音ヲ
モ不可能ナラシムルモノアリ、發音器
官(Artikulationsorgane) 例之、舌、口
蓋、齒ノ如キニ障礙アルガ爲ニ起ル機
械的發音困難(Mechanische Dyslalie)
ト機能的障礙ニヨル機能的發音困難
(Funktionelle Dyslalie)トアリ。

訥音症中主ナルモノハ

- i) 「カ」行發音不能症 (Gamma-
zismus)……子音ヲ缺ク
- ii) 「カ」行發音變換症 (Paragam-
mazismus) ……全ク他音ニ變換ス
- iii) 「ラ」行發音不能症 (Lambda-
zismus)
- iv) 「サ」行發音不能症 (Sigmatis-
mus=Lispeln)

ニシテ、日本人ガ屢歐米ノ「L」音ヲ發
シ得ザルハ歐米人ヨリ見テ「ラ」行
發音不能症(Lambdazismus)ナリ、又
九州殊ニ福岡邊ニテ「ラ」ヲ「ダ」トシ、
「ダ」ヲ「ラ」音トスル如キハ「ラ」

行發音變換症(Paralambdazismus)ナ
リ。

診斷ト豫後 診斷ハ容易ナリ、幼年
者ニハ佳良ナレドモ、長年ニ及ビタル
中年以後ノ者ニハ不良ナリ。

療法 舌、齒等ノ發音位置練習ヲ
ナシ、器質的變化アルモノニハ之ヲ除
ク、時ニ齒列矯正ヲ要ス。

31 鼻 聲
Näseln=Rhinolalie

閉鼻聲ハ鼻内障礙ヲ除キ易ケレド開
鼻聲(Rhinolalia aperta)ハ却テ困難ナ
リ、軟口蓋麻痺ニヨル閉鼻聲ト雖、軟口
蓋ヲナルベク咽頭後壁ノ Passavant'
scher Wulst ニ接觸シテ閉鎖スル如
ク、充分大、高音ヲ發シテ談話、唱歌
ノ練習ヲナス、初メハ機械的ニ軟口蓋
舉上ヲ助ケ、或ハ手持チ閉鎖器ヲ用ユ
ルモ可ナリ。

32 詢語=賦滑言語
Lallende Sprache

進行性延髓球麻痺(Progressive
Bulbärparalyse)ニ見ル舌筋麻痺ノ結
果、舌ノ綫(モツレ)タル如キ發音ヲ
イフ、(扁桃腺周圍膿瘍等ニモ之ヲ見
ル)「ラ」行、「サ」行ノ順ニ最著シク現
ハル、次ニ口唇萎縮シ、口笛ヲ吹ク能
ハズ。

氣 管 科 學

Lehre von der Trachea

總 論 Allgemeiner Teil

I 臨牀的解剖學 Die klinische Anatomie

氣管ハ主要呼吸器タル肺ニ外氣ヲ出
入セシムルト同時ニ、發音器官タル喉
頭ヲ作用セシムル通風管ナリ。

喉頭ト肺間ノ距離ニ從テ其長サハ動
物ノ種類ニヨリ異ル、頸部ヲ缺ケル兩
棲類ニテハ極端ニ短ク、長頸ノ鳥類若
クハ獸類例之麒麟ニテハ最長シ。

氣管ハ機能上常ニ管腔ヲナスベキ必
要上多數ノ氣管軟骨輪(通例16-20個)
ガ並列シテ其目的ヲ達ス、氣管ガ骨、軟
骨ノミヨリナリテ餘リ硬直ニ過テハ不
都合ナルヲ以テ、其軟骨輪(輪トイフト
雖、後方食道ニ對スル面ハ軟骨ヲ缺ク、
此處ヲ氣管膜部(Paries membrana-
ceus tracheae)トイフ)間ニ彈性膜
ヲ介セシム、之ニヨリテ嚥下、談話、
唱謠等ニ當リ多少ノ伸縮、屈撓等全頸
部ノ運動ヲ容易ナラシム。

氣管ノ長サ、太サ、走行ハ個人的ニ
多少ノ差アルノミナラズ、其人ノ喉頭
及ビ附近器官ノ動作状態ニヨリテモ異
ル、Brünings ガ生體ノ「れ」線寫眞及

ビ臨牀上ノ計測ニヨリ平均値ヲ求メタ
ル所ニヨレバ

氣管及氣管支分枝ノ長サ

部 位	男	女	十歲兒	哺乳兒
氣 管	12 ^{cm}	10 ^{cm}	7 ^{cm}	4 ^{cm}
右主氣管支	2.5	2	1	0.5
左主氣管支	5	4.5	3	1.5
右氣管支幹	3.5	3.0	2.0	1.0
左氣管支幹	2	1.5	1	0.5
上切齒ヨリ氣管迄 ノ直線ノ距離	12	13	10	12
上切齒ヨリ氣管分 岐部迄ノ總距離	26	23	17	12
上切齒ヨリ右肺下 葉枝間ノ全長	32	28	20	13.5
上切齒ヨリ左肺下 葉枝間ノ全長	33	29	21	14

氣管ノ長サハ個人的差異甚シク、全
身長ニモ比例セズ(Oppikofer)。

氣管及氣管支分枝ノ内徑

部 位	男	女	十歲兒	乳兒
氣管	15-22 ^{mm}	13-18	8-11	6-7
右主氣管支	12-16	10-15	7-9	5-6
左主氣管支	10-14	9-13	6-8	4-5
右氣管支幹	9-12	8-11	5-7	4-5
聲門最大徑	12-15	10-13	8-10	5-6.5

氣管ノ内徑ハ聲門ニ比シテ大ナレドモ全長ニ亙リ同徑ナルモノニアラズ、殊ニ甲狀腺部ニ於テ（**甲狀腺部狭窄**＝Schilddrüsenenge）、又氣管分枝部ノ直上ニ於テ（**大動脈弓狭窄**＝Aortenenge）然リ、之レ直接スル器官ニ一致シテ壓痕ノ如ク管内ニ少シク膨出スレバナリ、其他老人ニテ**甲狀腺部狭窄**ガ刀鞘ノ如ク左右ヨリ狭クナレルモノ、及ビ無名動脈ノ爲ニ生ズル狭窄部等アレドモ臨牀上然迄重要ニアラズ。

是等ノ管徑及ビ長サハ勿論歐米人ニ拘ハルモノニシテ吾人日本人ニアリテハ體格ノ差ニヨリテ長サニ於テ0.5cm、管徑ニ於テ0.3cm内外ノ減小アリ。

氣管全體トシテノ走行ハ正面ヨリ見ル時、約脊柱ノソレニ一致シ、側方ヨリ見ル時ハ下行ニ從ヒ胸廓前壁ヨリ遠ザカリ、且ツ前頭斷面上ニ甚緩ナルS字狀ヲ描キ、稍食道ノ右ヲ走ル（食道科篇400頁參照）。

氣管ノ周圍ハ緩粗ナル結締織ヲ以テ附近ト連絡ヲ保チ、唯兩甲狀腺葉ノ内下方及ビ大動脈弓トハ強韌ナル結締織ニヨリ密著ス、之ニ依テ氣管ハ觸診上ニモ感ズル如ク大ナル移動性アリ、其他甲狀腺峽部上縁ハ結締織纖維板束ニヨリ氣管ノ輪狀軟骨移行部ニ緊著スルコトハ吾人ガ**上氣管切開**（Tracheo-

tomia superior）ニ於テヨク之ヲ認ムル所ナリ。

氣管ニ分布スル動靜脈ハ主トシテ兩側**下甲狀腺動靜脈**（A. et V. thyroidea inferior dextra et sinistra）及ビ**氣管支動脈**（A. bronchialis）ヨリ出ヅ（Zuckerkanal）、而シテ氣管ノ兩側ニテ氣管軟骨輪間ノ**輪狀韌帶**（Ligamenta annularia）ヲ傳ハリ、之ヲ兩方ヨリ取巻ケリ、勿論之ニモ種々ノ**偏異**（Varietäten）アリ。

淋巴管ハ軟骨氣管輪間ヲ横ニ現ハレ氣管前淋巴腺ニ行キ、鎖骨上淋巴腺ニ至ル。

神經ハ**迷走神經**及ビ**交感神經**ヨリ來ル。

氣管及氣管支分枝（Bronchialbaum）

氣管ハ下端ニテ兩側ノ**主氣管支**（Hauptbronchus）ニ分ル、其分ル所ハ生體ニテ第一ヨリ第三肋骨ノ胸骨附着部間ニアリ、是等分枝ノ兩主氣管支間角度ハ種々ニシテ、大人體ニテハ50—100°アリ（Weingärtner）、而シテ常ニ兩側對稱的ニアラズシテ、右氣管支ハ氣管軸トノ間ニ一層小ナル角度ヲナス、即チ右氣管支ハ氣管ト直線ニ近キ角度ヲ形成スルガ故ニ喉頭ヨリ見テ、**氣管ノ分枝部**（Bifurcatio tracheae）ニ見ユル矢狀方向ノ**粘膜隆起**（Luft-

röhrensporn＝Carina tracheae—Luschka）ハ氣管ノ矢狀正中斷線ヨリ左ニ偏スルヲ常トス、此事實ハ小ナル氣管異物ガ屢右氣管支ニ入り易ク、直達的氣管鏡検査管ガ常ニ容易ニ右氣管支ニ入ルコトヲ示スモノナリ。

右ニ短ク、左ニ長キ主氣管支ハ斯クシテ肺葉數ニ一致シテ右ニハ**三氣管支分枝**（Bronchiolen）ニ、左ニハ二氣管支分枝ニ細ク小分セラル、其上葉ニ行クモノハ**氣管支幹**（Heißノ所謂Stammbronchus）ヨリ殆直角ヲナシテ分枝シ、下葉ニ至ルモノハ同軸ヲ延長シタル形ニ細クナリテ移行ス、此故ニ直達鏡的検査ニ於テ肺上葉ニ至ル氣管支分枝ハ其管腔内ヲ見ルコト能ハズ。

主氣管支（Hauptbronchus）ニハ氣

管ニ於ル如ク、次第ニ短小ナル馬蹄形ニシテ後方ニ開ケル不全軟骨輪アリ、之ヨリ末端ニ至ルニ從ヒ不規則形ヲナシ、且ツ軟弱トナル、故ニ氣管支鏡検査ニ於テ進路ハ自由ニ伸張屈曲スルコトヲ得、氣管支分枝ノ末梢ニ行ケバ、多數ノ氣管支動脈ハ更ニ分枝シテ微肺動脈枝ト連絡シ營養ス。

肺淋巴腺ハ是等氣管支ニ多數ニ密著ス、殊ニ氣管支下端ヨリ左右氣管支壁ニハ多數ニシテ之ヲ**肺門淋巴腺**（Hilusdrüsen）トイフ。

氣管及ビ氣管支腔内ノ粘膜ハ總テ**多列纖毛圓柱上皮**（Mehrröhige flimmernde Zylinderepithelien mit Becherzellen）ニテ成立ス、而シテ混合腺ヲ有ス。

II 臨牀的生理學 Die klinische Physiologie

單純ナル呼吸空氣ノ通路ニ相當スル氣管及ビ氣管支ハ其管腔ノ意義及ビ分枝ノ機械的意義ヲ除ケバ、器官其モノトシテ研究スル所少ク、臨牀的ニハ其全體トシテノ移動性或ハ運動性ガ問題トナル。

A 受動的運動 Passive Bewegung

直達的検査ニ於テ吾人ガ直ニ氣付ク所ハ其呼吸時性及ビ搏動性運動ナリ。

a) 呼吸時性運動 Respiratorische

Bewegung

氣管ト肺トノ間ハ直接セザルヲ以テ此呼吸時性受動的運動ハ末梢ノ氣管支分枝程ニハ強カラズ、Brüningsニヨレバ最深吸氣ヲナス時モ氣管支ハ其儘1cm下方ニ移動ストイフ、而シテ氣管モ氣管支モ管腔ノ變化ハ大人ニテハ甚少シ、然ルニ咳嗽時ノ一瞬ニ於ル如ク聲門閉鎖ガ突然開放セラレル時ハ氣管及ビ氣管支ノ管腔ハ其瞬時ニ狭小

ス、小兒ニ於テ殊ニ然リ、但シ大人ニテハ氣管後壁 (Paries membranaceus) ノ如キ軟部ノ膨出ニヨリ變化ハ少シ。

b) 搏動性運動

Pulsatorische Bewegung

之ハ容易ニ想像シ得ル如ク大血管及ビ心搏動ノ傳播ニヨルモノニシテ大動脈弓ノ密接セル左氣管壁ハ心收縮期ノ膨隆ヲ見ル。

c) 嚥下時ノ氣管壓迫

Deglutatorische Kompression

之ハ嚥下作用ノ時食道壁ト軟性氣管後壁トガ直接シテ後者ニ起ル波形狀蠕動的運動ヲ見ルモノナリ。

以上三種ノ受動的運動ハ直達鏡の検査ニ於テ確實ニ見ルコトヲ得。

B. 能動的運動 Aktive Bewegung

氣管ニハ其筋肉ノ短縮スル作用ニヨリ多少狹細トナリ再ビ擴張スル作用アリ、之ハ迷走神經末梢部ノ刺戟ニヨリ起ル、故ニ反回神經麻痺ニハ斯ク狹細トナルコトナシ、又反射的ニモ反回神經、上喉頭神經、皮膚知覺枝ヲ刺戟シテ

モ起ル、此現象ハ喉頭粘膜ヲ刺戟シテモ起ルヲ見ル。

以上氣管及ビ氣管支等ニ分布スル神經ハ迷走神經ニシテ、交感神經ハ少クモ氣管支運動ニハ關與セザルガ如シ。

C. 氣管粘膜ノ機能 Funktion der Tracheobronchialschleimhaut

是等氣管粘膜ハ纖毛上皮ヲ有スルヲ以テ分泌物、塵埃等ノ排出作用ニ關與スルコトヲ信ズト雖、其力ハ甚シク微弱ニシテ、分泌物ノ排外作用ハ多クハ急激ナル呼吸壓ニヨルハ明ナリ、又此部ノ粘膜ハ刺戟ニヨリ反射性ニ咳嗽若クハ深呼吸ヲ起ス作用アリ。

過敏ナル粘膜ナリト雖、機械的刺戟ニ應ズルハ其刺戟ノ初ノミ、持續的ニ之ヲ刺戟シ或ハ刺戟ニ慣レシムル時ハ耐容性 (Toleranz) ヲ得テ最早反射作用ヲ起サザルニ至ル (Ch. Jackson), 故ニ吾人ハ臨牀上卷綿子等ヲ以テ氣管粘膜ヲ壓抵シタル儘、持續的ニ之ヲ刺戟スル時ハ最早咳嗽ヲ起サザルヲ知ル。

III 氣管及氣管支ノ検査法

Die Untersuchung der Trachea und des Tracheobronchialbaumes

A. 「れ」線検査法 Röntgenuntersuchung

Ch. Jackson ハ三十餘年前、氣管支

分枝ノ状態ヲ檢スベク乾燥細管ヲ通シテ次炭酸蒼鉛ヲ氣管支内ニ撒吹セリ、ふれすちゑ (Forestier) ガ脊髓腔ニ

用ヒタル「れ」線造影液劑 (Kontrastmittel) 「リビオドール」 (Lipiodol) ヲせるじょん (Sergeant) 等ハ氣管支分枝ニ用ユルニ至リ次第ニ改良セラレテ、下氣管診斷上重要ナル地歩ヲ占ムルニ至レリ、最近内國産ニテモ主ニ腎孟用ノ沃度劑「ウムブラトール」、「アプロデル」、「スギウロン」、「トロトラス」等簇出シ、検査ヲ容易ナラシメタリ、注入法四アリ。

(i) 外頸ヨリ甲狀、輪狀軟骨間膜ヲ穿通シテ氣管内ニ注入スル法 (Sergeant, Cottenot, Bianchini)

(ii) 喉頭ニ O'Dweyer 式挿管ヲ行ヒ其副管ヨリ注入スル法 (Iglauer)

(iii) 氣管直達鏡ノ補助下ニ、或ハ之ニヨラズシテ注入器ヲ聲唇ヲ超テ氣管内ニ注入スル法 (Ballon, Howarth, Clerf, Magnus u. Sgalitzer)

(iv) 下咽及ビ喉頭ヲ充分ニ局所麻酔セシメ造影劑ヲ流入シ、氣管ニ吸引セシムル法 (Clason)。

各一長一短アリ、而シテ吾人専門家ノトルベキ方法トシテ推稱シ得ルハ (iii) ナリ、殊ニ氣管鏡ノ援助ニヨリ氣管壁ヲ煩ハサズシテ直接氣管支以下ニ至リ、親シク造影劑ノ流布スル過程ヲ見、任意ニ部位ヲ選擇シ、用量多キニ過レバ其儘液ヲ吸引除去シ得ルモノニ

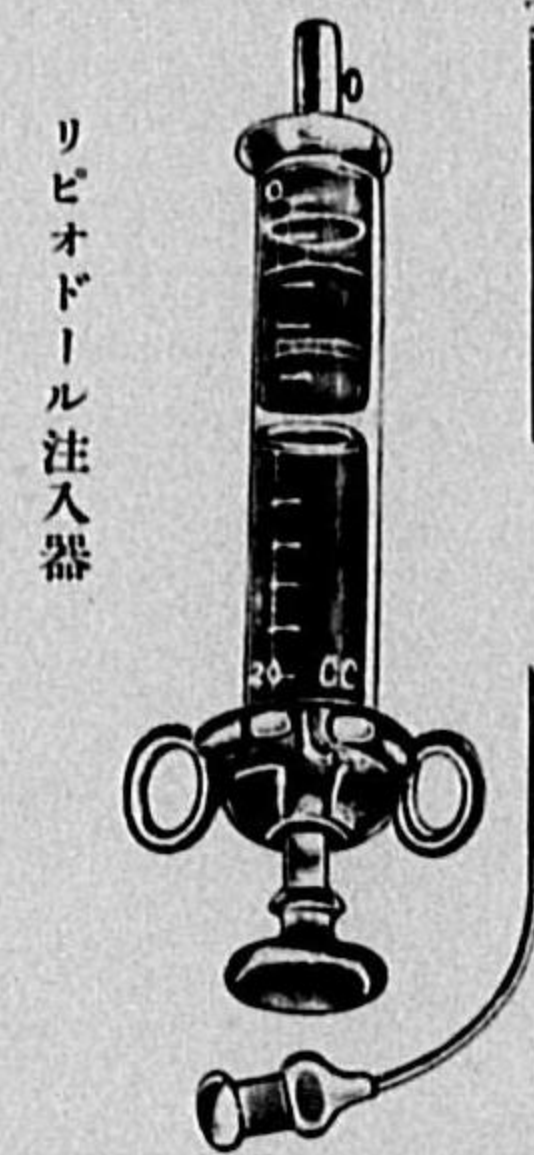
シテ恐ラク之ニ優ルモノナカルベシ。

注入ニハ側位ヲトリ、特殊ノ耐壓注入器ヲ用ユ。

スル沃度製劑ハ「れ」線検査後通例其儘自然ノ吸

第二百八十圖

收ニ委スルコト多キヲ以テ多少粘膜ノ腫脹ハ免ルル能ハズ、又時ニ肺症狀ノ著シク改善スルコトアリ、一般衰弱、重症肺結核、心疾患、重キ代謝病等



ヲ除キ慎重ニ適應例ヲ選ブベシ、適應症トシテハ種々アルベキモ肺腫瘍、下氣道ノ畸形、氣管支分枝ノ異物、氣管支擴張症ニハ甚良キ診斷法ナリ。

全然無害ニアラザルヲ以テ用量ハ「リビオドール」ノ 20—30 c.c. ヲ大人ニ 10 c.c. 以下ヲ小兒ニ用ユ、緩徐ニ注入シ、一回検査一側ヅツニ應用ス、然ル時ハ多少呼吸ノ障礙、輕度咳嗽ハ然迄意ニ介スル要ナシ。

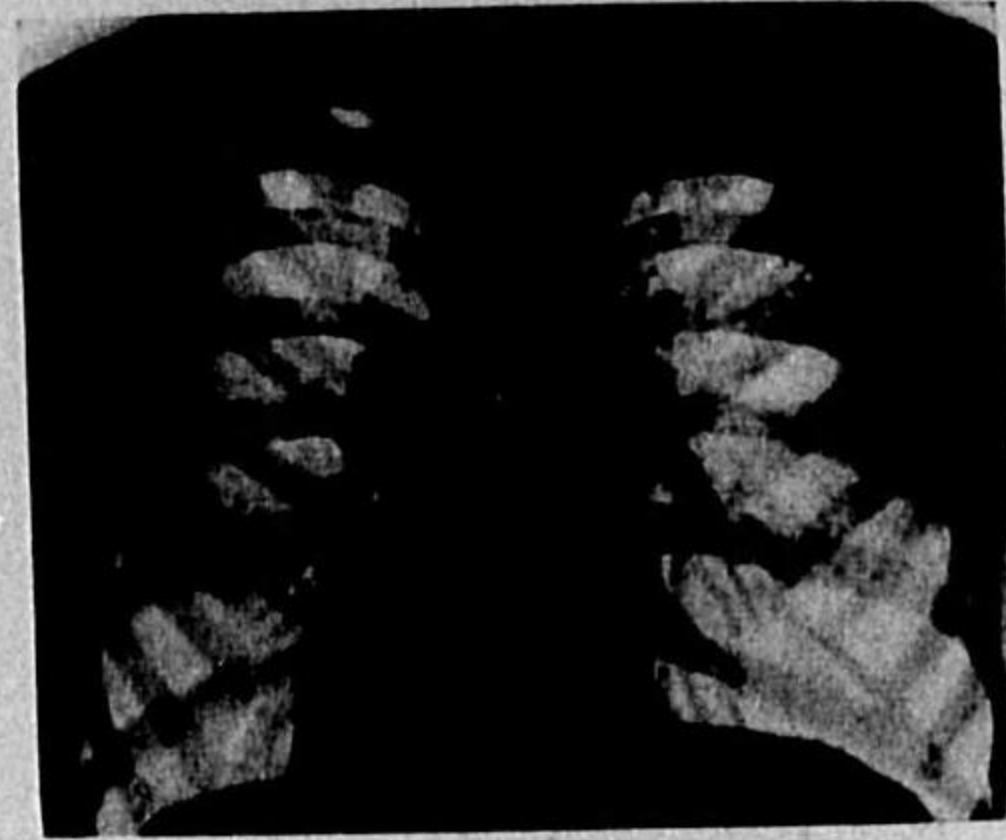
造影劑ニ依ラザル胸背映寫法ニヨリテハ健常氣管ハ少シク透明ナル帶狀部

ヲ螢光板ニ印ス、此際「れ」線ノ硬度ヲ變化セシメ且ツリすほむ「ブレンデ」(Lysholmblende)ヲ用ユレバ一層ヨク之ヲ見得ベシ、併シ脊柱ニ對シ或ハ附近器官ニ對スル位置ノ關係ハ體軸ヲ種々ニ回轉セシムル方法ヲ行フベシ、斯クシテ前記ノ少シク透明帶狀ノ氣管ハ分岐部及ビ前方器官トノ境界迄ヲ示スモノナリ、其他少シク斜ニ見ル時ハ氣管ノ嚙下時運動モ見ルヲ得、故ニ精細ニ検査セントセバ背胸位ト斜方面トヨリ透視シ且ツ撮影(肺診斷ニ採用セララル 遠距離撮影ハ一層適當ス)スベシ。

健康者ニアリテハ氣管分岐部ハ第三胸椎邊ニアリ、而シテ此邊ニテハ脊柱ニ接近セルヲ見ル、然レドモ胸骨及ビ大動脈弓ノ暗影ノ爲ニ前後撮影ニテハ明ナラズ。

次ニ氣管支分枝ノ更ニ小分枝(肺影像=Lungenzeichnung)ヲ屍體ニ就テ造影劑ヲ入レ検査シタル人ハ多ケレド生體ニ就テハ斯ノ如ク微細分枝迄造影劑ヲ用ユルコトハ可ナリ困難ナルヲ以テ單ニ前者ノ像ヲ以テ想像スルノミ、之ニヨレバ肺門部ハ圖ニ見ル如ク、胸骨影ノ兩側ニ沿テ稍濃キ不規則形葉狀ノ陰影ナリ、此中ニハ勿論硬化シタル淋巴腺アリテ、之ヨリ四方ニ細キ線狀影

第二百八十一圖
肺門淋巴腺「れ」線像



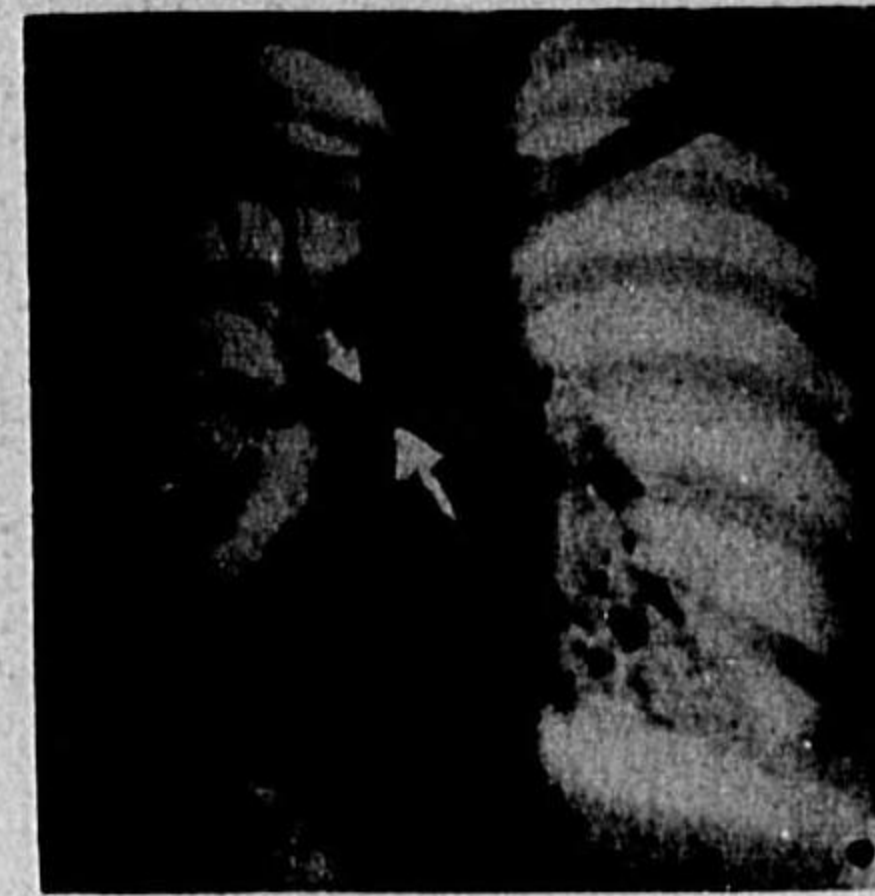
(Streifenzeichnung)ノ派出ヲ認ム、之レ氣管支分枝及ビ其分枝壁ナリ、此像ハ殊ニ血管ノ充盈ニヨリ著明ニ見ユ、氣管支ハ氣管ト異リ特殊ノ石灰化、骨化等ノナキ限リ、比較的明ナル透影ヲ生セズ。

氣管支分枝乃至肺ノ運動ハ分岐部以下ニ吊リ下ゲタル金屬球ヲ螢光板ニヨリテ觀察スル外、少シク精細ナル研究ハ特ニ運動描寫撮影法(Röntgenkymographische Aufnahme)ニ依ル、氣管分岐部ノ呼吸ニヨル上下移動ハ之ニ依リテ 10 mm ナリトイフ(Weingärtner)。

氣管ノ位置、形態ノ變化ハ「れ」線検査ニヨリ最ヨク知ルコトヲ得、即屢來ル腫瘍ニヨル偏倚(Abweichung)ノ如シ、壁其モノニ就テハ何等施ス所ナクシテハ著シキ價値アル検査ヲナシ得ズ、唯腫瘍上ニ造影ノ粉末ヲ撒布スルコト

ニヨリ比較的ヨク觀察スルコトヲ得。

第二百八十二圖
左氣管支狭窄ニ造影劑ヲ撒布シタル像



Ch. Jackson ニヨル

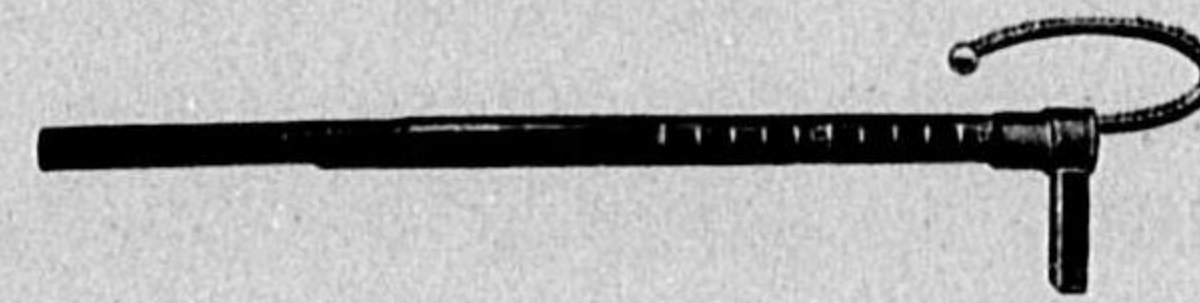
其他腫瘍、膿瘍、異物ニヨル閉塞性肺炎ノ如キハ多少限局シタル或ハ比較的彌蔓性ノ暗影ヲ示シ、氣管支狭窄ニハ其他縱隔洞ガ患側ヘ呼吸性移動ヲナスヲ見ル。

B. 直達的气管及氣管支検査法

Direkte Tracheobronchoskopie
既ニ喉頭科篇317頁ニ述タル Killian

第二百八十三圖

Brünings 式伸長性氣管支直達検査管



第二百八十四圖



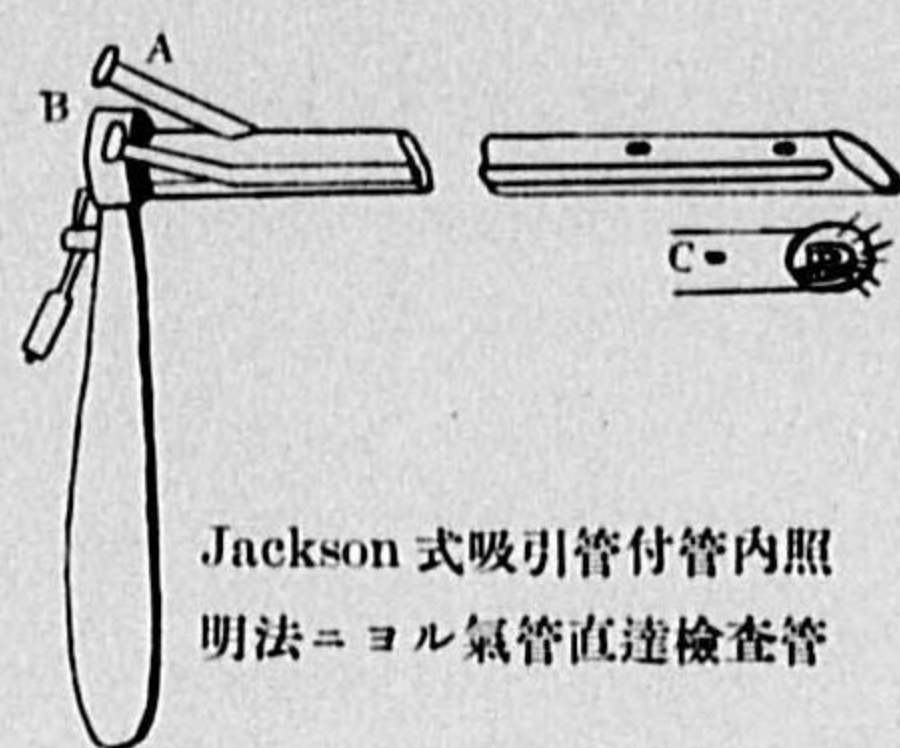
Brünings 式
電照把柄

式喉頭検査法ヲ以テ、或ハ時ニ普通ノ喉頭鏡検査法ヲ以テ氣管及ビ其分岐部ヲ見得ベシト雖、斯ル深部ノ空洞ハ上記ノ間接法ヲ以テスルハ不完全ナルヲ免レズ、殊ニ氣管支ハ不可能ニ屬ス、之レ氣管軸ト喉頭軸トハ多少角度ヲナシ一直線上ニ連絡セザル爲ト、普通ノ反射鏡ヲ以テハ暗キガ爲ナリ。

直達氣管、氣管支検査法即チ廣義ノ管腔直達検査法ハ次第ニ進歩シテ現在ニテハ特殊ノ禁忌、例之大動脈瘤、化膿性肺炎、肺ノ多發性膿瘍、膿胸、著シキ心臟衰弱、活動性肺結核及ビ重篤ナル他部ノ合併症ヲ除キテハ總テノ管腔器官疾患ニ應用セラレ、之ナクシテハ治療成績ノ佳良トナラザルコトモ明トナレリ、生後四ヶ月ノ乳兒ニモ行ヒタル例アリ(Patterson)。

1896年 Killian ニヨリ完成セラレ、其後Brüningsニヨリ改良ヲ見、Kahler,

第二百八十五圖



Jackson 式吸引管付管内照明法ニヨル氣管直達検査管

田所, 山川其他ニヨリ電照把柄ノ考案, 改變アリ, Ch. Jackson ハ初ヨリ管内照明法ヲ採用シ, 診斷上, 治療上誠ニ光輝アル結果ヲ來セリ。

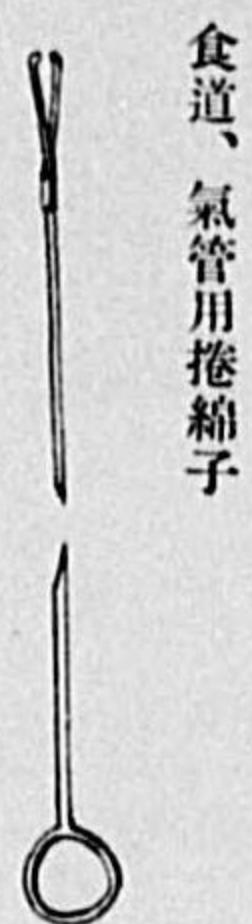
Killian ハ光源トシテ Kirstein-Killian 額帶電燈ヲ用ヒ器械考案ニ妙ヲ得タル Brünings ハ萬能電照把柄ヲ検査管ニ連絡セシメ, Kahler 又類似ノ把柄ヲ考案(田所氏改變)シ, Jackson ハ光源ヲ管ノ内尖端ニ置キ又管ニ粘液吸引用細管ヲ副行セシメ, Haslinger ハ電照ト管ノ把柄ヲ相對シテ管端ニ裝置スル等種々ノ改良ヲナセリ, 要之, 光源ヲ管外ニ置クト, 管内ニスルトノ二種ナリ, 優劣ハ其使用者ノ熟練ニヨル所アリト雖, 照明度ヲ粘液等ニヨリ減損セザル爲ニハ管外ニ光源ヲ置ク可ナリト信ズ。

検査管ハ被檢者ノ年齢ニヨリ或ハ検査目的部ニヨリ管徑ト長サヲ異ニシ, 種々ノ準備アリ, 現今最多ク用ヒラルルハ Brünings 式伸長性内管付検査管(第二百八十三圖參照)ニシテ使用ノ直達管外徑ハ凡次ノ如シ。

- 2-5 歳……………5-6 mm
- 5-8 "……………6-7 "
- 8-12 "……………7-9 "
- 12-16 " 及女子……………9-10 "
- 成人男……………10-12 "

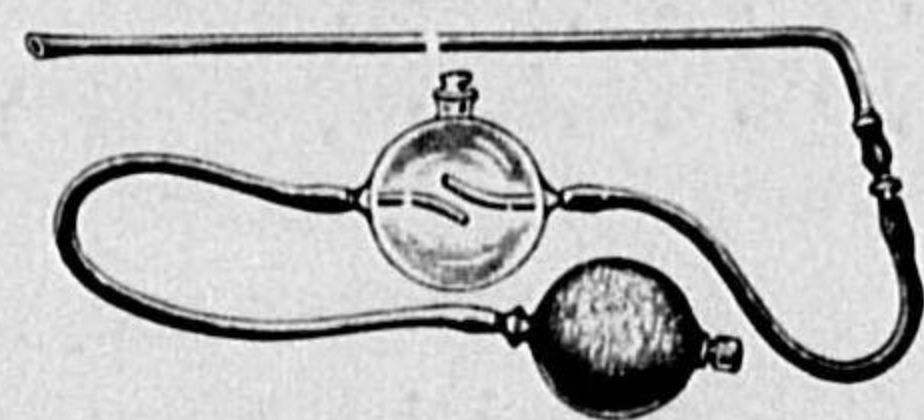
但シ管壁厚キモノハ勿論, 内腔ガ甚小ナルヲ以テ検査ニ 第二百八十六圖不利アリ, 管端ハ薄クシテ銳キモノヲ用ユ可ラズ。

事理ヲ辨ゼザル騒暴ノ小兒(全身麻醉)ヲ除キ多クハ局所表面麻醉(2%「パントカイン」, 或ハ 10-20%「ココイン」)ヲ



食道、氣管用捲縮子

第二百八十七圖 Brünings 式粘液吸引用ポンプ



用ヒ一般鎮靜劑トシテ「パントボン」「ナルコボン」等ヲ豫ジメ皮下注射ス, 而シテ塗布麻醉ハ咽, 喉, 聲唇下ノ順ニ徐ニ進ミテ充分ニス)ノ下ニシ, 幼兒ニハ無麻醉ノ下ニ行フ, 「パントボン」ノ皮下注射ハ検査ノ障礙トナル分泌ヲ抑制シテ有效ナレド

老人ニハ用ヒザルヲ可トス。

此検査法ニ二種アリ。

(i) 經口法ニ上氣管, 氣管支直達検査法 Tracheobronchosopia directa superior

(ii) 經氣管切開孔法ニ下氣管, 氣管支直達検査法 Tracheobronchosopia directa inferior

幼兒ノ氣管及ビ氣管支異物抽出法ヲ兼ル時, 若クハ口, 咽, 喉頭ニ特殊ノ疾患アリテ經口法ヲ許サザル時ヲ除キ, 検査ニハ經口法ヲ用ユ。

(i) 上氣管, 氣管支直達検査法

Tracheobronchosopia directa superior

坐位ヲトランシメ 頤部ヲ充分ニ揚ゲ, 頭部ヲ後屈シ, 胸部ヲ突出シ, 深く呼吸セシメツツ検査管ヲ挿入ス, 検査ノ難易ハ被檢者ノ頭位及ビ體位ニ因ルコト多キヲ以テ, 平生介補者ノ訓練ヲ要ス, 此坐位ノ缺點ハ管ノ氣管内進入以前ニ唾液等ノ滯留ニヨリ, 呼吸ト操作ヲ妨ゲラルルニアリ, 故ニ分泌強キモノニハ頭部ヲ低クシタル背位若クハ右側位ヲトランシメ, 口, 咽分泌物ハ自然流出ニ委スルコトアリ, 検査管尖ハ喉頭ヲヨク檢シ, 吸氣時聲門ノ充分ニ開キタル時ニ手早ク之ヲ通過シ, 氣管壁ヲ見ツツ下方ニ進ム, 検査シツツ長キ綿

卷棒ヲ以テ局所麻醉藥(376頁參照)ヲ塗布ス, 氣管分枝部ハ殊ニ過敏ナリ。

斯クシテ氣管ヲ精査シタル後ハ伸長用内管(先端ニ近ク數個ノ竝列小窓アリ, 一側氣管支ニ入りタル時, 他側氣管支ヨリノ通氣ヲ妨ゲル爲ナリ)ヲ少シク暖メ, 流動「パラフィン」ヲ塗リ, 彈性把持線ヲ持チ, 靜ニ外管内ヲ溝ニ沿テ進メ, 豫ジメ麻痺セシメタル氣管分枝部ヲ超テ目的ノ氣管支ニ向フ, 分泌物ハ綿卷棒ニテ拭ヒ, 或ハ陰壓裝置ニヨリ吸出ス, 右氣管支ハ氣管トノナス角度ガ大ニシテ殆一直線ニ近キヲ以テ挿入シ易シ, 而シテ進入後間モナク中, 下肺葉分枝(上肺葉分枝ハ氣管支ト殆直角ヲナセルヲ以テ其内腔ヲ見ガタシ)ノ分ルルヲ見ルベシ, 解剖篇ニ述タル如ク軟骨輪ハ此部分ニハ唯不規則ナル存在ニ過ザルヲ以テ屈伸自在ニナリ, 更ニ細小検査管ヲ挿入スルコトヲ得, 實際異物ノ碎片ハ此細小部迄モ陥入スルコトアルヲ以テ屢検査ノ必要ナルコトアリ。

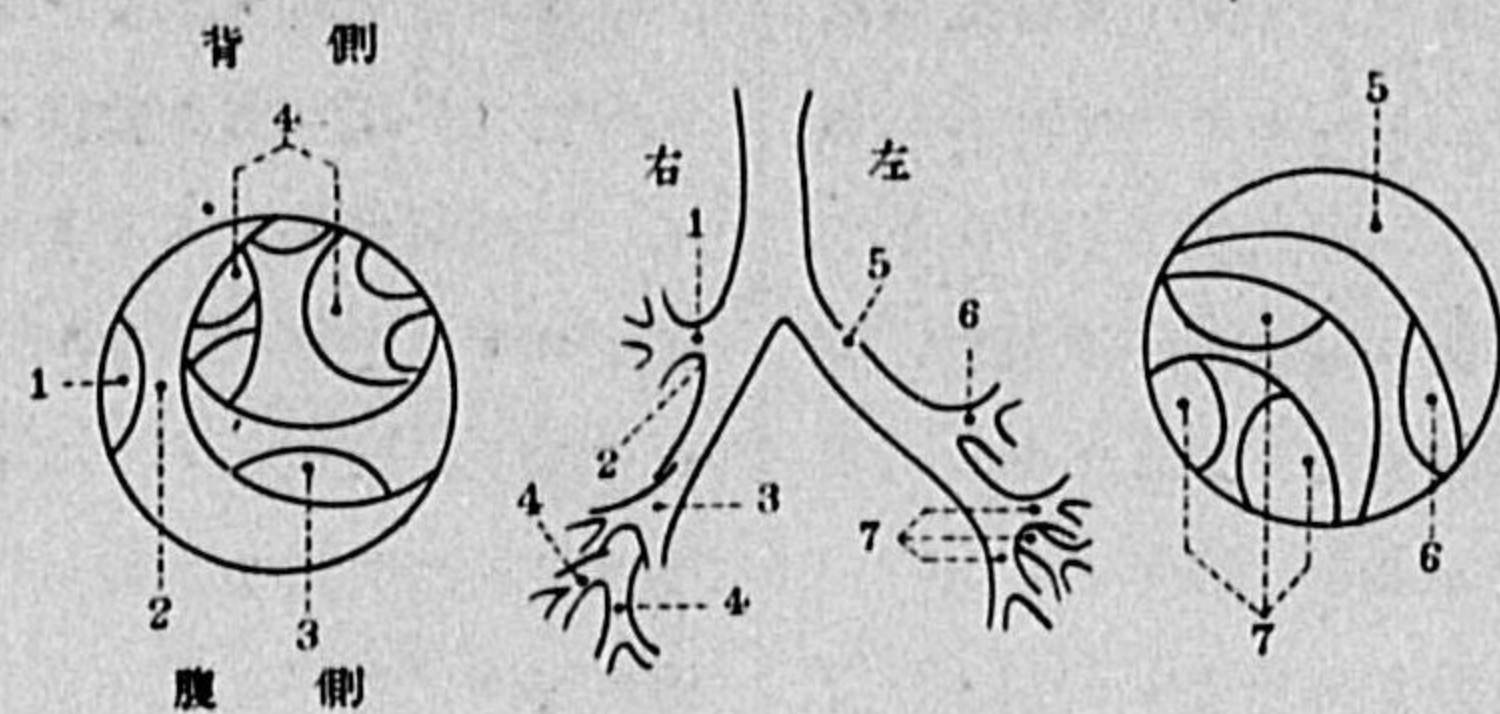
左氣管支ニ管ヲ入ルル時ハ少シク被檢者ノ頭部ヲ右側ニ傾ケ, 管ノ先端ヲ入り易カラシム。

以上ノ検査ハ可ナリ熟練ヲ要ス。

(ii) 下氣管, 氣管支直達検査法

Tracheobronchosopia directa

第二百八十八圖
定型的氣管支鏡像
Denker-Brünings ヨリ



inferior

検査部位が眼ヨリ近キダケニ前法ヨリモ容易ナリ、故ニ氣管切開ノ必要ヲ豫想シ得ル患者ニハ其手術ヲナシテ後ニ此検査法ヲ行フ可トス、幼兒ニアリテハ喉頭解剖篇 312 頁ニテ述タル如ク、聲唇下ノ粘膜ガ甚過敏ニシテ上喉頭直達検査及ビ之ニヨル所置ヲナシタル後腫脹シ、呼吸困難甚ク遂ニ氣管切開(喉頭科篇各論 16, 350 頁ニテ説述)ヲ餘儀ナクセラルルコトアリ、故ニ幼兒ニハ、下氣管、氣管支鏡直達検査法ヲ用ユルコト多シ。

此方法ハ氣管自己ノ切開縁ニ裂傷ヲナサザル如クシ、検査管挿入後ハ被檢者ハ頭部ヲ傾ケ少シク回轉セシムレバ其他ノ方法ハ前法(1)ト異ル所殆ナシ。

C. 直達的气管及氣管支検査法ノ不快現象 Ueble Erscheinungen bei

der direkten Tracheobronchoskopie

i.) コカイン中毒

Kokainintoxikation

嘗テハスル検査ニ 25%「コカイン」ノ「アルコール」溶液若クハ 20%「コカイン」水溶液ノ如ク高濃度ノ「コカイン」ヲ用ヒシヲ以テ、之ヲ餘リ多量ニ用ユル時、中毒ノ不快アリシモ、余ハ 10% 以上ノ「コカイン」溶液ヲ用ヒタルコトナシ、故ニ注意シテ用ユレバ中毒ノ危険ニ會ヒタルコトナシ、中毒性少キ「ヌベルカイン」、「ベルカイン」等大ニ用ヒラルト雖、是又決シテ安全ナリトイフ可ラズ、且ツ作用ニ於テ「コカイン」ニ優ル所ナシ、要ハ卷綿子ニ滴ル如ク多量ニ高濃度ノ局所麻醉液ヲ用ヒザレバ殆不快現象ヲ見ズ。

ii.) 呼吸及心臟衰弱 Erschöpfung

der Atmung und des Herzens

検査ノ精密ヲ期シテ餘リニ長時間同一體位ニテ行ハバ、呼吸道ヲ閉塞スルニアラズト雖、猶被檢者ハ疲勞シ、氣力ヲ失フニ至ルベシ、殊ニ全身麻醉ノ場合若クハ幼兒ニ此検査法ヲ行フ時ニ然ルヲ見ル、故ニ余ハ麻醉ノ如何ニ拘ハラズ、大人ニ於テ一回ニ十五分、幼兒ニ於テハ五分間ヲ限度トシ、若シ目的ヲ達セザル時ハ一旦中止シテ更ニ一般状態ヲ顧慮シツツ再檢スルヲ例トス。

iii.) 聲門下ノ腫脹

Subglottische Anschwellung

詳細ハ下氣管、氣管支鏡検査法(378 頁)ニ於テ述タルヲ以テ省略ス。

D. 胸部ノ理學的検査法ト其症狀

Physikalische Untersuchung der Trachea und der Bronchien vom

Brustteile

先ヅ呼吸状態殊ニ呼吸數ニ依テ異常ノ有無ヲ知ルコトハ、簡略ナル検査法ナレドモ缺ク可ラズ、呼吸困難ハ總テ肺呼吸面ノ縮小ヲ來ス疾患ニ依テ起リ、我領域ニ於テ比較的多ク之ヲ見ル

ハ氣管、氣管支ノ異物、小兒ノ氣管支腫瘍、縱隔洞腫瘍及ビ氣管支喘息ナリ。

咯痰ハ之ヲ肉眼的及ビ顯微鏡的ニ檢シテ、纖維素性凝固物(大ナルハ樹枝狀)或ハ異物破片ノ有無ヨリ、腫瘍細胞ノ有無ヲ見ル外、打診(Perkussion)聽診(Auskultation)ヲモ内科的ニ検査スベシ、専門醫トシテモ是非此内科的審査ハ怠ル可ラズ。

打診上濁音ヲ呈スルハ肺浸潤若クハ縱隔洞腫瘍ニ見ル所、殊ニ異物ノ氣管支分枝等ニ長ク介在シタル部位ニハ浸潤強ク起リテ此所見ヲ呈ス、又比較的新鮮ニシテ氣管支ヲ全ク閉塞シタル如キ異物或ハ腫瘍ニ於テハ次第ニ肺組織ノ弾力性ヲ減ジ、弛緩シ鼓音(Tympanischer Schall)ヲ呈スルコトアリ。

聽診上ニハ氣管支分枝ヲ閉塞セザルモノニテモ、又高度ナラザル腫瘍ニテモ其屬スル肺葉ニ於テ肺胞音ハ低弱ナルヲ常トス、是等ノ理學的胸部所見ト病歴ヲ知り、更ニ直達ノ検査法ヲナサバ検査ハ八九分迄完成シタリトイフベシ。

IV 治療法一般 Die allgemeine Therapie

A. 吸入 Inhalation

諸種ノ藥液ガ吸入ニ依テ果シテ氣管

氣管支ノ如キ深部氣道ニ至ルヤ否ヤハ是迄種々ノ論議アリ、然レドモ是迄ノ

實驗, 研究ニヨレバ, 非刺戟性ニシテ喉頭ノ閉鎖ヲ反射的ニ起スモノニアラザレバ蒸氣, ガス體ハ明ニ肺胞ニ迄達ス, 之ガ爲ニハ餘リ高壓ニテモ又餘リ高熱ニテモ此目的ニ叶ハズ, 其他口腔ト喉頭間角度ガ殆直角ヲナセルヲ鈍角的ニナシ, 充分ニ開口シ, 舌ヲ充分ニ挺出シ, 頭部ハ少シク後屈ス, 斯クスル時ハ口喉兩腔ハ漏斗形ヲナシ, 聲唇間ヲ擴ゲ會厭軟骨ヲ舉上スル如クス, 勿論吸引藥液ハ微細ナル程ヨク深部ニ達ス。

通例吾人ハ溶解シタル藥劑ヲ一般市販ノ小吸入器ニテ應用ス, 各多少ノ長短アルベキヲ以テ器ハナルベク微細蒸氣ヲ噴出スルモノヲ選ブベシ。

而テ吸入劑ニハ粘滑劑(Emollientia) 收斂劑(Adstringentia), 溶解劑(Resolventia), 刺戟劑(Excitantia), 殺菌消毒劑(Desinficientia), 麻醉劑(Narcotica), 礦泉(Mineralwasser) 等アリ。

此中粘滑劑ノ浸, 煎劑ハ氣道疾患ニ用ユル要ナシ, 蓋, 吸入器ノ細管ヲ閉塞シ, 其作用ハ氣管細分枝ニ却テ有害ナレバナリ。

收斂劑ハ組成ト濃度ニヨリ收縮的ニ或ハ止血的ニ作用ス, 粘膜其他蛋白質ニ結合シテノ膜ヲ形成シ, 之ガ脱落

スレバ上皮細胞ノ新生ヲ促進ス, 故ニ手術後ニ吸入トシテ或ハ塗布劑トシテ用ユ, 鞣酸(Gerbsäure 0.2% ハ刺戟強ク不利アリ), 明礬(Alaun 0.2—2% 止血ニ效アレド齒牙, 味覺器ニ有害ナリ), 硝酸銀(Argentum nitricum ハ實用セラレズ), 過「クロール」鐵液(Liquor ferri sesquichlorati 0.2% 既ニ齒牙ニ有害ナリ), 硫酸亞鉛(Zincum sulphuricum 0.5% 嘔氣ヲ催ス), ミルラ丁機(Tinctura Myrrhae 芳香アリ, 水 500 c.c. = 2 滴既ニ效アリ) 等アリ, 各多少優劣アリ, 最後者ノ「オパール」色ノ滴下液ハ最ヨシ。

溶解劑トシテハ分泌ノ液化, 腺分泌ノ増加ニヨリ咯出ヲ容易ナラシム, 此分泌増加ハ充血ノ爲ニシテ分泌神經ノ機能ヲ亢進セシム。

喉頭及ビ氣管系統ニ於テ最屢用ヒラルモノニシテ氣道ノ慢性乾性「カタル」急性及ビ亞急性炎症等ニ適合シ, 含嗽劑トシテ又吸入劑トシテ重ニ其水分, 蒸氣ガ作用ス, 其中食鹽 1.5—5.5% トシテ最ヨク用ヒラル, 鎮咳, 祛痰ノ效アリ。

嘗テ屢用ヒラレタル鹽酸加里(鹽剝)ハ又溶解劑中ニ算スベシ, 之ハ急性炎症ニ效アレドモ血液變化(Methaemoglobin!)ヲ起スヲ以テ現今多ク用ヒ

ラレズ。

礦泉又溶解劑ニ屬ス, 其溫泉ニ於ル溫度ト「アルカリ」, 食鹽, 炭酸等ノ含有量ニ從テ粘膜ヲ適度ニ刺戟ス。

麻醉劑トシテハ 0.2—2% 亞片丁機(Tinctura Opii simplex)ヲ用ユ, 慢性中毒ヲ注意ス, 其他臭素加里(0.2—2%)ハ鎮痙的ニ效アリ。

消毒劑ハ充分ニ效力ヲ發揮シ得ズ, 從テ用ヒラルモノ少シ, 歐州ニテヨク用ユルハ「ユウカリ」油(Oleum Eucalyptus)ナリ, 之ハ「アルコール」易溶性ニシテ, 「テルペンチン」油ノ如ク殺菌, 防腐的ニ作用シ芳香アリ且ツ略痰ヲ減ズ, 但シ強ク稀釋セザレバ刺戟ノ爲ニ害アリ, 過酸化水素水ハ又多少消毒的ニ作用スルト信ゼラルモ效ナキ如シ。

氣管, 氣管支ノ療法ハ吸入法ヲ除キ總テ間接若クハ直接喉頭鏡或ハ氣管鏡検査法ノ下ニ行ハル, 故ニ使用法ニハ可ナリ熟達ヲ要ス, 殊ニ間接喉頭鏡検査ノ下ニハ器具, 器械ノ方向ガ前後反對ニ映シ, 屢目的部ヲ誤ルコトアリ。

又直達的ニ藥液ノ塗布ヲナサントセバ, 豫メ表面麻醉ヲナシ, 長キ直卷綿子ヲ用ヒ, 咳嗽反射ヲ避ケ, 藥劑ノ過剩滴下等ヲ顧慮スベ

シ。

電氣燒灼器ノ使用ハ唯小限局病竈ニノミ用ヒ, 其以外ノ粘膜ニ火傷ヲ起サザル様注意スベシ。

氣管, 氣管支直達的治療法ハ氣道ノ異物及ビ良性腫瘍ノ治療ニハ缺ク可ラザルモノニシテ, 多數ノ醫家ニハ唯此方面ノミガ領域ナルガ如クニ信ゼラレシモ, 最近ハ氣管支喘息(Lukens)ハ勿論, 一種ノ異物ト見ルベキ濃稠分泌物ニヨル閉塞性肺氣腫, 肺膿瘍ヲモ之ニヨリテ全治センメタリ。

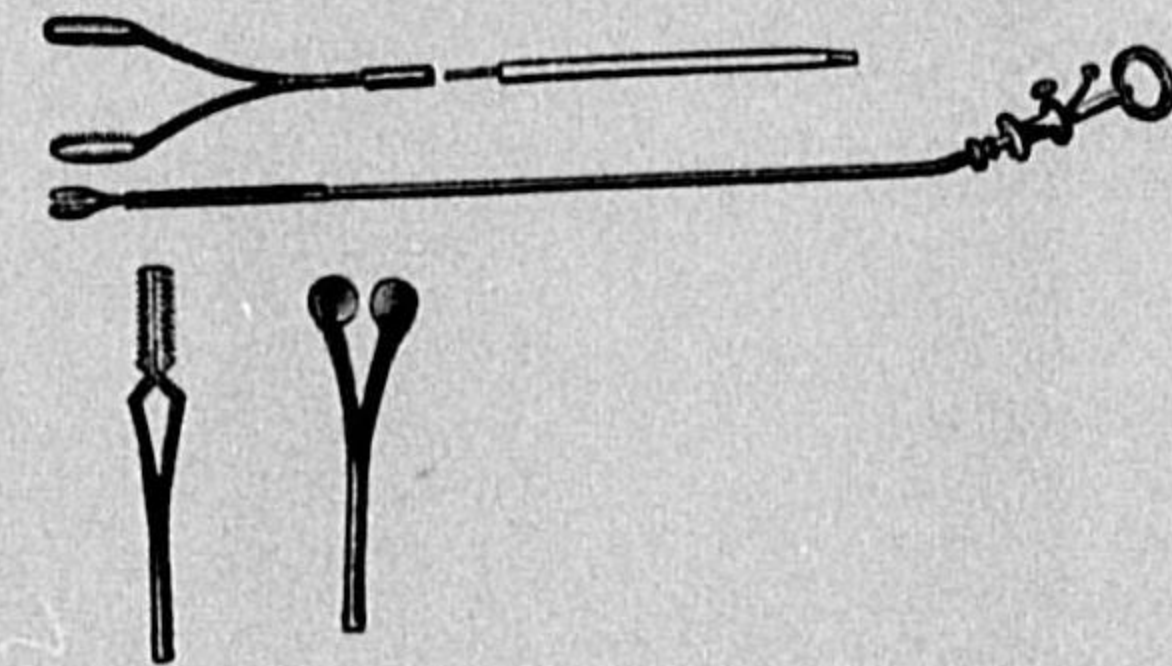
B. 異物抽出法

Extraktion des Fremdkörpers

氣管, 氣管支疾患トシテ最多キ異物ハ殆總テ此直達的方法ニ依ラザル可ラズ, 實ニ此法ハ光輝アル分野ニ屬ス, 而シテ其方法ハ前章直達検査法ニヨリテ見得タル異物ニ向ヒ夫々適當セル抽出器ヲ用ヒ, 管内ニ入り得ルモノハ直達管ヲ通シテ抽出シ, 然ラザルモノハ抽

第二百八十九圖

Brünings 直達管附屬抽出器



出器ト直達管トヲ同時ニ引出ス如ク
ス、此際氣道殊ニ喉頭粘膜ヲ損セザル
如ク、異物ノ形状、大小、性質ニ從ヒ
異物ノ把握部ヲモ考慮シ、喉頭ノ反射
ヲ減却センメテ靜ニ引出スベシ、尖銳
ナル或ハ銳利縁アル異物ノ如キハ特ニ
粘膜ノ損傷ニ注意スベシ。

「れ」線診斷上異物陰影ヲ見ザル場
合ト雖、直達検査的ニ診定スル例ニハ
常ニ抽出療法器具ヲ準備スルヲ可ト

ス。

自然ノ道ヲ入りタル異物ハ斯クシテ
多クハ又自然ノ道ヲ通シテ抽出シ得ル
モノナリ。

C. 氣管切開法 Tracheotomie

吾人専門家ノミナラズ、臨牀家ノ均
シク學バザル可ラザル氣管ノ最必要ナ
ル一療法ナリ、前篇喉頭狹窄(348頁)
ニ詳述シタルヲ以テ省略ス。

各 論 Spezieller Teil

1 氣管及氣管支ノ異物 Corpus alienum tracheae et bronchi

成立ト原因

留針、帽針、縫針ノ如キ、或ハ釘類、
果核類、南京玉、玩具ノ破片、鉛筆帽、
齒科用金冠、齒髓拔神經針其他種々ア
リ、是等ヲ幼兒ガ口中ニ弄シ、大人ガ
齒間ニ啣テ作業セル如キ時ニ急ニ深吸
氣ヲナス機會聲門ハ最大ニ開放セラレ
(例之爆笑、驚愕、轉倒時等)吸引セラ
ルモノナリ、是等ノ急深吸氣ナクシ
テ咽頭ニ至リシモノハ反射的嚥下ニ依
テ食道ニ入ルモノナリ。

余ガ嘗テ十年間ノ統計ニ依レバ、食
道ト同ジク氣管、氣管支ノ異物ハ1-5
歳ノ幼兒ニ最多シ。

其他稀ニ射入セラレタル銃彈ヲ存ス
ルコトアリ。

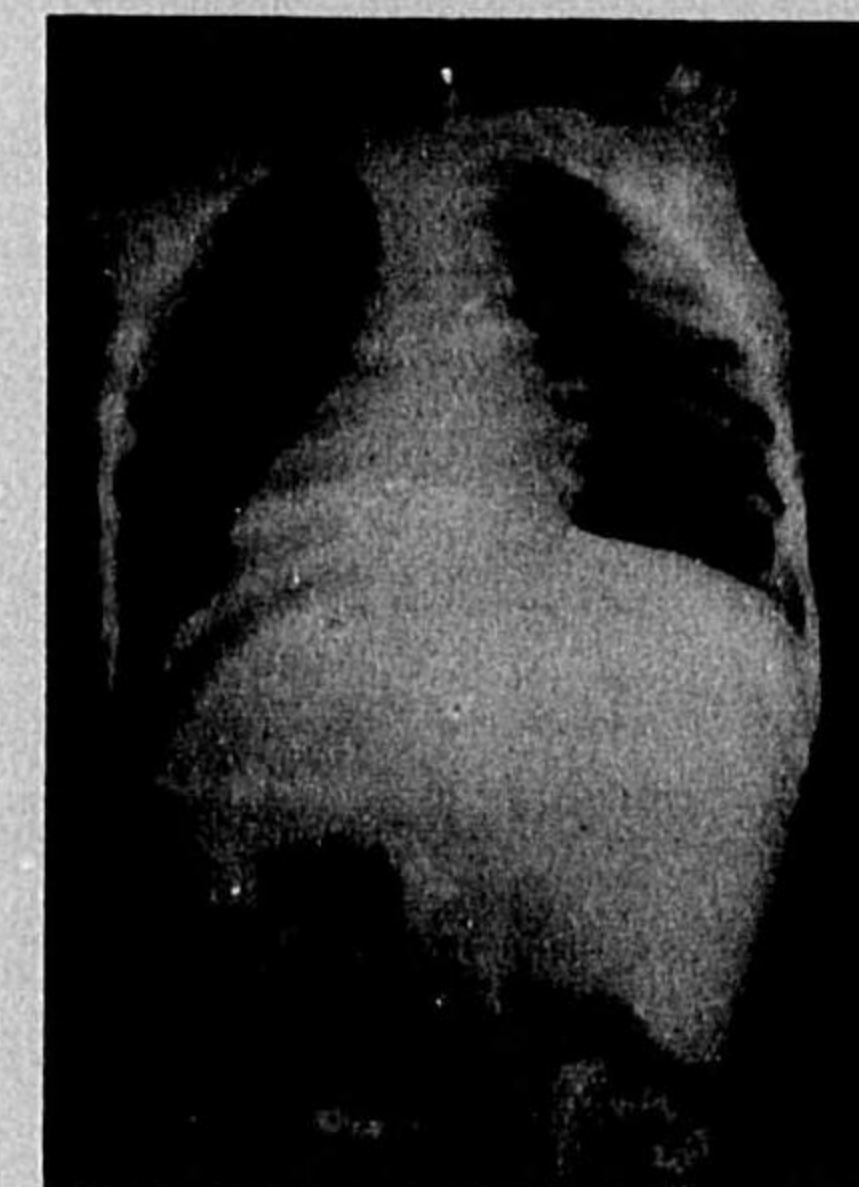
所在ハ異物ノ大サ、形状、輕重等ニ
ヨリ種々ニシテ、尖銳ナルハヨク壁ニ
刺入シ、表面粘滑ナル輕キ西瓜ノ核ノ
如キハ容易ニ固定セラレズ、咳嗽反射
若クハ呼吸ト共ニ轉動ス、之ヲ舞蹈性
異物(Tanzender Fremdkörper)トイ
フ、猶解剖學的關係上氣管支異物ハ右
側ニ多シ。

病理解剖學

如何ナル異物ト雖、壁ニ大小ノ炎症
狀、即發赤、腫脹、分泌充進ヲ來スモノ
ナリ、殊ニ植物性異物ハ其性强シ、余
ガ經驗シタル氣管ノ肉桂皮ハ最症狀強
キ、粘膜ノ反應ヲ示シタリ、形状ト大
小ニヨリテハ粘膜ヲ壓迫損傷スルコト
モアルベク、潰瘍肉芽モアリ又其治後
ニ癭痕ヲ形成スルモアリ、甚シキハ大
ナル肺血管ヲ損シ、或ハ氣腫(Emp-
hysem)ヲ起シ、細菌力ニヨリテハ膿
瘍モ形成ス、灸リ豆ノ如キハ氣管支内
ニ入りテ膨隆シ、管腔ヲ閉鎖シ、其肺

第二百九十圖

右氣管支異物(蠶豆)ニヨル肺膨脹不全
3歳女兒



末梢部ハ全ク空氣ノ出入ナキニ至リ**膨脹不全**(Atelektase)ヲナス。

其他異物が長ク滞留スレバ廣汎ナル**氣管支擴張**(Bronchiectasie)モ起ル。

症 狀 誤テ内部ニ吸引シタル時ハ殆必發ノ強キ**痙攣的咳嗽**(Krampfhafter Husten)ヲ第一トス、其強サハ異物ノ形狀、性質及ビ介在部ニヨリ種々ニシテ氣管分岐部邊ヲ摩擦スル時ニ最強シ、又移動性異物ニハ長ク持續ス、反之或一ヶ所ニ嵌入スレバ咳嗽ハ止ム。

呼吸困難ハ誤吸入時必呼氣性ニシテ多少トモ之ヲ證ス、之ハ咳嗽發作ト異物其モノノ氣道閉塞ニヨル、故ニ氣管全腔ヲ充ス異物ハ**窒息**ヲ起ス、「ゴム」風船ノ氣管吸引ノ如キ其貼著性ト共ニ此危險多シ、**喘鳴**(Stridor)ハ全氣管腔ヲ閉鎖スルニ至ラザル異物ニハ必見ルモノナリ、西瓜核ノ如キハ移動跳躍性強ク、聲唇ニ衝突シテ**バタバタスル雜音**(Floppgeräusch)ヲ聞キ、笛性異物ハ夫々呼吸時ニ**笛聲**ヲ聞ク。

血痰(Blutiger Auswurf)ハ尖銳ナル異物ヲ吸引後、直ニ、植物性異物ニテハ吸引後數時間後ニ起ルコトアリ。

氣腫(Luftemphysem)モ尖銳異物ノ周壁損傷ニヨル、頸部ノミナラズ甚シキハ軀幹ニ蔓延ス。

疼痛(Schmerz)……異物が銳キ時ハ屢胸骨後部ニ鈍痛トシテ訴フルコトアリ、刺痛ノ如キハ少シ。

呼吸時一側胸廓ノ不動(Nachschleppen des Seitenthorax)……異物が全ク氣管支ヲ閉塞スル如キ場合ハ呼吸ニヨリ當該側ノ胸廓伸縮ハ甚小ナリ。

診斷ト經過

患者若クハ其家族等ヨリ**種類、機會、痙攣的咳嗽發作**其他ヲ詳細ニ問ヒ糾セバ多クハ容易ナリ、氣管異物ニシテ殆氣付カザルモノモアリ、陳舊ニシテ症狀ノ強カラザルハ存在ヲ知ラザルモノアリ、余ハ十四年間氣管套管ノ破片ヲ氣管支内ニ有シ、存在ヲ忘レ居タルモノヲ見タリ、麻醉若クハ癲癇發作中ニ起リシモノニ屢斯ノ如キモノアリ。

胸部ノ理學的検査法ニヨリ氣管支炎、肺炎、肺膿瘍ノ如キ所見アルコトアリ、故ニ此検査ヲ怠ル可ラズ、**舞蹈性雜音**ヲ聞カバ確實ナリ、勿論新鮮陳舊ノ別ナク何等聽打診上ニ變化ヲ示サザルコトアレバ陰性ナリトテ異物ヲ否定シガタシ。

「れ」線検査ハ總テノ例ニ陰影ヲ認メズト雖、努メテ此検査ヲナスベシ、而シテ螢光板上ニ見得ズシテ「れ」線寫眞撮影ニ陽性ナルコト少カラズ、故ニ總テ寫眞撮影ヲナスベシ、若シ實體的

第二百九十一圖
左氣管支異物 5歳男
一度右ニ入り後左側ニ移ル



撮影ヲナサバ更ニ可ナリ、食道ニアルカ氣管支ニアルカ、時トシテ誤ルコトアリ、之ハ「れ」線ヨリハ嚥下障礙ノ有無ニヨリテ區別スルヲ可トス、確實ナルハ**氣管、氣管支鏡直達検査法**(Direkte Tracheobronchoskopie)ナリ、新鮮症例ニハ殊ニ然リ、異物ノ色、硬度、所在、管腔トノ關係ヲ知ル點ニ於テ之ニ優ルモノナシ、唯環狀若クハ管狀異物が浮腫狀粘膜炎ニ被ハレ、検査管ガ其中ヲ通過スル如キモノニハ時トシテ失敗スルコトアリ、又氣管支ノ第二、第三段分岐邊ニアル小異物ハ屢發見シガタキコトアリ、Jacksonニヨレバ182例中5例ハ陰性ニ終レリトイフ、巧妙ナル氏ニシテ猶然リ。

「れ」線ニ陰影ヲ與フル如キ小異物ハ

第二百九十二圖
右氣管支異物
(馬蹄形釘) 25歳男



直達的検査法ト「れ」線検査トヲ併用シツツ診斷スルヲ得バ最ヨシ。

又複數的異物ニ唯一個ヲ抽出シテ満足スル場合アリ、下氣管、氣管支鏡検査ニヨリテ異物ヲ抽出シタル後、猶自然呼吸ノ不良ナル患兒ノ聲門下ニ猶一個ヲ發見シタルコトアリ、吸引時一個ナリシ異物が氣管ニ入りテ二分シタル甚興味アルモノヲ見タルコトアリ、診斷上注意スベキナリ。

一度異物が都合ヨキ所ニ固定セラレバ、殆苦痛ナキコト前述ノ如シ、故ニ潜伏的經過ヲトルモノモ少カラズ、氣管ヲ閉塞スレバ該肺領ノ**膨脹不全**(Atelektase)ヲ起シ肺炎トナル、熱發スルハ皆二次的ニ炎症狀ノ増加シタル時ナリ、而シテ**慢性異物**(Chronischer

Fremdkörper) トナリ、化膿性氣管支炎トナリ、或ハ異物周圍ニ肉芽増殖ヲ來シ、肺膿瘍トナリ、肋膜ト癒著シ或ハ肺壞疽トナル。

以上ノ變化ハ重ニ下肺葉ニ來ル。

豫後 異物ノ種類、介在部等ニヨリテ常ニ必シモ不良トハイヒガタケレドモ除去セザレバ危険ナル肺炎ヲ起シ、或ハ遷延シテ氣管支擴張、肺膿瘍等ヲ惹起シ、遂ニ一命ニ拘ハルコトアリ、氣管支直達検査及ビ治療ノ進歩ハ遂ニ 95% 以上ノ治癒率ヲ示ス。

療法 幼兒ハ頭部ヲ下ニシ、或ハ之ニ氣管切開ヲナシ、胸、背部等ヲ叩打スルコトハ何等手段ナキ時ニハ餘儀ナキ方法ナルヤモ知ル可ラズ、然レドモ一旦氣管ニ入りシモノハ概シテ奏效セズ。

現在ニテハ氣管、氣管支直達検査法ハ唯一ノ良法ナリ、故ニ自ラ之ヲヨクセザルモノハ直ニ適當ナル専門醫ニ送ルベシ、徒ニ抽出好適ノ時期ヲ遷延セシムルコトナカレ。

◎直達的气管、氣管支抽出法

Tracheobronchoscopische

Extraktion

準備 圖ノ如キ器械、器具ヲ氣管切開具(喉頭科篇 349 頁各論 16 療法中ニアリ)ト共ニ準備スベシ、抽出鉗子

ハ異物ノ種類、形狀、性質ニヨリ夫々適當スルモノヲ選ビ準備ス、而シテ病歴及ビ診断ノ結果トヲ参照シテ豫メ抽出法ヲ計畫ス。

位置、體位、大人ニテハ坐位ヲ便トス、管ノ挿入容易ナリ、小兒及ビ虛弱者若クハ起坐ニ堪エザル者ニハ頭部ヲ低クシタル背位ヲトラシムルコトアリ、小兒ニハ全身麻醉ヲナス。

局所麻醉ト全身麻醉 大人ニハ通例前者ヲ行フコト通例ナリ、Ch. Jackson ハ尖銳異物ナラザル限り 6 歳以下ニハ無麻醉ニテ行フ、局所麻醉モ異物介在部ハ殊ニ過敏ナルヲ以テ、安靜ナラシムル爲ニ 5% 「ノヴォカイン」若クハ類似劑ヲ局所附近ニ噴霧シ緩徐ニ 10—20% 「コカイン—アドレナリン」溶液ヲ塗布ス、且ツ鎮靜的ニ「バントボン」ノ如キモノヲ皮下注射ス、小兒ノ全身麻醉ハ然迄危険ニアラズ、安靜ニシテ短時間ニ抽出シ得ルヲ優レリト信ズ、無麻醉ニテ直達管ノ挿入ヲ試ミ、騒暴ノ爲ニ窒息シタル例アリ、故ニ小兒ノ無麻醉検査ハ斯ル時ニ慎重ヲ要ス。

◎上、下氣管氣管支直達抽出法ノ孰レヲ選ブベキカ

- i. 異物ガ狭小ナル直達管ヲ通シ把握シ得ルヤ否ヤ
- ii. 狹隘ナル聲唇間ヲ通シ、損傷ナ

ク異物ヲ通過セシメ得ルヤ否ヤ
iii. 患者ノ状態ト術者ノ技倆ノ如何、ノ三點ニ依テ決ス、通則トシテ大人ニハ上氣管氣管支直達法ヲ、5—9 歳以下ノ幼兒ニハナルベク下氣管氣管支直

達法ヲ採用スベシ、勿論術者ノ技能及ビ特殊ノ直達管(種々ノ太サノ單管ヲ年齢ニ應ジ使用ス)其他ノ設備アルモノハ上直達法ヲトルモ可ナリ。

尤幼兒ニシテ異物ノ刺戟ニ因スル喉

頭症狀ノアルモノ、又ハ抽出ニ時間ヲ要シ、再三管ノ挿入ヲ要スルモノ、又ハ虛弱體質兒ニハ初ヨリ氣管切開ヲナシテソコヨリ抽出スベシ。

◎諸種ノ抽出法

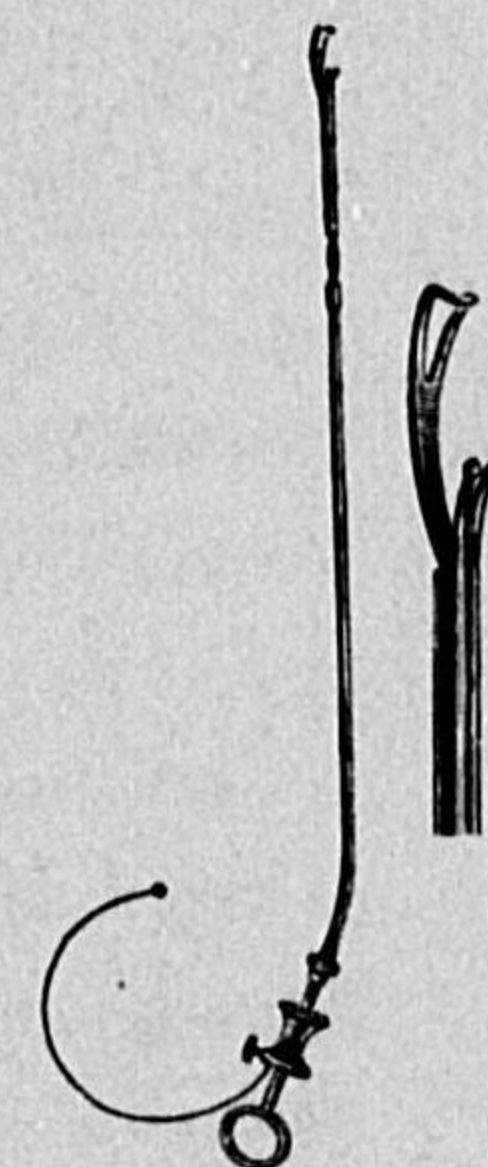
通例鉗子ヲ以テ把握シ得ル固形體ニハ夫々相當スル便宜ノモノヲ使用ス、例之、釘、鐵片ノ如キハ電磁力ヲ應用シ吸著セシムル桿(筈木式)ヲ、開放セル安全「ピン」ニハ之ヲ閉テ引出スあいけん(v. Eicken)型抽出器ヲ、破碎シ易キ炊豆ノ膨化シタルモノニハ陰壓吸著管ヲ、原形ノ儘ニテハ抽出シガタキモノニハ切斷器ヲ用ユル等臨機ニ適當セルモノヲ用ユ。

如何ナル種類ノ氣管、氣管支異物モ未ダ強キ炎

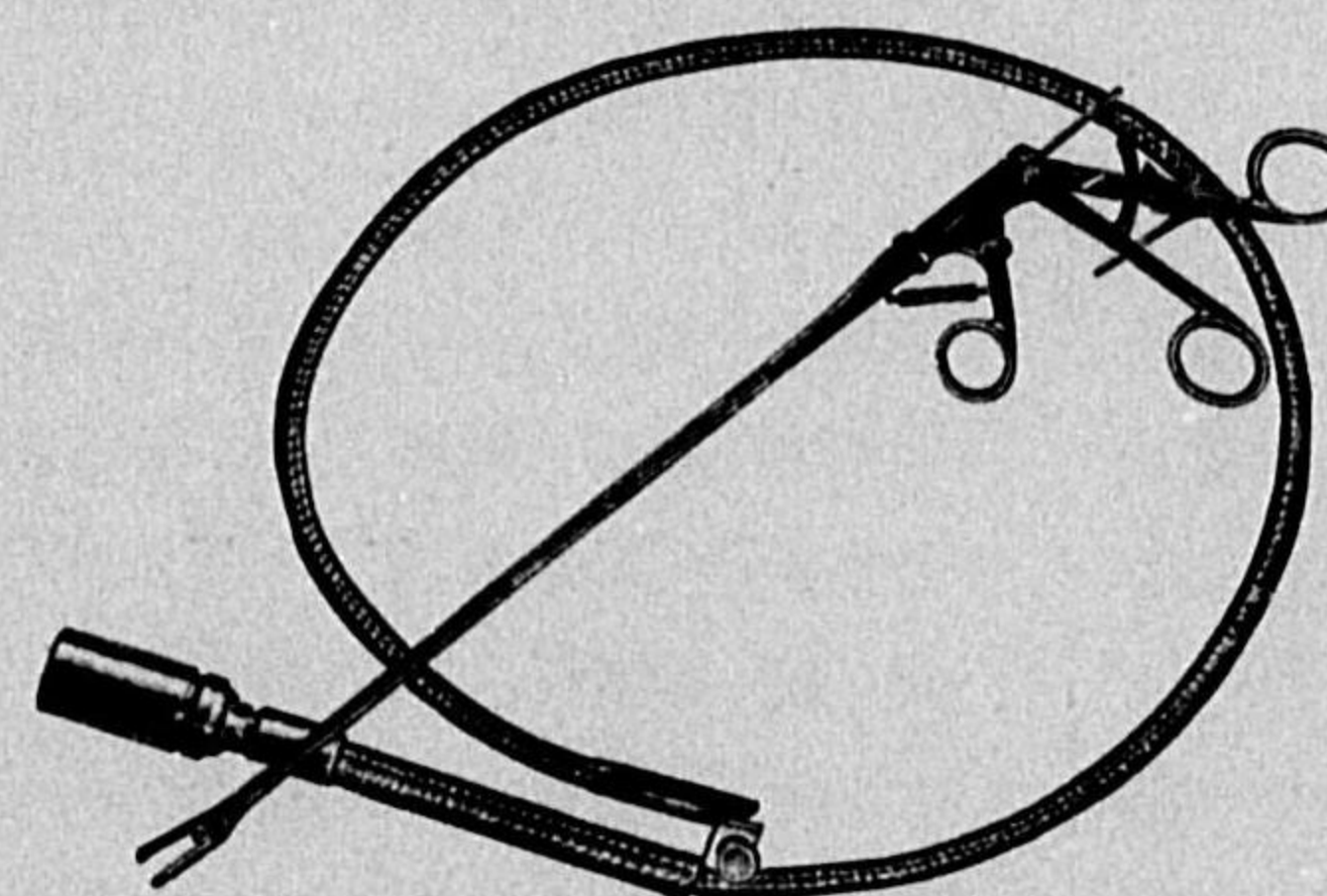
第二百九十三圖



第二百九十四圖



第二百九十五圖
電動性義齒板切斷器



性反應ヲ起サザル間ニ、早期ニ抽出ヲ試ミ、若シ非化膿性ノ異物ニシテ見出シガタク、或ハ抽出シガタキモノハ一時症狀ノ消退ヲ待テ直達ノ抽出法ヲ再試シ、猶不可能ナル時ハ、成功ノ自信ナキ限り、胸腔外科ニ委ス、若シ化膿セバ之ニ對シテ氣管支内ニ處置スルヲ可トス。

◎抽出後ノ處置

Behandlung nach der Extraktion
常ニ二次的炎症殊ニ肺炎、肺膿瘍ニ注意シ、數日間安靜ヲ保ツベシ。

下氣管支直達ノ抽出法ヲナシタルモノハナルベク早ク氣管套管(抽出直後ニハ假ニ氣管套管ヲ入レ、經過ヲ見、非常ニ備フベシ)ヲ拔去シ、自然呼吸ヲ營マシムル様ニ心ガクベシ。

2 氣管、氣管支「ヂフテリー」 Diphtheritis tracheobronchialis

成立 喉頭「ヂフテリー」ノ下行傳播シタルモノト、此部ニ原發スルモノトアリ。

症狀 下行性傳播ヲナシタルモノハ氣管ヨリ氣管細小枝迄特有ノ**義膜**ヲ形成シ、**管腔ヲ狹小**ナラシメ、**呼吸性呼吸困難**強ク、**肺組織ニ氣管支肺炎**、**肺腔膨脹不全**等ヲツクル、此義膜ハ氣管切開ヲナス時ニ屢脱落シテ、**恰モ樹枝狀ノ義膜**ヲ略出シ或ハ「**ピンセツト**」

ヲ以テ取出シ得ルコトアリ、脱落スル時ハ症狀著シク改善ス、其他、他部ノ「ヂフテリー」ニ同ジ、

診斷 喉科篇「ヂフテリー」295.
豫後 326頁参照
療法

3 氣管ノ出血 Haemorrhagia tracheae= Blutung der Trachea

稀ナリ、動脈瘤、腫瘍、微毒或ハ結核ノ如キ重症疾患ナキ時ハ氣管粘膜ノ如キ基底ニ密著セル處ヨリ出血スルコトハ極メテ稀ナリ、若シアリテモ喉頭若クハ肺ノ「カタル」性炎ノ傳播ニヨリテ生ズル輕度ノ出血ニシテ略痰ニ少シク赤線ヲ含ム程度ノモノ、或ハ少シク強キモノハ**靜脈擴張(Venenektasie)**ニヨルモノナリ。

頻ニ出血スルモノハ**潰瘍(屢微毒)**、**心肥大**、**癌**、**甲状腺**、**縱隔洞ノ腫瘍**ニ於テ見ル、増大セル動脈瘤ガ氣管壁ヲ壓磨セル如キハ早晚致命の出血ヲ豫想シ得ベシ、其他氣管切開ヲナシタルモノハ氣管ノ創孔ヨリ觸接其他ノ刺戟ニヨリテ或ハ血管ノ**侵蝕(Arrosion)**ニヨリテ容易ニ出血ス。

症狀 留意スベキハ氣管ノ中等度ノ出血ガ常ニ**氣泡ヲ混ズル**コトナリ、**略痰**ニ赤線ヲ含ム如キモノ、或ハ致死

的大量ノ出血ヲ除キ此氣泡含有ハ吐血トノ鑑別ニ資スル重要症狀ナリ。

療法 總テノ症例ニ同様ニ有效ナルモノハナシ、先ヅ局所ヲ確定ス。

i. 機械的療法トシテ**壓迫**若クハ「**タンボン**」ハ局所關係上應用シガタシ、唯氣管鏡直達法ニヨリテノミ可能ナリ。

ii. 溫度的療法トシテ寒冷ハ明ニ一ノ方法ニシテ前頸、胸部兩所ニ用ユベシ、最確實ナルハ直達ニ**熱燒灼器**ヲ用テ止血スルコトナリ、但シ餘リ強キ出血ニハ用ヒガタシ。

iii. 化學的療法ハ古來用ヒラルル**鹽化鐵液(Liquor ferri sesquichlorati)**ナリ、之ヲ強ク稀釋(50%ニテハ血液凝固ヲナシ**Thromben**トナシ、**栓塞=Embolie**ヲツクル危險アリ)シテ塗布ス、吸入トシテハ1:500ニ稀釋シテ用ユ、「**クローム**」酸等モ稀釋液5%ヲ塗布スルハヨシ。

石灰分ハ止血劑トシテ10%鹽化「**カルシウム**」ヲ靜脈内ニ、内服ニハ乳酸「**カルシウム**」2grヲ用ヒ一般的效果ヲ期待ス。「**ゲラチン**」(Merck)又内服ニ $\frac{1}{4}$ —1食匙、皮下ニ10—20c.c.ヲ用ユルコトアリ、效果少シ。

iv. 輸血(Bluttransfusion)最可ナリ、止血トシテ作用スルノミナラズ、

血液量ヲ増シ、抵抗力ヲ増加ス、之ハ輸血ノ一般通則ニ從フコト勿論ナリ、卷末ニ述ルヲ以テ茲ニ詳説セズ。

v. 血清療法トシテハ少量ノ**異種血清**(通例馬血清)ノ皮下注射效アリ、但シ多少一般不快症狀トシテ**惡寒戰慄**(Schüttelfrost)、**痙攣**等ノ來ルコト多シ、併シ止血ノ效ハ可ナリ大ナリ、又出血部ニ體組織片例之**筋肉片**ヲ壓付シテモ其**Thrombokinase**作用ニヨリテ止血ス、其他肺組織「**エキス**」ノClauden臟器「**エキス**」トシテハ「**アドレナリン**」又局所的ニ用ヒテ效アリ、通例1000倍液ヲ塗布ス。

vi. 脾、肝ノ「**れ**」線照射、脾ハ血液凝固ヲ司ル器官トナスStephanハ急慢性紫斑病ノ脾ニ初メテ「**れ**」線ノ刺戟的放射量 $\frac{1}{3}$ HEDヲ用テ卓效アリシヲ見タリ、又反證モナキニアラザレド、多數ノ經驗ニヨリテモ「**れ**」線ガ血液凝固時間ヲ短縮セシムルコトハ明ナリ、勿論放射時間、個人的差異等ニヨリ效否ノ決定ニハ多少論議ノ餘地アリ、一應ハ試ムベキ方法ナリ。

4 氣管支喘息 Asthma bronchiale

素ト呼吸神經領域ニ於ルーノ神經症ニシテ呼吸困難ノ發作時ニ一種特有ノ分泌及ビ肺擴張ヲ示ス(F.A.Hoffmann)

モノト定義サレシガ、現在ノ知見ニテハ或素質ノ呼吸器系ニ起ル一種ノ「**アナフィラキシー**」的症狀 (Schittenhelm) ナリトシ、或ハ**延髄球神經症**ナリトセラル、然ラバ其素質の機轉トハ何か、之ハ**神經病的遺傳的**ノモノナリトイフ以外ニ不明ノ點多シ。

滲出性體質、迷走神經緊張症(Vagotonic, Eppinger & Hess)ハ素質トシテ之ヲ擧ゲ得ベク、氣候、他器官ノ疾患(例之鼻疾 Voltolini) 等ハ要スルニ誘發原因トハナリ得テモ眞ノ唯一ノ原因ハ未ダ適確ニ指示スル能ハズ。

症狀前驅アリテ發作來ル、前驅トシテハ**屢夜ニ發作的呼吸困難**或ハ**咳嗽發作**ナリ、除外例トシテ**熱性喘息**(Asthma febrile)ナルモノアレド熱ハナキヲ常トス。

固有發作時ノ**症狀ハ睡眠ヲ妨ゲ、不安、冷汗、顔面腫脹狀**(gedunsen)アリ、**呼吸性呼吸困難**アリ、胸廓呼吸型ニシテ**雜音ヲ混ジ、起坐シテ上體ヲ少シク前屈ス**(呼吸ノ幾分安易ヲハカル爲ナリ)、打診上**肺擴張ヲ示ス**Biermerノ紙筒音=Schachtelton)、聽診上ニハ呼吸音弱クシテ而モ**囉音**(Rasselgeräusch)アリ、**呼吸數ハ發作ノ最盛時ニハ減ジテ一分間 8—12 トナル、咯痰ハ多量ニシテ著シク粘稠膠様、無臭粘液様ナリ、**

膿性ナシ、此咯痰中ニハ約 50%例ニ**くるしゅまん螺旋**(Curschmann'sche Spirale) 及ビ 70%例ニ**しゅるこーらいでん結晶**(Charcot-Leyden'sche Krystalle)ヲ、全例ニ「**エオジン**」嗜好細胞ヲ發見スベシ。

第二百九十六圖
Charcot-Leyden 結晶



Curschmann 螺旋



又血液検査上「**エオジン**」嗜好細胞増加(Eosinophilie)、**粘稠度**(Viskosität)ノ増加(Stäubli)、「**アルカリ**」性ノ減少ヲ見ル。

呼吸器系粘膜ノ急性腫脹ト發赤及ビ夫等ニ伴フ急性炎症狀ハ著明ナリ、例之鼻ニアリテハ**噴嚏、漿液性鼻分泌亢進**アリ、「**コカイン—アドレナリン**」塗

布ニヨリ好影響アリ、鼻分泌ト咳嗽ハ發作ノ頂點トナル程少シ。

病理らいふあいぜん(Reiffelsen)ガ氣管支筋ヲ發見シテヨリ喘息發作ハ**氣管支筋ノ收縮**(Laennec)或ハ**痙攣**(Trousseau)トナセリ。

是等筋ノ神經分布ハ迷走神經ヨリス。其他**横隔膜痙攣**(Wintrich)ヲ原因トスルニ至レリ。

迷走神經ヲ麻痺セシムル「**アトロピン**」(Atropin)ハ動物實驗上氣管支痙攣ヲ緩解スト雖、粘膜ノ腫脹ニ對シテハ何等影響ヲ及サズトイフ諸家ノ實驗ニ出發シテ、氣管支喘息ニ「アトロピン」ヲ用ユレバ大多數ニ效果アリ、又氣管支筋ノ抑制神經ヲ刺戟スル性質ノ「**アドレナリン**」ヲ以テモ同様效果アルヲ以テ見レバ**氣管支筋ノ原發性痙攣**ヲ本態ナリトスル假説ハ首肯スルコトヲ得。

氣管、氣管支系ガ發作中ニ發赤腫脹セルハ氣管鏡直達検査ニ依テ吾人ヨク之ヲ確認スル所ニシテ發作時以外ニハ**スル炎症狀ヲ缺ク**。

豫後生命ニハ多ク別條ナキモ全治スルカ否ヤハ容易ニ決シガタシ、心臟不全等ノ起ラザル限り、喘息ノミニヨリテ生命ヲ失ヒタルモノナシ。

療法本來內科學ニ屬スルモノナ

レド發現部位ガ吾ガ領域ニアリテ、ヨク治療ニ携ハルコトアルヲ以テ述ル所アラン。

藥劑的ニハ沃度ト其複合劑最屢用ヒラル、而シテ**砒素、臭素、カルシウム**等モ發作時外ニヨク用ヒラル、「**アドレナリン**」、「**アトロピン**」ハ發作時外ニモ用ユルコトアリ、「**コカイン**」、「**アドレナリン**」ハ共ニ平生鼻内ニ用ユレバ發作回數ヲ減ジ、強度ヲ輕クスルガ如シ。

理學的療法トシテハ**溫泉療法、光線浴**(白熱光ニ 10 分宛隔日ニ、10—15 回ヲ用ユルヲ Hofer ハ推稱ス)アリ、**精神療法**ト共ニ發作外時ニ用テ效アリ、「**レ線放射法**」ハ Schilling 之ヲ試ミシモ期待スル程ニアラザリシガ、余ハ發作外時ニ肺門部ヲ前後左右ノ四放射面(放射野 10×12 cm)ヨリ合計 70—80% HED **深部治療**ヲナセシニ著效アリシ數例ヲ經驗セリ。

感傳、平流電氣、震動電氣モ然迄效ナキコト多シ、**藥品ノ薰蒸**(喘息煙草、「**ストランモニウム**」)等ハ重ニ「アトロピン」作用ヲ目的トスルモノナリ、Stäubliノ吸入器ハ又「アトロピン」ト「アドレナリン」ヲ用ユルモノニシテ**微細ノ噴霧**ニシテ可ナリ效アリ。

注射ハ重ニ發作中ニ千倍鹽化「アド

レナリン」,「エフェドリン」等ヲ1.0c.c. 迄用ユ,「アトロピン」劑ハ代表的ノモノナリ,若シ患者ノ苦悶甚シキ時ハ「モルフィウム」若クハ其誘導體「パントポン」,「ヘロイン」類ヲ用ユルコトアリ。

手術法トシテ頸部交感神経線帯(Grenzstrang des Halssympathikus)ヲ星状神経節(Ganglion stellatum)ト共ニ一側或ハ兩側抜去法(Exacrese)ヲナスコトアリ,此方法ハ成績ニ良否種々アリ,未ダ效果ヲ解決シガタシ。

寧ロ氣管内療法(Endotracheale Behandlung)ガ遙ニ良法トイフベシ,之ニハNovotnyガ8例中7例ニ著效ヲ收メタリ,噴霧若クハ塗布法ニヨリテ(0.5%「コカイン」2+1000倍「アドレナリン」1c.c.+生理的食鹽水9c.c.)全ク症状ノ消失スルモノアリ,然ラザルモ「カタル」状態改善シ,咯痰略出容易トナリ,著シク輕快ス,單ニ「アドレナリン」塗布ノミニテモ既ニ效アリ。

何故ニ斯ノ如ク有效ナルカハ藥效,暗示ノミナラズ,氣管鏡直達検査法モ機械的作用ヲナシテ,恰モ食道痙攣ニ「ブヂー」挿入ガ有效ナルト同様ナリトイフ,然ルニ最近「コカイン」ハ迷走自律神経系ニ好影響ヲ及ス爲ナリトイフニ至レリ。

本症ハ又暗示ノ有效ナルコトヲ常ニ念頭ニ置キ治療スベシ。

5 肺膿瘍ト肺壞疽 Abscessus pulmonalis et Gangraena pulmonalis

原因ト成立

氣管,氣管支ノ如キ呼吸器ノ深キ部分ヲ吾専門領域ニテ取扱フニ至リ,肺實質ニ起ル所ノ本症ヲモ茲ニ論述スルハ當然ニシテ,殊ニ本症ガ上氣道ノ炎症,外傷,手術ニ續發スルヲ以テ記載ノ要ヲ認ム。

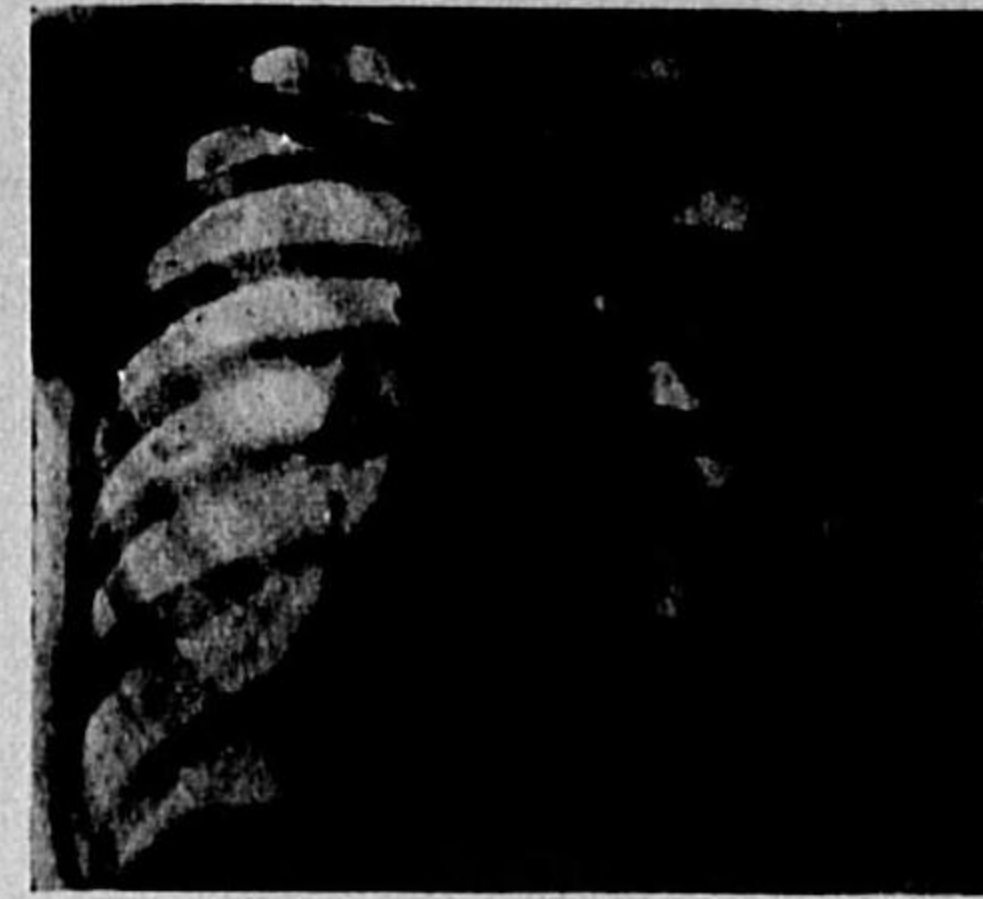
異物ノ吸引ハ異物篇(383頁以下)ニ述タル如ク炎症ヲ起シ易キモノト然ラザルモノトアリ,膨脹シ易キ植物性或ハ齒科關係異物ハ本症ヲ起シ易シ。

化膿性氣管支炎及ビ氣管支擴張,肺炎後,結核性肺空洞,新生物,「アクチノミコーゼ」,膿胸,敗血症ガ肺ニ化膿ヲ現ハシタル時,等ニ起ル。

症 狀 病側肺ハ呼吸時ニ運動不真ニシテ時ニ痛アルコトアリ,呼吸困難ハ膿瘍ノ甚大ナル時ニ起ル,咯痰ハ惡臭膿性ニシテ多量,「コツブ」ヲ以テ測ル程ナリ。

打聽診上ノ所見ハ所在ト大サニヨリ異ル,「れ」線検査上ニ影像ヲ見ル,直達検査的ニ見ルニ膿瘍附近ノ氣管支粘膜炎ハ充血,腫脹アリ,且ツ時ニ膿ガ直

第二百九十七圖
右肺膿瘍(水平陰影)



達管内ニ流シ來ルコトアリ。

診 斷 惡臭アル膿性咯痰ノ多量ナルコトヲ主トシ,其他ノ症状ヲ參酌シ,咯出排膿後造影劑ノ注入ヲナシ「れ」線寫眞ヲ作ル,尤モ所在ニヨリテハ注入シテモ不明ナルコトアリ。

豫 後 所在ト病竈數ニヨリ異リ,下葉ニ單發セルハ比較的佳良ナリ,蓋シ早期ニ所在ヲ明ニスレバ手術的療法モ可能ナレバナリ,直達的ニ氣管鏡ヲ用ヒ得ルモノハ佳良ナリ。

療 法 通例内科的ニ治療セラルルコト多キモ膿瘍ガ

- a) 肋膜腔ニ穿破セルトキ
- b) 二次的ニ肺ニ起リシトキ
- c) 膿瘍竈ガ甚大ナルトキ
- d) 急性ノ性質アリテ熱アルトキ
- e) 慢性ノ膿瘍ニシテ内科的ニ治療シ得ザルモノハ手術ニヨルヲ可トス。

最近内科學ノ一僚友ハ咯出シタル膿其モノヲ簡單ニ滅菌シテ自家膿「ワクチン」トナシ,連日皮下注射ヲナシテ著シキ效果ヲ舉ゲツツアリ,之レ自家膿「ワクチン」療法(Autopyovakzintherapie)ナリ,又「れ」線造影劑「リビオドール」ヲ注入シタルコトニヨリ,其主劑沃度ガ作用シタリト見エ,改善シタル例モアリ。

肺切開(Pneumotomie)ニヨリ所置スル前ニ吾人ハ先ツ氣管支鏡直達的療法ヲナサザル可ラズ,ギゼー(Guisez)ハ5%「グアヤコール」油ニ15-20cgノ沃度「フォルム」ヲ加ヘタル液ヲ氣管鏡ヲ通シテ局所ニ注入,8-10回ニシテ著效アリシヲ發表セリ,斯ノ如キハ肺切開ト異リ,吾領域ニテモ比較的容易ニ實施シ得ル所ナリ,其注入量ハGeorge Rosenthalノ實驗ニヨリ20c.c.以内ナルベシ(注入法ハ總論「れ」線検査法372頁及ビ療法中379頁ニ説述ス)。

其他一般療法トシテ滋養ニ注意シ,食慾ヲ充進セシメ,鎮咳劑ヲ處シ,住室内ヲ濕潤ナラシム,石炭酸或ハ「クレオソート」稀釋液ノ吸入モ可ナリ,最近ハ又「サルヴェルサン」ヲ用ヒ良效アリシトイフ報告(Brauer)アリ。

6 氣管及氣管支ノ狭窄 Stenosis tracheae et bronchi

原因ト成立

氣管外性狭窄

Extratracheale Stenose

氣管内性狭窄

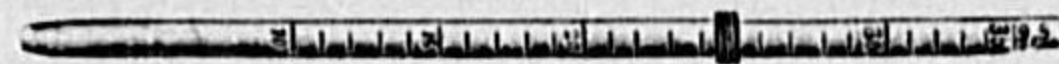
Endotracheale Stenose

ノニ別ツ、急性炎症ニヨリテ起ル氣管内性疾病ハ茲ニ論ゼズ。

氣管ハ解剖學的ニ種々ノ外壓ニ曝露シ、且ツ軟骨ハアリテモ喉頭ニ比シ、劣弱ナルヲ以テ周圍ノ氣管ノ變化ニヨリ比較的屢氣管外性狭窄ヲ生ズ、例之、甲狀腺腫、頸部惡性淋巴腫、氣管支腺

第二百九十八圖

Brünings 金屬氣管「カテーテル」



ノ腫脹、動脈瘤、縱隔腫瘍、食道癌等ハ其壓迫原因ヲナス。

氣管内性狭窄トシテハ微毒等ニヨル癆痕、腫瘍及ビ肉芽(氣管切開後ニ屢起ル)、異物等ヲ擧グ可シ、先天性隔膜ノ如キハ甚シク稀ニシテ敢テ論ゼズ。

症 狀 急ニ成立シタルモノニハ呼吸困難(殊ニ稍呼吸性)、體位ハ少シク俯位ヲトリ、喘鳴アリ、聲音混濁シ音調不良。

診 斷 以上ノ症狀ヲ見テ、喉頭鏡

ノ間接検査法、氣管鏡ノ直達検査法ニヨレバ確實ナリ、而シテ狭窄ノ位置、形狀、範圍等ヲ確定スベシ。

療 法 先ヅ原因ヲ考へ、切除若クハ除去シ得ルモノハナルベク自然道ヨリス、氣管ノ周圍癆痕ニハ多ク其部分ダケ氣管ヲ横斷シテ(Küster)縫合ヲ要スルコトアリ、大ナル缺損ヲ生ジタル時ハ肋軟骨或ハ胸骨ヨリ軟骨片或ハ骨片ヲトリテ移植ス。

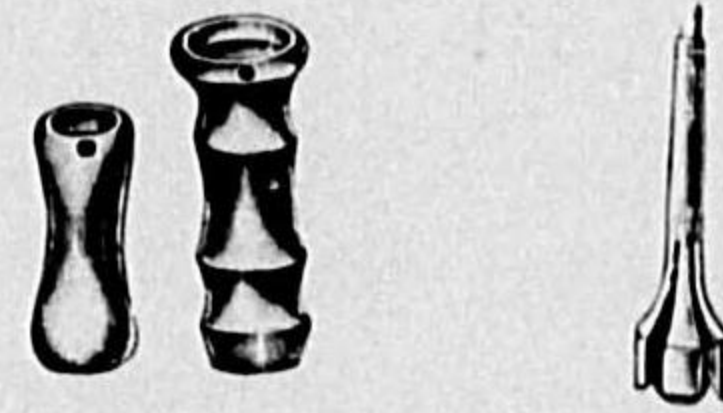
癆痕性内腔狭窄ニハ擴張法(Dilatation)ヲ行フ、之ニハ管腔「カテーテ

第二百九十九圖

Brünings 氣管支管

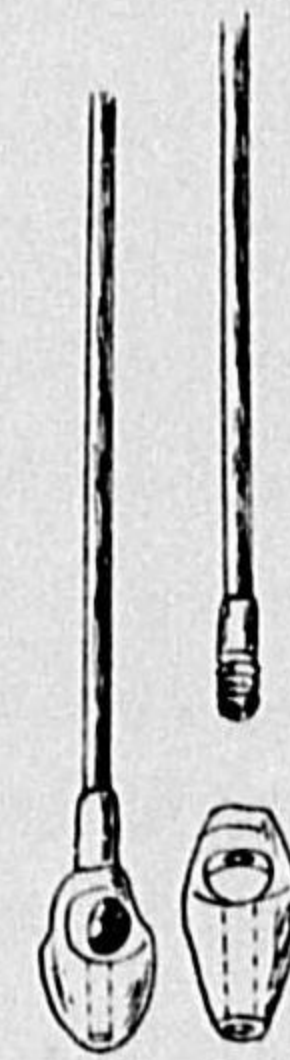
第三百圖

氣管支管保持器



第三百一圖

ル」(膨脹性アルハ危險ニシテ、管腔ナキ「ブヂー」様ノモノハ反射性咳嗽ヲナス時ニ肺胞ガ破裂シ且ツ肺氣腫ヲ起ス 危險アリ)ヲ用ヒ、更ニ遠キ氣管支ニアリテハ遊離插管法(Freie Intubation)ノ形



久保(猪)式擴張用金屬「ブヂー」

式ヲトリ、諸家ノ銀製氣管支管(Bronchialtuben)ノ如キモノヲ插置ス、擴張ハ長ク作用セシムル程有效ナルヲ以テ斯ク限局的ニ作用シ放置シ得ル方法ハ甚便ナリ。

7 氣管及氣管支ノ結核 Tuberculosis tracheae et bronchi

成 立 多ク喉頭結核ト同時ニ來リ、單ニ氣管及ビ氣管支ノミニ二次的ニ來ルハ全肺結核患者ノ4%ナリ(Heinze)、又氣管、氣管支周圍ノ結核性淋巴腺炎ガ氣管ニ壓迫ヲ及ボシ狭窄ヲ起スコトアリ、此處ニ結核ノ原發スルコトハ極メテ稀ナリ。

粟粒狀結核、浸潤、潰瘍、軟骨膜炎ノ型式、順序ヲ以テ現ハル、此粟粒狀結核ハ乾酪化シタル氣管及ビ氣管支淋巴腺ヨリ逆ニ病菌ガ管腔粘膜下ニ現ハレ結節ヲナセルモノナリ、浸潤ニモ強度ニ種々アリ、環狀(zirkulär)ニ現ハレテ狭窄症狀ヲ呈シ、次ニ崩壞シ潰瘍ヲツクリ遂ニ病機ハ軟骨輪ニ及ブモノナリ、疼痛ハ感ゼズ。

診 斷 之ヲ臨牀上ニ見得ルコトハ稀ナリ何トナレバ喉頭結核ニ伴フコト多ク、其處ノ症狀ハ氣管ニ存スル本症狀ヲ被フガ故ナリ、屢剖見時ニ發見ス、比較的貧血セル粘膜ト潰瘍ノ淺キハ主病竈ノ診斷ト相俟テ容易ナリ。

豫 後 末期ニ此處ニ現ハルルコト多キヲ以テ不良ナリ。

療 法 直達的ニ氣管鏡ヲ介シテ喉頭結核ニ用ユル方法ヲ、其儘應用シ得ベキモ事實上ハ甚シキ困難ヲ伴ヒ、殆不可能トイフベシ、浸潤強クシテ呼吸困難ヲ來サバ勿論氣管切開ヲ行フ、之ハ一方ニ喉頭置法即チ沈黙療法トナリ、他面ニ切開創ヲ通シテ局所療法ヲ比較的容易ニ行ヒ得ベシ。

「れ」線深部治療法 1—5% HEDヲ2—3週間隔ニテ行フコトアリ、唯潰瘍形成ヲナセルモノニハ效ナシ、氣管ニハ浸潤期狀態ヲ呈シテモ、喉頭症狀ハ既ニ進行シ、骨膜炎、潰瘍ヲ起セル場合ヲ見ルコト常ナリ、故ニ事實上ハ「れ」線應用ノ好期ハナシトイフベシ。

結核性淋巴腺炎ノ壓迫ニヨル氣管狭窄ニハ勿論夫々必要ニ應ジ氣管切開若クハ擴張法ヲナス。

8 氣管及氣管支ノ梅毒 Syphilis tracheae et bronchi

驅微法ト豫防法ト相俟テ進歩セル現今ニテハ凡ユル局所ニ微毒ヲ見ルコトハ甚少シ、氣管ニ於テ殊ニ然リ。

第一期症狀ハ此局所ニ來ルコトナシ。

第二期症狀ハ氣管鏡直達的検査法ノ應用以後モ知見猶區々ニシテ、或モノ

ハ紅斑ト「コンヂローム」(Kondylom)ガ稀ニ來ルトナシ、又或モノハ充血シタル粘膜上ニ紫色ノ斑紋アリトシ、滑澤ナラザル淡赤ノ贅肉ヲ見タリトナス。

第三期症狀ハ多數ノ報告ニ一致點アリ、信頼スルニ足ルヲ以テ茲ニハ第三期微毒ノミヲ略記スベシ。

症狀種々ニシテ喉頭モ關與スルコト多ク複雑ナリ、氣管ニ來リシモノハ咳嗽、粘膿性喀痰、氣管「カタル」ニ見ル如キ胸頸部ノ鈍痛感(Gerhardt)アリ、氣管分岐部ニ潮溼性浸潤ガ來レバ咳嗽ハ痙攣的ノ壓迫的ナリ。

潰瘍或ハ狭窄性機轉アル時ハ重症氣管支炎ノ徵アリ、破壊機轉アレバ呼吸ニ惡臭アリ、又壞死軟骨片ヲ咯出スルコトアリ、此咯出ハ殆本症ノ特徴ト見ルコトヲ得ベシ。

診斷直達ノ検査ニ依ラザル可ラズ、「れ」線寫眞ハ參考トシテ有效ナリ。

鑑別スベキハ大動脈瘤(Aortaneurysma)ニシテ氣管側壁ノ膨隆セルモノハ搏動其他「れ」線ニヨリ或ハ内科的検査ニヨリ判別ス。

異物トノ區別ハ困難ナルコトアリ、即チ異物ノ周圍ガ炎性若クハ潰瘍性ニナリシ時ハ酷似ノ症狀ヲ呈ス。

氣管結核トモ誤リ易キモ、喉頭ガ共

ニ胃サレザル點ハ結核ト異ル。

豫後初期ノモノハ佳良、癆痕、狭窄ニ至リシモノハ全治困難ナリ、病竈ガ氣管系ノ上部ニアル程佳良ナリ。

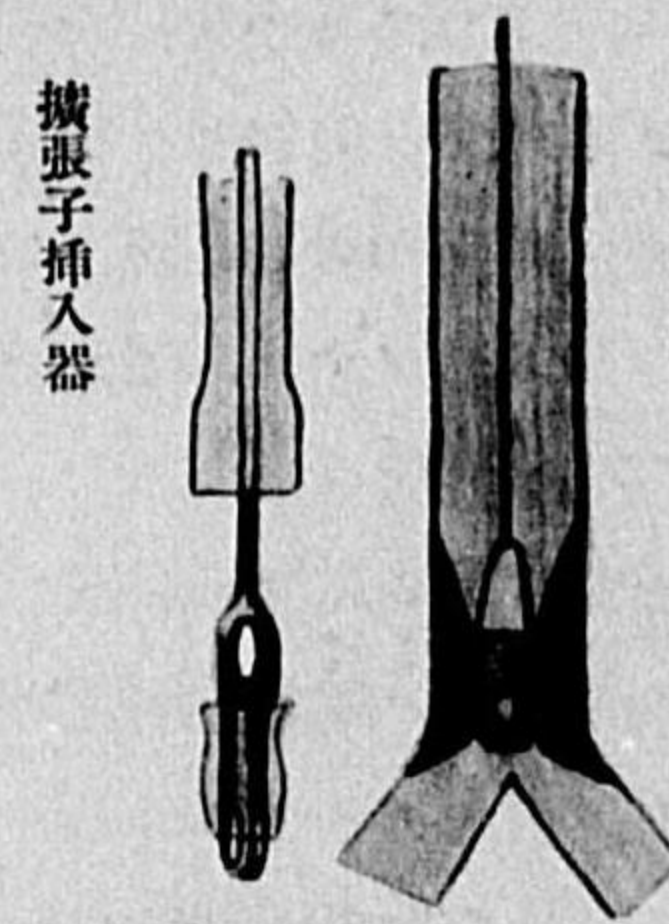
現今、診斷ノ早キ爲ニ死亡率ハ減少セリ。

療法癆痕性變化ヲナシタルモノニハ無効ナリ、局所療法モ又無効ナリ、沃度加里ハ時トシテ「サルヴァルサン」ヨリモ有效ナルコトアリ。

癆痕性狭窄ニハ金屬性管狀「ブヂー」等總テ管狀ノ擴張器ヲ用ユ。

第三百二圖

H. v. Schrötten ガ微毒性氣管狭窄ニ用ヒタル有腔金屬擴張子ニシテ直達管ノ誘導ニヨリ挿置セルヲ示ス



9 氣管及氣管支ノ腫瘍 Tumor tracheae et bronchi

喉頭ヨリモ遙ニ稀ニ來ル、重要ナルハ

i. 喉頭乳嘴腫ノ一系ヲナシテ氣管

ニ現ハルモノ

ii. 纖維腫及ビ迷入セル甲狀腺ガ氣管粘膜下ニ圓形隆起ヲナシテ現ハルル經過緩慢ナル腫瘍トシテ來ルモノ

iii. 氣管ニ原發スル惡性腫瘍トシテハ甚稀ニ癌アレド、多クハ周圍ヨリ二次的ニ來ルモノ

等ナリ。

症狀皆一定ノ大サニ達シ、氣管、氣管支腔ヲ閉塞スル程度ニヨリ、呼吸性呼吸困難ヲ起ス、而シテ少シク上體ヲ前屈セシム。

診斷喉頭鏡ニヨリ間接検査ニヨリ判明スルコトアリ、確實ナルハ直達検査法ニ「れ」線検査ヲ併用スルニアリ、腫瘍ガ氣管支ニアリテ少シク管腔ヲ閉塞スル時ハ該側ノ胸廓運動ハ減ズ、全閉ニ至レバ肺ノ肺膨脹不全(Atelectase)ヲ起ス。

療法先ヅ窒息ヲ防グ爲ニ保存的ニ行フ、下氣管切開ニテ氣管套管ガ腫瘍ノ下ニ達セザレバ König 式螺旋管ヲ入ル、良性腫瘍ノ有莖ナルハ自然道ヨリ或ハ氣管切開ト同時ニ除去スルコトヲ得、惡性腫瘍ニ對シテハ手術的ニハ不可能ナルヲ以テ放射線療法ヲ行フ。

即チ先ヅ「ラヂウム」ヲ以テ

A) 表面放射法, B) 遠距離放射法ヲ行フカ、或ハ「れ」線深部治療法トシテくたゑる(Contard)ノ少量分割長時間放射法ニ依ルカ、或ハ金屬「コロイード」療法ヲ行フベシ(詳細ハ日本耳鼻咽喉科全書第十卷ノ二、216頁參照)。

10 イペリット性喉頭氣管炎 Laryngotracheitis per Yperite

1915年初メテ歐州大戰ニ於テ獨逸軍ニヨリ所謂毒瓦斯トシテ化學的兵器ナルモノ用ヒラシ當時ハ催嚏性ノ「ヂフェニール鹽化砒素」(Diphenylarsine chloride) [(C6H5)2AsCl] 及ビ糜爛性ノイペリット [Yperite (C2H4Cl)2 S=Dichlorethylsulphide] ノ二ナリシガ、其後ノ此方面ノ研究ハ窒息性ノ「ホスゲン」(COCl2)、催涙性ノ臭化「ベンジル」[C6H5CH2Br] 其他各種ヲ生ゼリ、然レドモ前二者以外ハ未ダ實戰ニ用ヒラレタルコトナク唯實驗的ニ知ラレタルモノノミ、故ニ茲ニハ現今猶重要視サレ且ツ歐州大戰當時用ヒラレタルイペリットヲ經驗者ノ記載ニ基ツキ少シク記ス所アラン。

症狀三群ニ分ツ

i 眼障凝(Keratoconjunctivitis)…本「ガス」ニ遭テ後6—12時間ニシテ先ヅ現ル。

ii 上氣道ノ徵候ハ 3—5 日目ヨリ
氣管支肺合併症ヲ伴ヒ來ル。

iii 皮膚ニハ陰部、股部ノ如キ被覆
部ニ殊ニ水疱癩爛ヲ形成ス、通例早期
ニ來レド或時ニハ 5—16 日ニ現ハル
ルコトアリ。

喉頭、氣管炎ノ最初症狀トシテ發聲
困難(Dysphonic)ヲ來シ數時間ニシテ
極期ニ達ス、強キ嘔聲ト咳嗽アリ、遂
ニ無聲(Aphonic)ニ至ル、此狀態ハ數
日後ニ少シク輕減スレドモ爾後音聲ハ
粗體トナル、咳嗽ハ必發、發作的、犬
吠樣ニシテ夜ニ多シ、後粘稠、膿性喀
痰アリ酸性ニシテ血線ヲ存ス、胸骨後
面ニ堪ガタキ不快灼熱感ガ死ノ直前迄
數週間續ク。

以上ノ症狀ハ鼻、咽頭ニモ併發ス、即
チ鼻感冒、輕度ニシテ頻發ノ鼻血、早ク
ヨリ失嗅、失味(Anosmie und Ageusie)、
短時間續ク輕症ノ嚥下痛アリ、肺性呼
吸困難アリ。

他覺的ニハ輕症型ハ總テ咽喉炎ノ強
度ノモノニ類ス、重症型ハ以上ニ加ル
ニ咽、喉、氣管ニ潰瘍ヲ生ジ、甚シキ
ハ義膜ヲ附シ、聲帯モ胃サレ、體温上
昇シ、一般狀態胃サル。

豫後「イペリット」ハ持久性ニシ
テ效力發揮ニ時間ヲ要スル故、其間ニ

諸種ノ療法モ使用シ得ルモノナリ、從
テ肺合併症ヲ起サザルモノハ佳良ナ
リ。

豫防毒法 獨特ノ芥子臭ヲ有スルヲ
以テ之ヲ知ラバ所在ヲ變ズルカ或ハ防
毒吸收罐(含毒空氣吸入ノ際、毒物ヲ
濾過スル吸收層ヲ設ケタル器物)ヲ用
ヒテ防毒覆面(マスク)ニヨリ呼吸セ
シム、吸收罐ハ吸著性能アル活性炭ヲ
主劑トシ、「フェルト」ノ機械的濾過層
及化學的補助吸收劑ヨリ成ル、又「イ
ペリット」ニハ防毒衣(潛水著ノ如キ
「ゴム」製全身被包衣ニシテ著シク體運
動ヲ制限セラル)ヲ以テ個人的ニ防護
シ、汚毒地ニハ漂白粉(「ホスゲン」ニ
對シテハ「アムモニア」液、他ノ「ガス」
ニハ水、「アルカリ」ニテ中和スル)、建
物内ヲ密閉シ酸素ヲ供給スル等ノ集團
的ヲ行フ。

療法 炎症痛ヲ減ジ、上氣道ノ消
毒ヲ目的トス、鼻ハ生理的食鹽水洗滌、
輕度ニ局所麻醉藥塗布及ビ吸入ヲナ
ス。

續發症ニハ亞硫化物溫浴ガ時ニ有效
ナリ、潰瘍輕微ニシテ音聲ノ粗雜ナル
モノニハ發音練習ヲナス、其他隨機對
症的ニ處置ス。

食 道 科 學

Lehre von der Speiseröhre

總 論 Allgemeiner Teil

I 臨牀的解剖學 Die klinische Anatomie

食道ノ起始部即チ下咽頭トノ境界
ハ輪狀軟骨後板(Lamina posterior
cartilaginosa cricoideae)ノ下縁ノ高サ
トス、Killianハ下咽頭收縮筋ノ最下ニ
當ル横走筋束即チ漏斗形絞扼部(Pars
fundiformis)ヲ下咽頭ト食道トノ境界
ト假定シタリ、此横走筋束部ハ後壁ヨ
リ前方ヘ隆起シテ恰口唇狀ヲナシ境界
部ヲ扼セリ、此處ヲ食道入口部(Oeso-
phagusmund)トイフ。

食道ノ下端ハ賁門(Cardia)ニシテ
勿論横隔膜下ニアリ、食道左側壁ハ胃
ノ大彎左方ニ對シテ銳角ヲナシ、境界
ヲ明ニスト雖、食道右壁ハ次第ニ小彎
ニ移行シテ境界明ナラズ。

斯クテ此食道(入口部ヨリ賁門迄ノ
長サ)ハ個人的差異アレド大體下ノ如
シ。

	男子	女子	平均
體長	156—175	148—166	24.9
cm	21—28.8	20—27	23.3

ト見テ可ナリ(Starck)トイフ、日本

人ニテモ大差ナシ、而シテ臨牀上ニハ
之ヲ上前切齒ヨリ計算スルヲ便トシ、
賁門迄ヲ見ルニ

5 歳…26cm, 10 歳…28cm, 15 歳…33cm
ナリ、余ノ計算ニテハ成育シタル大人
ハ約 37—42cm トナル。

此長キ食道ニハ又臨牀上重要ナル狹
隘部ガ生理的ニ存ス。

i. 第一狹窄部或ハ輪狀軟骨狹窄部
(Erste Enge=die Ringknorpel-
enge)

之ハ食道ノ起始部ニシテ輪狀軟骨後
板ノ下縁ニ相當ス、其形ハ前後ヨリ壓
平セラレタル如クニシテ、左右長約
2cm 以上アリ、可ナリ伸張性アリ、食
道異物、癌ノ屢起ル所ニシテ輪狀軟骨
後板ト共ニ最必要ナリ。

ii. 第二狹窄部即チ大動脈狹窄部
(Zweite Enge=die Aortenenge)

大動脈弓ガ左ヨリ横ニ此食道ト交叉
シ又稍下テ前方ニ左氣管支ト交叉スル
ニヨリ食道腔内ニ多少膨隆トシテ現ハ

レ管腔ヲ狹隘ナラシム、丁度 IV—V 胸椎ノ高サニ相當ス。

iii. 第三狹窄部即チ横隔膜狹窄部 (Dritte Enge=die Diaphragmenge)

食道ガ横隔膜ニ入ル所ニ生ジ、約圓形ニ近シ。

又食道ハ所在ニ從テ、頸部食道、胸部食道、腹部食道ノ如ク分割スルコトモアリ。

食道管腔ノ廣サハ是迄多數ノ報告アリ、而シテ全長ニ亙リ管腔ハ等シカラズ、狹キ所、廣キ所交互ニ存ス、III 胸椎ノ高サニテハ最廣キ所徑 1.8cm モアリ、壁ノ厚サ 3mm. 最外側ハ筋層、最内側ハ粘膜ヨリナル、粘膜下組織ハ緩粗ナル結締織ヨリナル。

II 臨牀の生理學 Die klinische Physiologie

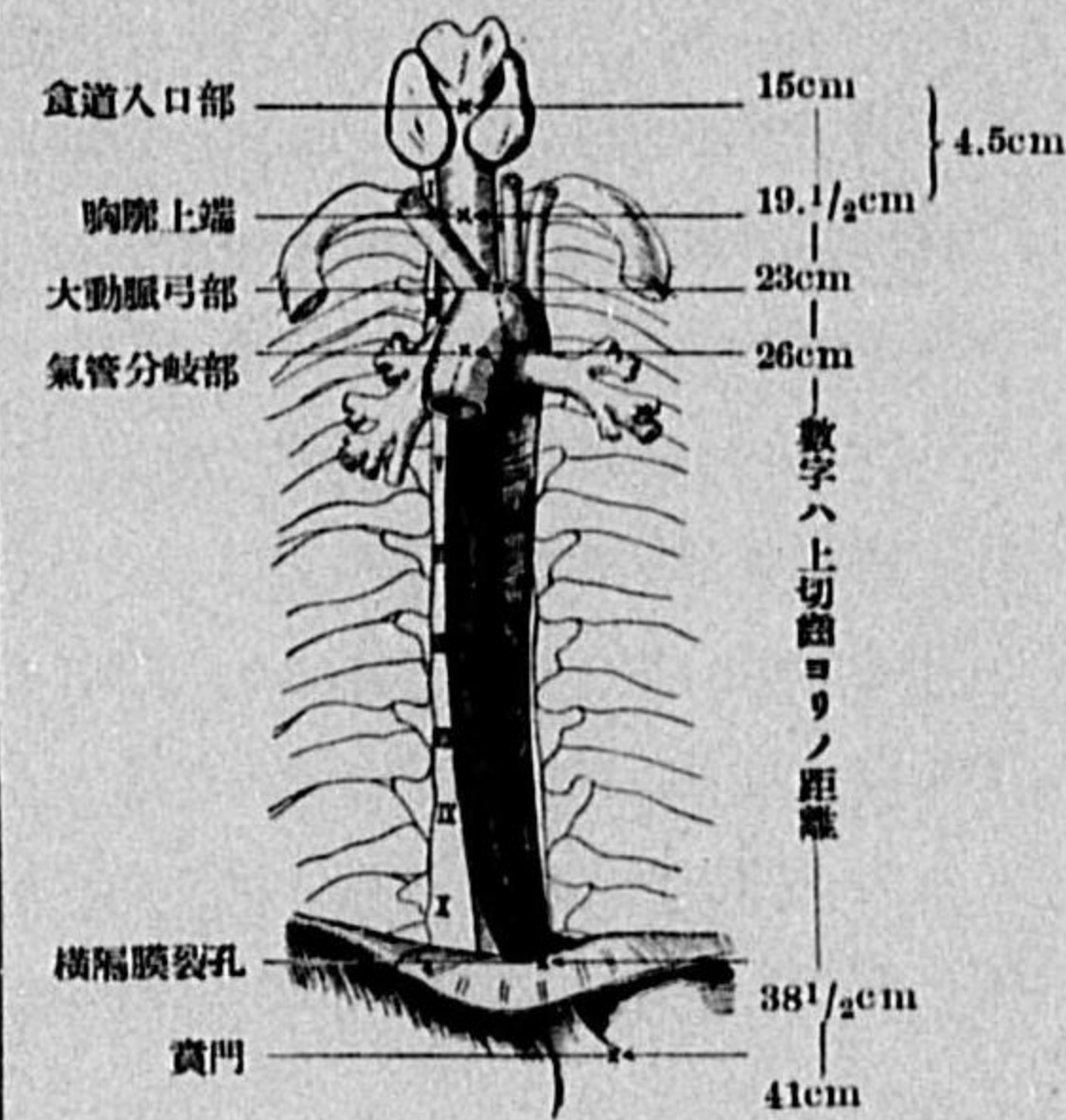
嚥下作用ノ一部ニ與リ、食物ヲ咽頭ヨリ胃ニ送ル通路ヲナス。

甲状舌骨筋ニヨリテ喉頭ハ上方ニ牽引セラレ、頤、舌及ビ顎舌筋ノ收縮ニヨリ喉頭及ビ舌骨共ニ前方ニ牽引セラレテ茲ニ下咽頭ハ漏斗形ヲナス、ソコニ落タル食物ハ咽頭收縮筋ニヨリテ食道ニ送り込マル、食道自己ノ下送運動ハ僅少ナレド其壓力ハ甚大ナリ、而シテ食道入口部ハ全ク反射的ニ閉閉ス、

經過ハ殆垂直、直線的ニ走り脊柱ヨリモ少シク左偏ス、賁門ニ近クニ從ヒ益左ニ偏ス。

第三百三圖

食道、氣管、及ビ附近器管トノ關係 (Starck =ヨル)



食物ガ一度此食道入口部ヲ通レバ逆流ヲ妨グル爲ニ一々閉鎖作用ヲナシ、而シテ同時ニ口ヲ閉レバ食物ヲ下行セシムルニ有力ナル壓波ガ起ル、食道ノ蠕動波ノ速度ハ下行スル程減退ス、之ハ「レ」線活動寫眞或ハ食道鏡直達検査ニテ蒼鉛或ハ「バリウム」塊ヲ嚥下セシメテ觀察シ得。

嚥下時以外ニ自動的ニ食道ガ收縮スルコトハナシ、食道壁ヲ機械的ニ擴張

スルトキハ食道蠕動運動ハ盛ニ持續的ニ起ルベシ。

賁門ハ瓣狀閉鎖ヲナスカ或ハ筋肉ガ絞扼的ニ閉鎖スルカハ誰モ疑問トスル處ナルガ、吾人ガ食道直達検査法ヨリ得タル知見ニテハくろねつける(Kronecker) 及ビめるつゑる (Meltzer) ガイフ如ク、此賁門部ノ筋ハ適度ノ緊張ヲ有シ、食道及ビ胃間ノ逆流セザル程度ニ閉鎖ヲナシ、少シク管ヲ進ムレバ容易ニ胃ニ入ルコトヲ得ル程度ニ絞扼スルモノナリ。

其他吾人ハ直達検査法ニ於テ食道自己ハ

i. 呼吸時運動 (Respiratorische Beweglichkeit) トシテ吸氣時少シ

ク管腔擴リ、呼氣時狹隘トナルコト

ii. 搏動性運動 (Pulsatorische Bewegung) トシテ第二狹窄部ニ最強キ運動ヲ見ル、是等ノ運動ハ卷綿子ヲ入レ置ケバ其外端ノ運動ニ依テ明ニ認メ得

食道腔ハ v. Mikulicz ニヨリ證明サレタル如ク常ニ空間ヲ保ツモノナリ、之レ周圍胸腔ノ陰壓ニヨル。

分布神經ハ迷走神經 (N. vagus) ナリ、兩側ノ迷走神經ヲ切斷スル時ハ不完全ナル食道麻痺ヲ起ス、即チ動物實驗ニテハ餌料ノ食道内滯留ヲ見ル、而シテ交感神經ノ分布ハ未タ確定セラレズ。

III 療法一般 Behandlung im allgemeinen

A. 消息法 Sondierung

直達検査法ノ發達以來、之ヲ診斷ノ目的ニ使用スルコトハ稀ナリ、唯痙攣 (Spasmus) ニ或ハ癩痕性狹窄 (narrow Stenose) ノ漸進的擴張法ニ用ユ、重ニ弾力性屈撓性ノ種々ノ大サノモノヲ用ユ。

B. 擴張法 Dilatationsmethode

賁門ノ痙攣の状態ハ時ニ觀血的擴張法、賁門切開、賁門整形手術ヲナシテ或ハ食道胃吻合 (Oesophagogastro-

anastomose) ヲナシテ痙攣ヲ除ク、其中吾人ノ最ヨク遭遇スル機能的賁門痙攣ハ Heller 式手術ヲナシ一種ノ擴張ヲナス、其法ハ開腹創ヨリ入り、賁門ノ前後或ハ環狀ニ賁門筋ヲ除去ス、但シ粘膜ヲ損傷セザル如クス、之ニヨリテ明ニ擴張ノ效ヲ奏ス。

C. 賁門整形術 (Kardioplastik) ハ

賁門切開 (Kardiotomie) ノ如ク先ヅ賁門ノ全層ヲ通シテ一ノ縱切開ヲ入レ、之ヲ横ニ縫合スルニア

リ。

D. 食道内切開法

Oesophagotomia interna

尿道内切開ノ如ク、特殊ノ「ブデー」
附小刀ヲ横側ニ有スルモノヲ以テ、上
方ヨリ下方ニ小切開ヲ入ル (Maison-
neuve) 併シ盲的ノ切線ハ危険多キヲ
以テ餘リ顧ラズ、如何ニシテモ食道
ノ直達ノ検査ノ下ニ行ハザル可ラス、
而モ猶多少ノ危険アリ、殊ニ切線ヲ入
レタル後「ブデー」(Bougie) ヲ入レテ
擴張スルコトハ危険ナリ。

E. 食道外切開 Oesophagotomia externa im Halsteil

頸部ニ屬スル食道ヲ露出スルニハ甲
狀腺ノ高サヨリ下方、胸骨上窩 (Fossa
suprasternalis) 迄、左胸鎖乳様筋前縁
ニ沿テ皮膚切開ヲ行フ、頭部ハ強く後
屈且ツ右ニ回轉セシム、**潤頸筋** (Pla-
tysma) 及ビ**淺在頸筋膜** (Fascia colli
superficialis) ヲ斜ニ切ル時ハ頸部大血
管ヲ現ハス、此血管群ヨリ内側ニテ**中
部頸筋膜** (Fascia colli mediana) ヲ切
リ**胸骨甲狀筋** (M. sternothyroideus)
乃至ハ後部甲狀腺葉 (Lobus sinister
glandulae thyroideae) ト上記ノ大血
管鞘ノ連絡ヲ絶ツ。

頸部血管及ビ胸鎖乳様筋ハ共ニ側方
ニ引張り寄ス、**肩胛舌骨筋** (M. omo-

hyoideus) ハ切斷シテ可ナリ、手術野
ヲ充分ニ開放シテ後、上及ビ下甲狀腺
動脈 (A. thyroidea superior et in-
ferior) ヲ結紮ス、而シテ**氣管軟骨輪後
緣** (Hinteres Ende der cartilago
trachealis) ト脊柱トノ間ニ赤褐色ノ
壓平セラレタル管即チ食道ヲ認ム、「ブ
デー」ヲ食道ニ入ルレバ此食道ハ容易
ニ認メ得ベシ、茲ニ於テ反回神經 (N.
recurrens) ヲ損セザル様、稍後方ニ縱
切開ヲ入ル、切線ノ兩緣ハ細キ絲ヲ以
テ引張り創ヲ開ク、通例此手術ハ異物
ガ直達鏡的ニ抽出シ得ザル時ニ用ユル
コト多シ、故ニ多クハ食道壁ニ既ニ損
傷若クハ**食道周圍炎症** (Perioesopha-
gitis) アリ、然ラザルモ周圍ニ傳染シ
易キ部位ノ手術ナルヲ以テ手術創ノ治
療ニハ充分ニ注意ヲ拂ヒ、炎症ガ縱隔
洞方面ニ進ムコトヲ防グベシ、之ガ爲
ニ沃度「フォルムガーゼ」ノ「タンボ
ン」ヲ創下方ニ行フ、而シテ食道壁其
モノハ開放シ、蜂窠織炎ヲ防止ス、而
シテ此切開創ヨリ食物ヲ送入ス、二次
的ニ全治セシム (各論 2 食道異物療法
417 頁中ニ細説、挿圖アリ)。

F. 塗布、探膿 Bepinselung, Punk- tion der Speiseröhre

共ニ直達ノ食道鏡ノ媒介ノ下ニ行フ
ベシ、勿論藥液塗布ニハ直線ノ卷綿子

ヲ用ユベシ、探膿針ハ甚長キ、尖端ノ
少シク屈曲セルヲ便トス。

G. 異物ノ抽出

Extraktion des Fremdkörpers

管テ盲的ニ或ハ外科的處置後ニ抽出
シタリシモ、現今ハ皆理想ニ近キ食道
直達ノ方法ニヨルコトトナリ、大ナル
進歩ヲナセリ、勿論造影性ノ有無ニ拘

ラス、「れ」線検査ノ補助ヲ必要トス。

體內深部ニアル異物ニ對シテ、患者
ヲ苦シムルコト少ク、且ツ無危険ニ近
キ除去法トシテ、目親シク見ル此方法
ニ優ルモノナシ、外部ヨリ觸診的ニ診
斷スルコトハ異物ノ種類ニヨリ頸部頷
ニテハ危険アリ。

IV 食道検査法 Untersuchungsmethode der Speiseröhre

A. 食道鏡直達検査法

Direkte Oesophagoskopie

古ク 1807年 Bozzini ガ初テ食道内
腔検査ノ可能ヲ唱へ、不完全ナガラ食
道上部ヲ觀察シテヨリ、喉頭鏡ノ發明
(1865)ハ其食道初部ノ照明法ニ一進歩
ヲ來シ、1870年ニハベヴァン (Bevan)
ハ自己考案ノ管ヲ以テツゑ**んける内壓
性擴張憩室** (Zenker'sches Pulsions-
divertikel) ヲ診斷シタリトイフ、爾來、
検査管其モノニ (Waldenburg, Stoerk)、
或ハ照明法ニ (Mckenzie, v. Mikulicz)
次第ニ變化、改良ヲ來シ現在ニ至レリ。

其照明法ニ二アリ、一ハ**管外照明法**
(Außenbeleuchtung) 及ビ**管内照明法**
(Innenbeleuchtung) ナリ、各多少ノ
優劣アリ、前者ハ管外ノ一邊周部ヨリ
小電燈光ヲ投ジテ管ノ全長ヲ通シテ照
明スルモノニシテ、直達検査管ノ尖端

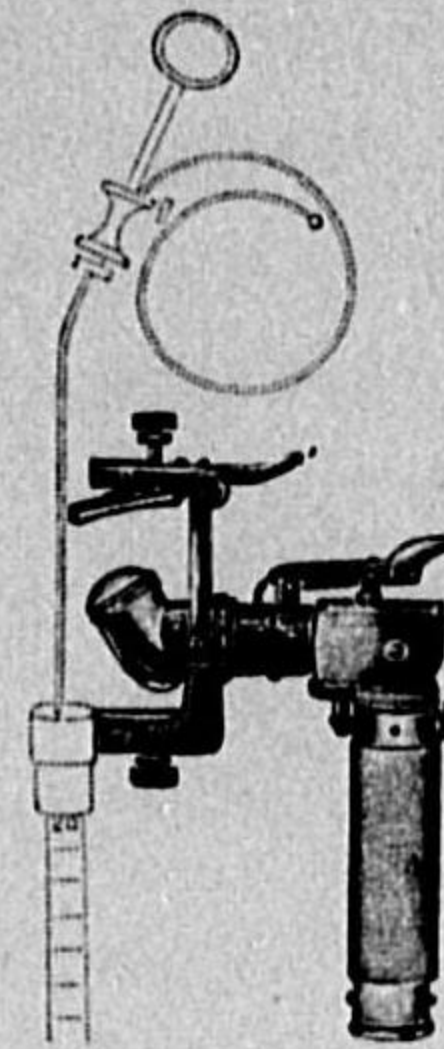
ニテハ光力ハ可ナリ減弱セラル、後者
ハ直達管ノ尖端ニ近ク小電球ヲ點ジ得
ル如クセリ (Ch. Jackson)、之ハ目的部
ヲ照ラスニ甚都合ヨキモ、粘液、血液
等ニヨリテ著シク光力ヲ減殺セラルル
コトハ大不利ナリ。

電燈把柄ニモ是迄かすば (Casper)
式ヨリ次第ニ改良セラレテ Brünings
式迄ニ至レリ、此間ニアリテ Killian
ガ初メニ用ヒタルきるすたいん一きり
あん式**額帶電燈** (Stirnleuchte) ハ管ヲ
離レテ全ク管外ニアリ、反射鏡ノ使用
ニ慣レタル吾人専門家ニハ少シモ不便
ニアラス、且ツ氣管ヲ検査スルニ當リ、
吹キカケラルル略痰ヲ、自己ノ顔面ト
共ニ突嗟ノ間ニ避ケ得テ甚ヨシ。

然レド孰レノ管、孰レノ照明法ニモ
一得一失アリ、要ハ一法ニ充分ニ慣レ
親シミ、自由ニ驅使シ得ルモノヲ最可

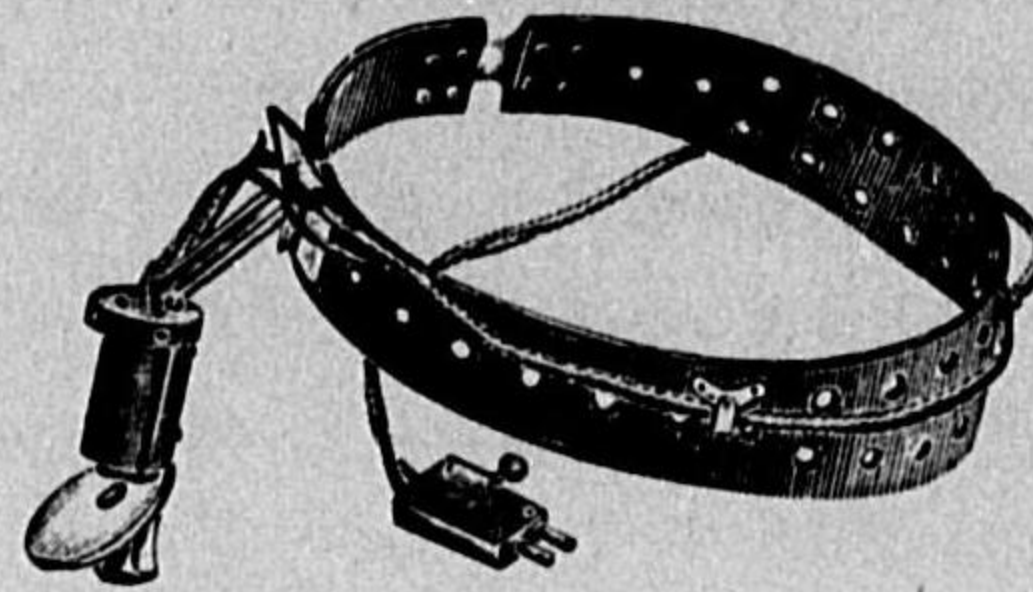
第三百四圖

Kahler 田所式電燈把柄



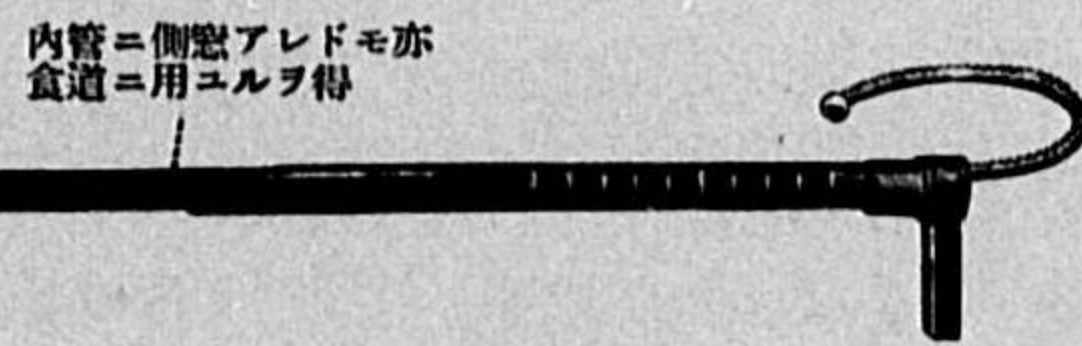
第三百五圖

きりあん—きるすたいん額帶電燈

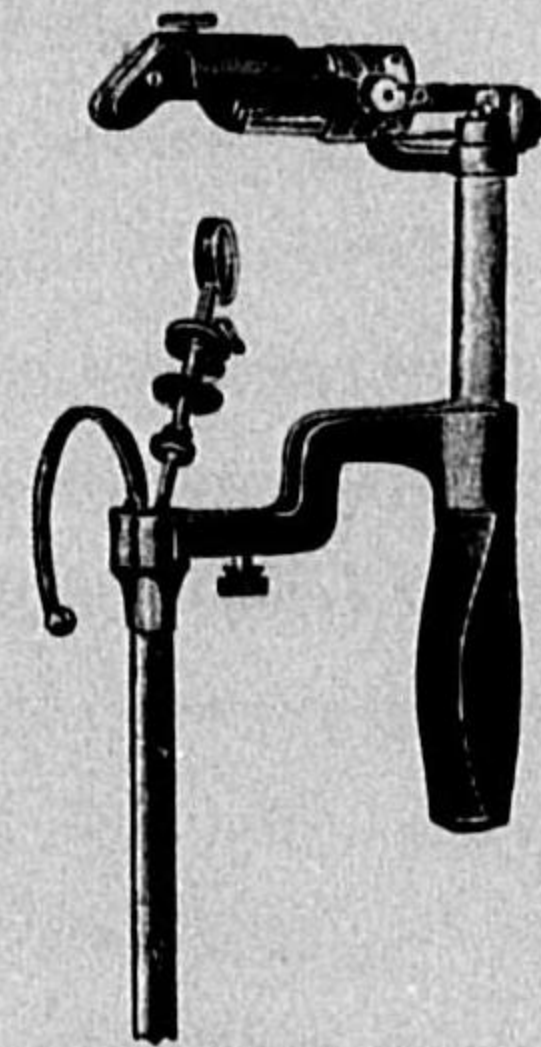


第三百六圖

Brünings 直達検査管ト萬能電照把柄 (氣管食道=共通=用ユ)



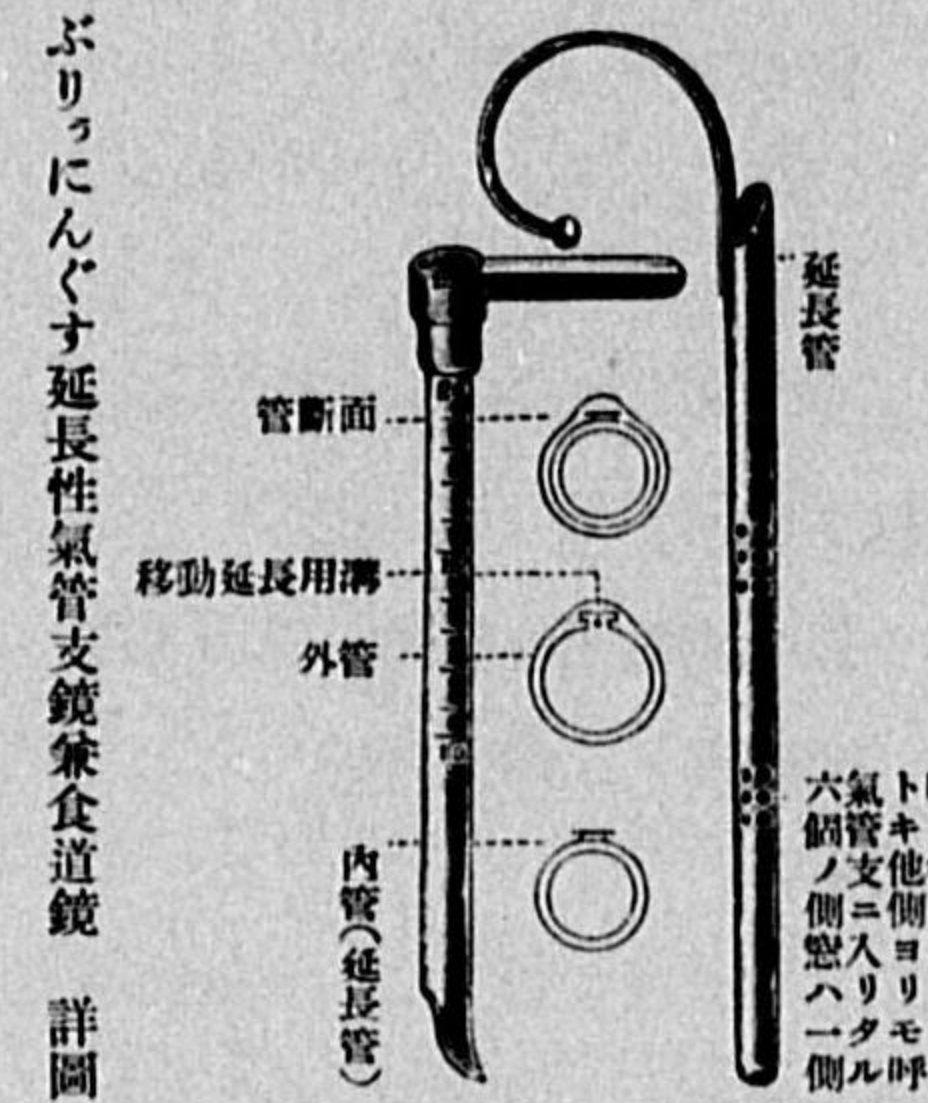
内管=側窓アレドモ亦
食道=用ニルヲ得



ナリトスベシ。

食道鏡直達検査法ハ又氣管=於ルト同ジク**上及ビ下直達食道検査法** (Oesophagoscopia directa superior et inferior) ノ二種アリ、通例吾人ハ自然道即チヨリ入ル直達食道検査法ヲ行フト雖、食道入口部ヨリ上方ニ特殊ノ障礙ヲ存スル時ハ頸部ノ**食道外切開** (Oesophagotomia externa im Halsteile) ヲナシ、此所ヨリ入ル所ノ**下食道直達検査法** ヲナスコトアリ、又食道下部ノ癥痕擴張ノ目的等特殊ノ場合ニハ胃瘻 (Magenfistel) ヲヨリ逆ニ食道ヲ檢シ且ツ治療ヲ施スコトアリ、之ヲ**逆進性食道直達検査法** (Oesophagoscopia directa

第三百七圖



ぶりにんぐす延長性氣管支鏡兼食道鏡 詳圖

ト吸シ得シム
六氣管支他側ヨリ
鋼管ノ支側ハ入り
側窓ハ一側モ呼

retrogradis seu gastralis) トイフ、然レドモ此方法ハ胃瘻ノ位置、形狀及ビ食道腔 (胃トノ境界) ノ方向等ガ不適當ナルタメ充分ニ目的ヲ達スルコト稀ナリ。

◎一般的準備

器械、器具 Instrumente

是等ハ殆氣管、氣管支鏡検査ニ用ユルモノト同様ナリ、而シテ使用管ノ管腔モ氣管ニ於ルヨリモ少シク太キガ故ニ、視野モ大ニシテ、必要ナル場合ニハ管内ニ軟屈撓性「マンドリン」ヲ入レ、其管外ニ現ハレタル部分ヲ誘導體トシテ管ヲ挿入ヲナスコトモアリ、管腔長キ時ハ望遠「レンズ」ヲ以テ精細ニ檢スルヲ可トス。

管ノ太サハ大人ニテ外徑 10, 12, 14 mm ノモノヲ觀察管トシテ準備セバ可ナリ、猶 12, 14 mm ノ兩管ニハ管内ノ溝ヲ移動シテ長サヲ任意ニ延長シ得ル**延長管** (Verlängerbares Rohr) ヲ附屬ス。

直達鏡の手術器及ビ陰壓「ポンプ」管ハ皆長短二種ヲ準備スベシ。

鉗子類ニモ種々アリ、目的ニヨリ其把握部ノ構造ヲ異ニス、孰レモ長短ヲ自由ニ調節シ得ル細長キ柄、桿ナラザル可ラズ(氣管篇 387頁 既述)。

通例横臥位ニテ行フヲ以テ、手術臺

板ノ中央ヲ軸トシテ兩端ヲ上下シ得ル手術臺アラバヨシ、若シ坐位ヲトランムル時ハ坐高ノ低キ (10—20 cm) 椅子ヲ用ヒ、檢者ハ立テ上ヨリ管内ヲ視察シ得ルモノヲ可トス、又分泌物其他管内ニ流下スルモノハ検査卓ヲ斜ニシテ自然ニ流下スル如クスルヲ得、或ハ手持「ポンプ」或ハ電動陰壓装置ヲ準備スベシ(氣管篇第 287 圖 既述)。

今是等ノ用具ヲ列舉スルニ

i. 外徑 7—11 mm ノ直達検査管ニシテ延長可能ナル**本管**、**内管** (Brünings 管ハ延長管ノ爲ニ本管内ニ溝ヲツクリ、本管内管兩者ノ接續ヲ完全ナラシメタリ、併實際ハ鑄ヲ生ジテ内管ノ移動困難トナル故、却テ溝ノナキ山川式管ノ如キヲ便トス) ト、其各本管ニ適合スル**軟屈撓性「マンドリン」**(英

「ブデー」=同じ)。

ii. 照明法ハ額帶電燈, Brünings式, Kahler 式, 山川式 Ch. Jackson 式孰レモ最自己ニ用ヒ易キモノ, 而シテ普通ノ室内電燈ヲ電源トスルガ故ニ抵抗器ヲ要ス。

iii. 長キ直達用卷綿子ト長消息子

iv. 把握部ノ交換ト伸縮ノ自由ナル異物鉗子

以上ニシテ検査前ノ局所酔麻藥塗布用器具ハ此他ニ必要ナリ。

○被檢者側ノ準備

検査前ニヨク一般検査ヲナスベシ, 検査禁忌症ヲ發見スルノミナラズ診斷ニ必要ナル他ノ咽喉科的症狀等モ見出スコトアリ。

先ヅ診ルベキハ胃ト肺ノ出血, 食道ノ急性炎症, 進捗セル大動脈瘤, 強キ呼吸困難, 非代償性心機能障礙, 高年者ノ動脈硬化症等ノ有無ニシテ陽性ナルハ本検査ニ適セズ, 其他精神異常, 一般憔悴者モ勿論検査ヲ避クベシ。

準備トシテハ「れ」線検査モ必要ナルコト勿論, 時ニ消息法モ行フコトアリ, 「れ」線検査法ニ就テハ別ニ後段410頁以下ニ述ル所アラン。

○無痛法ト麻醉法

局所酔麻ハ勿論最良法ナリ, ソレモ咽喉, 食道入口部ニ 10—20% 「コカ

イン—アドレナリン」ヲ咽頭卷綿子ニ塗布スレバ可ナリ, 小兒ニハ其量ヲ斟酌シ, 極幼兒ニハ之ヲ要セズ, 且ツ慢性症ニ於テ度々反復検査スルニハ無麻醉ニテ行フコトヲ得, 大人ニテハ以上ノ他, 豫メ鎮靜, 鎮痛劑ヲ皮下ニ注射スルヲ可トス, 安靜ヲ要スル小兒ノ検査若クハ所置ニ於テハ全身麻醉ヲ用ユ, 例之食道異物ノ所置ニ於ル如シ, 吸入麻醉ハ口, 鼻附近ヲ取扱フ此検査法ニ於テ不便アルヲ以テ Avertin ノ如キ直腸注入麻醉ヲ基礎麻醉トシテ用ヒ得ベシ (體重 1 kg = 0.08—0.1 ノ割合トシ 2.5% 溶液トシ, 體温ニ暖メ直腸ニ用ユ…卷末附録參照) 而モ Avertin ヲ用ユル程長キ時間ノ麻醉ヲ要セザル此食道直達検査及ビ所置ニハ煩瑣ナル多少脈ハシキ直腸注入ヲモ敢テスルモノ少シ, 從來ノ「クロロフォルム—エーテル」混合麻醉ヲナシテ猶中途ノ覺醒ニハ口, 鼻前ニ卷綿子ニ浸シタル麻醉ヲ其時々ニ用ヒテ敢テ大ナル不都合ヲ見ズ, 然ラバ最近聲價ヲ得タル「エヴィパン—ナトリウム」Evipan-Natrium 靜脈内注射法ハ如何, 此麻醉法ハ利點トシテ經氣食道的ナラザル應用法ト, 短時間作用シテ覺醒後ノ不快症狀ナキコトヲ擧グベキモ屢々麻醉ニ入ルニ際シ舌, 下顎急ニ落下シ咽喉食道氣管ニハ

安ジテ管ヲ挿入シガタキハ大ナル缺點ナリ (卷末附録 435 頁參照)。

時トシテ細キ検査管ヲ用ユルニ拘ラズ食道入口部ニ裂ク如キ痛ヲ訴フルモノアリ, 此際表面ニ局所麻醉藥ヲ塗布シタルノミニテハ之ヲ抑消シガタキコトアリ, 之ハ重ニ患者ノ不安ニヨル緊張, 壓迫ヨリ來ルモノナルヲ以テ, ヨク論シテ單ニ局所麻醉ノミヲ利用スベキナリ。

○検査時ノ體位 Körperstellung bei der Oesophagoskopie

食道直達検査ニ於テハ粘, 唾液分泌殊ニ患醫兩方ヲ惱マスヲ以テ, 之ガ流下ヲ容易ナラシメ, 検査ヲ妨ゲザル爲ニ頭部ヲ其儘, 横臥水平位ナラシムルヲ便トス, 然レドモ若シ短時間ノ検査ニシテ検査管内ニモ「マンドリン」ヲ入レ誘導挿入ヲナシ得ル症例ニ於テハ大人ハ坐位ニ於テスルモ可ナリ, 坐位ハ實ニ挿入容易ニシテ患者ヲ前後左右ニ自由ニ動かシ得ルヲ以テナリ。

臥位トセバ側位, 背位, 腹位アリ, 其孰レヲトルベキカ, 右側位ヲトラシムルコトハ右手ヲ働カシムル檢者ニハ便ナリ, 而シテ被檢者ノ頭部ハ検査臺ノ外ニ來ラシメ自由ニ動かシ得ル如ク助手ヲシテ保持セシム, 猶膝ヲ少シク屈シテ輕ク毛布ヲ被ヒ, 帶ノ緊縛ヲ解キ,

筋ノ緊張ヲ減ジ安易ノ位置ヲトラシム。

其他器械器具ヲ手渡シ, 運轉スル助手ヲ檢者ノ右側ニ立タシム。

○検査管挿入法ト検査ノ順序 Rohreinführung und Gang der Oesophagoskopie

大別シテ

i. 管内ニ「マンドリン」ヲ入レ, 誘導子トシ, 甲状軟骨, 氣管初部ヲ觸診シツツ盲的ニ入ル法 (Palpatorische Einführung)

ii. 入口部ヲ直視シツツ挿入スル法 (Okulare Einführung) ノ二トナス。

i ニハ重ニ尖端錐體狀ノ屈撓性英「ブデー」ノ各種ノ太サヲ準備シ, 適當ノ太

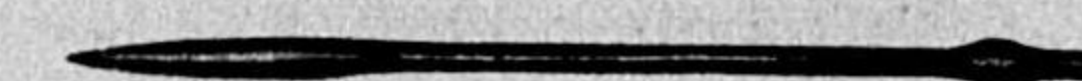
第三百八圖

觸診シツツ入ル食道鏡挿入法ニ導子トシテ英「ブデー」ヲ入レタルヲ示ス



第三百九圖

弾力性「ゴムブデー」Brünings



サノモノヲ管内ニ入レ, 其尖端 3—4cm ヲ管外ニ露出シ, 豫メ塗布麻醉ヲナセル咽喉, 食道入口部ニ持來リ, 他側手

ニテ輪狀軟骨後方ヲ觸診シ頭部ヲ後屈シツツ、徐々ニ管ヲ押し進ム、入口部ヲ過タル時ハ「マンドリン」ヲ抜テ管ヲ其位置ニ止メ續テ管内検査ヲナス、此方法ハ疾患ガ食道入口部以下ニアリテ盲的挿入ガ何等危険ナキコトヲ確實ニシタル場合ニノミ行フベシ、而シテ管外照明法ニヨル直達管ヲ用ユベシ。

ii ハ初ヨリ照明セル管内視野ヲ検査シツツ管ヲ進ムルモノニシテ、被検査者ノ頭部ハ助手ヲシテ柔シク追隨的(nachgiebig)ニ徐々ニ後屈セシムルモノナリ、診断ノ目的ニハ常ニ此方法ニヨル。

斯クシテ一度管端ガ食道入口部ヲ入レバ氣管支直達検査法ト異リ、其後ハ概シテ簡單ニ管ヲ延長シツツ検査シ得ベシ、即チ食道ハ約ボ直管ニ近キヲ以テ入口部モ過ギ第二狹窄部ヲ通過シ、體位ヨロシケレバ吸氣ニ食道腔ハ横隔膜狹窄部殆全長ニ互リ腔隙ヲナスヲ知り得ベシ。

大動脈ニヨル狹窄部ノ強搏動、横隔膜通過部ニ近ク食道ガ左偏シ管腔ハ少シク擴張スルコト、吸氣時ニ一般ニ食道腔ガ2—3cm擴張スルコト(食道憩室ト誤ルナカレ)、横隔膜裂孔ヲ通過後食道ハ腔隙ヲ見ズ、且ツ食道ト胃トノ境界ハ決シテ明確ニアラズシテ唯抵抗

ガ少シモ存セズ、粘膜ノ色ガ食道ト異リ(食道ノ粘膜色ハ頬粘膜ニ同ジ)稍紫赤調ヲ帶ルコトヲ氣付ク。

以上ノ検査ハ必シモ常ニ容易ナリトノミハ言ヒ難ク、此検査法ノ障礙ヲナスモノハ常ニ筋ノ異常亢奮即緊張ナルヲ以テ初ヨリヨク論シテ頭部屈曲性ヲ自由ニ呼吸ヲ安易ニシテ、出來得ルダケ嘔吐作用ヲ避クベシ、而シテ検査管ノ尖端ハ前方ノ氣管後壁ヲ壓迫シテ呼吸困難ヲ起スコトナキ様注意スベシ、又極メテ深キ處ニテハ望遠「レンズ」ノ必要モアリ、検査ヲ終ラバ常ニ内管ヲ引抜キツツ食道壁ヲ觀察セバ一層得ル所アルベシ。

○特殊食道用器具、器械

Oesophagoskopische Instrumente für besondere Zwecke

諸家ノ用ユル食道検査管ハ區々ナレドモ現今最汎ク用ヒラルルハ Brünings ノ考案ニナル**延長性直達管**(氣管篇第三百七圖參照 Verlängerbares Endoskop nach Brünings)ナルベシ、米國及ビ英佛ノ一部ニハ頻リニ Ch. Jackson 形ガ用ヒラル、前者ハ管外ニ光源ヲ置キ反射光ヲ用ユルニ反シ、後者ハ管ノ尖端内ニ之ヲ置キ、光源ノ汚暗ヲ防ガンガ爲ニ粘液吸引管ヲ主管ニ副行セシメ陰壓ヲ以テ絶エズ視野ヲ清

淨ナラシメタリ、光源所在ノ差ハ理論的ニハ一大問題ナルベキモ、要ハ使用ニ慣レテ多少ノ缺點ヲ除去シ、夫々症例ニ應ジ得ル如クスベシ。

余ハ一般検査ニ對シ Brünings 型ヲ、特殊ノ部位例之ニ對シ自家考案旋軸性管筥ヲ、小兒扁平異物ニ對シテ自己ノ鴨嘴形扁平異物用管(第三百十七圖)ヲ用ユ、而シテ特殊ノ大異物ニ對シテ用ユル Brünings ノ擴張性食道直達管ハ餘リ重要ナラザルヲ以テ用ヒズ。

又直達管ニシテ管ノ外端ニ硝子蓋ヲナシ管内ニ空氣ヲ送入シ食道腔ノ膨伸性ヲ見ル如キ方法ト装置アリ、之ハしゅとらうす式直腸鏡(Strauß'sches Romanoskop)考案ト同ジク時トシテ試ミタキ方法ナレド實用價値ニ乏シ。

診断用若クハ治療用特殊器械ハ

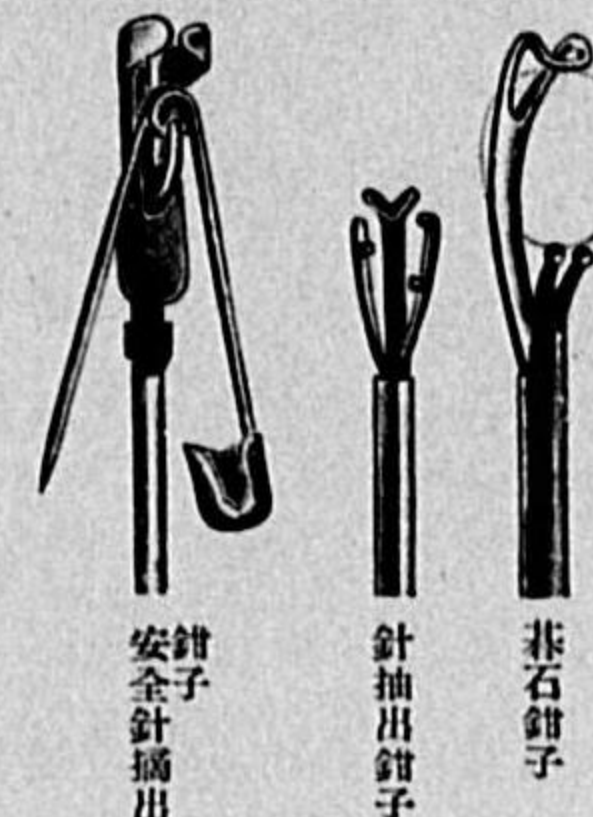
- a) 開放安全「ピン」用抽出器 (v. Eicken) ト 扉付切込直達管 (Trap-door-oesophagoscope—Ch. Jackson)
- b) 日本ニノミ特殊ノ久保(猪)式蕃

石鉗子

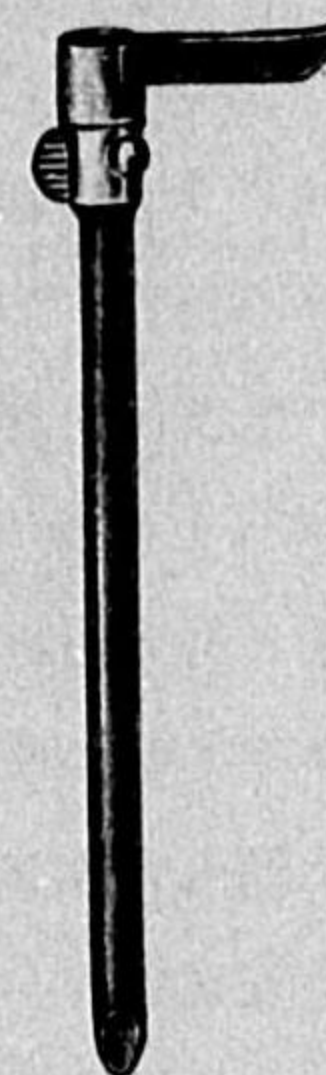
- c) 義齒「ゴム」板電動切斷器
- d) 針抽出器
- e) 食道擴張器 Brünings

第三百十一圖

特殊異物鉗子

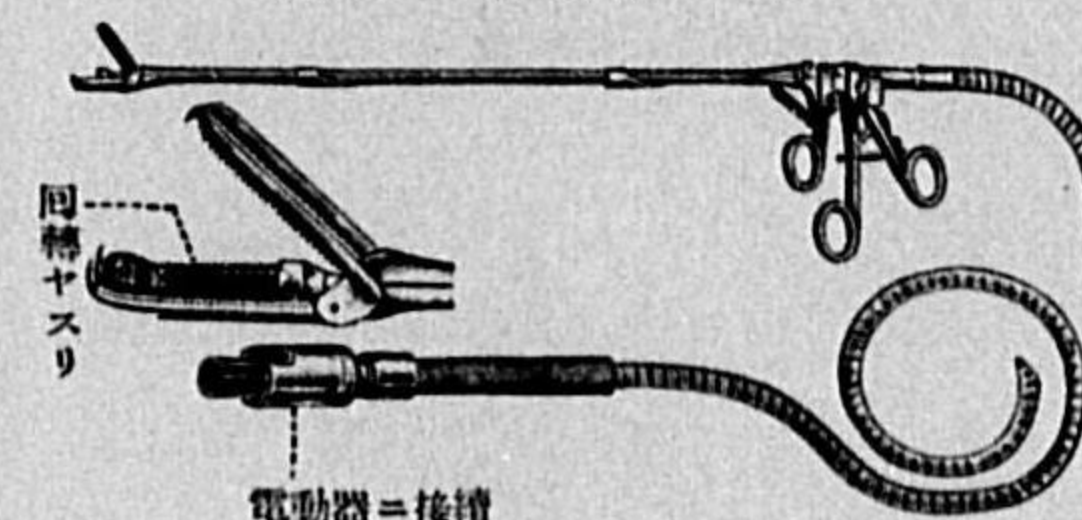


第三百十圖
自家考案旋軸性管筥



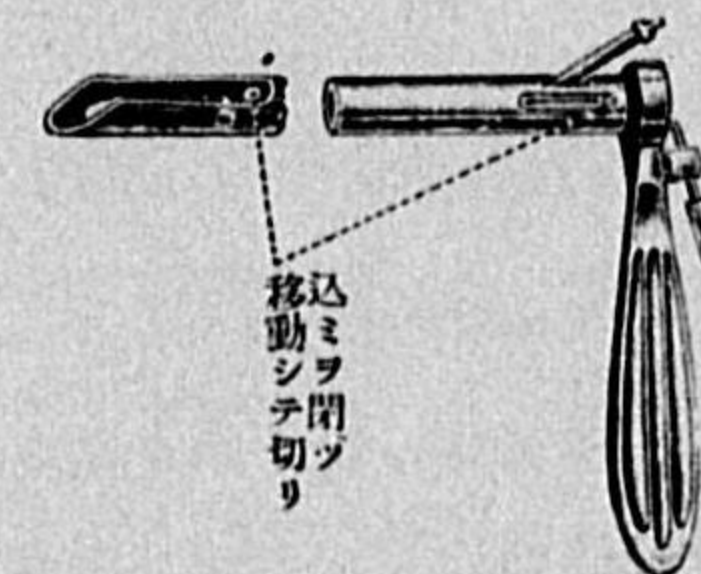
第三百十二圖

電動異物破碎器(Seifert) 義齒「ゴム」板切斷ニモ用ユ



第三百十三圖

開放安全「ピン」保護抽出管 Trap-door-oesophagoscope



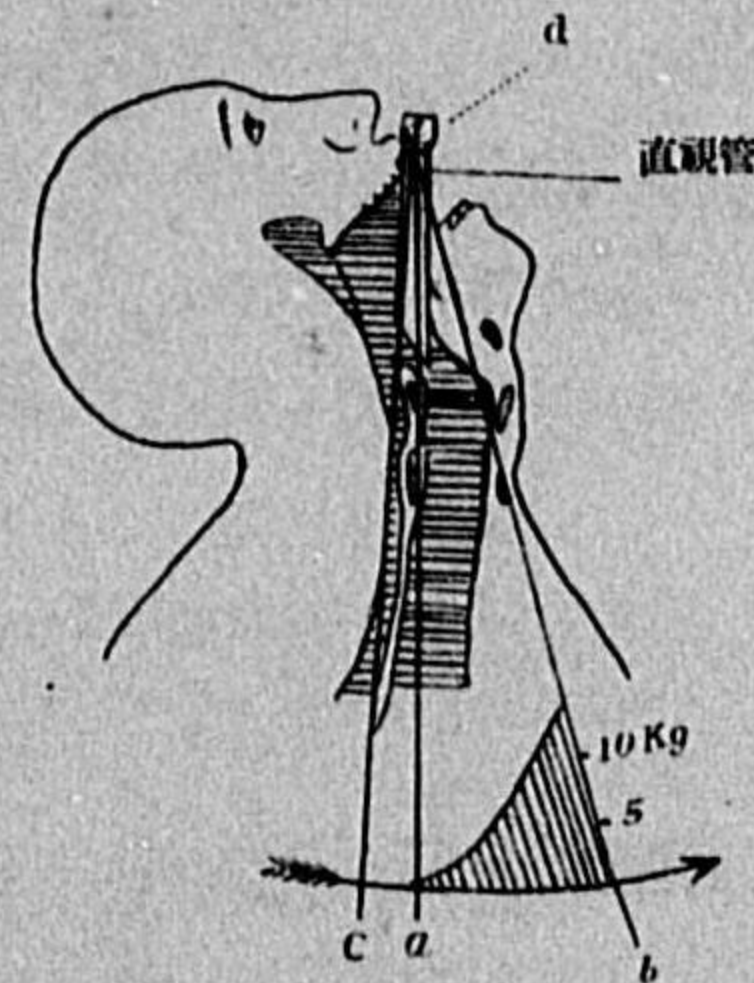
等種々アリ。

其他食道ノ瘻痕狭窄擴張器,「ラヂウム」挿入照射器等アリ。

○食道鏡直達検査法ノ可能性 (Oesophagoskopierbarkeit) ニ就テ

相當ノ準備ト順序トヲ以テスレバ多少不快, 苦痛トハアリテモ決シテ危険ニハアラス, 肥満シタル短頸, 腦溢血型體格ヲ有スル被檢者ニハ口唇ヨリ直線ノ食道入口部ニ達スルニ頭部ノ後屈不充分ナルガ故ニ甚シキ抵抗アリ, 總テ此方法ノ實行ノ難易ハ頭部ノ前後左右運動ノ自在性, 上切齒ノ發育 (突出齒列者ハ最困難ナリ), 下咽頭ノ反射亢進, 入口部ノ痙攣様收縮等ニヨリテ

第三百十四圖 直達検査法ノ難易ヲ示ス



Brünings = ヨル

定マル, 而シテ圖ニ見ル如ク食道鏡検査ハ他ノ氣管鏡検査法ニ比シ稍容易ナ

リ, Brünings ハ直達ノ食, 氣道検査ノ難易ヲ圖示シ, 其直視管端ニ作用スル壓力ニ依テ難易ヲ曲線ヲ以テ示セリ, ソレニヨレバ管先ヲ前方ニ近ツケル程, 抵抗力ハ増シ, 上切齒ハ固定セル爲ニ管ノ運動ハ益困難トナル, 即チ管ヲ食道軸直線 c—d ニ向テ挿入スルハ容易ニシテ, 氣管軸 a—d ニ沿テ入ルルハ一層舌根ヲ壓迫シテ困難ニナリ, 管軸ガ b—d 線方向ニ近クニ從ヒ圖ノ下部 (平行線ヲ以テ示ス曲線部) ニ見ル如ク抵抗即チ壓力ハ 5—10 kg ト次第ニ加ハリ困難ヲ増スコトヲ意味ス。

故ニ吾人ハ此検査ヲ少シニテモ容易ナラシメンガ爲ニハ管ヲ體ノ正中線ニ沿テ挿入スルヲ避ケ, 少シク頭ヲ曲ゲテ抵抗ノ弱キ口角ヨリ入ルルコトアリ, スルガ故ニ少シニテモ細キ検査管ハ挿入ヲ容易ナラシム。

食道鏡直達検査法ノ危險性ハ氣管, 氣管支鏡検査法ヨリモ明ニ多シ, 然レドモヨク適應症ヲ考慮シ, 現今ノ方法ヲ以テスレバ, 検査法其モノノ危險ハ甚稀ニシテ 90% 以上ハ検査可能ナリ。

B. 食道ノ「れ」線検査法

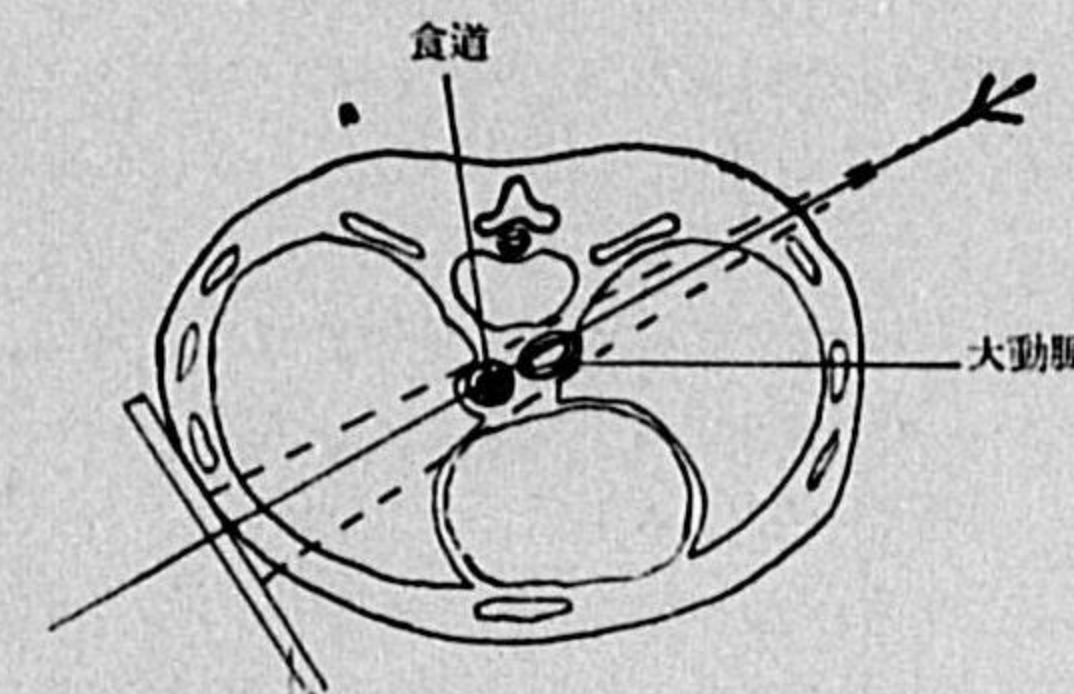
Röntgenuntersuchungsmethode der Speiseröhre

大部分胸腔内ニアル食道ハ直接外部

ヨリ検査ヲナシガタカリシガ, 食道鏡直達検査法ノ完成以來, 診斷上治療上有效ナル地少ヲ占ムルニ至リ, 「れ」線検査法ノ援助ト相俟テ次第ニ完全ニ近ヅキツツアリ。

脊柱ト心臟間ニアリ, 且ツ左後方ニハ更ニ大動脈アルヲ以テ矢狀斷方向ニ撮影スルハ大ナル不利アリ, 故ニ螢光板ヲ右前胸部ニ置キ, 左後側方ヨリ「れ」線東ヲ放射 (Dorsoventrale Durchleuchtung im ersten schrägen Durchmesser) スレバ可ナリ。

第三百十五圖 胸腔第一斜徑透視方向圖 VII 胸椎ノ高サ斷面ヲ示ス



螢光板

又螢光板ト管球トノ位置ヲ逆ニスルモ殆同様ノ好果ヲ得ベシ, 横隔膜下ニアル食道部ハ左肝葉下ニアリテ上記ノ方法ニテハ不能ナルヲ以テ Stürz ノ提唱ニ從ヒ沸騰酸 (Brause Mischung) ……酒石酸重碳酸曹達混合液) ヲ入レテ胃ヲ膨脹セシメ, 左肝葉ヲ壓排ス, 故

ニ右後方ヨリ左前方ニ向ヒ深呼吸ト共ニ放射スレバ, 造影劑ヲ有スル食道ノ横隔膜下部ハ稍明ニナルベシ。

之ガ検査ニハ造影劑ノ粥 (Wismuth 或ハ Barium) 屢用ヒラル, 以前ハ蒼鉛ノ丸劑若クハ膠囊 (カプセル) ニ入レタルモノヲ用ヒシガ, 時トシテ生理的食道狭窄部ニ引カカリ, 診斷ヲ誤ラシムルヲ以テ後ニハ稀釋ノ蒼鉛或ハ「バリウム」浮遊液 (Aufschwemmung) ヲ用ヒ通過ヲ佳良ナラシメタリ, 然ルニ食道ニハ現今澱粉, 「カカオ」或ハ「マルマレード」(柑皮ノ「ジャム」) ヲ以テ賦形シタル寧ロ少シク硬キ粥 (Steifer Brei) ヲ用ユ。

先ツ螢光板ヲ當テテ被檢者ノ左手ニ造影劑ヲ茶碗ヲ, 右手ニ茶匙ヲ持タシメ, 之ヲ一匙ヅツ嚥下シ降下シ行ク所ヲ檢ス, 之レ透視検査ニ甚便ナリ, スクシツツ被檢者ノ體軸ニ少シク回轉ヲ命ジ遂ニ眞横ヨリモ觀察ス。

之ヲ終ラバ寫眞撮影ヲナス, 此時更ニ造影劑ヲ嚥下セシメ, 未ダ胃ニ落下セザル間ヲ瞬間的ニ撮影スベシ, 此検査及ビ撮影ハ通例直立位ニテ行ハル, 造影劑ノ健康食道通過ハ實ニ早ク瞬間的ナレドモ横臥位ニテハ緩ナリ, 故ニ必要ニ應ジ任意ノ體位ヲトル, 然レドモ臥位ニテハ造影劑ガ生理的狭窄部ノ

痙攣的輪狀收縮部ニ近ク溜リテ食道ハ一見擴張シ病的狭窄ト誤ル事アリ、眞ニ食道狭窄アル時ハ横隊位ニテ造影剤ヲ用ユレバ狭窄ノ長サヲモ診断シ得。

「れ」線検査ニヨリテハ食道ノ小炎症竈ハ胃ニ於ケルト異リ、證明スルコト能ハズ、現在ノ吾人ノ知識ニテハ「れ」線ニヨリ膨脹或ハ狭窄ヲ知り得ル程度ニ止マル、但シ「れ」線活動寫眞(Röntgenkinematographie)ニ依リテハ生理的及ビ病理的知見ハ増加シツツアリ。

一般ニ食道検査ハ胃腸ノ「れ」線検査ニ比シテ容易ナリ。

第三百十六圖

下行大動脈ノ動脈瘤ニヨリ壓迫セラ
ル食道「れ」線寫眞圖



Stierin ニヨル

造影劑 Kontrastbrei

初メ次硝酸蒼鉛(1904)用ヒラレシガ中毒例ノ報告アリテヨリ炭酸蒼鉛(Bismutum carbonicum purissimum)ヲ用ユルニ至レリ(E.Mayer & Groedel, Schumm & Lorey) 併シ中毒ノ危険ハナキモ胃腸運動

ヲ障礙スル不利アリ、故ニ一回ニ 40 gr 以上ヲ用ユ可ラズ、其後英國ニテ用ヒシ酸化鹽素蒼鉛(Bismutum oxychloratum)ハ胃液ニヨリ分解スルコト少ク胃ニ對シテハ木炭ト異ラズトイフ。

其後 Kaestle & Krause 等ニヨリ始メラレタル硫酸バリウム(Barium sulfat)ハ廣ク應用セラレ(不純物ハ有害ナリ故ニ「メルク」社製ト指定スルカ、特ニ最近我國ニテ「れ」線用純良物トシテ販賣セルモノヲ用ユベシ), 80—100 gr. モ何等ノ害ナシ、硫酸「バリウム」ハ食道胃腸検査ニ對シ通例次ノ如キヲ用ユ。

浮遊液 (Suspension)

小麦粉 350—400 gr. ノ薄キ粥ヲツクリ、其中へ 80—100 gr. ノ硫酸「バリウム」ヲ入レ、ヨク攪拌シ均等調トナス、近來簡易ニ用ヒ得ル矯味性ノ「チトバリウム」(Citobarium Merck), 「レオンチウム」(Röntyum Kahlbaum), 「バラヂオール」(Baradiol-Bernhard Hadra), 「トロトラスト」(Trotrast), 「ウムブラトール」(Umb-ratol) 等市販ニアリ、是等ヲ夫々ノ稀釋法ニヨリ被檢者自ラ飲用シ得ル濃度トナス、糊狀「バリウム」(Bariumpasta)

「バリウム」ニ水ヲ注加シツツ攪拌シ、ネットリト「クリーム」ヲ泡立タセタル如クス、放置スレバ粘稠度ヲ失フガ故ニ長ク均等性ヲ保タシムルニハ流動「バラフィン」……11ト純硫酸「バリウム」……9トヲ容量比ニ混ジ、ヨク攪拌スレバ一ヶ月以上保存スルヲ得。

固形「バリウム」(Festes Bissen)

前記ノ糊狀「バリウム」ヲ「パン」ノ小片ニ塗布シ用ユ。

各 論 Spezieller Teil

1 食道ノ畸形 Mißbildung des Oesophagus

臨牀上ニ取扱フモノトシテ甚稀ニ

a) 先天性狭窄 (Stenosis congenita oesophagi) ガ入口部若クハ食道ノ下 $\frac{1}{3}$ ニ來ルコトアリ

b) 食道先天性不全隔膜 Diaphragma congenitum oesophagi 等ノ報告アリ、夫々臨機ノ所置ヲ行フベシ。

2 食道異物 Corpus alienum oesophagi

原因ト成立

硝子片、義齒、骨片ノ如キ可ナリ鋭キ異物ニシテ食道ヲ無事ニ通過スルコトアリ、之ヨリ遙ニ小ニシテ猶異物トナリ嵌入スルコトアリ、故ニ誤嚥ノ原因ト、食道ニ嵌入スル原因トハ別ナリ。

誤嚥 (Verschluckung) ハ小兒ニアリテハ屢口邊ニ弄スルモノガ舌根ニ至レバ既ニ反射的ニ嚥下運動ガ起リ下行スルコト多ク、大人ニテハ食物ト共ニ偶然ニ入り込ムコト多シ、故ニ大人ニテハ次ノ三機會ニ起ル。

a) 不充分ニ嚥ミタル食物ヲ狼狽シツツ不注意ニ嚥下スル時 (無齒ノ老人ニ多シ。)

b) ヨク適合セザル義齒ヲ睡眠中ニ誤嚥スルコト多シ、斯ル例ハ全異物例ノ 45% ヲ占ムト Killian ハイヘリ。

c) 職業上口ニ啣ヘル習慣ニ因ルコト少カラズ、我國ニテハ屋根板葺ニ釘ノ食道異物ヲ見ル事屢アリ、又無意識ノ中、例之全身麻醉、癲癇發作等ノ中ニモ起ル。

食道内嵌入ノ原因ハ次ノ如シ。

a) 異物其モノノ性質種類ニヨリ

b) 異物ト嚥下方向トノ空間的ノ不一致……例之板狀ノ異物ガ縁ヲ矢狀方向ニシテ下行スル時ノ如シ。

c) 食道其モノハ尋常ニテモ隣接部ガ變化ヲ蒙レル時

d) 食道痙攣ヲ有スル時

e) 以上ノ原因ノ混合セル時

而シテ年齢、性別ニハ無關係ナルベキモ、余等ノ 10 年間ノ統計ニテハ 1—5 歳ニ起ルコト最多シ (氣管ニモ同様)。

所在ハ食道入口部ヨリ第二狭窄迄ニ最多キコトハ (60—90%) 諸家ノ認ムル所ナリ、而シテ又異物ノ所在ハ必シモ初發シタル所トハ限ラズ、移動スルコトアリ。

症 狀 異物ノ嵌入及ビ其後落過シ

タル等=ヨリ症状モ種々ナリ、即チ異物ノ所在ト容積、異物ノ硬度ト表面ノ性質、嵌在スル時間等=ヨリ種々ナリ。

Gebser (1865) ハ徵候ヲ

- a) 一次的
 - i) 自覺的
 - ii) 他覺的
- b) 二次的
 - i) 自覺的
 - ii) 他覺的

ノ如ク分類セリ

一次的=ハ胸骨把柄ノ高サ=誤嚥ト同時=鈍或ハ銳刺痛ヲ感ズ、此痛ハ更=其儘持續スルコトアリ、又發作的=嚥下運動時ノミ=強クナルコトアリ、不安(少シ呼吸=障礙アル時、或ハ咯痰=血ヲ混ズル初期=然リ、其後ハ屢消退ス)、輪狀軟骨部小突出及ビ壓痛、釘針ノ如キハ第一狹窄部=於テ刺痛ヲ感ジ、食物通過時=特=強クナリ、痙攣的咳嗽或ハ嘔吐アリ、咽頭粘膜ノ分泌增加ス。

以上ノ症状ハ異物ガ既=通過シテ後モ存在スルコトアリ。

二次的の症状ハ甚複雑ナリ、即チ初ハ時々發作的=、且ツ飲食時=アリシ一種異様ノ疼痛持續的=ナルコトアリ、斯クナル時ハ多ク飲物ヲ拒否ス、頸部モ少シ腫レ、頭部ヲ患側ニ傾ケ緊張ヲ緩和セントシ、胸鎖乳様筋下=淋巴腺腫脹、惡寒戰慄、發熱ヲ來ス、即チ蜂窠織

炎症ガ起リシコトヲ意味ス、熱、疼痛、腫脹ハ Killian ノ三主徵候(Trias)=シテ三者平行シ、胸廓内化膿性炎=移行シツツアルヲ示ス、之ヲ手術の所置ノ適應症(Indikation)トナス、此中發熱最早ク次=疼痛來ル。

猶 Schlemmer ハ皮膚氣腫(Hautemphysem)ノ發來ヲ以上=附加シテ嵌在異物ノ危險症狀トナセリ。

二次的の症状トシテ聲門浮腫(Glottisoedem)或ハ反回神經麻痺來ル、而シテ重篤ナル印象ヲ與ヘ、熱高ク、不安、呼吸及ビ脈搏ノ頻數、口臭、渴ヲ訴フル=至レバ多クハ不幸ノ轉歸=終ル。

診斷 詳細=病歴ヲトルコト必要=シテ、異物ノ形狀、性質(色、硬度、表面ノ粗滑)等ハ特=診斷ノミナラズ、治療計畫上大ナル參考トナル。

一般内科の審査ノ後、次第=専門的=移ル、異物ノ種類=ヨリテハ外部ヨリ觸診スルハ危險ナルコトアリ、況ヤ盲的=胃洗管、鯨骨「ブヂー」等=テ内部ヲ觸診スル=於テヲヤ、總テ既述ノ直達の検査法(403頁)=從テ視診スルヲ要ス。

「れ」線診斷ハ造影的異物ナラバ勿論、然ラザルモノ=テモ特=造影劑ヲ用ヒテ検査スベシ、細小魚骨ノ如キハ

是等ノ方法=依リテモ不明=終ルコト多シ、全然「れ」線ノミ=依テ有無ヲ斷定スル可ラズ、茲=於テ食道鏡直達検査法ヲ用ユベシ、但シ以下示ス所ノ状態=於テハ特別ノ考慮ノ下=行ハルルハヨロシキモ診斷的ノ意味=用ユルハ禁忌ナリ。

i. 外頸部迄蜂窠織炎ヲ來シ、食道周圍=痛ヲ感ジ、壓迫=ヨリ増強スルモノ、殊=輪狀軟骨部、胸骨上窩、甲状腺下葉等=著シク、軟部=浮腫ヲモ併存スルモノ

ii. 嚥下作用ガ甚シク障礙セラレタル時

iii. 持續的高熱或ハ收血症の高熱

iv. 重篤ナル状態ヲ示ス時

v. 頸、上胸部、顔面=氣腫ヲ見ル時

vi. 既=度々「ブヂー」ヲ入レ或ハ盲的抽出法ヲ試ミ、之=依テ食道損傷ノ疑アルモノ

而シテ斯ル状態=ハ「れ」線検査ノミ=依テ診斷スル他ナシ。

又初ヨリ診斷不可能ナラバ食道ノ直達的検査ヲナシ得ル専門家=送ルベシ、無益=遷延スル診斷ハ遂=死=致ス危險アリ。

扁平ナル異物=シテ長ク淹留シクルモノハ附近粘膜ガ浮腫狀トナリ、検査管ハ異物ノ上ヲ迂リテ異物ヲ看過スル

コトアリ、故= Brünings 管ノ如キハ把柄ノ方向ヲ變ジテ疑シキ處ヲ再三進退セシムベシ、小兒ノ扁平異物=アリテハ余ノ考案=ナル鴨嘴狀直達管(第三百十七圖)ハ異物縁ガ管端ノ切痕=陥入シ看過スル憂少シ。

療法 進歩セル直達検査法ノ行ハレザル以前ハ鈎貨子(Münzsfänaer)海綿頭異物除去子(Schwammkopfextraktor)、釣骨子(Fischgrätchenfänger nach Fergusson)等=ヨリ時

第三百十七圖

自家考案扁平食道異物用直達管



第三百十八圖

食道異物(義齒)55歳男

II 狹窄部=嵌在

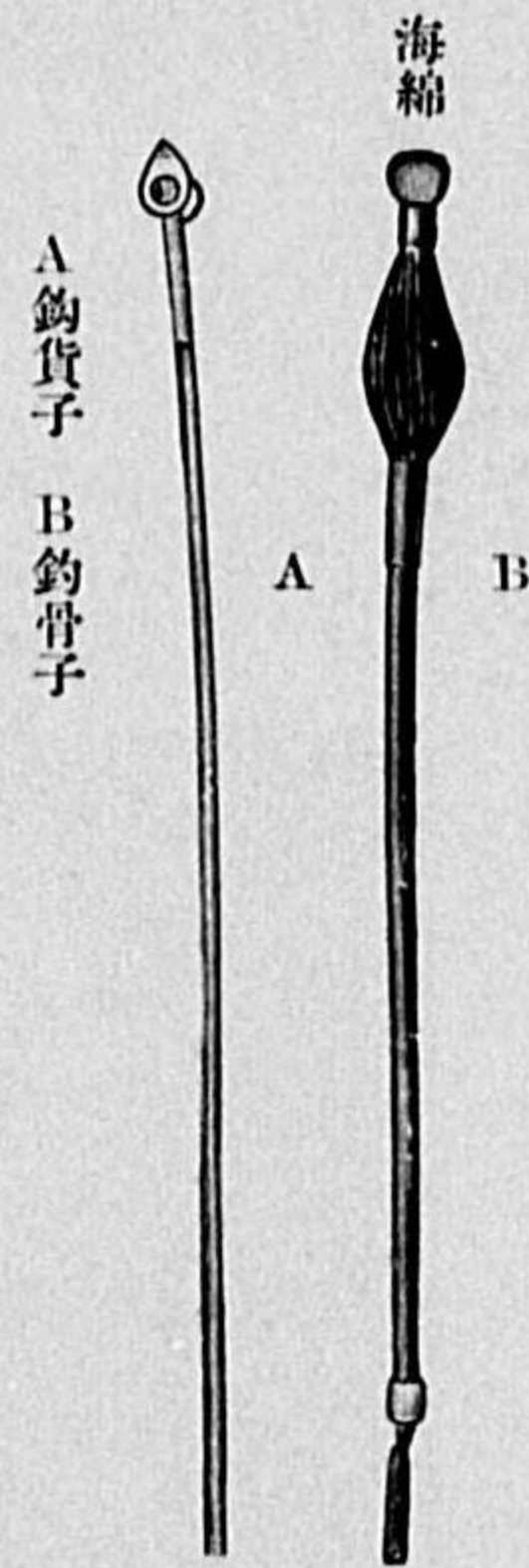


第三百十九圖
男，食道異物（一錢銅貨）



ニ成功シクルコトアリ苦痛ノ輕クシテ
小害ニ止ルコト多キ銅貨ノ如キ異物ニハ現在モ鈎貨子ハ役立つコトアリト雖屢損傷ノ危険アリ、表面滑澤ナル或ハ小ナル異物ハ障礙ナク總テ胃ニ落下ス、故ニ通例大ナル不規則形或ハ尖銳或ハ鏡縁ノ異物ノミガ吾人ノ手ニ來ルモノナレバ、之ヲ盲的ニ處置スルノ危険ハ容易ニ想像

第三百二十圖



シ得ベシ、殊ニ有鈎義齒ト魚骨ハ危険ナリ。

最屢來ル部位ハ第一食道狹窄部即チ輪狀軟骨後板下部ナリ、抽出ノ難易ハ種々ニシテ困難ナルハ

a) 大ナル棘々シキモノガ食道壁ニ喰ヒ込メルモノ

b) 粘膜ガ炎性ニ高度ニ變化セルモノ等ナリ、屢上記ノ二條件ハ共存シ吾人ヲ苦シム。

有鈎義齒ハ先ヅ周圍ニ喰ヒ込ミヲ解キ、鈎部ニ向ヘル粘膜ヲ保護シツツ抽出ス、此際筋ガ痙攣的ニ收縮スル時ハ全身麻醉ヲ要スルコトアリ、或ハ擴張ヲ試ミ或ハ義齒破碎器ヲ用ユルコトモアリ。

小魚骨ハ粘膜内ニ刺入セル時、發見ト抽出ニ苦ムモノナリ、少シク大ナル鯛類ノ骨ハ剛ク鋭クシテ粘膜ヲ穿通シ、ソコニ化膿ヲ起シ、或ハ大動脈ヲ破リテ失血 (Verblutung) ノ因ヲナシ、或ハ縱隔洞膿瘍ヲナスコト稀ナラズ、其他ノ異物ハ概シテ診斷シ易ク、且ツ抽出シ易キヲ以テ之ヲ述ルノ要ナカルベシ。

統計ニモ示ス如ク、氣、食道ノ異物ハ我國ニ於テハ 1—5 歳間ニ多ク、食道異物トシテハ銀銅貨最多シ、之ガ診斷ハ「れ」線上容易ニシテ抽出ハ上來

屢述ベタル扁平異物用直達管ヲ用ユレバ、周圍ニ懸念スルコトナク一舉ニシテ目的ヲ達シ得ベシ。

斯クシテ吾人ハ、食道異物ハ自然ノ途ヲ逆ニ抽出シ得レドモ、有鈎義齒ノ大ナルモノハ如何ニシテモ粘膜内ニ引カカリテ除去シガタキコトアリ、殊ニ義齒破碎若クハ切斷器ノ設備ナキモノニ於テ然リ。

◎頸部食道外切開法 Oesophagotomia externa im Halsteil

適應症ハ嵌入不動ノ食道異物ガ唯一ノモノナリ、現今他ノ狹窄若クハ癩痕性食道ニ對シ、或ハ食道憩室 (Oesophagusdivertikel) ニ對シテハ此手術ヲ行フコト甚稀ナリ。

頸部食道ノ左側露出ハ既記ノ下咽頭憩室手術ニ於ケル Goldmann 法ト殆同ジ (310 頁參照)、左側食道ハ氣管ヨリモ少シク左ニ偏シアレバナリ、局所麻醉法ノ下ニ行フ。

上半身ヲ少シク高クシ頤部ハ右方ニ少シク回轉セシメ手術野ヲ廣クス、而シテ乳様突起尖端ノ下ヨリ胸骨迄皮膚切開ヲ行ヒ潤頸筋 (Platysma) モ分離シ胸鎖乳様筋ヲ側方ニ引張り、胸骨甲狀筋ノ側縁ニ沿テ筋膜ヲ離斷シ、血管鞘ヲ開ク、此時血管鞘ト癒合セル甲狀腺ノ外被囊 (Capsula externa) ヲ分

割ス、此切線ト交叉スル肩胛舌骨筋 (M. omohyoideus) ハ視野ノ都合上切斷ス、茲ニ於テ頸部ノ血管神經大束ヲ外方ニ、甲狀腺ヲ内方ニ引寄せ手術ニ便ナル如クス (第三百二十一圖參照)。

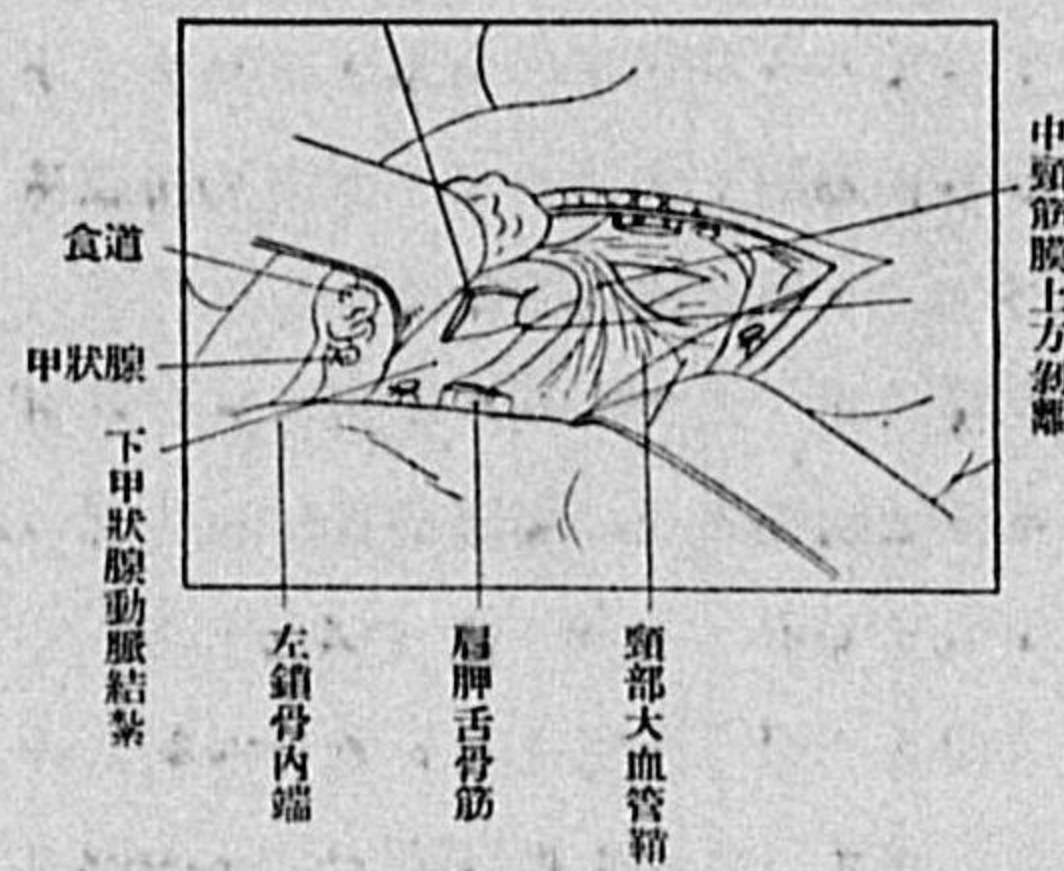
茲ニ於テ創面ノ中部ニ下甲狀腺動脈ガ横走スルヲ見ル、之ヲ結紮シテ切斷ス此附近ハ交感神經ノ損傷ヲ避ル必要モアリテ血管結紮ハ注意シテ壁ヲヨク露出シ、且ツ甲狀腺ヨリナルベク隔リタル所ニテ行ヒ反回神經及ビ上皮小體 (Epithelkörperchen) ヲ損セザル如ク切斷スベシ。

反回神經ハ圖ニ見ル如ク氣管ト食道ト相接スル細溝中ヲ上方ニ走レリ、下甲狀腺動脈ト交叉セリ、損傷ニ注意スベシ、下甲狀腺動脈結紮後ハ甲狀腺ト血管神經大束ヲ兩側ニ離開スレバ正面ニ脊柱前筋膜及ビ頸部長筋 (M. longissimus colli) ニ被ハレタル脊柱上ニ氣管トノ間ニ赤褐色索トモ見ユル食道壁ヲ現ス、是ヨリ先胃管「カテーテル」等ヲ食道ニ入レ置クカ或ハ嚥下セシムレバ觸診或ハ壁ノ動搖ニテ直ニ食道ナルコトヲ認メ得、但シ胃管「カテーテル」ハ嵌入異物アル時ハ特ニ使用ヲ注意スベシ、又嵌入セル異物其モノガ既ニ目標トナレルヲ以テ食道ノ發見ハ然迄困難ニアラズ、既ニ食道周圍膿瘍ヲ

ツクレルモノハ組織變化アルヲ以テ、其部ヨリモ少シク上方ニテ炎症ニ胃サレザル部分ヨリ切開シテ内部ニ入ルベシ。

其食道壁ノ切開法ハビルロート(Billroth)ニ從ヒ、側方ニテ反回神經ニ遠ク、縦切セントスル假定線ノ兩側ニ相對シテ筋層ノミヲ通シ(内部粘膜層ニ達セザル)一ヶ所ニ縫ヲ通シ、之ヲ兩方ニ分テ輕ク牽引シ其間ニテ筋層、粘膜層共ニ切割シ、内部ニ達スルコト圖ノ如クス、然ル時ハ壁切開創ハ

第三百二十一圖
頸部食道外切開圖



縦ニ菱形ヲツクリテ開放セラル、此切開創ノ大サハ異物嵌入ヲ解テ引出ス時ニ裂傷ヲ起サザル如ク大ニスベシ、然レドモ之ヲ餘リ大ニスルコトハ後療法ニ障礙ヲナスヲ以テ寧ロ異物ヲ内部ニテ分割切斷シテ引出スヲ可トス。

食道周囲ニ化膿ナキ場合ニ異物ヲ抽

出シタル後ハ此切開創ヲ**三層縫合**〔第一ニ粘膜上皮面ヲ内側ニ翻轉シテ上下ニ糸ヲ通シ縫合ス、次ニ筋層ヲ、次ニ周圍組織ヲ縫合ス、腸線必シモ必要ニアラス、又**連續縫合**(fortlaufende Naht)ヲ要セズ〕スベシ、其上ニ沃度「フォルムガーゼ」ヲ「タンボン」トシ、外創ハ中央部ヲ開放シ置ベシ、縫合ハ念入りニ行ヒテモ癒化膿シ易ク第一期癒合ヲ營ムコト少シ、若シ初ヨリ異物ニヨル食道壁ノ穿孔セルモノ若クハ損傷セルモノニ縫合スルハ却テ不利ナルコト多シ、食道壁ノ壞疽アル時ハSoerensenハ太キ「ゴム」管ヲ此部分ヨリ上方ニ向テ挿入シ、唾液及ビ分泌物ハ總テ此ゴム管ヲ通ジテ頸創ノ繃帶ニ滲透セシメ誘導ストイフ、斯クシテ周圍ニ沃度「フォルムガーゼ」ヲ入レ、創ノ縮小固定ヲ待テ整形的處置ヲナス、此間流動的食物ハ自然道ヨリ或ハ切開創ヨリ軟キ胃管「カテーテル」ヲ以テ注入ス、又食道全部ヲ縫合シタルモノニモ軟キ胃管「カテーテル」ニヨリ營養ス、**胃瘻造設**(Gastrostomie)ハ既ニ二次的ニ頸部蜂窠織炎ノ存スル時ノミニ必要ニシテ其他ニハ必要ナシ。

3 食道纖維腫
Fibroma oesophagi

食道ノ良性腫瘍中最多ク來ル、初ハ豌豆大ノ限局シタル粘膜隆起ノ軟キヲ示スト雖、食道腫瘍ノ通性トシテ少シク發育スレバ皆莖ヲ有スルニ至ル、甚シキハ貴門迄モ延長シ或ハ増大スルモノアリ、故ニ「**ポリープ**」ノ稱アリ、斯ノ如キハ常ニ食物其他ノ刺戟ニ會シテ**上皮ノ缺損部**ヲ見ル。

此腫瘍ノ原發地ハ食道周圍ノ結締組織、脊柱前筋膜、脊柱ノ骨膜、輪狀軟骨後板ノ軟骨膜等ナリ。

症 狀 小ナルハ何等自覺ナシ、可ナリ大ナルモノモ苦惱ハ**食物通過ガ緩**ナル位ニテ僅微ナリ、之レ食道壁ノ擴張ニヨル爲ナラン、又此反對ニ**拇指頭**大ノ小ナル良性腫瘍モ食道入口部ニアル時ハ強キ**嚥下障礙**ヲ來シ、營養妨ゲラルルモノアリ(久保猪之吉)、一般ニイフ時ハ**有莖良性腫瘍**ノ方ガ無莖ナルモノヨリモ症狀ハ大ナルガ如シ。

飲食時以外ニモ**異物感**、**壓迫感**ヲ起シ、嘔吐シタキ氣持ニ惱マサル、背部**鈍重感**アリ、長キ有莖腫瘍ハ嘔吐ノ時ニ腫瘍ヲ**口中ニ露現**スルコトアリ、餘リ甚シク大ナル而モ年齢ノ若キモノニアリテハ氣管ガ壓迫ヲ蒙リ**呼吸障礙**ヲモ來ス。

診 斷 單ニ外部ヨリスル視、觸診ノ如キハ確實ニアラス、嘔吐作用ニヨ

リ口中ニ現ハルル如キハ容易ナレド、然ラザルモノハ確診困難ナリ、消息子法モ此際信賴シガタシ「**れ**」線診斷殊ニ造影劑ヲ以テスレバ大ナルモノハ確實ナリ。

直達的食道鏡検査法ニ優ルモノナシ、精細ニ病歴ヲ糾シテ喉頭ノ間接検査ノ後、先ヅ下咽頭検査ヲ行フベシ、良性腫瘍ノ原發地ハ食道入口部ニアルコト多キヲ以テ既ニ腫瘍少シク大ナラバ下咽頭検査ヲ以テ診斷シ得ベシ、更ニ下方ニ發スルモノニハ検査ヲ進ムベシ、斯クシテ多クハ容易ナレドモ、小ニシテ表面糜爛セルモノハ時ニ惡性腫瘍ト誤ルコトアリ、有莖ナルコトハ多ク良性腫瘍ト考ヘテ可ナリ、勿論試験的切片ヲツクラバ完全ナリ。

療 法 口内ニ吐出シ得ルモノハ鉗或ハ寒蹄係ヲ以テ離斷シ得ベシ、殊ニ上部ニ原發スル時ハ之モ容易ナリ。

出血ヲ憂ヒテ電氣燒灼的ニ離斷スルコトヲ勸ム、勿論所在ガ少シク深部ニアラバ食道鏡ノ補助ノ下ニス、呼吸困難ヲ起ス程ノモノハ氣管切開ヲ要スルコトアリ、又下咽頭ニアルモノニ對シ舌骨下咽頭切開ノ必要ナルコトモアリ、臨機ノ方法ヲトルベシ。

良性腫瘍ト雖再發多シ。

4 食道癌

Carcinoma oesophagi

悪性腫瘍ノ食道ニ來ルモノハ殆痛ノミトイヒテ可ナリ。

誘因 眞ノ原因ハ他ノ局所ニ於ルト同ジク未知ナリト雖、素因トシテハ年齢、性ハ關係アリ、結核性潰瘍ノ素地ニ病ノ生ズルコトアリ、強キ「アルコール」飲料、熱性食ノ嗜好ハ屢關係アリ。

症状 嚥下障礙(Deglutitionsstörung)即チ固形食ノ通過障礙(其位置ハ患者ノ供述ニ一致セザルコト多シ、之レ Rosenheim モイフ如ク反射的ニ痙攣ヲ起スヲ以テ誤テ自覺スルモノナリ)ハ次第ニ固定的ニ習慣的トナル、液體ト共ニ嚥下シテモ不能トナル、疼痛ハ強カラズ、背部ニ於テ狭窄ノ高サニ鈍痛トシテ感ズ、此鈍痛ハ飲食ニ無關係ニシテ多クハ嚥下困難ヲ起シテ後ニ來ル症状ナリ。

粘液分泌増加シ遂ニ膿性トナル、遂ニ食物ヲ逆吐シ(病竈ノ高サニヨリ、食直後ニ或ハ短時間ノ後)遂ニ液體ノ外、少シモ通セズ。飢渴感強ク皮膚排汗著シク減ズ、故ニ羸瘦極度ニ達シ悲惨ノ狀ヲ呈ス、口臭ハ患部壞疽ヲナスニ至テ甚シ、時トシテ壞疽進行シテ脱落シ、食物ノ通過ヲ恢復スルコトアリト雖、

一般狀態ノ改善ハ然迄期待シガタシ。

次第ニ癌ハ周圍組織ニ向ヒ侵蝕シ二次的ニ反回神經ヲ冒シテ聲唇麻痺ヲ起シ、稀ニハ交感神經背根部ヲ冒シテ瞳孔散大、陰裂ノ縮小、無汗症ヲ起シ、又氣道ニ破レテ咳嗽發作、呼吸困難等ヲ、大動脈ニ破レテ吐血死ヲ起スコトアリ、癌ガ上部ニアレバ鎖骨上窩ノ淋巴腺轉移アリ。

診断 既往歴ヲ調査シ、上記ノ症状ヲ見レバ殆確定的ニ決シ得ベシ、此處ニモ消息法ハ廢シ「レ」線寫眞及ビ直達ノ食道鏡検査ニヨリ、更ニ病ノ組織片ヲトリテ病理的検査ヲナサバ確實ナリ。

嚥下障礙ヲ訴ヘテ來ル時期ハ既ニ可ナリ遅キヲ以テ診断ハ容易ナルコト多シ、而シテ單ニ癌トイフト雖、初期ノ比較的滑澤ナル浸潤ヨリ少シク進デ表面乳嘴腫様ナルモノ、或ハ硬感アリ癩痕狀浸潤ニ見ユルモノ、肉芽腫狀ニ見ユルモノ等種々アリ。

豫後 不良

療法 現今ト雖、食道切除、剔出ノ如キハ猶難中ノ難トスベシ、故ニ非觀血法ニヨルノミナリ。

藥物、放射線、擴張法及ビ持續的管挿置法等アレド是等ハ癌組織ヲ艾除スル效力ニ乏シク、唯食道ノ閉通ヲ圖リ

飢餓ニ陥ル事ナカラシムルノミ、食餌ニ注意スルコトハ療法上重大ナルヲ以テ刺戟ノ最少キ状態ニシタル食物ヲ取ラシム、滋養洗腸法ハ併用スレバ可ナリ、食道ニ嚥下作用ヲ容易ナラシムル爲ニ局所麻醉藥ノ注入ヲナス人アリ、余ハ唯疼痛ノ甚シキ時ノミニ用ユ。

食道粘膜ハ狭窄部以上ニ粘液、食物片ノ滯留ニヨリ炎症ヲ起スヲ以テ、患者堪ヘ得ルナラバ弱「アルカリ」性微温水(例之、重曹水、淡水、弱「リゾール」液)ヲ以テ洗滌スルコトモ良法ナリ、又潰瘍ヲ處置スル爲ニ3%硝酸銀ヲ塗布若クハ注入ス、之ハふおん はっける(v. Hacker)ノイフ如ク消毒的ト鎮痛的ノ「フォルマミント錠、メントール錠」(Formaminttablette, Menthol-tablette)ノ如キ咬劑ト同效ナリ。

食道腔内ニ突出シタル腫瘍ノ一部ヲ燒灼除去スレバ一時的ナレド閉通ヲ佳良ナラシムルコトアリ。

錐狀或ハ圓柱狀「ブヂー」ヲ視診ノ下ニ挿入シ或ハ腫瘍ニヨル狭窄部ヲ「ラミナリア」桿(Laminariastift)ヲ以テ擴張スル法モアリ、然レドモ刺戟トナリテ癌ハ却テ發育スルノミナラズ、桿ノ膨脹ガ如何ナル程度迄至ルカハ不明ナル危險アリ、勿論氣管ニ穿孔シタルモノニハ胃瘻ヲ設ケテ其處ヨリ營養ス

ベシ、頻繁ニ挿管スルコトハ衰弱セル患者ニハ苦痛ナルヲ以テギゼーノ挿管法(Intubationsbehandlung nach Guisez)ヲナス、之ハ硬「ゴム」性ヲ可トシ、絹絲ヲ以テ口邊ニ固定ス、此挿入法モ初メハ直達ノ食道検査法ニヨルベシ、此持續的挿入管モ數日ヨリ一ヶ月ノ後ニ取出シ、清潔ニス、勿論此方法モ種々ノ不快ナル二次的ニ起ル症状ヲ呈スルコトアリ、故ニ療法トシテノ價値ニ乏シ。

放射線療法 Strahlentherapie

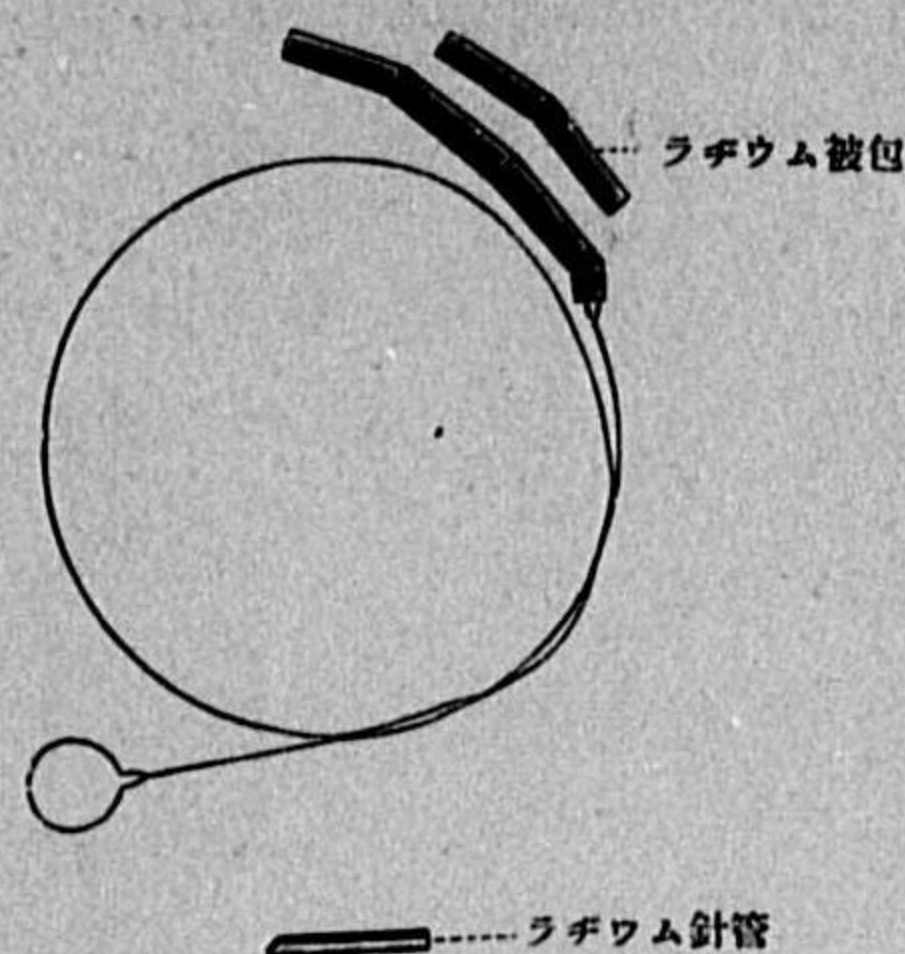
現今最良ノ療法ナルベシ、而シテ「ラヂウム」最ヨク用ヒラル、蓋シ患部ニ直接應用シ得ルヲ以テナリ、而シテ之ニヨリ食物ノ通過佳良トナリ、鈍痛去リ自覺著シク改善ス、然レドモ悲哉、其持續的效果ニ至テハ未ダ確實ニ決定シガタシ、「ラヂウム」應用法ニモ食道直達的ニ入テ挿置スルモノト、くるとつゝ一ん式無端環挿置法(Gastrostomie und nachfolgende Radiumbehand-

第三百二十二圖
腫瘍部ニ Guisez 式挿管ヲナシタル圖

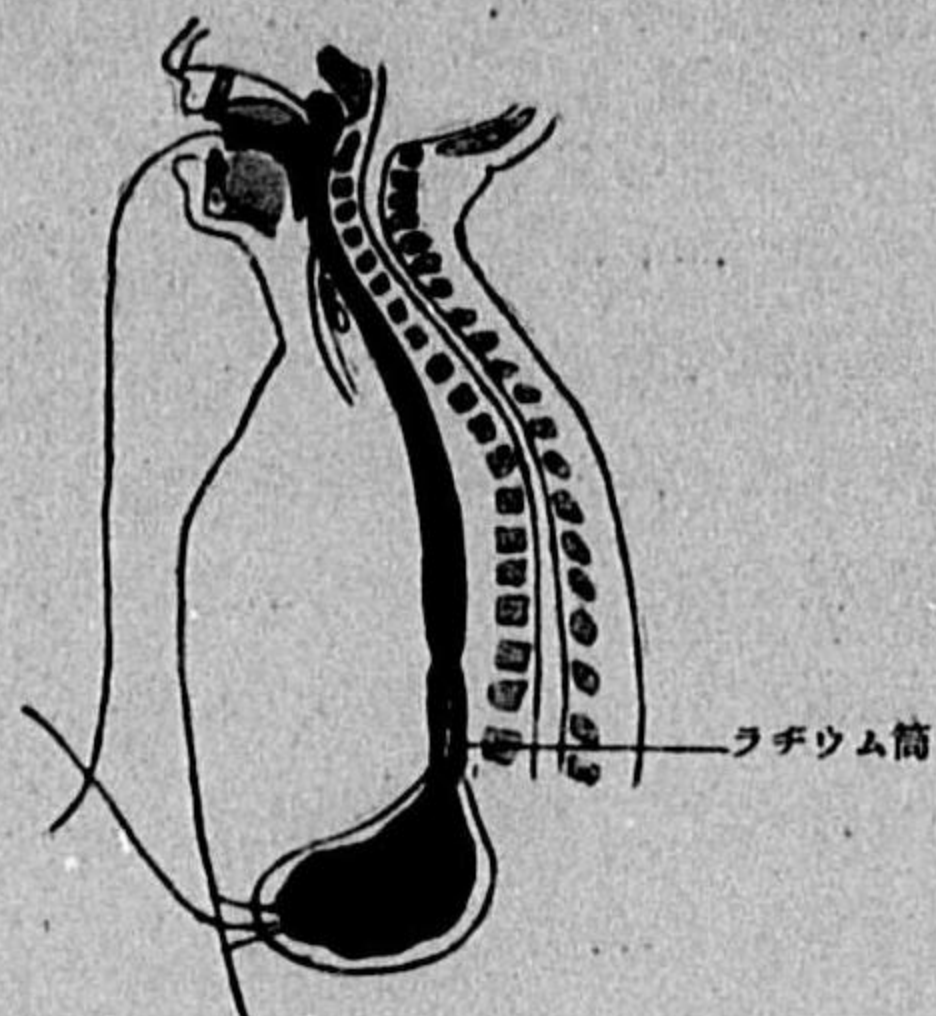


Haßlinger ニヨル

第三百二十三圖
食道癌用「ラヂウム」照射器



第三百二十四圖
Kurtzahn 式無端「ラヂウム」挿置法断面



lung mit Sondierung ohne Ende, Kurtzahn) = ヨリ嚥下シタル一線端ヲ胃瘻 (Magenfistel) ヨリ引出シ, 其他端 = 附屬スル「ラヂウム」管ヲ疾患部ニ應用スルモノトアリ, 此際ノ「ラヂウム」管ハ二個ノ眞鍮鞘ヨリ成リ, 同時ニ濾過器トモナルモノナリ, 一回ニ6 時間挿置ス, 放射ハ初メ三週間持續シ, 後 4—7 日隔テテ反復ス。

つゝるに— (Czerny) ハ「トリウム」(Thorium) ノ静脈内或ハ腫瘍内注射ヲナシテ上記「ラヂウム」療法ヲ補助セリ, 文献ニ見ルモ食道癌ノ「れ」線治療ハ難中ノ難ニシテ上來屢述タルしやう—ノ近接放射療法 (Nahbestrahlung nach Chaoul) = 於テスラ, 手術の患部露出ノ困難ト共ニ良效アリシヲ見

ズ, 又「ラヂウム」及ビ「れ」線深部治療ノ併用法ニ於テモ同様ナリ。

5 食道肉腫 Sarcoma oesophagi

此處ニ原發スルモノハ甚稀ニシテ癌ト異リ若キ者ニモ老年者ニモ來ル, 重ニ食道ノ下 $\frac{1}{3}$ = アリ, 男性ヲ胃スコト多シ, 有莖ナルコトアリ, 瀰蔓性ナルコトアリ, 一樣ニアラズ, 組織上ニモ圓形細胞肉腫, 紡錘形細胞肉腫, 混合腫等ノ別アリ。

症 狀 嚥下困難 (Dysphagie) ハ少シク腫瘍が大ニナレバ必發ス, 羸瘦 (Kachexie) ハ比較的早く現ハル, 轉移ガ遠隔セル骨部ニ來ルコトアリ。

診 斷 療法 共ニ前述ノ癌腫ニ殆同ジ。

6 癒痕性食道狭窄 Stenosis cicatricialis oesophagi

上記ノ腫瘍ニヨル狭窄ノ外, 周圍器官ノ病的壓迫ニヨルモノ及ビ食道自身ノ癒痕ニヨルモノアリ, 茲ニハ後者ヲ述ブ, 頻度ハ食道癌ノ次ニ位シ, 屢實地家ヲ憫マスモノナリ。

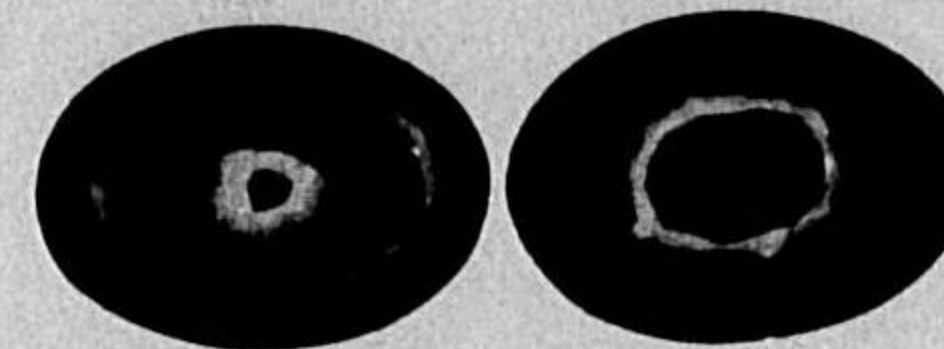
成立ト原因

食道腐蝕後ニ來ルモノ通例ナリ, 苛性「ソーダ」「カリ」ハ原因トシテ最多ク強酸類及ビ「リゾール」類ノ嚥下ニヨル, 朝鮮ニ於テハ白衣漂白用トシテ至ル所, 家庭ニ苛性「ソーダ」ヲ有スルガ故ニ, 大小人トモ誤テ或ハ故意ニ之ヲ服用スル結果ニ起ルモノ多シ, 癒痕ハ用ヒシ腐蝕劑ノ濃度, 作用時間, 用法等ニヨル (各論 431 頁腐蝕性及中毒性食道炎參照) 其他熱傷モ原因トナル, 又稀ニハ猩紅熱, 「チフテリア」「チフス」慢性傳染疾患後ニ來ルモノアリ。

病理解剖學

濃厚苛性「ソーダ」類ヲ用ヒテ中毒シタルモノノ $\frac{1}{3}$ ハ死ス, 他ノ $\frac{2}{3}$ ハ病變ガ粘膜及ビ粘膜下ノミニ起リシモノニハ皮膚様變化ヲ來シ, 全食道組織ヲ深く胃セルモノニハ胼胝狀ノ狭窄ヲ呈ス, 此變化モ一ヶ所或ハ數ヶ所ニ散在スルコトアリ, 而シテ其來ル所ハ生理的狭窄ニシテ食道入口部ニ最多シ。

第三百二十五圖
食道ノ癒痕性狭窄



單狭窄 重複狭窄
HaBlinger = ヨル

長ク存在スル狭窄ノ結果, 食道壁ニ二次的變化ガ來ル, 即輪狀筋 (Ring-muskel) ノ肥厚, 食道腔ノ擴張 (甚シケレバ機能不全), ソコニ潰瘍ヲツクルコトモアリ。

症 狀 通例吾人醫家ノ手ニ來ルハ比較的輕症例ニシテ疼痛其他急性症ハ數日ニシテ消滅シ, 食道ノ通過再ビ次第ニ可能トナリ, 粥若クハソレヨリモ固キ食物ヲトリ得, 他ニ苦惱ヲ見ザルニ至ルベシ, 然ルニ間モナク再ビ食物通過ノ困難ヲ來ス, 而シテヨク咀嚼シタルモノモ通セズ, 僅ニ液體ノミヲ攝取シ得ルノミトナル, 腐蝕ノ高度ナルハ全閉ス。

狭窄部位……ハ嚥下ト逆吐ノ時間ニヨリテ判斷スルヲ得, 第一狭窄部ニ癒痕狭窄ヲ來セルモノニテハ食物攝取ト共ニ嘔吐ス。

口内分泌亢進……粘稠ナリ, 時ニ耳下腺ガ腫大スルコトアリ, 狭窄強キ時ハ「れ」線造影劑モ胃ニ達セズ, 消息不

ムルコトハ無効ニシテ危険アリト信ズ、而シテ初ハ毎日「ブヂー」ヲ入レ後少シク通ズルニ至テ間隔ヲ長クス。

器械的擴張法ヲ補助スル爲ニふんはっける (v. Hacker) ハ熱ヲ應用シ、瘰癧ノ充血療法ヲ試ミタリ、ソレニハ通電シテ暖ムル (45°C) 消息子ヲ用ヒ (Sternberg, Imperatori) 或ハ「ブヂー」内ニ温水ヲ通ジタリ (Lotheißen)。

電解法ニアリ、線狀電解法 (Fort) 及ビ周縁電解法 (Newman) 之ナリ、前者ハ縦ニ長キ電流陰極ノ融解作用ヲ以テスル一種ノ非觀血的食道内切開法 (Oesophagotomia interna) ト見ルベシ、之ヲ所ヲ變ジテ幾度モ反復ス、之ハ安全ノ如クニシテ實ハ然ラズ、發熱シ穿孔スルコトモアリ。

周縁電解法モ食道鏡直達法指導ノ下ニ行フ、陰極ハ「ニッケル」鍍金シタル種々ノ大サノ小卵形尖端ヨリナリ、陽電極ハ胸部ニ置ク、Lotheißen ハ 2—5 m.A ヲ通ジ 5 分間宛、熱、痛ナケレバ 1—2 日ヲ隔テテ反復ス。

第三百二十七圖
Guisez 式電解的擴張器



「ラヂウム」モ又瘰癧軟化ノ作用アリ、之ヲ「ブヂー」ニ裝置シ狭窄部ニ挿入ス、其用量ハ諸家各異ニスル點アリ、然レドモ狭窄ノ附近ニ浮腫ト疼痛ヲ來スコトアリ。

食道内切開法

Oesophagotomia interna

狭窄ハ少シク通ズルモ擴張法ニ奏效シガタキモノノミ行フ、尿道内切開ト同ジク、先端ニ「ブヂー」ヲ有シ、側壁ニ小刀ヲ備フルカ或ハ小刀腹ノ出沒スル長キ桿ヲ用ユ、上ヨリ下ニ向ヒ、或ハ下ヨリ上ニ向ヒ食道壁ヲ淺ク縦切スル方法ナリ、然レドモ切開ガ餘リ深キ時ハ危険アリテ、食道鏡ノ下ニモ現在餘リ行ハレズ。

瘰癧軟化劑ノ注射

Fibrolysin 及ビ Thiosinamin ノ皮下注射ヲ行フコトアレド擴張法ヲ併用スルヲ以テ本劑ノ效力ニヨルカ否ヤヲ判別シガタシ、Gayduschek 及ビ K.Ewald ノ報告ニヨレバ餘リ效果ナシト、加之諸家ノ報告ニヨレバ此注射ノ爲ニ嘔吐、頭痛、熱、心臟衰弱及ビ無尿等ノ不快症狀サヘ來ルトイフ。

7 食道痙攣 Spasmus oesophagi

成立 一般ニ我國ニハ少シ、横紋筋ノ存スル食道入口部(下咽頭收縮筋)、贛門附近、横隔膜ノ食道裂孔等ニ來リ、

又稀ニハ食道ト左氣管支トノ交叉部ニモ強直性收縮ガ來ルニヨル、痙攣部以上ノ下咽頭若クハ食道ニハ屢擴張乃至憩室類似ノ變化ヲ起ス、Hendelsohn ハ原因的ニ三分シ

- i. 食道各部ノ痙攣ガ他ノ器質的疾患ニ歸スベキモノ
 - ii. 痙攣ガ反射的ニ起ルモノ
 - iii. 異常興奮或ハ神經性素質ノミガ證明セラルルモノ
- 等アリトナセリ。

症 狀 咽頭部ニ緊張或ハ壓迫感ヲ有シ、食物ガ滯留セル感アリテ神經的ニ嚥下運動ヲ妨ゲラル。

食道ヲ消息スル時ニ抵抗強ク痛アリ、食道直達検査ニ當リテハ「コカイン」ノ如キ局所麻醉藥ヲ用ユルガ故ニ此徵候ハ著シク現レズ、却テ「れ」線検査時ニ造影食ガ線狀トシテ現ハレ瘰癧ヲ示ス。

元來本症ハ神經質者ノ迷走神經緊張 (Vagotonus) ノ高マレルモノニ來ルモノニシテ其他ニハ脊髄癆ニ發症 (Krise) トシテ痙攣狀收縮ガ來ル、狂犬病、ヒポコンドリー (Hypochondrie) ノ如キ精神障礙時ニ來ル。

豫 後 多ク佳良

療 法 本症ヲ起ス原因的疾患ニ向フ、神經性ナルハ鎮制劑ヲ處シ、潰瘍

ノ疼痛ニ依テ來ル反射的ノモノハ其根源ニ遡ルベシ。

8 特發性食道擴大症 Dilatatio oesophagi idiopathica

成立ト原因

解剖的狭窄ヲ伴フコトナキ均等ノ紡錘形擴張ヲイフ、故ニ屢解剖學的狭窄ノ上部ニ食物ガ蓄積シテ生ズル擴張症トハ全然異ルモノナリ、幸ニシテ我國ニハ少シ。

本症ト贛門痙攣 (Kardiospasmus) トハ離ル可ラザル關係ニアルガ故ニ Strümpell, Neumann, Kraus, Zenker, Starck 等ハ此ニ屢併述セル程ナリ、然ラバ如何ニシテ兩者ガ成立スルヤ、生理學的ニ見テ下部食道ノ收縮 (Kontraktion) ハ食道粘膜ニアル神經節細胞ノ刺戟ニヨリ起ルモノナリトナスベシ、此方面ノ研究ニヨレバ迷走神經ハ此食道收縮ニ對抗スル神經纖維ヲ含有スルガ故ニ迷走神經ヲ切斷シ或ハ傷害スル如キ場合ニ收縮ヲ抑制スル機能ガ消失スレバ拮抗筋作用ハ益強大トナツテ贛門ノ收縮、痙攣ヲ起スニ至レルハ明ナリ、茲ニ於テ贛門ハ瘰癧閉鎖ト異リ開通性ハアリテモ著シク收縮シテ嚥下時ニモ弛緩シ得ズ、從テ嚥下機轉ハ順調ヲ缺キ、嚥下物ハ贛門ノ上部ニ残り、残り残りシテ遂ニ食道ハ下方ヨリ

上方ニ向テ擴張セララルモノナリトス。

此成立説ノ妥當ナルコトハ v. Mikulicz 及ビ Meltzer, Kraus und Glas ノイフ處ニヨルモ Kraus-Paltauf ガ本症ニ迷走神經變化ヲ證明シタル事實、若クハ Claude Bernard ノ實驗(迷走神經切斷後食道ハ弛緩シ贛門ハ痙攣狀トナレリ)ヨリスルモ首肯シ得ベキモノナリ。

症 狀 初發ハ多ク突然ニシテ不思議ナル程食塊ガ食道途中ニ滞留シ容易ニ通セズ、ヨリテ水ヲ飲ミ或ハ贛門ヲ閉ヂテ吸氣ヲ試ム等、自ラ百方ニ通過ヲ試ミ、長ク經過シタルモノハ患者自ラ消息法ヲ試ム程ナリ、食物ノ介在感、咽頭部ノ壓重感及ビ少シク痛感アリ、局所ハ患者正當ニ供述セザルヲ常トス、食物圓滑ニ通過セズ、屢食道憩室ノ症狀ニ類ス。

流動食ハ異常ナキモ固形食ハ餘程ヨク咀嚼シ緩徐ニ嚥下セザレバ通セズ、食慾佳良ナレドモ屢削瘦ス。

診 斷 食道ノ直達検査ニヨリ擴張部ハ各方面ニ廣ク且ツ液體アリ、時トシテ「ポンプ」ヲ用ユル程ナリ、之ヨリ液體ヲ除キテ見ルニ屢粘膜炎症狀ヲ示スノミナラズ、伸展シガタキ皺襞ヲ形成シ、其間ニ食片アリ、而シテ贛門

ニハ却テ狹窄狀アリ、食道ノ憩室ト誤ルコト時トシテアレド本症ハ各方向ニ均等ニ擴張セルコトニ注意シ且ツ贛門ノ收縮ヲ證明スレバ鑑別シ得ベシ。

「れ」線診斷ニ於テモ均等ナル擴張ト共ニ造影劑ニヨリ擴張部ノ蛇行ヲ示ス、而シテ患者安靜ナラバ胃内ニ下行セズ、Valsalva 検査法若クハ聲帶ヲ閉鎖シテ空氣嚥下等ノ如キ種々ノ嚥下動作ヲナサシムル時ニ初テ緩徐ニ數秒内ニ胃ニ落下スルヲ認ム。

療 法 消息子挿入法

i. 消息子ハ贛門痙攣ノ爲ニ一度中途ニ止リテモ、其儘暫待チテ次第ニ通過スルヲ待ツベシ、此際「コカイン」液ヲ初ヨリ塗布シ、食道直達管ヲ通シテ消息スルヲ安全トス、小ゴム球ヲ細管ニ連絡シ適當ノ處ニ挿置シテ空氣ヲ送ル方法モアリ、決シテ強力ヲ用ユ可ラズ。

ii. 藥劑的ニハ「アトロピン」(Atropin)及ビ「パバヴェリン」(Papaverin)ノ報告モアレド「アトロピン」ハ食道ノ蠕動ヲ減殺シ、却テ内容ヲ排下スルヲ妨グトナス人アリ、ぼーむ(Böhm)ハ「ピロカルピン」(Pilocarpin)(食前三十分ニ 0.1% 液 10 滴ヲ用ヒ)ガ食道蠕動ニ有效ニシテ、縦走及ビ環狀筋ノ緊張ヲ高メタリトイフ、兎ニ角全自

律神經系統ニ麻痺的ニ作用スルコトノ確實ナル「アトロピン」ハ贛門ノ痙攣ニ一度ハ試ムベキモノナリ。

iii. 暗示療法又效アリ(Böhm)

iv. 痙攣的ニ收縮スル環狀筋ノ切斷ハ容易ニ考ヘラルル所ニシテ v. Mikulicz, Wendel, Sauerbruch, Stierlin, Gottstein 等之ヲ行ヘリ、Sauerbruch ハ經肋膜性開腹術(Perpleurale Laparotomie)ヲナシテ贛門ヲ縦ニ切り、之ヲ横ニ縫合シテ效果アリトイフ、v. Mikulicz ハ胃瘻ヲ設ケソコヨリ「ゴム」管ヲ被ヒタル鉗子ヲ入レ擴張ヲナシタリトイフ。

v. 「デアテルミー」消息子ヲ以テ擴張スルマルたぶるんねる(Martha Brunner-Ornstein)ニヨレバ 0.5—0.7 Amp. ヲ用ヒ無危險ニ無痛ニ用ヒ得トイフ。

其他ノ手術的療法ハ純外科ニ屬ス。

9 食道憩室 Diverticulum oesophagi

成立ニヨリ二種アリ、即チ内部壓ニヨリテ生ジタル食道ノ限局的膨出ヲ内壓性憩室(Zenker'sche Pulsionsdivertikel)トイヒ、外部ヨリノ牽引例之附近淋腺ノ慢性炎症ガ食道ニ惹著シ、或ハ癩痕ヲ形成シテ牽引シテ生ズルヲ Rokitansky ノ牽引性憩室(Trak-

tionsdivertikel)トイフ、前者ハ屢下咽頭ニ生ズルヲ以テ其所在ヨリ命名シテ境界憩室(Grenzdivertikel, Rosenthal)トイヒ、或ハ下咽頭憩室(Hypopharynxdivertikel Killian)トイフ、最簡明ナル Killian ノ命名ニ從フコトアリ、之ハ既ニ咽頭篇310頁ニモ説述セリ。

第三百二十八圖
Zenker 下咽頭憩室



Glas ニヨル

内壓性憩室ハ其下ニ痙攣性狹窄、氣管支ノ壓迫、神經及ビ血管間隙アル場合ニ生ズ、又胎生學的ニ此素質アルモノニ起ル、機能性憩室ナルモノハ痙攣部ノ上ニ一時的ニ生ズルモノガ次第ニ増悪シテ起ルトモイフ、Ribbert ニヨレバ矢張先天性素質ト血管、神經間隙ガ原因ナリト。

症 狀 牽引性憩室ハ側前壁ニ多ク、氣管分岐部ノ高サヲ好發部位トス、

之ハ臨牀上狭窄症狀ヲナスコト稀ニシテ、縦隔洞、氣管支、肋膜腔ニ破ルルコト多シ。

輕度ナルハ殆苦痛ナシト雖、強度ニナリ囊狀ヲナス、其中ニ多量ノ食物ガ蓄積スレバ**食道ヲ壓シ**、遂ニ甚シキハ閉鎖ヲ來ス、最著シキ症狀ハ食物ト消息子トノ**通過性ニ變化**アルコトナリ。

飲食時ニ**食道ニゴロゴロ雜音**(Gurrendes Geräusch)アリ、食物ノ滯留ニヨリ**口臭**(Foetor ex ore)アリ。

「**レ線**」診斷上造影劑ヲ用ユル時ハ憩室ノ大ナルモノニ於テ一種特有ノ囊狀陰影ヲ呈シ、其上方ハ暗影ガ次第ニ薄クナルコトナリ、圖ノ如シ。

第三百二十九圖
食道憩室ノレ線像



診 斷 診斷用憩室消息子(ゴム製ニシテ尖端少シク屈曲)ヲ入ルルニ或一定所ニテ支エル所アリ、ソコハ暫時

待チテモ通過セズ、之ニ依テ囊ガ左右孰レニアルカモ知ルコトヲ得、斯ル時ハ此消息子ヲ少シ引抜キ回轉シテ進ムルニ胃ニ達ス、斯ル方法ハ餘リ確實ナルモノニアラズ。

食道鏡的ニ直接憩室入口及ビ食道管腔ヲ見テ囊内ニ入レバソコニハ常ニ粘膜ニ糜爛、發赤其他炎症狀ヲ見ル。

豫 後 屢危險ニ陥ル。

療 法 手術アルノミ、胸部ノ憩室ハ特ニ困難ナリ。牽引性憩室ハヨク肺ニ破レルコトアリ、此時ニ當リ Sauerbruch ハ先ヅ胃瘻ヲ設ケ、數日後ニ肋骨數本ヲ切除シ肺膿瘍ヲ開ク、數ヶ月ヲ經テモ食道瘻ガ存スル時ハ憩室ヲ露出シ、肺外ニテ縦隔洞ヨリ入リテノミ終局ノ好果ハ得ラル。

胸廓内ニ深キ内壓性憩室ハ**横隔膜上**(Epiphrenales Divertikel)ニアル時ハ腹腔若クハ經胸廓法ニテ行フ、而シテ憩室囊ヲ除去スルコトハ技術上然迄困難ナシト雖、縫合ハ完全ニ行ハレザルコト多シ(Sauerbruch, v. Hacker)故ニ小ナル憩室ハ内方ニ押し置キ大ナル囊ハ胃ト吻合ヲツクルニアリ、之ヲ Marsipogastrostomie トイフ、Sauerbruch ハ此法ヲ次ノ如ク推稱セリ、即手術第一回ハ 8.-11. 肋骨ヲ廣ク切除シ、**横隔膜神經**(N.phrenicus)ヲ切

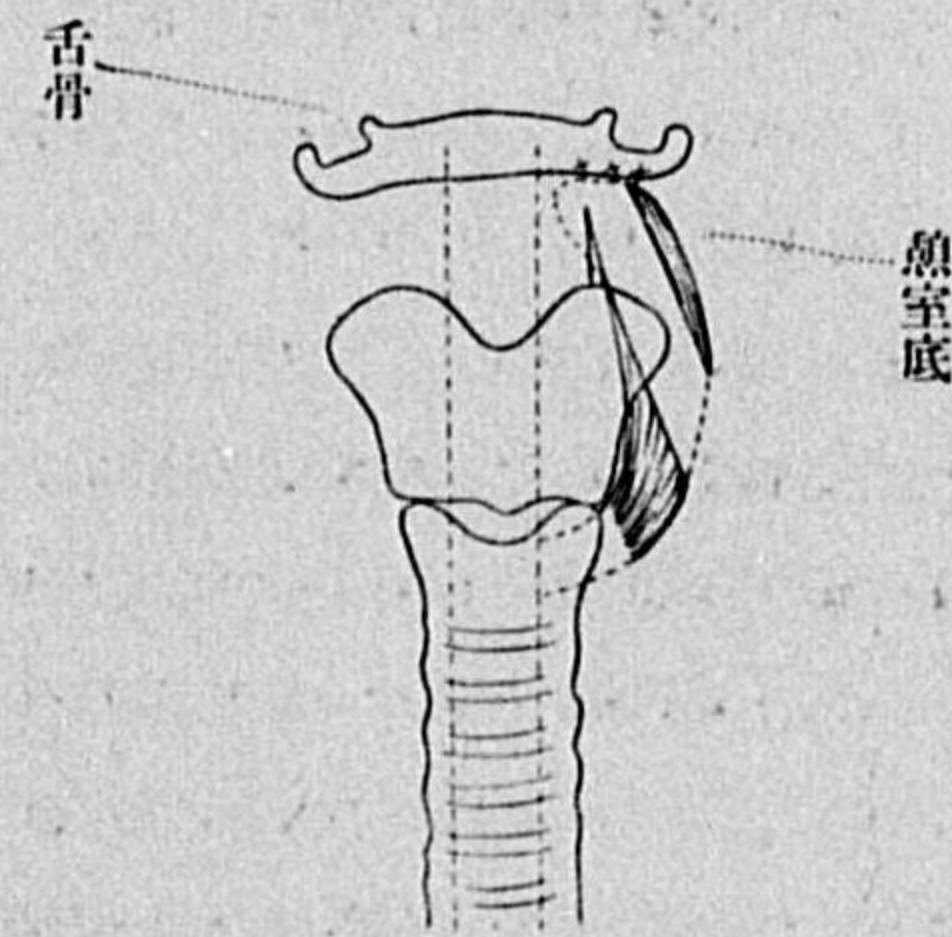
次ニ横隔膜ノ弛緩シタル**穹隆**(Segel)ヲ賁門ヨリ分離シ、胃底ヲ出來ルダケ、胸廓内ニ入レ込ミ、憩室ノ下壁ニ接近セシメ縫合ス、創ハ全閉ス、4-6週後ニ第二回吻合ヲツクル、即チ胃ヲ注意シテ周圍ヨリ包ミ卷キドあいあん(Doyen)ノ鉗子ヲ以テ挟ミタル後開ク、憩室ト癒合シタル處ニ注意シテ尖刀ヲ以テ囊ヲ刺ス、此孔ハ鈍的ニ伸バシテ胃ト三層ニ縫付ル。

此手術ヲシタル後ハ「タンボン」ハ不要ナリ、蓋シ全手術ハ第一回手術ニテ癒著ガ存スルヲ以テナリ。

下咽頭憩室ノ長キモノハ其端ヲ倒ニシテ舌骨下緣ニ縫合シ置ク簡單法(König)アリ(第三百三十圖)。

第三百三十圖

König 式憩室手術法略圖



Kirschner = ヨル

10 腐蝕性及中毒性食道炎
Oesophagitis corrosiva et toxica

成立ト原因

火、湯傷ニヨルモノハ甚少キモ故意ノ或ハ誤テル化學的腐蝕劑ノ嚥下ニヨリテ起ル、化學工業ノ發達ト共ニ諸種ノ製劑ガ家庭ニ入リテヨリ益増加セリ、朝鮮ニ於テハ白衣ノ漂白ニ用ユルコト多キ苛性「ソーダ」ハ家庭ニ普遍スルヲ以テ、之ニ因テ起ル不幸最多ク、普通吾人日本ニ於テハ**鹽酸**、**硫酸**ニヨルモノ最多シ。

自殺目的者ニテハ二十歳前後ノ男子(日本)ニ、誤嚥ニ於テハ小兒ニ多シ、此種ノ化學的製劑トシテハ苛性「ソーダ」、苛性「カリ」、**「リゾール」**、石炭酸、昇汞、「クロロフォルム」、「アムモニア」、鹽酸、硫酸、硝酸、醋酸、「クローム」酸ヲ見ル。

以上ノ腐蝕劑ハ濃度ト作用時間トニヨリ、輕キハ腐蝕ニ止レド、強激ナルモノハ胃ニ流下シテ中毒ヲ起スニ至ルヲ常トス、斯ノ如ク中毒ヲ起シタルモノノ1/4以上ハ死亡ス、強酸類ノ中毒ニヨルモノハ1-2時間、苛性「ソーダ」類ニヨル中毒者ハ2-3日ニシテ死亡ス(LothciBen)。

症 狀 口、唇、咽頭ノ**上皮脱落**ト

強痛，喉入口部浮腫，唾液分泌異常亢進，一時ハ嚥下ガ全然不能ニ陥ル，尤モ誤テ用ヒシモノハ口腔ト高々喉頭部迄最強キ變化ヲ來セド，食道ニ及ブ迄ニ吐出スルモノナリ，反之，自殺目的者ニハ多量ニ早く嚥下スル爲ニ胃及ビ食道ヲ胃スコト大ナリ。

食道ノ腐蝕ハ斯クシテ表面のナレバ粘膜ノ壞疽，炎症トナリ，遂ニ上皮結痂ガ大小種々ニ脱落ス，強激ナル作用ヲナセルモノハ筋層及ビ其外側迄モ胃シ，脱落片ヲ咯出若クハ嚥下スルコトアリ。

腐蝕劑ノ種類ニヨリ粘膜上ニ表ハルル變化モ多少特徴アリ，煩雜ヲ避ケテ茲ニハ省略ス。

嚥下直後ヨリ口，咽，胸骨裏ニ灼熱痛強ク，背部ニ放散ス，嚥下不能，水分渴望，粘液血性物及ビ粘膜脱落片ノ吐出，時ニ吐血アリ，重症ナルハ急ニ高熱ヲ發シ，嗜眠狀 (Somnolenz)，ヲ呈シ死亡ス，輕症ハ數日ニシテ急性症狀中ノ疼痛消失シ……食道粘膜ハ脱落シテモ……食道ハ次第ニ通過性トナル，然ルニ 2—3 週ニシテ再ビ通過困難トナリ，液體ノミ辛ジテ攝ルコトヲ得ルニ至ル，斯クシテ通過性ニ消長アリ。

診 斷 既往歴及ビ化學物質ノ殘部，口内ノ結痂，初症狀ノ聴取ニヨリ

決定シ得，急性の諸症狀ノ去ルニアラザレバ精確ナル範圍，其他ノ變化ヲ見ルコト能ハズ，腐蝕劑ノ種類ハ食道粘膜後期ノ癍痕ヲナシタル時期ノ所見上ニテハ判別シガタシ。

療 法 腐蝕ノ直後ニハ單ニ症候的ニ使用化學劑ノ中和ヲナス，即チ酸ニ對シテハ苛性「マグネシア」ヲ，「アルカリ」ニ對シテハ柑汁ヲ氷冷水ニ入レテ飲マシム，其他餘リ手ノ下シ様ナン，絕對安靜，絶食ヲナサシメ鎮痛，強心劑ハ缺ク可ラス，食物通ゼザル時ハ數日間肛門ヨリ營養シ食鹽水ノ注射ヲナス。

腐蝕直後ノ胃洗ハ行ハザルヲ可トス (Müller)，めいどる (Maydl 1887) ハ腐蝕後ハ直ニ胃瘻ヲ造設スルコトヲ勸ムレド胃ニモ腐蝕アル時效力ハナシ，サレバ食道ノミ強ク胃サレタルモノ (臨牀上ニハ多少此診斷モ可能ナリ) ニ行フベシ，胃ノ腐蝕モアラバ外科的ニ小腸瘻造設モ必要ノコトアリ。

腐蝕ノ結果生ジタル種々ナル癍痕狹窄ハ擴張法ヲ行フベシ，通例消息子〔英式軟撓性棒狀，或ハぶしゃー (Bouchard) ノ錐形「ブヂー」〕ヲ以テス。

消息子擴張法ハ以前ト異リ，昨今ハ癍痕化ノ完成ヲ待ズシテ，早期ニ開始ス，殊ニ小兒ニ於テ著效アリ，然レドモ

食道直達的ニ検査ヲ行ヒテ後，可否ヲ檢シテ同時ニ此検査管ノ誘導ノ下ニ順次擴張器ノ太サヲ増シ行クベシ，余等ノ見解ニテハ大人ニ於テ Sauerbruch, Fränkel 等ガイフ如ク少クモ罹患後 2 週間ニ開始スベキヲ可トス，又擴張法ニモ急激法及ビ漸進法アリ，ラミナリア桿 (Laminariastift) ノ如キハ餘リニ強ク擴張スル危險アリ，癍痕狹窄ハ生理的狹隘部 (第一狹窄部ニ最多シ) ニ生ズルコト多ク且ツ多發スルコトアリ (食道狹窄 423 頁參照)。

11 急性食道周圍炎縱隔膜炎 Periesophagitis et mediastinitis acuta

成立ト原因

如何ナル食道炎症モ食道周圍組織乃至縱隔洞ヲ胃スコトヲ得ト雖，吾人ノ遭遇スルハ食道尖端ノ異物，盲的消息ニヨル食道壁ノ穿通，重症腐蝕後ノ分界炎 (Demarkierende Entzündung) ニヨルモノナリ。

解剖學上食道ノ周圍ニハ結締織ガ比較的緩粗ニシテ輕度ノ炎症モ，急ニ廣ク蔓延シ，縱隔洞ニ迄達スル危險多シ，硬魚骨 (鯛，ホウボウノ如キ) ニヨルモノ最甚シ，其間ニアリテ幸ニシテ炎症若クハ食道穿孔ガ餘リ蔓延セス，又異物ガ縱隔洞ニ入りテモ全く無反應ニ

經過スル如キコトモアリ，夫等ノ理由ハ損傷ノ輕重ト局所個人的差異，細菌毒力ノ差，成立ノ緩急，其他諸種ノ要約ニヨルモノニシテ，一般ニ見ル時ハ，頸部ノ如キ胸腔ニ穿孔シタル若クハ緩慢ニ食道壁ノ穿孔シタルモノハ先ヅ炎症分界 (Demarkation) ヲ生ジ，強キ炎症ノ傳播ヲ見ズ，且ツ外部ヨリ早く處置シ得。

症 狀 極メテ輕症ナルハ症狀モ亦輕シト雖，縱隔洞ニ穿通シタルモノハ氣腫ヲ生ジ，咽頭ニモ皮膚ニモ觸知シ得ルニ至ル，蓋シ食道ノ空氣ガ呼吸時ニ縱隔洞ニ入り且ツ内部ノ蜂窠織炎ヨリ「ガス」ヲ發生スルヲ以テナリ，之ハ打診及ビ「れ」線検査ニヨリ知ルコトヲ得。

熱，惡寒戰慄，咽頭後壁ニ浮腫狀腫脹，下頸部側方壓痛，甲狀軟骨ヲ移動スル時ノ痛，嚥下障礙，頭部傾斜，頭部運動痛，重症ニハ呼吸困難，敗血膿毒症トナリ死ス，食道周圍炎ガ起レバ鎖骨上窩ニ浮腫ヲ起ス。

診 斷 食道直達検査ニヨリ粘膜ノ損傷或ハ膿ノ湧出ヲ見レバ確實ナレドモ重症ニハ此検査ヲ行フコト能ハズ，重ニ外的症狀ヨリ推斷ス。

豫 後 多ク不良ナレドモ數日ヲ生括スルモノニハ佳良ナルモノアリ。

療法 幸ニシテ頸部ニアルハ手術ニヨリ、深クニアルハ頸部縦隔洞切開(Kollare Mediastinotomie)ニヨリ、或ハ深部ニアルモ化膿竈ノ廣カラヌモノハ直達鏡的ニ膿ヲ吸引スレバ可ナリ、吾人ノナシ得ル簡易法ハ唯此後者ノミ。

縦隔洞ノ後方ニ膿竈アルハ手術困難ニシテ從テ豫後不良ナリ。

Seiffert ハ食道其モノヲ排膿管ニ利用シ直達検査ノ下ニ穿孔部ヨリ膿瘍ノ最下部迄缺ヲ以テ切開キ一ノ大共通腔トナセリ、此痛快ナル手術ニヨリ三全治例アリトイフ。

必要ニ應ジ滋養洗腸、点滴注腸、胃管「カテーテル」營養、胃瘻造設等ヲナス。

12 食道ノ出血 Haemorrhagia oesophagi

原因ト成立

附近ノ大血管(大動脈、鎖骨下動脈、頸動脈、甲状腺動脈、肺動靜脈、大靜脈幹、無名動靜脈、心臟)、動脈瘤等ヨリ食道内へ偶發出血、食道及ビ附近器官ノ腫瘍、食道ノ潰瘍機轉(結核、微毒、蜂窠織炎)、食道異物ガ炎症若クハ腫瘍ヲ合併シタル、或ハ尖銳異物等原因ハ甚多ク、且ツ大出血ナルコト多シ。

食道靜脈瘤(先天性ニ、或ハ老衰現

象トシテ來リ、門脈系統ニ鬱血アル時食道下部ニ、或ハ縦隔洞腫瘍ニ際シ胸廓中ニ靜脈幹閉塞スル時食道上部ニ來ル)、食道壁ノ小血管損傷等ハ輕度ノ出血ナルコト多シ。

診断 食道ノ靜脈瘤ヨリノ出血ハ嘔吐ノ作動ナクシテ容易ニ來ルヲ以テ確實ニハアラザルモ鮮紅ニ見エ、且ツ「アルカリ」性ナリ、胃出血ト誤ルコトアリ。

消息子ヲ濫ニ入ルルコトハ危險ナリ、食道直達検査又甚懸念アリ。

下咽頭ニ靜脈瘤アル如キ場合ニハ食道ニモ靜脈瘤性出血アルコトヲ推想シ得ベシ(J. P. Fränkel)。

療法 大血管ヨリノ出血ハ何等手ヲ下スノ餘地ナク、失血ニ至ルヲ以テ、ココニハ主トシテ輕度ナルモノヲ述ベシ。

血液凝固促進劑、高調食鹽水、「カルシウム」劑、麥角劑、其他新製止血劑等ノ注射等、局所ニ觸レズシテ止血法ヲ講ズル方法ト、直達的ニ小出血部ヲ鉗子ニテツマミ、若クハ止血劑ヲ浸シタル「ガーゼ」片等ニテ壓迫シ或ハ「タンボン」トスル方法アリ、吾人ハ屢兩法ヲ併用スルヲ可トス、吐血ノミナラズ、下血ニモ夫々注意スベシ。

附 録

I 經氣道外麻酔法 Die neue nicht-inhalierende Narkose

A 靜脈注射用短時間麻酔劑

Evipan-Natrium

全身麻酔ハ從來、上氣道ヲ用ヒシヲ以テ其附近ヲ手術野トスル我領域ノ手術ニハ屢多大ノ不便ヲ感ジタリ、最近十年、全身麻酔界ニ於テ「アヴェルチン」(Avertin)ノ直腸麻酔及ビ其後ニ至リ「エヴィパンナトリウム」(Evipan-Natrium)ノ靜脈内注射全身麻酔ノ如キ大ナル進歩ヲ見ルニ至レリ、殊ニ比較的短時間ニ終ル小手術ニ於テ、而モ局所麻酔ノ及バザル場合ニ靜脈内注射短時間麻酔(Injektionskurznarkose)ハ殊ニ最近ニ於ケル多大ノ貢獻ナリ。

Evipan-Natrium ハ非揮發性 N-Methylecyclohexenyl-Methylbarbitursäure ノ「ナトリウム」鹽(微赤調白色粉末)ニシテ水溶性ナリ、通例10%溶液トシテ用ヒ、一分間以上ヲ費シテ甚緩徐ニ靜脈内ニ注射スレバ、其終ルヲ待タズシテ直ニ、興奮状態ナクシテ、深麻酔ニ入り、深く長く整然ト呼吸シ、初メ少シク淺ク、約10—20分ニシテ不快症狀ナク覺醒シ、後睡眠モ短シ、此間顔面及ビ粘膜ノ紅潮アレド、血管

運動神經及ビ呼吸中樞ヨリノ副作用ハナシ。

麻酔ニ入ルニ先立チ倦怠感アルヲ免レズ、血壓モ殆ド睡眠ト同ジク僅ニ低下アルノミ、之ヲ臨牀上ニ用ユルニハ市販ノ「アムブレ」入りノ本劑1.0ニ添付ノ蒸餾水10.5c.c.ヲ入レ溶解セシム、而シテ之ヲ體量毎kgニツキ0.1—0.16c.c.ノ割ニ靜脈内ニ緩徐ニ(初ノ4c.c.ハ1c.c.ヲ15秒ノ平均速度ニテ、殘量ヲ之ヨリ稍速ニ1c.c.ヲ10秒ノ速度ニテ行ヒ、注射ハ緩徐ニスルホド觀察ト調節ニ便ナリ)注射シ通例10c.c.以上ニ亙ル可ラズ、猶必要ナル時ハ吸入麻酔ニヨルベシ、注射量ハ體量、體ノ強弱或ハ年齢ヲ考慮シテ決ス、使用ニハ老幼ノ制限ハナク、1歳以下ノ極幼ヨリ75歳以上迄無障礙ナリ、注射中ハ絶エズ下顎ヲ觀察シ、沈下セル時ハ直ニ下顎ヲ前方ヘ牽引スルカ或ハ舌筯ヲ以テ呼吸障礙ナカラシムベシ、本劑ト一般鎮制劑ヲ併用スルコトハ兩者合併シテ、一層呼吸中樞ニ強ク作用スルコトヲ怖ルルガ故ニ用ヒザルヲ可トス。

今キール(Kiel)大學外科ニ於ル用量 | 表ヲ見ルニ次ノ如シ(體重毎kgノ量)。

年 齡	10—15	15—25	25—40	40—55	55—65	65—75	75以上	體每 重キ ログ ラム ム cc.
男子	強	0.16	0.15	0.14	0.13	0.12	0.11	0.10
	弱	0.15	0.14	0.13	0.12	0.11	0.10	0.09
女子	強	0.15	0.14	0.13	0.12	0.11	0.10	0.09
	弱	0.14	0.13	0.12	0.11	0.10	0.09	0.08

手術ハ注射ノ終了ト共ニ開始シ、20分以内ノ麻醉ニテハ不十分ナルヲ發見セバ、麻醉開始後10—12分ヨリ極メテ徐々ニ吸入麻醉ノ追加ヲナス、斯クスレバ吸入麻醉ノ量ヲ減ジ、吸入麻醉ヘノ移行ヲ圓滑ニシ得、故ニ手術豫想時間ガ30—40分以上ナル時ハ Avertin 基礎麻醉ノ方ガ適當ナリ。

禁忌ハ惡液質、上氣道手術、心臟呼吸器病患者、虛弱體質、肝實質障礙、腹膜炎、「イレウス」(Ileus)、惡阻、中樞神經疾患、重篤ナル代謝病等ナリ。

吸入麻醉ノ前後ニ於ル不快、局所麻醉ニ於ル患者ノ精神的苦痛ト不安ヲ除カントシテ現ハレタルモノナリ、吾人ハ顔面附近ニ手術ヲナス必要上經血管、經直腸麻醉法ヲ簡便ニ使用シ得ルコトハ甚利益アリト雖、呼吸麻痺ノ容易ニ來ルコトヲ思ヒ上氣道及口腔ノ手術ニハ餘リ用ヒズ。

B 直腸用麻醉劑 Avertin

Avertinハ1923年 Willstätterニ依テ合成サレタル無色、無臭ノ結晶、融

點79—80°C 臭素含量84.08%、水ニハ難溶性、「アルコール」、「エーテル」、「アセトン」、「キシロール」、「クロロフォルム」ニ易溶性ノ Tribromoethylalcoholニシテ、初ヨリ Polano, Butzengeiger 等幾多臨牀家ノ實驗スル處トナリ、爾來贊否種々ノ論難ト藥理藥效増進法、新陳代謝ニ及ス影響等、基礎研究モ長ク行ハレ、今ヤ其價値モ大體決定シタリ。

本劑ノ使用法ハ各人多少ノ差アレド其最良ト思ハルル方法ハ(吉田治良)

- 心、肺、肝、腎ノ重篤ナル疾患及ビ衰弱アルモノヲ避ク
- 前夜「ヒマン」油ヲ與フ(急ヲ要スル時ハ「グリセリン」浣腸ニヨル)
- 體重測定
- 0.5gr「ヴェロナール」ヲ與ヘ前夜安眠セシム。

實 施

- 手術前30分ニ0.5—1.0c.c.「パントボン」(Pantopon)ノ皮下注射
- 其後十分ニシテ病牀ニ於テ横臥

ノ下ニ豫メ準備シタル Avertin 溶液(體重毎kgニ0.1……老人ニハ0.08以下……粉末ヲ滅菌蒸留水ニ3%ノ割ニゑるれんまいゑる瓶(Erlenmeyer'scher Kolben)ニトカシ、「ラクムス」紙ニテ「アルカリ」性ヲ檢シ中性トシ、體温ニヒトシク加温シ、消毒セル「イリリガートル」ニ移ス、之ヲ低壓ノ下ニ緩徐ニ注腸シ、終テ硼酸軟膏ヲ附著セル綿塊ヲ肛門部ニ當テ暫時之ヲ觀察ス。

然ル時ハ浣腸後2—5分間ニシテ多少疲勞感起リ、5—15分ニシテ嗜眠状態ニ入ル、20—30分ニシテ感覺低減ス。

此際呼吸及ビ一般状態ガ侵害セラルルコト甚シキ傾向ヲ見タル時ハ直ニ洗腸シ藥液ヲ排泄ヲハカル、此嗜眠状態ノ時手術臺上ニ移ス、此時呼ベバ猶應フ、手術臺上ニテハ必要ニ應ジテ「エーテル」麻醉(「クロロフォルム」ハ用ヒズ)ノ補助ニヨリ手術ス。

術後2—4時間ハ猶安眠ス、換氣ノ注意、「ロベリン」「カンフル」等ヲ使用スレバ覺醒ヲ早ム、Goldschmidtハ術

後4%ノ葡萄糖250c.c.ニ1c.c.「エフェトニン」、40滴ノ「カルチアゾール」、1c.c.ノ「ストロファンチン」ヲ加ヘ點滴注腸ヲ行ヒ良效アリ、若シ呼吸麻痺、心障礙ガ來ラバ酸素吸入、「ロベリン」、「カンフル」等ノ對症療法ヲナス、覺醒ニハ嘔吐、頭痛ノ不快ナシ。

唯特ニ注意スベキハ Avertinニ完全麻醉ヲ期待ス可ラザルコトナリ、從來ノ全身麻醉ト局所麻醉トガ充シ得ザリシ間隙ヲ充ス特殊ノ所謂基礎麻醉(Basisnarkose)ナルコトナリ。

C 亞酸化窒素(Stickoxydul=

Nitrous oxide

僅ニ香氣ヲ有スル無色氣體ニシテ、高温中ニテハ酸素ト窒素ニ分解シ、之ガ急激ニ行ハルレバ爆發ス、米國ニ於テハ麻醉用トシテ小金屬罐ニ入レ販賣セラル、稀釋セザル此「ガス」ヲ吸入スレバ直ニ意識ヲ消失シ、痛覺ヲ消失ス、之ヲ酸素ト混ジテ用ユレバ窒息ノ危険ナシ、覺醒後不快感ヲ與フル缺點アリ、我國ニテハ餘リ用ヒラズ、局所麻醉劑ニヨリテ驅逐セラレタリ。

II 腦脊髄液検査法

Die Untersuchung des Liquor cerebrospinalis

A 腰椎穿刺法 Lumbalpunktion

臨牀症狀ノ然迄強カラザル腦軟化、

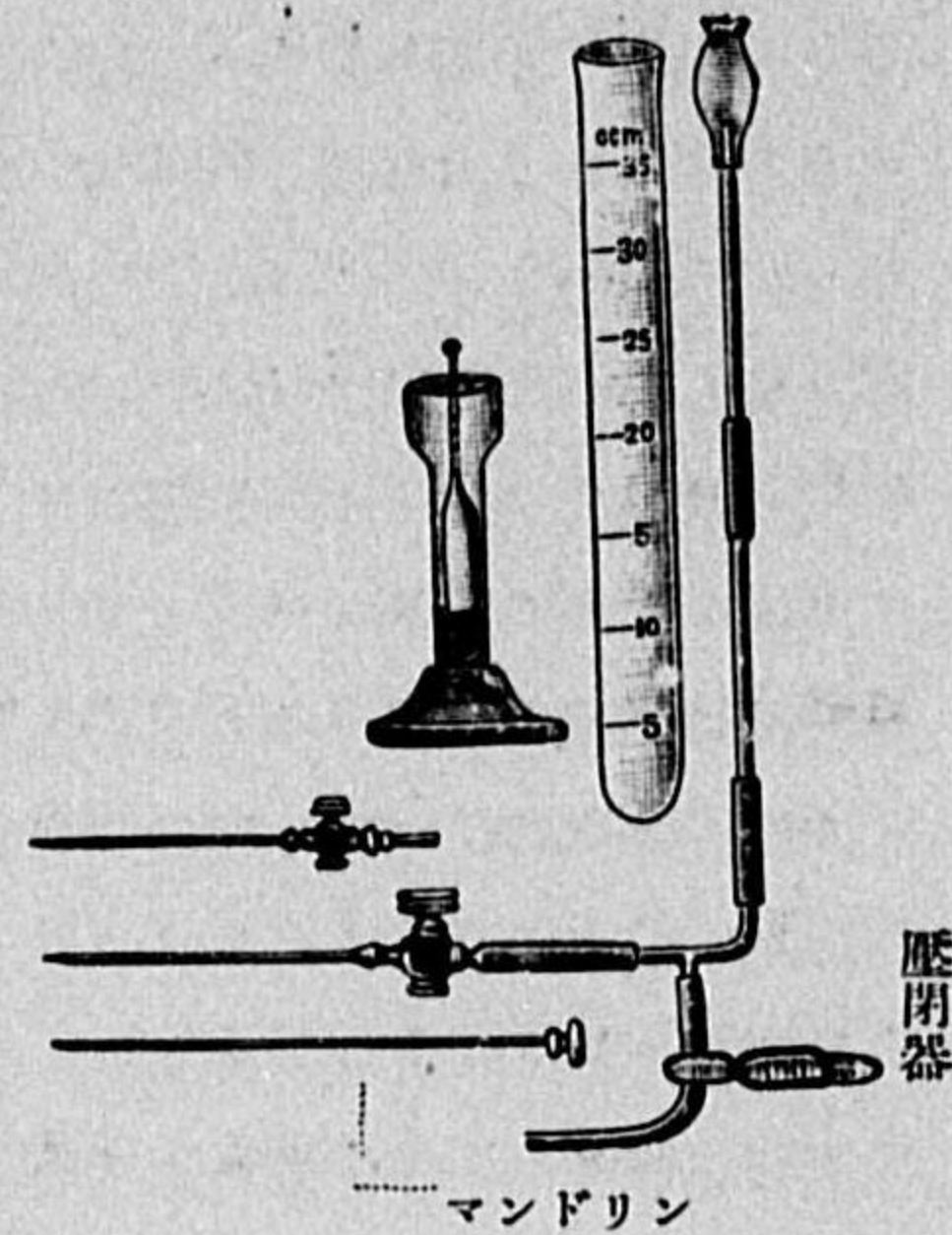
動脈硬化症、中毒、新陳代謝病ニモ其變化ヲ示スト雖、吾人領域ニテ取扱フ傳染性細菌性疾患ニハ殊ニ變化ノ著明ナルヲ知ル、然レドモ化膿性腦膜炎ニモ腦脊髄液ノ所見ハ種々ナルヲ以テ、眞ニ他ノ傳染病ニヨルモノナルカ、單ニ耳若クハ鼻ニ關スルモノナルカハ各種ノ検査成績ヲ綜合シテ初テ區別ヲナシ得ルモノナリ。

通例腦脊髄液ノ採取ニハくいんけ式腰椎穿刺(Qnincke'sche Lumbalpunktion)ヲ行フ、即チ最容易ニ脊椎管及ビ硬腦膜囊ニ入り得ルヲ以テナリ。

其法ハ圖ノ如キ腰椎穿刺器及ビ附屬品(余ハ Krönig 型ヲ用ユ)ヲ手指ト共ニ充分ニ滅菌消毒シ、液柱壓測定用ノ細硝子管ハ總テ連絡シ置キ、次ニ被檢者ヲシテ側臥位或ハ坐位ヲトシメ、軀幹ヲ前屈シ之ニ依テ脊椎間ノ距離ヲ大ナラシム、局所ノ消毒(沃度丁幾ヲ塗布シ石油「ベンチン」ニテ其部ヲ拭ヒ)、次ニ頸椎ヨリ計算シテ第三腰椎棘狀突起ニ目標ヲ印ス。

第三百三十二圖ニ示ス如ク脊椎間隙ハ大人ニ於テハ II—V、小兒ニ於テハ IV—V 椎弓間ニ最廣キヲ以テ、此部ヲ目覓ケ穿刺針ヲ刺入ス、此際刺入部ニ少量ノ浸潤麻醉ヲナスコトアリ、成書ニ時トシテ棘狀突起 (Processus

第三百三十一圖
くれーにひ腰椎穿刺器

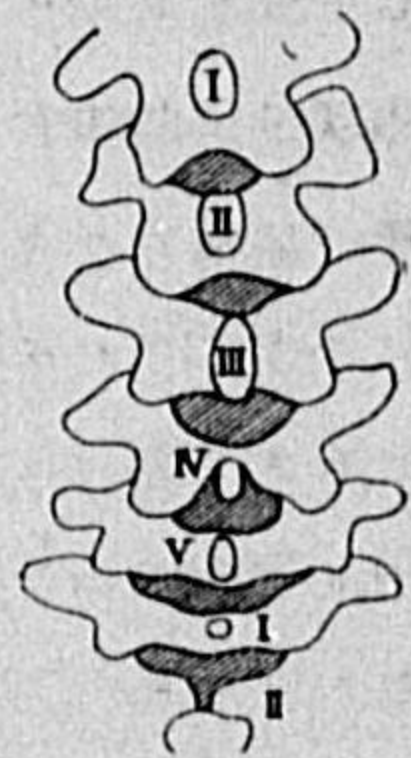


spinosus) ノ下ニテ少シ側方ヨリ中心

ヲ目覓ケテ針ヲ進ムベシトナセドモ敢テ其必要ナク、針ヲ棘狀突起ノ直下、正中部ヨリ矢狀方向ニ、且ツ少シク上向キニ刺入スルヲ可トス、

脊髄ハ大人ニ於テ凡ソ II 腰椎ノ高サ、極幼兒ニテモ III 腰椎迄ノ高サニアルヲ以テ針尖ヲ以テ損スルコトナシ、唯或報告ニハ V 腰椎下ノ如キ下部ヲ選ベバ腦脊髄液ニ沈澱物(淋巴球、膿球、血球、菌等)ヲ見ルトイフ、之ハ高度ノ

第三百三十二圖
大人ノ腰椎間隙



腦膜炎等ニテハ然ルベキ理由アリ、故ニ III—IV 腰椎間弓ヨリ採取スルヲ可トス、而シテ穿刺ノ深サハ一定シガタキモ、大人ニテハ 5—6 cm 小兒ニテハ 2—3 cm ニテ充分ナリ、脊髄膜内ニ針尖ノ入ル時ハ急ニ抵抗ノ減弱ヲ手指ニ感ズルヲ以テ、豫メ針長ヲ測定シ置タル所ト綜合シ、適當ト思ハバ内軸桿(Mandrin)ヲ抜テ果シテ腦脊髄液ノ流出アルカ否ヲ檢スベシ、確實ニ入ラバ吸引ヲ要セズシテ流出スルヲ以テ、手早く針管根元ノ栓子ヲ回轉シテ流出ヲ止メ、液壓測定用硝子管ヲ連絡シ、後靜ニ閉塞栓ヲ閉ク、然ル時ハ腦脊髄液ハ直ニ硝子管内ニ現ハレ、其液壓ニ從テ管内ヲ上昇ス、附屬ノ計測尺ヲ以テ液ノ高サヲ測ル。

側臥位ノ健康者ニハ 40—150 mm 水柱、病態大人 170—700 mm、小兒 120—500 mm、坐位ニテハ以上ヨリ 36—50% 高シ、腦壓ニハ靜脈壓ガ大ニ關係スルヲ以テ頸靜脈ヲ壓迫スレバ液壓ハ急ニ高クナル、之ヲ Queckenstedt ノ検査トイフ。

次ニ下方「ゴム」管ニ附著セル壓閉器(Klemme)ヲ取外シテ縦ノ硝子管ニアル液ヲ滅菌試験管ニ受容ス。

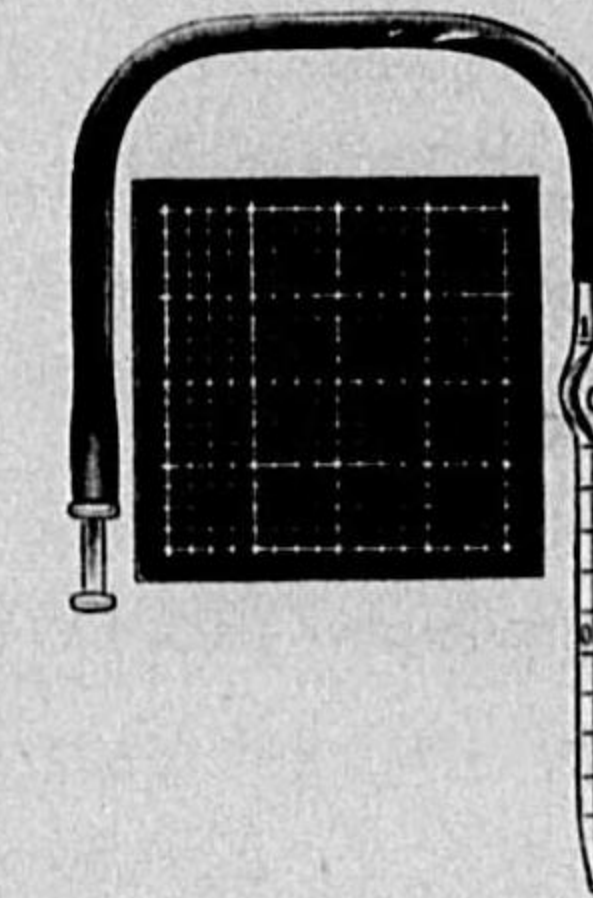
採取シタル脊髄液中ヨリ直ニ Thoma-Zeiss ノ混合「ビベット」(Melan-

geur) ノ劃線迄吸上ゲ、續テ Pappenheim ノ稀釋液即

「メチール」(Methylviolett)	0.1
氷醋(Eisessig)	3.0—5.0
筒水(Aqua destillata)	30.0—50.0

ヲ混合「ビベット」球囊部上方ノ「11」指標迄吸取リ、5分間ヨク振盪混合シテ次ニ球囊部内液約 1/3 ヲ吹出シツツ終リニ

第三百三十三圖
Fuchs-Rosenthal 計算盤ト之ニ用ユル混合「ビベット」



滴ヲふくすーろーぜんたーる(Fuchs-Rosenthal) 型計算盤ニ滴下シ、被蓋硝子ニテ之ニとん氏輪 (Newton'scher Ring) ヲツクル如ク壓抵ス、恰血球計算時ニ於ル如クス、然ル時ハ 1 c.c. 中ノ細胞數

$$x = \frac{a(\text{全格子内細胞數})}{3.2(\text{全計算室ノ面積 } 16\text{mm} \times \text{深サ } 0.2)} \times \frac{11}{10} = \frac{11a}{32} \approx \frac{1}{3}a \text{ ナリ}$$

淋巴球ハ健康者ニテ 1 c.c. 内 1—5 個アリ、10 個以上ハ多細胞症 (Pleocytose) ト稱シ病的ナリ。

液壓ガ急降下スルハ不快現象アルヲ以テ先ヅ 150 mm 迄徐々ニ採取シ、採

取シタルモノニ就テ、外觀其他一般性質ノ觀察ヲナス（定性検査……健康者ニハ透明無色水様ナリ、比重 1.0065、微「アルカリ」性、蛋白 0.2—0.5%）、化膿性腦膜炎ニテモ全く透明ナルコトアレド、通例混濁シ、甚シキハ純膿性ナリ、赤色血性アルハ頭蓋底骨折其他硬腦膜内ニ血液ヲ混ズル機轉アルヲ示ス、織朥糸状凝固物ハ結核性腦膜炎ニ之ヲ見ル。

蛋白質ハ健康體ニテハ極メテ微量ニシテ 0.025% 程ナレド腦脊髄膜炎、殊ニ中枢神經系ノ微毒性疾患等ニハ平生最少キ「グロブリン」ガ殆常ニ増量ヲ來スモノナリ、故ニのんね—あべると（Nonné-Apelt）ハ此存在ニ依テ器質的疾患ノ有無ヲ決シ、兼テ機能的疾患トノ重要ナル鑑別法トナセリ、之ヲ證明スル方法ニ種々アリ、屢 Nonné-Apelt 第一期反應、若クハ Kafka「グロブリン」分別檢出法等用ヒラル。

◎かふか「グロブリン」分別檢出法

Kafka'sche Globulin Differential-untersuchung

現ハル「グロブリン」ノ差ニヨリ疾病ノ種類ヲ異ニシ、又加フル硫酸「アンモニア」ノ濃度ノ相違ニヨリ、其析出スル「グロブリン」屬モ異ル點ヲ Kafka ハ診斷ニ應用セリ。

夫ニハ先ツ飽和硫酸「アンモニア」ヲ蒸留水ニテ稀釋シ、之ニ腦脊髄液ノ一定量ヲ加ヘタル濃度ガ各 28%、33%、40% トナル様ニ稀釋ス、而シテ硫酸「アンモニア」液ノ濃度 28% ニ於テ、沈澱ヲ生ズレバ急性腦膜炎ナリトシ、33% ニテ沈澱ヲ生ズレバソレハ「オイデロブリン」ニシテ急性腦膜炎ト麻痺性痴呆(Dementia paralytica)ナルコトヲ意味シ、40% ニテ沈澱スルハ「ブソイドグロブリン」ニシテ急性腦膜炎並ニ麻痺性痴呆ナリトセリ。

◎のんね—あべると第一期反應

Nonné-Apelt erste Reaktion

試藥ニ飽和硫酸「アンモニア」ヲ用ヒ、腦脊髄液ト同量ニ例之、0.5—1.0c.c. ツツ混和シ、數分間放置シテ種々ノ程度ニ現ハルル混濁即チ痕跡蛋白石濁、蛋白石濁、輕混濁、強混濁及ビ沈澱等五種程度ニ依テ「グロブリン」含有量ヲ判定スルモノナリ。此反應ハ精神神經科方面ニ一層多クノ陽性率（麻痺性癱瘓及ビ脊髓癆性麻痺性痴呆ニハ 95—100%、脊髓癆 Tabes dorsalis ニハ 90—95%、腦脊髄微毒ニテハ約 100%）ヲ示ス。

其他腦脊髄液中ノ蛋白體トシテハ健康體ニ存セスシテ發現スル「フィブリノゲン」(Fibrinogen)、蛋白ノ分解

産物ナル「アミノ」酸、「アルブモーズ」(Albumose)、其他尿素、「クレアチニン」(Creatinin)アリ、糖類トシテノ葡萄糖其他無機物質等ハ詳細ナル研究ニ必要ナルノミ。

以上ノ如ク茲ニ通例臨牀上ニ検査スベキ各種ノ検査法ヲ擧ゲシガ、腦脊髄液ハ耳科領疾患ノ他、一般傳染病、中毒、新陳代謝病等ニモ種々ノ變化ヲ示スヲ以テ診斷上ニハ上記各検査ノ成績ノ綜合的觀察ガ必要ナル、何トナレバ細胞成分ノ増加ハ腦膜炎ニ炎症ノアルコトヲ意味スト雖、必シモ腦膜炎ノミニアラザルヲ以テナリ。

種々ノ腦膜炎ニハ症狀ハ典型的ナレドモ、腦脊髄液所見ニハ著シク差違アルモノアリ、甚シク混濁シテ膿性ナル或ハ水様透明ニシテ而モ傳染性化膿性腦膜炎ナルコトアリ。

診斷ト共ニ豫後判定ニモ臨牀症狀ト結ビ付テ初テ大ニ意義アルハ臨牀症狀ガ次第ニ増悪スルニ拘ラズ、腦脊髄液所見ガ正常ニ復歸シ行クハ腦膿瘍ノ特徴ナリ (Borries) トイフガ如シ。

B 後頭下或ハ大槽穿刺法

Subokzipital-oder Zisternenpunktion

本法ハ最近比較的容易ナリトシテ行ハル、即チ被檢者ヲ側臥位トシ、後頭部以下ヲ剃毛シ充分ニ沃度丁幾、沃度「ベンチン」ヲ以テ廣ク消毒シ、術者モ手指消毒ヲ型ノ如クシ、後頭結節 (Protuberantia occipitalis) ヨリ下方ニ觸診シツツ下リ項韌帶ノ後頭骨附著部ニ沃度丁幾或ハ硝酸銀ヲ以テ示標ヲ附シ、第一頸椎後結節（肥滿者ニハ第二頸椎棘状突起）ヲ觸診シ求メテ、又

第三百三十四圖
頭蓋矢狀断面
(淡灰色部ハ腦脊髄液所在ヲ示ス)
太キ黒線ハ硬腦膜下腔
細目狀部ハ蜘蛛膜下腔



示標ヲ附ス、此兩示標間正中線上ニテ第一示標ノ下、約 1cm 部ヲ短キ小兒用腰椎穿刺針ヲ外聽道孔ノ高サニ向ケ、靜ニ後頭骨緣ニ沿テ刺入ス、大槽 (Cisterna magna) ニ達スル深サハ大人 3—5cm ナリ、肥瘦ニヨリ差アリ、

針が椎間韌帯ヲ超ユレバ抵抗ハ急ニ減少ヲ感ズルヲ以テ、更ニ注意シテ針ヲ進メツツ、針ノ内軸ヲ抜キツツ、硬膜腔内ヨリ液ノ流出スルヤ否ヤヲ檢ス、液流出セザレバ又幾分針ヲ進ム、坐位ニテハ陰壓ナリ、斯クスレバ多クハ安全ナリト雖、數回動物及ヒ屍體ニツキ經驗ヲナサバ可ナリ、(但シ屍體ニテハ穿刺針ノ内軸ヲ抜テモ少シク吸引セザレバ腦脊髄液ノ排出ナシ)、腦腫瘍、腦溢血、嚔血乳頭ノ場合ハ禁忌ナリ。

III 「ヂフテリ」ノ豫防 Prophylaxe der Diphtherie

「アナフィラクシー」(Anaphylaxie)ナル現象アルヲ以テ、豫防有効期間ノ短キ(約3週間)治療血清ヲ注射スルコトハ現今餘リ行ハレズ、故ニ免疫效力ノ強クシテ長ク持續スル、而モ危険性ナキ活動性免疫(Aktive Immunität)ヲ企圖シ、パーク(Park)ハ1914年、毒素、抗毒素混合液(Toxinantitoxingemisch)ノ皮下接種ニヨリテ之ニ成功セリ。

次ニラモン(Ramon)ハ同じ意味ニテ一層有效ナル「アナトクシン」(Anatoxin)ナルモノヲ注射シテ之ニ成功セリ(1923)。

之ハ「ヂフテリ」毒素ヲ變化シテ無毒ニシタル「トクソイト」(Toxoid)

本法ニ於テ注意スベキハ

a) 液柱ノ脈搏性動搖ガ腰椎穿刺ヨリモ著シキコト

b) 坐位ニ於テハ陰壓ニ近ク側位ニ於テハ腰椎穿刺時ト殆同ジ

c) 脊椎管ニ閉塞アレバ Queckenstedt 症狀ハ陽性ニ腰椎穿刺液ニハ陰性ナルコト、且ツ比重高キコト等ナリ、此方法ハ想像スル程危険ハナキモノナリ。

ガ抗原性アルコトニ考及ビ完全ニツクリシモノナリ。

Ramon ノ「アナトクシン」ハ「ヂフテリ」毒素ニ 0.3—0.4% ノ割合ニ「フォルマリン」ヲ加ヘ 40°Cニ4週間以上置クトキハ毒素ガ完全ニ「トクソイト」ニ變ズ、之ニハ血清成分ナキヲ以テ「アナフィラクシー」ノ憂モ少ク、抗毒素ヲ產生スルカモ大ナルヲ以テ、我國ニモ初メヨク用ヒラレタリ、其後我國ニテハ細谷(省吾)、精製毒素ヨリ製出シタル精製「アナトクシン」ヲ用ユルニ至リ、副作用ハ一層輕微ニシテ效果ノ大ナルヲ認メラルルニ至レリ。

幼小兒ハ元來血清中ニ「ヂフテリ」

抗毒素ヲ有セザルヲ以テ6歳以下ハ總テ「ヂフテリ」感受性アルモノトシ、6歳以上ニハハシク Schick 反應(154,295頁ヂフテリ一篇參照)ヲ行ヒ陽性者ニ注射ス、然ル時ハ免疫ガ成立ス。病後免疫ハ一般ニ短期間ニシテ長クトモ三年間ナリ、而モ極重症ニハ却テ抗毒素生成ハ減少ス。

普通治療血清ヲ以テ得ラルル被動性

免疫(Passive Immunität)ハ其持續期間短ク、將來ノ血清ニ對スル過敏性ヲ貼スニ過ギザルヲ遺憾トシ、長ク免疫性ヲ得セシメントシテ「フォルモクチン」(Diphtherieformovakzin)ヲツクレリ、之ハ三回注射スレバ永久ニ抗毒性アリ、故ニ血清注射ト同時ニ應用ス。

IV 「アナフィラクシー」ノ豫防 Vorbeugung der Anaphylaxie

「アナフィラクシー」(Anaphylaxie-Richet)トハ無防禦現象(Schützlosigkeit)ノ意味ニシテ動物體ニ異種蛋白質一回注射シ10日以上ニシテ同じモノヲ再注射スル時一種特有ナル症狀ヲ起シ、重キハ「ショック」狀ニナリテ斃レ、輕キモ輕度ノ痙攣、體温降下、血液循環障礙ヲ免レズ。

蛋白質ノ第一回注射ニヨリ體內ニハ多量ノ「アナフィラクシー」抗體ヲ生ズ、抗體ハ次第ニ時日ト共ニ増加シ來リシ時(10—14日後)、再以前ノ蛋白質即チ抗原ガ注射セラルル時ハ優勢ナル抗體ガ一時ニ抗原ヲ分解シ、或未明ノ有毒物質ヲ生ズルヲ以テ此怖ルベキ症狀ヲ惹起スルモノナリ。

之ハ他ノ免疫反應ト同ジク鋭敏ナル特異性アリ、故ニ「ヂフテリ」血清

ノミナラズ、總テ血清注射ヲナスニハ以前ノ血清注射ノ有無ヲ調査シ、「アナフィラクシー」ヲ警戒セザル可ラズ、而シテ其處アラバ豫防法ヲ講ゼザル可ラズ、即チ

1. 抗原ノ再注射量ヲ遙ニ減ズル事、實際ニ當リテ再注射ヲナス時、「ヂ」血清 0.2—0.5cc.ヲ注射シ、5—10分間狀況ヲ觀察スル時ハ怖ルベキ Schock ノ發來如何ヲ知ルコトヲ得、又若シ多少惡寒位アリテモ何事モナクシテ終ルモノナリ、斯ク何等不快症狀ナク耐過シタル患者ニ、次々ヘト中等量ノ血清即チ抗原ヲ注射シテモ、怖ルベキ症狀ヲ起スコトナシ、即チ患者ハ「アンチアナフィラクシー」(Antianaphylaxie)ノ狀態ヲ得ク

ルモノナリ、此事實ハ既ニ「デフテリー」療法篇 154, 295 頁ニ再三述タル所ナリ。

V 血清病 Serumkrankheit

治療用免疫血清ヲ注射スレバ人ニヨリ……約全注射數ノ $\frac{1}{3}$ ……種々ノ症狀ヲ起ス。

「アナフィラクシー」ト異リ、第一回注射ニ依テ既ニ發スル疾病ナリ、通例、血清注射後一週間ヲ經テ部分的或ハ全身ニ蕁麻疹(Urticaria)様ノ發疹ヲ生ジ、少シク浮腫狀ヲナス、痒感強ク、多ク發熱シ、淋巴腺腫脹等ヲ見ル、甚シキハ蛋白尿、關節痛、嘔吐モ見ル、數日ニシテ多ク恢復スト雖、頻繁ニ症狀ノ再發スルモノアリ、之ハ治療血清ヲ多量ニ用ユル爲ニ起ル一種ノ「アッレ

VI アレルギー Allergie oder Ueberempfindlichkeit(Pirquet)

個體ガ異種蛋白質ニ依テ感作(sensibilisieren)セラルル爲ニ、次ニ同一物質ニ會スル時、特異ノ反應ヲ呈スルニ至ル状態ヲ「アレルギー」トイフ、故ニ「アナフィラクシー」トハ本態的ニ同一ナリ、故ニ定義上兩者ハ明確ニ區別シ難シト雖、「アナフィラクシー」ガ獨リ血清注射(動物性蛋白)ニ依テ強ク現ハルルニ對シ、「アレルギー」ハ

ii. 「アンチアナフィラクシー」ノ現象ハ緩徐ニ血清ヲ再注射スル事ニ依テモ可ナリヨク賦與セラル。

「アレルギー」性反應(Allergische Reaktion)ナリトセラル、本病ノ豫防法ハ次ノ如シ。

- i. 陳舊血清ヲ用ユルコト
本病ノ原因ヲナス「グロブリン」(Globulin)ガ沈降シ、上澄ミヲトリテ注射スル意味ニテ有效ナラント思ハル。
- ii. 55°C 位ニ加温シテ後用ユルコト
加熱ニヨリ變性セシムルニヨルモノナラン。

細菌性蛋白(主ニ植物性蛋白)ニ依テ感作サレ、個體ノ細胞ガ敏感ニナリ、再其蛋白ニ會シテ、然迄重カラズト雖特異ノ症狀ヲ起ス點ニ於テ多少ノ差ヲ認ム、故ニ同一現象ヲ別名ニシテ茲ニ述ブル譯ナリ。

而シテ「アレルギー」ヲ起ス抗原トイフベキ物質ヲ「アレルギーン」(Allergen)トイフ、「アレルギーン」ト

シテハ細菌蛋白、毒素、血清、花粉、枯草、塵埃等ヲ舉グベシ、故ニ強力ナラザル「アレルギーン」ヲ利用シテ「アレルギー」トイフ特異ノ反應ヲ起サシメ診斷ニ應用ス、「デフテリー」ニ於ル Schick 反應、結核ニ於ル Pirquet, Mendel-Mantoux 反應、枯草熱ニ於ル「ポランテン」(Pollantin)、微毒ノ「ルエチン」(Luetin)、馬鼻疽(Malleus)ニ於ル「マレイン」(Mallein)等皆之ニ屬ス。

「アレルギーン」ハ注射ニヨラズシテ單ニ接觸、吸入、飲食ノミニ依テモ起ルモノニシテ、彼ノ神經性鼻炎ナル

モノモ、余ハ皮膚、羽毛、毛髪等ノ不可視微片ガ知ラズ知ラズ個體ヲ感作スルコトアリテ起ルモノナラント信スベキ症例ニ會ヒシコト一再ニアラズ。

「アレルギー」様反應ニ類スル特異質(Idiosynkrasie)ナルモノアリ、藥物ニテハ「アスピリン」、「アンチピリン」、「サルフェルサン」、沃度、食物ニテハ鰹、鮪、蝦尾、等ノ如キヲトリシ際、特異ノ反應ヲ呈スル體質アリ、之ガ説明ハ未ダ確定セズト雖、上記ノ藥、食料品ガ体内ニ入ルヤ體細胞ニ作用シテ特殊ノ物質ヲツクリ「アレルギーン」トシテ作用スルモノナラントイフ。

VII 輸血 Bluttransfusion

a) 自家輸血 Autotransfusion

b) 同種輸血

Homoplastische Transfusion
ノニアリ

a) 自家輸血

出血ニヨリテ心機能ノ衰弱ヲ起シタルトキ、或ハ種々ノ原因ニヨリテ腦貧血ヲ起シタル時、重要ナル各器官ニナルベク血液ヲ多カラシメテ機能ヲ恢復セントスル目的ナリ、故ニ先ヅ下肢ヲ舉上シ、頭部ヲナルベク低位ニ置クコトハ即チ此自家輸血ニ他ナラズ。

腦貧血ノ如キ輕症ニ於テハ有效ナレ

ドモ、多量ノ出血ニ於テハ此方法ハ大ナル效果ヲ期待シガタシ、眞ニ救急ノ意味ニテ用ヒラルルノミ、故ニ現代醫學ニ於テハ出血其他ノ治療ニ對シテ最ニ有效ナル同種他家輸血即チ血型ノ適應スル他ノ個體ヨリ得タル血液ノ血管内輸入ノミヲ行ヒ、單ニ此方法ノミヲ輸血ト解シテ可ナル程ナリ、以下此意味ノ輸血ニツキテ述ブベシ。

b) 輸血即チ同種他家輸血

血液ヲ以テ出血ヲ補フ方法ハ既ニ甚古ク考ヘラレ、且ツ行ハレ來レリ、即チ動物血ヲ以テシ、或ハ脱離維素血

(Defibriniertes Blut) を以テシ、或ハ食鹽水注入ノ考案、動靜脈縫合ニヨル直接輸血法ノ成功等ニヨリ種々ノ變遷ヲ以テ此方法ハ次第ニ發達セリ、殊ニ Landsteiner ノ同種血球凝集反應 (Isohämagglutination) ノ發見、Moss, Jansky 等ガ不變ノ血液型ニ四種アルコトヲ發表 (1907) シテヨリ、之ニ關スル研究續出シ、現在ハ其應用範圍モ單ニ出血ヲ補フノミナラズ、各種ノ傳染性若クハ系統的疾患ニ向テ擴張シ安全性ヲ増セリ。

A 豫備試驗

給受兩血間ニ適否アリ、之ヲ主トシテ血液型ニヨリ判定ス、血液型ハ四種ニ分類セラレタリト雖、研究者ニヨリテ其各型相互ノ命名ニ差アリ (下表參照)。

命名者	型 稱			
Jansky	I	II	III	IV
Dungern	O	A	B	AB
Zincer	I	III	II	IV
Moss	IV	II	III	I

而シテ此他ニ猶異型ヲ細別スル研究アリ (例之、同種血球凝集素ニモ主、副兩成分アリ、主成分ハ強ク、副成分ハ同血型間ニ於テモ少シク凝集ヲ起シ比較的弱ク反應ス)、Meltzer ノ如キハ同一血型間ノ輸血ニ不快ナル經驗ヲナシ

タリシモ、吾人ハ臨牀上、生物學的前試驗ヲナサバ、大體四種別ヲ以テ大ナル不都合ヲ見ズ、但シ出血ニ對スル如キ大量ノ輸血ニハ給血者ノ血清量モ相當多量ニ上リ、受血者ニ不利ナルコトヲ顧慮セザル可ラス。

B 血型判定法 Die Bestimmung der Blutgruppe

給、受血兩者間ノ血球凝集ノ關係ヲ調査シ適否ヲ檢スベシ、然ラザレバ種々ノ目的ニ反スル不快乃至危險ニ陥ルベシ、不適ナル場合ニ輸血セラレレバ、血球ガ血管内ニテ凝集セラレテ、臓器ニ栓塞ヲ起シ、局所ノ強痛、壓痛、浮腫ヲ起シ、又ハ溶血ニヨル中毒現象ヲ起シ不幸ノ轉歸ヲトルコトアリ。

現在 v. Dungern ノ命名ガ最普及セルヲ以テ、余ハ此命名ニ從ヒ赤血球中ノ凝集原ト血清中ノ凝集素トヲ調査シ、且ツ組合セラツクリテ凝集反應ノ有無ヲ見ルニ此表ノ如シ。

凝集原ト凝集素間ノ凝集反應

給血球 受血清	O	A	B	AB
O	-	+	+	+
A	-	-	+	+
B	-	+	-	+
AB	-	-	-	-

即チ O 型血球 (給血者トシテ) ハ O, A, B 及ビ AB 孰レノ型者 (受血者ト

シテ) ノ血清ニ入りテモ少シモ凝集反應ヲ示サザルコトヲ示シ、他方ニ O 型ヲ受血者トスル時ハ A, B 二種ノ凝集素ヲ有シ、自己ト同ジ O 型以外ノ血球ハ皆凝集セラルヲ知ル。

次ニ A 型血球 (給血者トスレバ) ハ A 凝集原ヲ有シ、O 及ビ B 型血清ニ凝集セラレ、A 血清 (受血者トシテ) ハ A 凝集原ヲ有シ B 及ビ AB ノ血球ヲ凝集ス。

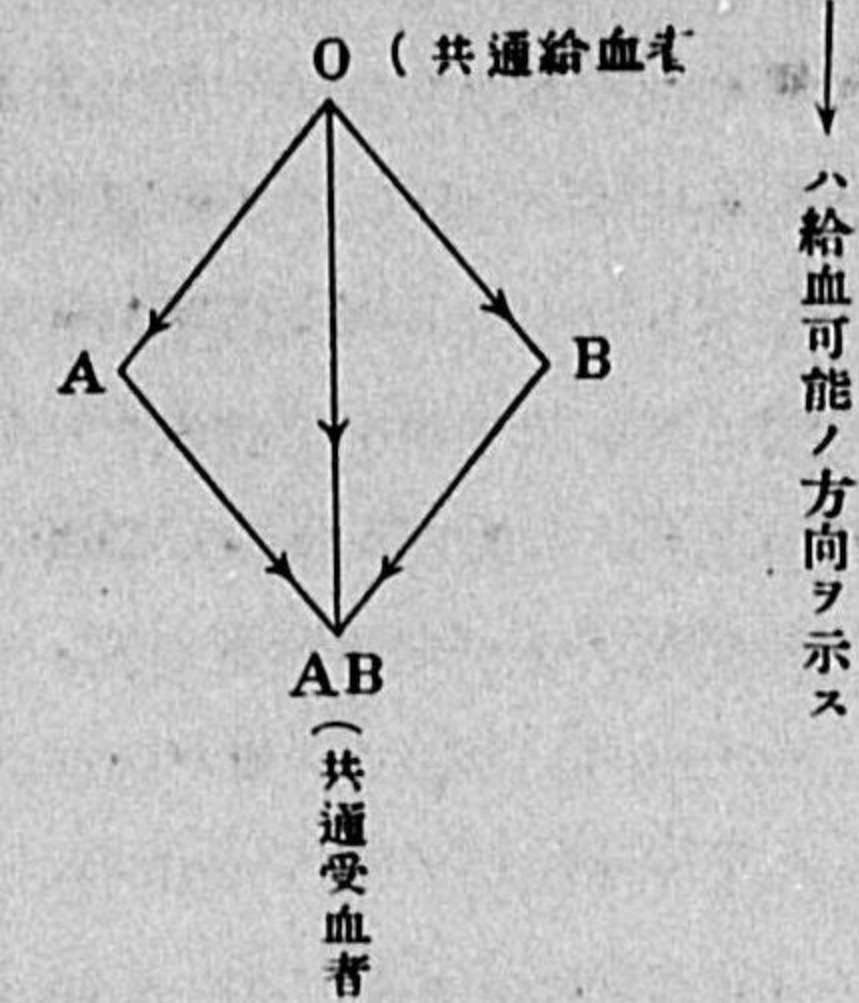
B 型血球 (給血者トシテ) ハ A 及ビ O 型血清ニヨリ凝集セラレ、血清ハ A 凝集素ヲ有シ、A 及ビ AB ノ血球ヲ凝集ス。

AB 型血球ヲ給血者トシテ用ユレバ A, B 及ビ AB 凝集原ヲ有シ AB 型以外ノ血清ニヨリ凝集セラル。而シテ此血清ハ凝集素ヲ有セズ、故ニ何レノ型ノ血球ヲモ凝集スルコトナシ。

以上ノ事實ヲ綜合シテ給受血可能ノ組合セラツクルニ、第三百三十五圖ノ如クナル、即チ O 型者ノ血液ハ四型孰レノ受血者ニモ凝集反應ヲ起サズ、故ニ輸血可能ナリ、故ニ O 型者ヲ共通 (或ハ萬能) 給血者 (Universalspender) トイフ。

A 型者ハ自己及ビ AB 型者ニ限り給血シ得、B 型血ハ自己ト同型及ビ AB 型者ニ限り給血シ得、AB 型者ハ

第三百三十五圖
給受血可能ノ血型圖

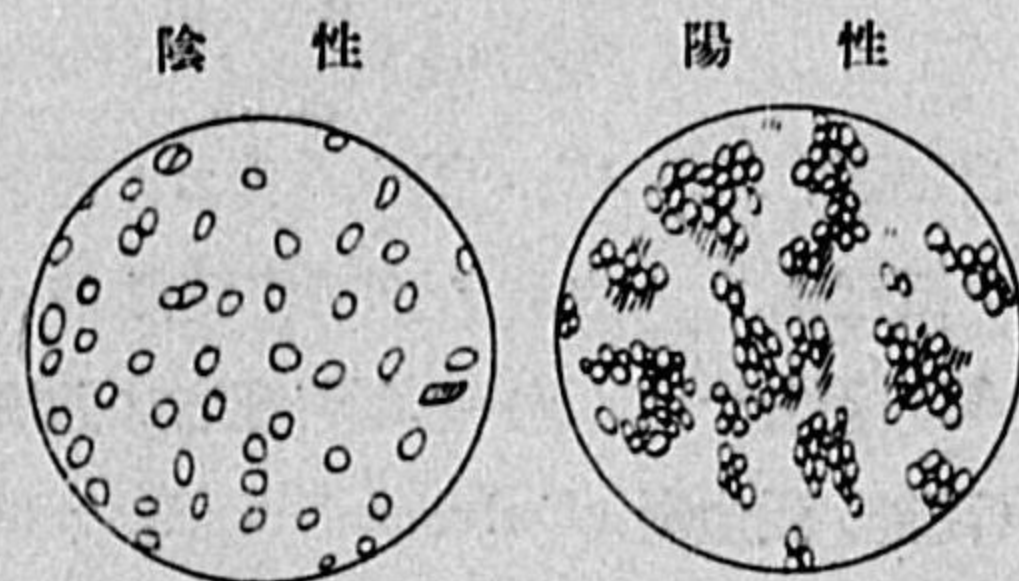


自己型者以外ノ者ニ給血シ得ズ、而シテ四型孰レノ血液ヲモ受容シ得ルハ AB 型者ナリ、故ニ AB 型者ヲ共通 (萬能) 受血者 (Universalempfänger) トイフ。

以上ノ概念ヲ得テ後、血液型ヲ判定スルニ A, B 兩型血清ヲ標準血清 (Standardserum) トシテ用ユ、之ハ豫メ A, B 型者ノ血清ヲ採取シ、0.5% ノ割ニ石炭酸ヲ加ヘ貯藏 (確實ニ有效ナルハ採取後半ケ年) シテ使用スルカ、或ハ「ヘモタイプ」(Hämotyp) ノ如キ便利ナル市販品ヲ用ヒ、指定ニ從テ少シク稀釋シ、暖キ室ニテ清淨ナル載物硝子二枚ノ上ニ、各二ヶ所ニ血清 (向テ左ニ A 型、右ニ B 型血清ヲ滴下シ、被檢者ノ耳垂或ハ出血部ヨリ取タル一滴血ヲ生理的食鹽水ニテ混ジ洗ヒ之ヲ

上記二ヶ所ノ血清點ニ別々ニ加フ、約5分間ニシテ此二枚ノ血清點滴中ニ凝集ノ起リシヤ否ヤヲ檢ス、即チ赤ク不規則形ニ凝集シタルハ陽性ニシテ、依然トシテ血清滴ガ彌蔓的ニ淡赤ニ混濁シタル狀ヲ示セバ陰性ナリ、慣レバ肉眼ニテモ判別シ得レド顯微鏡下ニテ弱擴大ヲナサバ確實ナリ。

第三百三十六圖
血球凝集反應ノ顯微鏡擴大圖

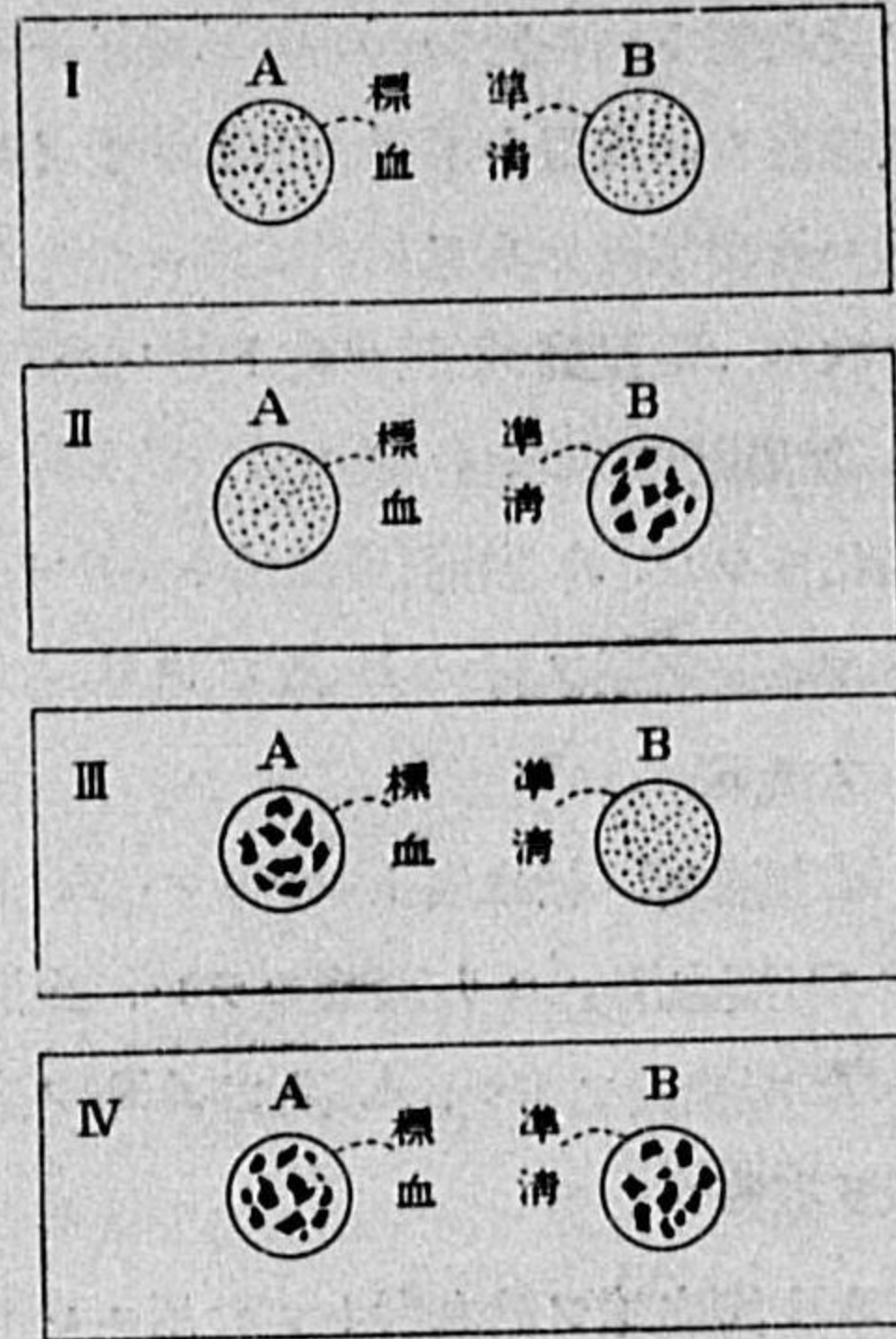


血球均等散在 血球不規則形凝集

而シテ此載物硝子列(第三百三十七圖)ノ向テ右ニアルB型標準血清ニ凝集起リ、A型血清ニ起ラザルコト(II)ノ如クナラバ被檢者ハA型ニ屬ス、反之(III)ノ如クA型血清ニ凝集起リB血清中ニ起ラザル時ハ被檢血ハB型ニ屬スルヲ知ル。

同様ニシテ標準血清A、B共ニ凝集ヲ見ザルコト(I)ノ如クナラバ被檢血ハO型ニ屬シ、A、B共ニ凝集起ルコト(IV)ノ如クナラバ、ソハAB型ナリト判定ス、通例吾人ガ單ニA、B兩標準血清ヲ用テ四型ヲ判別シ得ルコト

第三百三十七圖
載物硝子上ノ血型判定



ハ之ニ依テ明ナリ。

此血型判定ハ必シモ標準血清ヲ用ヒズトモ受血者ノ血清ヲ用テ給血者ノ血型ヲ檢定シ得ルハ勿論、却テ實施ニ當リ簡單ニ、且ツ誤ナキヲ得ベシ。

以上ノ檢査ハ室温ノ甚シキ低キ(0°C)處ニテ行フ時ハ寒性凝集反應(Kälteagglutination)ヲ起シ、又餘リ濃縮シタル血清ヲ用ユル時或ハ餘リ時間ヲ檢査ニ費シタル時ハ假性凝集反應(Pseudagglutination)ヲ起シ、或ハ血球量ノ餘リ多量ナル等ノ爲ニ成績ヲ亂スコトアリ、注意スベシ。

給血者ニハ以上ニ依テ血型ノ適否ヲ

檢査スル外、一般健否ヲ知ルコトハ又甚必要ナリ、梅毒、結核、「マラリア」、「レブラ」ノ存否ヲ確メ置ザル可ラズ、我國ニ於テモ最近、給血者トシテノ資格ヲ血型ト共ニ調査シ、何時ニテモ所要ニ應ズルニ便セル治療機關ノ設アリ。

C 輸血ノ適應症ト禁忌

Indikation und Kontraindikation der Bluttransfusion

輸血ノ直接目的ハ

- i. 酸素ヲ運搬スル生活力アル赤、白血球、血小板、其他營養素、内分泌酵素、補體、抗體ヲ供給シ
- ii. 體液ノ補充
- iii. 造血器官ノ刺激
- iv. 止血作用
- v. 蛋白療法竝ニ免疫療法ノ一部

ヲナスニアルヲ以テ、其意義ヲ諒解セバ適應ノ範圍モ廣ク且ツ有效ナルト同時ニ、禁忌モ自ラ明ナルベシ。

D 輸血實施法 Ausführung der Bluttransfusion

i. 輸血ノ量

給血者ノ一般狀態ヲ顧慮シ 300—500c.c.ヲ採取ノ一回量トナス、受血者ニハ必要ニ應ジテ其量種々ニシテ、反復シテ毎日少量宛ヲ用ユルコトアリ、或ハ大出血時ニアリテハ多量ニ 500—1000 c.c.ニ上ルコトモアリ。

ii. 適否再檢査トシテノ生物學的前試驗 Wiedermalige biologische Vorprobe

血型ヲ調査シテ何等輸血ニ差支ナキ筈ナルニ、猶時トシテ多少ノ不快症狀ヲ見ルコトアリ、例之、受血者ハ不安トナリ、全然不適ト異リ、脾、腎部疼痛、嘔吐、裏急後重、顔色初メ急熱潮紅、後直ニ蒼白トナリ、虚脱ヲ起スニ至ラザル迄モ、憂慮ニ堪ザルコトアリ、是等ノ症狀ハ主トシテ溶血現象(Hämolyse)ニヨルナリ。

故ニ吾人ハ輸血 3—5 c.c.ヲ注射シタル時、一旦之ヲ中止シテ 5分間、受血者ノ一般狀態ヲ觀察シ、何等ノ不快症狀ヲ起サザル時、初テ必要ナル分量ヲ注射スベシ、之レ最安全ナル再檢査法ナリ。

E 方法ノ分類

甲) 直接輸血

- a) 血管直接連絡法
 - i 血管相互連絡法
 - ii 血管縫合器法
- b) 血管中介連絡法
 - i 中間ニ管ヲ挿入スル法
 - ii 注射器使用法
 - iii 陰陽壓應用法

乙) 間接輸血

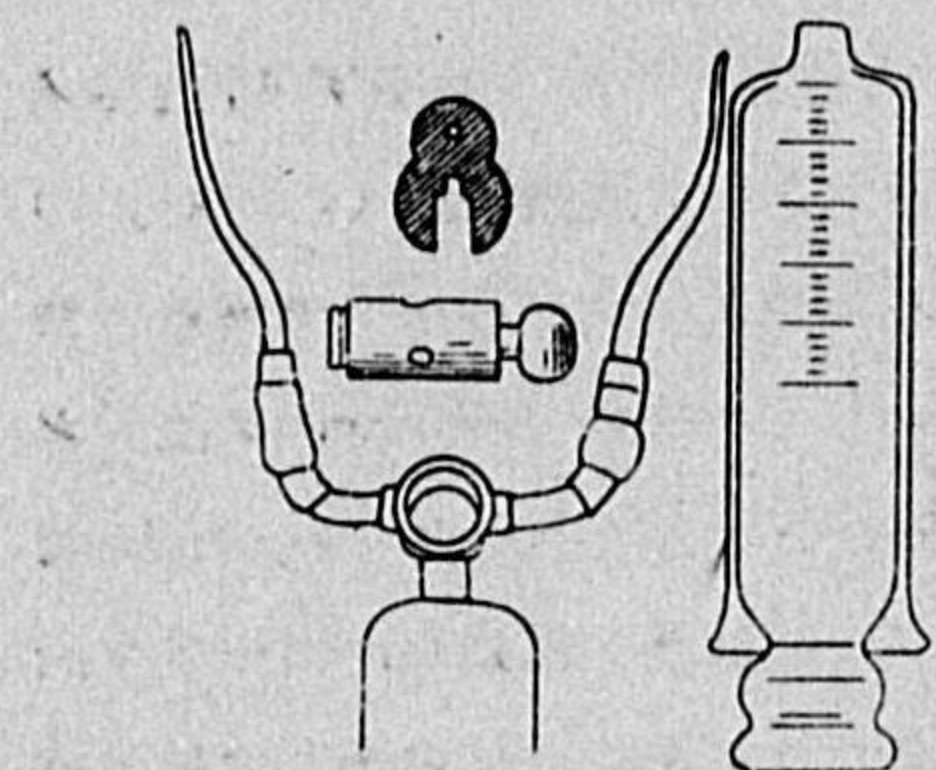
- a) 脱纖維素法
- b) 枸橼酸鹽法

此中甲 a) 法ハ理想的ナレドモ實行ハ容易ナラザルヲ以テ、甲 b) ii 法若

クハ乙 b) 法最多ク用ヒラル, 故ニ茲ニハ兩者ノミニツキ述ベシ。

甲 b) ii 血管中間管連絡直接輸血法 給, 受血兩者ノ肘部ヲ互ニ相反スル方向ニ一板面上ニ竝ベ, 消毒シタル後, 各要スル肘靜脈ヲ手術的ニ露出シ, ソコニ注射器筒付二道活栓ノ兩端ニ出ク

第三百三十八圖 Oehlecker 考案輸血器

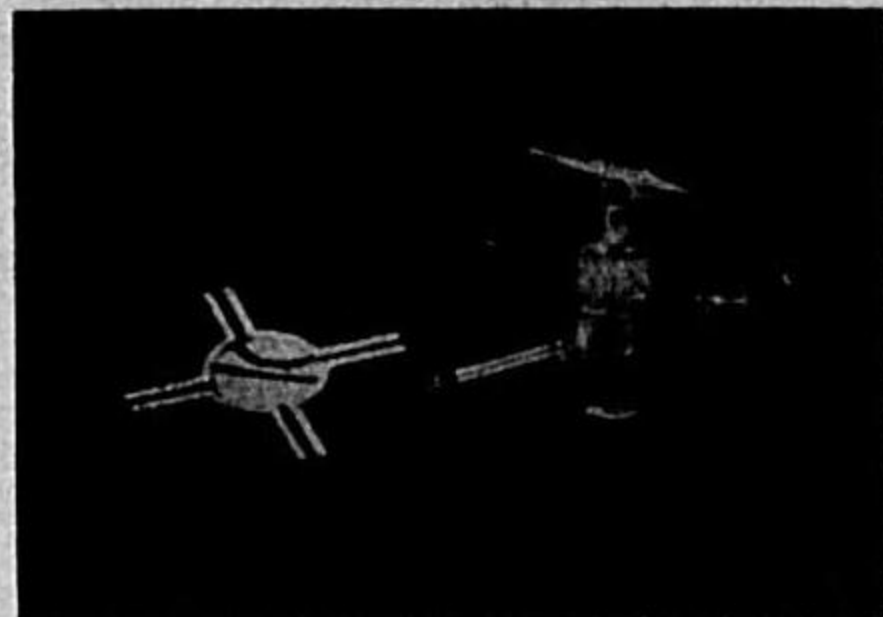


ル嚔管 (初ヨリ兩管内ニ生理的食鹽水ヲ入レ置クベシ)ヲ刺入(給血者ニハ中樞部ニ, 受血者ニハ末梢部ニ向ケ)シ「カットグート」絲ニテ脱離ヲ防ギ活栓ヲ合理的ニ捻轉シ, 少シク微温生理的食鹽水ヲ充シタル注射筒ヲ連絡シ, 一旦給血者ニ食鹽水ヲ送リテ通路ヲ圓滑ナラシメ, 次ニ血液ヲ吸引ス(約 50c.c.), 次ニ受血者ニ注入ス, 次ニ活栓ヲ中央ニ戻シ置テ注射筒ヲ取外シ, 食鹽水 20 c.c. ヲ入レテ又連絡シ, 給血者ニ 5 c.c. ヲ送リ次ニ血液ヲ吸取シテ之ヲ受血者ニ注入ス, 此操作ヲ反復シ必要量ヲ輸

血シ終ラバ給血者ニ鬱血帶ヲ解テ生理的食鹽水ヲ必要ダケ注入補充シ置ベシ, 後創口ヲ縫合ス。

第三百三十九圖

どれーゼの式輸血四道活栓ヲ示ス



第三百四十圖

どれーゼの式輸血ノ實施



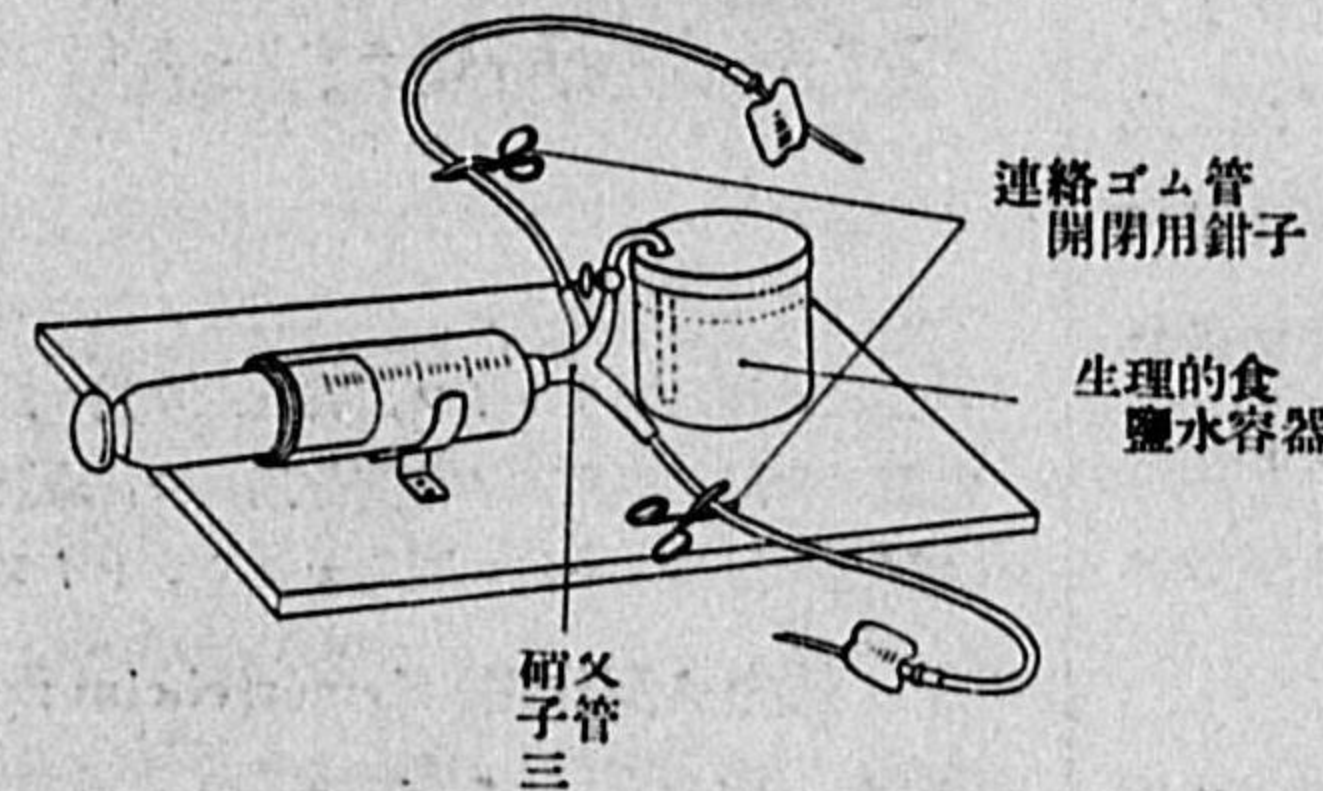
此おえーれつける(Oehlecker)法(第三百三十八圖)ハ其後諸家ノ改良スル所トナリ, どれーゼの(Dresel)ハ四道活栓ノ中介ニヨリテ々々注射筒ヲ取外シテ生理的食鹽水ヲ供給スルノ煩ナク, 唯四道活栓ヲ回轉スルコトニヨリ注射筒ハ單ニ筒内標(Stempel)ノ出入ヲナセバ目的ヲ達スル如キ便利ナル裝置ヲ案出使用セリ, (第三百三十九, 三百四十圖) 其他之ニ類スル考案甚多ク,

余モ初メ三又硝子管ニ圖ノ如キ連絡ヲナシテ簡單ニ此 Dresel 式ト同ジ作用ヲ發揮シタリ。

要スルニ甲, b) ii 直接輸血法モ, 乙, b) 間接輸血法モ效果ニ於テ同様ナリトスレバ孰レヲ用ユルモ可ナレドモ, 給受血兩者ノ同時同所ニ在ルコトノ不便ト輸血量等ヲ顧慮シテ余ハ少量反復

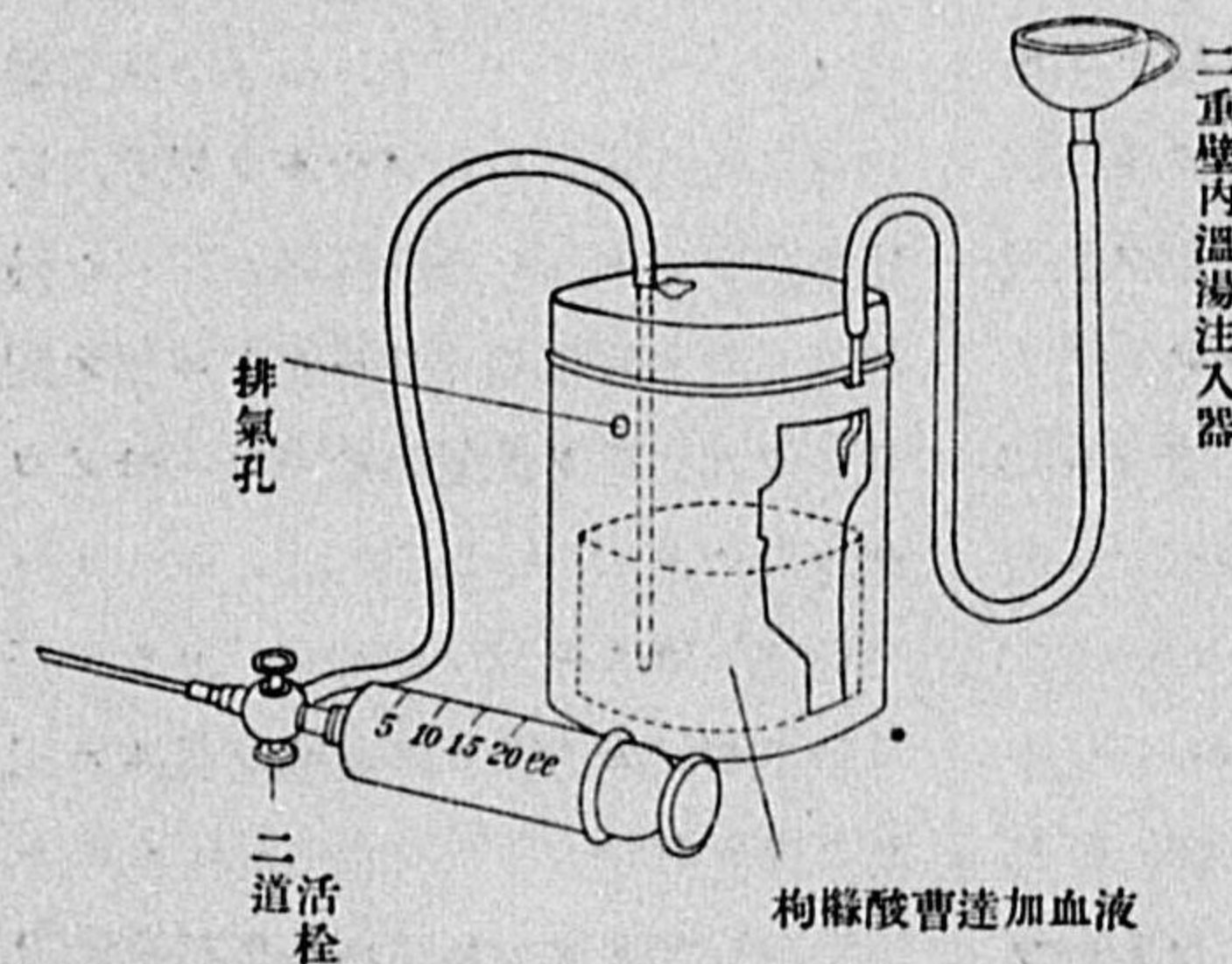
第三百四十一圖

自家三又管使用半直接輸血器



第三百四十二圖

河石式輸血裝置



輸血(例之上來屢述タル敗血症ノ如キ)ノ際ニハ 50 c.c. 注射器一本ニテ簡單ニ行ヒ得テ而モ枸橼酸「ソーダ」量ノ有害ヲ少シモ憂フル要ナキ方法即チ, 乙, b) 間接輸血枸橼酸「ソーダ」法ヲ用ヒ, 大量輸血(例之大量出血ノ如キ際ノ)ニハ甲, b) ii 中間管挿入直接輸血法ヲ簡單ナル三又硝子管連絡法ニ依テ行ヒ來レリ。

乙 b) 間接輸血枸橼酸「ソーダ」法

モ又種々ノ考案器ニ依テ行ハル, 我國ニ於テ屢用ヒラルモノニ河石法, 飯島法等アリ, 之ハ給, 受血兩者ガ同時ニ同一所ニアルノ要ナク, 多少ノ運搬モ可能ナルヲ以テ屢用ヒラル, 以下少シク此枸橼酸「ソーダ」法(Zitratmethode)トシテ代表的ナル河石法ニ就テ述ブ。

使用器具圖ノ如シ, 10% 枸橼酸「ソーダ」生理的食鹽水溶液ヲ, 採取セントスル血液量ニ對シテ 0.4% ノ割合トナル様ニ血液容器ニ入レ(500 c.c.

採取セントセバ 20 c.c. ヲ入ル) 其中ニ二道栓ニ連絡セル硝子管ノ先端ヲ浸シテ之ヲ吸引シ、注射針ノ尖端迄同液ヲ充タシ、注射器内ニモ 1 c.c. 位殘シテ給血者ノ肘靜脈ニ刺シ血液ヲ吸引ス、此際針ハ一々抜カズヨク長ク固定シ置ベシ、斯テ活栓ヲ回轉シテ注射筒ノ血液ヲ血液容器内ニ送リシ容器内ニテ枸橼酸「ソーダ」液ト混ジタル血液ヲ 1 c.c. 程吸ヒ戻シ、又其儘給血者ヨリ血液ヲ吸引シ之ヲ容器内ニ送ルベシ、此操作ヲ反復シテ必要量ノ血液ヲ得ベシ、次ニ容器内ニ置キシ硝子管ヲ以テ内部ノ血液ヲヨク攪拌ス、容器ヲ容ルル外槽ニ重壁間ニハ漏斗ヲ以テ温湯ヲ注入シ、内容ノ保温ニ供ス。

斯クテ得タル血液ヲ其儘受血者ニ用ユルモ可ナレドモ、猶注意シテ滅菌「ガーゼ」二三枚(一度生理的食鹽水ヲ通シテ附着セル微細「ガーゼ」纖維ヲ洗ヒ落スベシ)ヲ以テ濾過シ全ク凝固物存在ノ懸念ヲ去テ前記血液採取ノ装置ヲ其儘逆ニシテ受血者ニ輸血ス。

此輸血ハ前記ノ如ク初メ少量(3—5 c.c.)ヲ送入シ、五分間程受血者ノ一般状態ヲ觀察シテ後、何事モナキ時進デ全部ヲ極緩徐ニ注入シ終ルベシ、通例 500 c.c. ノ輸血ニハ 30 分間ヲ要ス、輸血量ハ體量毎 kg = 10 c.c. ノ割合ヲ

可トス。

血液凝固防止ノ爲ニ混ジタル枸橼酸「ソーダ」ハ勿論有毒ナリ、然レドモココニ 500 c.c. 輸血ヲナシタル時ノ全量ハ 2.0 gr.(0.4 % ノ割合ニ用ユルヲ以テ)ハ致死量(體量 1 kg = 對シ 0.25 gr)ヨリモ遙ニ少ク、且ツ既ニ注入後十分ニシテ流血中ニハ證明セザル程早く消耗、排出セララルモノナリ、而シテ吾人ハ枸橼酸「ソーダ」ノ爲ニ輸血後ニ血液凝固力減退シテ出血性ヲ増加セザルヤヲ憂フト雖、さばつたに(Sabattani)ノ實驗ニヨレバ、致死量以上ヲ動物ニ用ヒタル時初テ其血液ガ不凝固性ニナリシトイフ如ク、茲ニ速ル實用量ノ如キ少量ニテハ少シモ其愛ナキノミナラズ、凝固時間測定上却テ凝固性ヲ増進セラレ、血友病者ノ如キニハ止血ノ效果アリトイフ、其他之ガ爲ニ血色素ノ作用、白血球ノ噬菌作用ニモ、血清ノ抗毒作用等ニモ些モ變化ナカリシトイフ。

F 輸血ノ副作用 Nebenerscheinung der Bluttransfusion

單ニ生理的食鹽水ノ血管内注射ニスラ惡寒、戰慄、發熱ノ如キ反應症狀ヲ呈スルコト多キヲ以テ、複雑ナル有機的血液ヲ注入スルモノナルヲ以テ、反應モ強ク現ハルベキハ容易ニ想像シ得ベシ、之ハ枸橼酸「ソーダ」ニ依テ變化シタル血球ヲ注射スルニヨルモノカ未ダ明ナラズ。

輸血ニヨル一種ノ中毒症狀ニシテ甚不快且ツ時ニ危險ナル場合ヲ見ルニ三様アリ、即チ

G 輸血操作中ニ現ハル不快症狀

Ueble Erscheinungen während der Bluttransfusion

受血者ハ 20 c.c. 30 c.c. ト次第ニ注入血量ノ増加ニ從テ、腰、四肢ノ劇痛、胸内苦悶、顔面「チアノーゼ」、腹痛、呼吸困難ヲ呈シ、脈搏モ不正減數等ヲ起スコトアリ、故ニ直ニ中止シテ状態ヲ觀察シ、若シ中止ニ依テ直ニ恢復セバ更ニ注射時間ヲ緩徐ニシテ猶續行シテ可ナリ。

H 輸血直後不快症狀 Ueble Erscheinungen bald nach Bluttransfusion

30—50 c.c. ノ注射ニテハ起ルコト殆ナキモ、少シク大量ニスレバ多少直後ニ不快症狀ヲ見ルベシ、即チ惡寒、精神興奮、胸内苦悶、呼吸困難、眼瞼腫脹、顔面「チアノーゼ」、腹痛ヲ種々ノ程度ニ現出ス、然レドモ通例輸血法ノ禁忌ヲ冒サザレバ消退ス、斯ル一過性ノ不快症狀ハ血管運動神經ガ輸血ニ對シテ病的反應ヲ起シタル爲ニ血液循環ノ平衡ガ破ラルルニヨルトイフ。

I 輸血後長時間ノ後ニ來ル不快症

Ueble Erscheinungen, die nach dem langen Zeitraum der Ausführung vorkommen

之ハ蕁麻疹或ハ紅斑ヲ合併セル輕度ノ浮腫ヲ見ルモノナリ、中ニハ血色素尿、圓柱ノ如キ急性腎炎ヲ起ス、之ハ時ニ同一受給血者間ノ輸血ガ反復サル時ニ見ル現象ナリ、但シ少量ツツ短間隔反復注射ニ於テハ殆此現象ヲ見タルコトナシ。

之ハ受血者ノ血清中ニ特有ナル同種性凝集素及ビ同種性溶血素 (Isoagglutinin und Isohämolyisin) ヲ生ジタル爲ニシテ血型ガ適合シテモ大量ノ輸血反復ハ此現象ヲ起スモノナリトイフ。

J 輸血ノ危險

Gefahr der Bluttransfusion

空氣栓塞、急速注射モ警戒スベシ、「アナフィラクシー」現象ハ以前ニ蛋白體注射ヲナシテ一定時日後ノ注射ニ起ル不快現象ナルヲ以テ特ニ注意ヲ要ス、同一人種間ハ勿論親子間ニアリテモ血型ノ異ル場合ニハ危險アリ。

VIII 食道疾患ニ對スル營養法

Diätetik bei der Oesophaguskrankheiten

食道疾患ニハ又特別ノ營養法ヲ必要トス、少シク之ヲ述レバ

a) 急性食道炎

之ハ流動食、常食共ニ嚥下ニ當リ痛

ボカイーン」(邦製「ノボカイーン」ヲ「バンカイーン」ト稱シ總テノ點ニ於テ「ノボカイーン」ニ同ジク有效ナリ)ハ之ニ反シ毒力最微弱ナリ、而シテ最近販賣セラルル Pantocain (3. Butylaminobenzoensäure-dimethylamino-äthylester-monohydrochlorid)ハ中毒量體重毎 kgニ付 6~10 mg (靜脈), 30 mg (皮下)ナルガ故ニ毒性トシテハ「コカイーン」ヨリモ稍強シ、然レドモ作用ハ「コカイーン」ニ 20 倍スルヲ以テ濃度ヲ「コカイーン」ノ 1/10 ニスルコトニヨリ如何ナル手術ニ於テモ實際上ニハ中毒ヲ顧慮スベキ量ニ達スルコトナシ。

Nupercain (2. Butyloxy-4-chinolin-carbonsäure-diaethyl-amino-aethylamido-monohydrochlorid)ハ體重毎 kgニツキ 5-10 mg (皮下)ヲ致死量トシ、「バントカイーン」及ビ「コカイーン」ニ比シ毒力ニ於テ強キ觀アリ、然レドモ毒力ノ強大ハ一面效力ノ著大ナルヲ意味スルガ故ニ溶液濃度ヲ夫ダケ低下セシムレバ實用上少シモ憂フルニ足ラズ、唯注意ハ濃度ヲ誤ラザルニアリ。

㊦ 中毒現象ノ状態及救急法

Erscheinungsweise der Vergiftung und Verhütung derselben

各種ノ局所麻醉劑ニ示ス處ノ使用法ニ依レバ現今ノ局所麻醉藥ハ殆中毒ヲ顧慮スルノ要ナキモ被使用者ノ體質ニヨリ或ハ過誤等ニヨリ絶無トハナシガタシ、故ニ茲ニ少シク其徴候ヲ述テ救急法ニ及バントス。

藥劑ノ種類ニヨリ最近販賣セラルルモノハ多少ノ差違アレド大體ニ於テ重症ハ痙攣、「コーマ」及ビ呼吸麻痺ノ三ヲ主徴候トス。

文献及ビ實驗上人體ニ現ハルルモノト動物實驗トハ必シモ一致ハルモノニアラズ、人體ニアリテハ顔面蒼白、脈不整、脱汗、嘔氣、興奮、失神、痙攣、呼吸麻痺等輕重ニ從ヒ此順序ニ現ハル。

患者ノ治療所置中所謂急性中毒ヲ起セルモノノ中ニハ屢藥物其モノノ作用ニヨリ不快現象ニアラズシテ體質異常、他器官(殊ニ肺)ノ疾患、空氣栓塞、血管損傷等ガ原因ヲナスコトモ有り得ベク(Klaus, Harris 等ノ例)又鼻疾治療ニ於テ他部ヨリモ多ク現ハルル事ハ數字上ノ證明モアリ、之レ海綿組織ノ存スル鼻内ニ於テハ吸收ノ速ニ行ハルル爲ナラン(Schlemmer, Wodak)。

又併用スル所ノ副腎製劑若シクハ其集成品ニモ全然無關係ナリトナシガタキ症例モアリ。

重湯	30.0 c.c.	約一回分ニシテ之ヲ一日ニ回用ス
卵黃	2 個	
葡萄糖	10.0	
食鹽	1.0	
赤酒	少量	
生理的食鹽水	200.0	

胃管「カテーテル」ヲ以テスルコト能ハザルニ至レバ次ニ直腸ヨリ**滋養浣腸**ヲ行フ、之ニハ豫ジメ朝ニ於テ生理的食鹽水ニテ腸洗滌ヲナシ、内容ヲ除キ一時間後ニ肛門内ニナルベク深ク(10 cm)「ゴム」管ヲ挿入シ、肘膝位ニテ次ノ浣腸劑ヲ體温度以上 38°Cニ温メテ緩徐ニ注腸ス、一回ニ 300 c.c. 以上ヲ用ユ可ラズ、一日 2 回ニテ可ナリ、其材料ハ Boas ニヨルモノ屢用ヒラル、次ノ如シ。

牛乳	250.0 c.c.
卵白	2 個
食鹽	2 gr.
赤酒	15.0
小麥粉	15.0

注意

- i. 滋養浣腸劑ハ等調液ナルベキコト。
- ii. 餘リ長ク持續ス可ラズ、長ク 2

IX 胃洗滌法 Magenspülung

患者ヲ坐位ニ置キ(非常ノ時ハ仰位ニテスルコトアリ)、清淨ナル「ゴム」製胃洗管ヲトリ、先端ニ流動「パラフィ

週間ニ及ベバ**肛門炎**(Proctitis)ヲ起シテ化膿スル故ナリ。

iii. 效力ヲ過信ス可ラズ、蓋シ滋養浣腸ニテハ「カロリー」價モ所要窒素モ充分ニ得ガタキヲ以テナリ。

iv. ぶいふる(Pfeiffer)ノ實驗ニヨリテ明ナル如ク、大腸ヨリ蛋白ノ吸收セラルル量ハ甚微量ニシテ蛋白分解酵素モ生ゼズ、剩サヘ腐敗ガ起リ、夫ガ大腸ヲ刺戟シテ不快現象ヲ起ス、最近ハ純蛋白ノ代リニ酵素化學的ニ「アミノ」酸ニ分解シタル產物ヲ用ユ。

v. 蛋白ニ比シ遙ニ吸收ノヨロシキハ含水炭素及ビ脂肪ナリ、但シ吸收ハ可ナレドモ多量ハ腸粘膜ヲ刺戟スルヲ以テ浣腸料 300 c.c.ニ對シ 15 gr. 以上ヲ用ユ可ラズ。

vi. 刺戟ナキハ澱粉及ビ糖化穀粉ナリ。

vii. 「アルコール」ハ少量ハ甚ヨク吸收セラル、故ニ吾人ハ少量ノ葡萄酒ヲ混ジ用ユ。

ン」ヲ塗布シ、餘リ仰向カシメズシテ次第ニ咽頭、食道、胃ノ順序ニ送入ス、咽頭ガ餘リ過敏ナル時ハ局所麻醉劑ノ吸入

若クハ塗布ヲナスヲ可トス。「ゴム」管ガ胃中ニ入ラバ少シク腹壓ヲ加ヘシムルコトニヨリ、胃内容ハ或程度迄排出セラル、次ニ硝子製漏斗ヲ胃洗「ゴム」管ニ連絡シ、口ノ高サニ保チ、微温(34°C)生理的食鹽水 500-1000 c.c.ヲ徐々ニ注入スレバ氣泡ガ盛ニ出テ來ル、茲ニ於テ少シク漏斗ヲ傾ケ、氣泡ノ出ザルニ至テ漏斗ヲ少シク舉上シ、漏斗内ノ液ガ全部流下シ去ラザル間ニ再漏斗部ヲ徐々ニ降下スレバ内部ノ液ハ交通セルガ故ニ、胃内容ハ漏斗内ニ現ハレ來ルベシ、漏斗内々容ヲ捨テテ

再前記ノ微温生理的食鹽水ヲ加ヘ同様ノ操作ヲ反復シテ胃中ヨリ出ル液ノ澄明トナル迄洗滌シ、最終ニハ漏斗ヲ下ゲテ液全部ヲ排出セシム。

洗滌ヲ終テ「ゴム」管ヲ引抜クニハ管ノ外端ヲ強ク指壓シタル儘、一舉ニ躊躇ナク引抜クベシ、其末端ガ喉頭部ヲ通過スル際、内部ニ殘リシ液ガ氣管ニ侵入セザル爲ナリ。

特殊ノ場合ヲ除キ、胃洗滌ハ通例夜間ニ行フヲ常トス、此方法ヲ反復スレバ後ニハ患者自ラ之ヲ行ヒ得ベシ。

X 鼻洗滌法 Nasenspülung

鼻科篇「療法一般」ニ詳説セリ。

XI 航空ト耳鼻咽喉科學

Die Luftfahrt und Otorhinolaryngologie

吾人人類ガ長ク空想セル空中上昇乃至飛行ハ遂ニ初メテ氣球ニ依テ實現セラレ、遂ニ 1896年ニハ Langleyニヨリ空氣ヨリモ重キ蒸氣機關ヲ有スル航空機ノ出現ニ至レリ、爾來屢々トシテ進歩シ 1903年ニハ Right兄弟ニヨリ實際ニ飛行セラレシモ 1914年世界大戰ノ起ルニ及ビ急激ニ飛行機及飛行術ノ發達ヲ見、他方ニ氣球ヨリ發達セル飛行船モ軍用以外ニ改良セラレ、兩

者相俟テ現在上昇ニモ速度ニモ機構ニモ目醒シキ状態ニ達セリ。

然レドモ航空ナルモノハ吾人ノ自然生活ヲ著シク超越シタルモノナルガ故ニ之ヲ實行スルニ當テハ環境ノ變化上吾人ニ種々ノ影響ヲ與フルモノナリ、即チ吾人ハ精神的疲勞、高速度、上空ノ酸素缺乏、氣温ノ變化、身體ノ動搖等ニ應ジ種々ノ刺戟ニ適應調節ヲ要ス、之ヲ研究ノ對象トスルハ航空醫學

(Luftfahrtmedizin) ナリ、

Bauerニヨレバ英國ニ於テ世界大戰ノ初年、慘死セル飛行家 100人中 90人ハ各自ノ身體缺陷ニ原因シタリトイフ、爾來飛行家ノ身體的資格ニツキ各國トモ調査研究ノ結果、大戰中モ慘死者ノ數ハ著シク減少シタリトイフ。

現今各國トモ飛行家乃至航空家ノ身體的資格及ビ其健康維持等ハ生理學、眼科學、耳科學、精神科學、心理學ノ調査ヲ嚴重ニシテ初メテ決定スルニ至リ、各國トモ研究所ヲ設ケ、航空醫學ハ一分科ヲナセルノ觀アリ。

以上ハ専門的飛行家ニ對スル要求ナリト雖、航空交通ノ次第ニ發達シツツアル現今、一乘客トシテモ、其資格ハ幾分飛行専門家ニ準ジテ行ハレザル可ラズ。

是等航空醫學中、我領域ニ屬スルモノヲ説述スベシ。

飛行家トシテノ資格

Bedingungen als Luftfahrer

吾人領域ニ於テ聽器殊ニ前庭器官ノ如キ特ニ身體平衡ヲ司ルモノヲ取扱フヲ以テ殊更航空ニハ密接ノ關係アリ。

聽器 Gehörorgan

飛行機内ニ於ル個人間ノ談話ハ爆音ニ妨ゲラルルコト多キモ特殊ノ裝備ニヨリ之ヲ可能ナラシムルガ故ニ殊ニ

健全ナルヲ要ス、爆音ノ變化ニ依テ内燃機關ノ故障ヲ知ル上ニモ健全ナルベキハ論ヲ俟タズ、況ヤ聽力不完全ニシテ前庭器ノ完全ヲ求ム可ラザルニ於テヲヤ、然レドモ長ク航空ニ従事スルモノハ其不斷ノ爆音ニヨリ遂ニ職業性難聽(Professionelle Schwerhörigkeit)ニ陥ルコトヲ免レザルヲ如何セン、故ニ此職ヲ選ブモノニ於テハ少クモ初ハ健聽者ナラザル可ラズ。

從テ外聽道、鼓膜、中耳腔、歐氏管、内耳ノ順序ニ精細ニ検査ヲ要ス。

外聽道ハ尋常ナルベク、鼓膜ハ慢性穿孔性中耳炎(Otitis media chronica perforativa)治後ノ瘢痕ト雖、氣壓ノ激變ニヨリ容易ニ再破裂シ易キヲ以テ正常ナラザル可ラズ。

歐氏管ハ自在ニ開通シ、苟モ閉鎖ノ如キ中耳内氣壓ノ調節ヲ妨ル如キヲ忌ムベシ、若シ適時此調節性ヲ缺カバ氣壓ノ急變ニヨリ頭痛、耳痛、眩暈、難聽等ヲ來スヲ以テナリ、故ニ既往症モ充分ニ參考スベシ。

内耳ハ音響感受以上ニ彼ノ前庭ノ司ル平衡作用ノ健否ヲ検査スベシ。

飛行中ノ體位ハ常ニ變化アリ、殊ニ宙返リ、橫轉、錘揉ミノ如キ、橫軸、縱軸ノ周圍ヲ回轉シ、最強ク前庭器ヲ刺戟スル際ニモ猶正當ニ體位ヲ感覺セザ

ル可ラス、之ニハ迷路器官、骨關節ヲ綜合スル筋肉ノ健全ヲ要スルノミナラズ、視力モ與ルヲ以テ之ヲ顧慮スベシ、故ニ平衡感覺トハ以上ノ種々ナル器官ノ綜合的機能ナリ、而モ前庭器ノ過敏ニシテ僅ノ動搖ニモ酔フ者ハ飛行家ニ適セズ。

鼻、咽喉

鼻腔ハ開通セザル可ラス、蓋シ鼻閉塞ニヨル呼吸ハ肺ノ擴張ヲ不充分ナラシメ、從テ 6000 m. 以上ノ空氣稀薄ナル高空ニテハ鼻呼吸者ヨリモ一層強ク呼吸困難ヲ感ズレバナリ、又鼻閉塞ハ屢中耳疾病ノ原因トナルヲ以テ、豫ジメ適當ニ處置セザル可ラス。

扁桃腺肥大及ビ其炎症ハ個體ヲ疲勞セシメ、又急性傳染病ノ誘因トナルヲ以テ適當ニ治療セザル可ラス。

要之、我領域ニ最深キ關係ヲ有スル部位ノ健全ハ飛行家トシテ具備スベキ資格ヲ左右スルモノニシテ、他領域ノ健全ヲモ少シク之ニ加フル時ハ飛行家トシテノ資格ハ殆全醫學分科ニ亙テ初テ決セラルベキナリ。

健康者ハ高度 2000 m. ニ於テハ苦痛ヲ訴ヘズト雖、呼吸器、心臟兩病者ハ各之ニ堪ルコトヲ得ズ。

如何ニ健康者ト雖、高度 6000 m. 以上ニ至レバ呼吸、脈搏増進シ、倦怠、頭

痛、眩暈、嗜眠等ノ症狀ヲ呈シ、注意力、思考力等ハ鈍麻ス、之ヲ高空病(Höhenkrankheit)ト稱ス、之レ皆酸素ノ缺乏ニヨルモノニシテ、斯ノ如キハ酸素吸入ニ依テ救防シ得ベシト雖、肺活量 3000 Centilitre 以下、止息 30 秒ニ堪ザルモノ、血壓 150 以上ナル者等ハ高空ニ堪ズ。

而モ航空ニ必要ナル條件トシテハ以上ノ外、忽ニシガタキハ常ニ異常ノ注意、意志、節制等心理的努力ニ曝露スル職業人トシテ精神神経系統ノ確固健全ニシテ抵抗力ニ富メル者ナラザル可ラス。

斯ノ如ク職業人トシテハ異常ナル努力ヲ要求セラルルヲ以テ、其心身上ノ健康ニハ特ニ保護ヲ加ヘ、技能ヲ増進セザル可ラス、先ヅ注意スベキハ疲勞ナリ、神經、筋肉、呼吸、循環系ニ於テ現ハレ、主觀的ニハ初メ筋肉ノ部分的倦怠感ヲ起シ、遂ニ睡氣ヲ催シ、客觀的ニハ活動能力ノ減少ヲ見ルモノニシテ、新陳代謝ノ化學的不要產物ノ蓄積ニヨルナリ、故ニ此状態ニ至ラバ充分ニ睡眠休養ニヨリテ自然ノ恢復ヲ圖ラザル可ラス、若シ過度ニ疲勞セバ之ガ恢復ハ一日ニシテ足ラズ。

又不節制モ、胃腸疾患モ之ガ原因トナリ、心ノ平靜ヲ失フ、以上ノ疲勞ノ

防護上適當ナル休養ノ外ニ規則正シキ身體的訓練ハ特ニ必要ナリ、之ニ依テ骨節筋及ビ心臟ヲ發達セシメ、脈搏ハ整調ニシテ寧ろ遅ク、血壓ハ低ク、心臟ノ血流量ハ増シ、從テ血液ノ酸素運搬量ハ増加シ飛行能力ヲ増進ス。

又疲勞、難聴及ビ寒冷、高空病豫防法トシテ酸素吸入、眼鏡、耳遮響器、飛行帽、航空服等夫々ノ適當ナル考案ニナル物品ヲ準備セザル可ラス。

民間飛行家ハ軍事的飛行家程ニ身體的諸要約ヲ具備スルヲ要セザル如キモ、規則的ニ且ツ長時間空中ニ責任ヲ以テ飛行スルノ職務ナルガ故ニ又可ナ

リ嚴重ナル諸検査ニ合格セル者ナラザル可ラス、我國ニ於テハ未ダ個人飛行家ナルモノヲ見ズト雖、將來之モ實現セラルベク、國際航空會議ニ於テハ是等軍事、民間、私人的飛行家トシテ具備スベキ諸條件ヲ規定セリ。

若シ吾人ガ乗客トシテ、或ハ單ニ乗務軍人トシテ飛行機ヲ用ユル時ハ勿論専門飛行家程ニ身體的要求ニ一致スルヲ要セズト雖、而モ過敏ナル前庭器、胃腸障礙ヲ有スルモノ、神經異常ヲ有スルモノハ航空ノ資格ニ乏シトイフベシ。

XII 局所麻酔ニ就テ Zur Kenntnis der Lokalanästhesie

A. 局所麻酔ノ歴史

Geschichtlicher Ueberblick

廣キ意味ニテイフ時ハ局所麻酔法ノ起源ハ吾人人類ト時ヲ同ジクスルモノトイフベシ皮膚ニ寒冷(Richardson, 1860)ヲ以テ或ハ壓迫(Ambroise Paré, Moore)ヲ以テ疼痛感ヲ減ゼントスル如キハ又不完全ナガラ局所麻酔トナン得ベキモ眞ニ光輝アル現在ノ如キ醫學上ノ一大方法トナリシハ實ニ「コカイン」(Cocain)ノ製出(1866)ニ續テ之ヲ眼科醫 Koller ガ 1884 獨逸眼科學會ニ其應用ヲ發表シテ以來ニ屬

ス、其後 Koller, Corning, Roberts & Wölffer 等ハ之ヲ以テスル組織ノ浸潤麻酔法(Infiltrationsanästhesie)ニ熟達シ Corning ハ Esmarch ノ顯血帶ヲ用ユル事ニヨリ「コカイン」溶液濃度ヲ減少セシメ得ル事ヲ知り Halstedt 及ビ Crile ハ分布神經幹ニ向ヒ直接作用ヲ試ムル傳導麻酔(Leitungsanästhesie 1885)ニ成功セリ、爾來各方面ノ應用ト進歩ハ益盛ニナリ且價值ヲ發揮シ最早全身麻酔ノ要ヲ見ズト迄言ハルルニ至レリ、此間ニアリテ「コカイン」ノ局所麻酔性ノ著シキ反面

＝毒性ノ強キ不利ヲ除カントシテ之
 ＝代ルベキ代用薬ノ創成＝モ種種ノ
 研究アリ、即チ 1891年 Gieselハ Java
 ノ「コカ」ヨリ採取スル第二ノ植物性
 薬品ヲ得、Liebermannハ 1892 之ヲ
 分析シ、Chadbourneハ之ヲ眼＝應
 用セリ、之レ Tropicocain ナリ、以
 上二種ノ天産局所麻醉薬ハ化學ノ進歩
 ＝ヨリ次第＝集成的 (synthetisch)
 ＝ツクラレ類似代用薬トシテ Eukain
 A (Merling, 1896), Eukain B (Vinci,
 1897), Stovain (Fournéau, 1904)
 Alypin (Impens, 1905), Holocain
 Aneson, Akoin Novocain (Einhorn),
 Tutocain, Nupercain Pantocain 等
 ノ製出セラルルモノアリシガ孰レモ一
 利一害ヲ伴ヒテ天産品「コカイン」ヲ
 凌駕スルモノヲ得ズ、多少ノ毒性ハ有
 効性＝依テ消滅セシメラルル「コカ
 イン」ノ右＝出ルモノナカリキ。

然ルニ 1905年 其ノ毒性ノ微少ニシ
 テ注射麻醉ニ用ユル時從來ノ總テ＝優
 越スル Novocain (Einhorn) ナル
 モノ現出セリ、其他現在「ツトカ
 イン」, 「ヌベルカイン」, 「パントカ
 イン」ノ如キ多數ノ優秀ナル集成的
 製品ノ次第＝増加セル時代＝拘ラズ天
 産品トシテ「コカイン」, 集成品トシ
 テ「ノヴォカイン」ハ夫々他ノ追隨

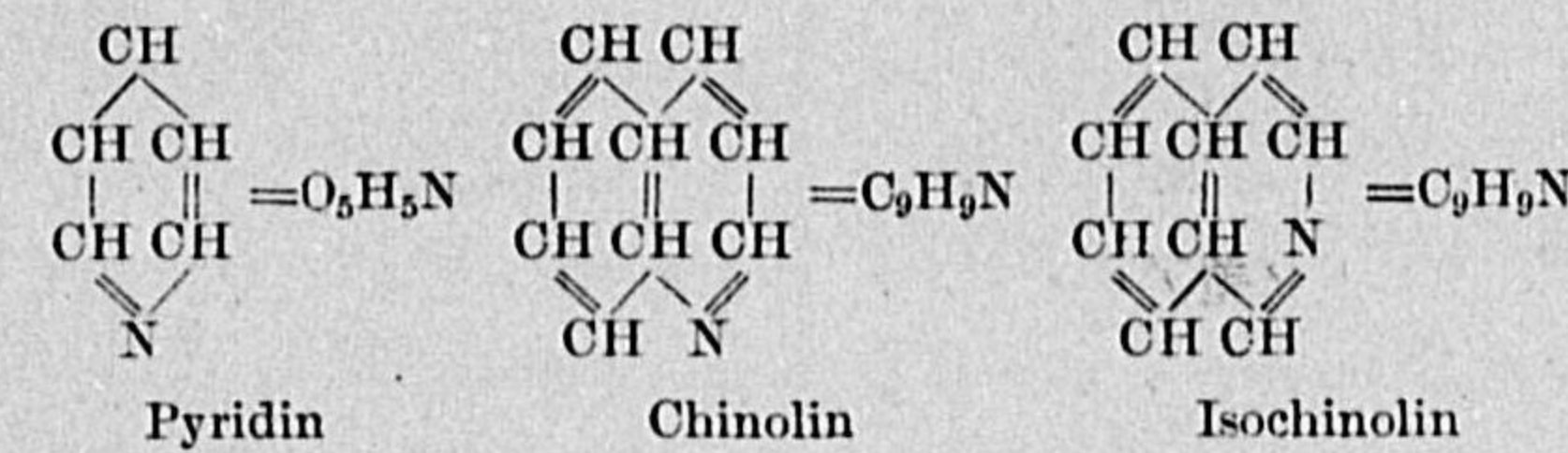
ヲ許サザル特徴アルモノトシテ今猶ホ
 局所麻醉界ニ君臨セリ。

局所麻醉薬ヲ説クニ當リ忘ラザ
 ルハ彼ノ副腎製劑「アドレナリン」
 (1905 高峯讓吉) ノ出現ナリ (後人工
 的ニ「ズブラレニン」出ツ), 此モノハ
 組織末梢血管ヲ收縮セシムル性能アル
 ヲ以テ自己ニ局所麻醉性ナシト雖、之
 ヲ局所麻醉薬ト伍用スル時ハ主薬ノ作
 用ヲ著シク増進セシメ從テ局所麻醉薬
 ノ濃度ヲ低下シ得、毒性ヲ減ジ得ルモ
 ノニシテ局所麻醉薬トシテノ條件

- i. 麻醉作用強クシテ而モ毒性ノ最
弱キモノ
- ii. 注射及ビ塗布麻醉法共ニ無刺戟
性ニシテ且組織ノ變化ヲ起サザルモノ
- iii. 水溶性ニシテ效力不變且滅菌法
ノ可能ナルモノ
- iv. 血管收縮劑ト併用シ得ルモノ
ノ一部ヲ擔當スルモノトイフベク實ニ
局所麻醉界ニ第二ノ紀元ヲ劃セルモノ
ナリ。

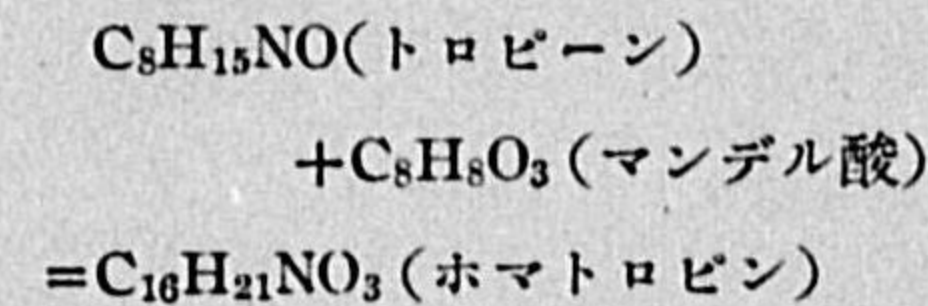
B. 局所麻醉薬ノ化學的構造ト作用
 トノ關係 Die wichtige Beziehung
 zwischen dem chemischen Bau
 und der anästhetischen Wirkung
 著明ノ生理的作用ヲ有スル「コカ
 イン」ノ如キ天産「アルカロイド」
 ハ鹽基性ヲ有スル一定ノ含窒素有機化

合物ニシテ此「アルカロイド」ハ其
 化學的構造ノ示ス如キ複素環狀化合物
 (Heterozyklische Verbindung) ニ屬
 スル一定ノ根基體ヨリ誘導セラルルモ
 ノナリ、此環狀化合物ハ Benzol 誘
 導體ニ於ル如ク炭素原子間ノ結合ニヨ
 リテ形成セラルルノミナラズ他ノ原子
 (局所麻醉劑ニ於テハ 窒素原子ナルヲ
 以テ "Hetero" ノ名ヲ冠ス) ヲソノ
 中間ニ挾メル環形ヲナス、此「アルカ
 ロイド」ノ根基體ヲナスモノハ「ピ
 リヂーン」(Pyridin), 「ヒノリーン」
 (Chinolin), 及ビ「イゾヒノリーン」
 (Isochinolin) ニシテ其化學的構造ハ
 次ノ如シ、即チ Pyridin トイフ根基體



ノ環狀結合即 5 個ノ C 原子及ビ、1
 個ノ N 原子ノ結合體ニ種々ノ形ノ原
 子環狀體ガ附著シテ猶一層複雑ナル化
 合物ヲツクル、今「ピリヂーン」ノ誘
 導體ナル「トロピーン」(Tropin)＝「ト
 ロバ」酸ヲ結合セシムルニ「アトロピ

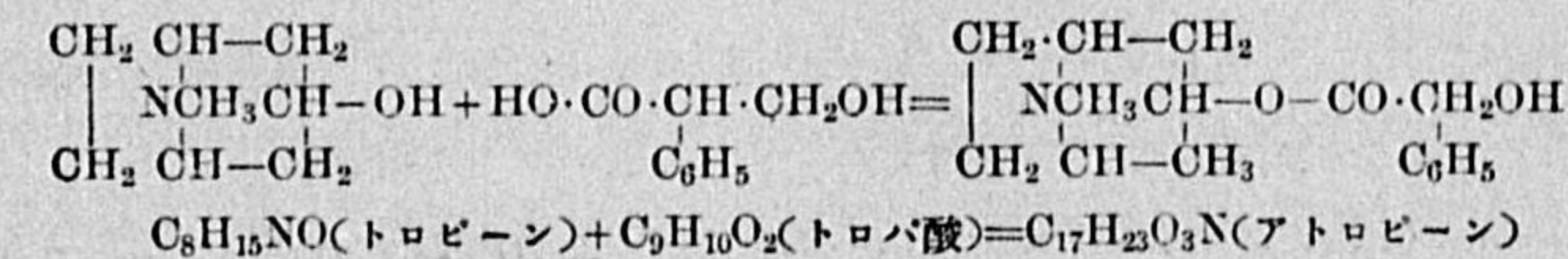
ン」(Atropin) ヲ生ズ。
 此「アトロピーン」ト同屬列ニアル「ホ
 マトロピーン」(Homatropin) ナルモ
 ノハ「アトロピーン」程刺戟性ヲ有セ
 ズシテ而モ麻醉性ハ遙ニ強キモノナ
 リ、依テ是等「ホマトロピーン」ノ化
 學式ヲ見ルニ矢張「トロピーン」＝「マ
 ンデル」酸ノ結合シタルモノナリ。



緒方(章)ニヨレバ此「トロピン」ナ
 ルモノガ「トロバ」酸ト結合スルカ、「マ
 ンデル」酸ト結合スルカニヨリテ局所
 麻醉性ニ差アリ、次ニ「トロバコカ

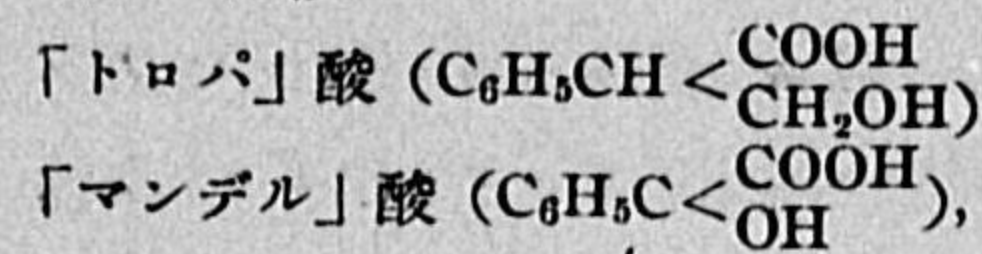
イン」ヲ見ルニ

$$\begin{array}{l}
 \text{C}_8\text{H}_{15}\text{NO} \text{ (トロピーン)} \\
 + \text{O}_5\text{H}_5\text{---COOH} \text{ (安息香酸)} \\
 = \text{C}_{14}\text{H}_{19}\text{O}_2\text{N} \text{ (トロバコカイン)}
 \end{array}$$
 式ノ如ク「トロピーン」ニ安息香酸ノ
 結合シタル「トロバコカイン」ハ更ニ



「ホマトロピン」ヨリモ麻醉性ノ強キヲ知ル。

「トロピン」ガ「ピリヂーン」環狀化合物ト類似ノ



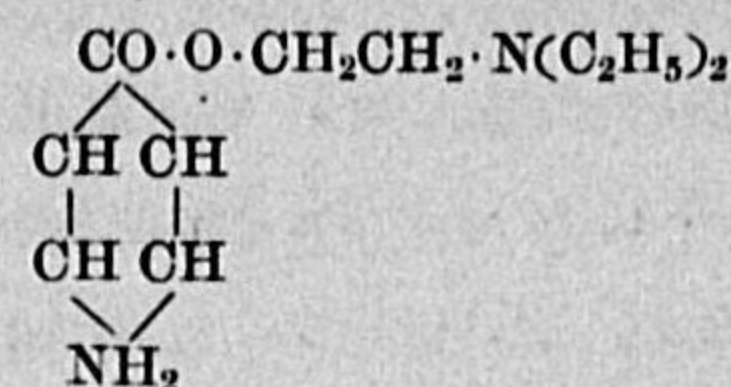
安息香酸 (C₆H₅COOH)

ノ順ニ、次第ニ化學式ノ簡單ナル芳香酸ト結合スルニ從テ、局所麻醉性ヲ増加スルコトヲ見出セリ。

而シテ「トロパコカイン」ト酷似ノ構造ヲ有スル「コカイン」ハ水酸化「バリウム」ト共ニ融閉硝子管中ニ 98°C 以上ニ熱スレバ「エクゴニン」(Ekgonin)ト安息香酸 (Benzoessäure) 及メチールアルコール (CH₃OH)ニ分解シ、矢張「トロピン」屬 (COOHナル「カルボンサン」ノ差アルノミ)ト安息香酸ノ結合物ニ外ナラザルヲ知ル、即換言スレバ「トロピン」屬ハ芳香酸中ノ化學式ノ構造ガ最簡單ナル安息香酸ト結合シテ局所麻醉性ガ最大ナルヲ示スモノナリ。

爾來局所麻醉劑ノ集成ハ此原理ニ向テ進ミ、幾多ノ製劑ヲ出シタリト雖、其不溶解性、刺激性、毒性等ノ上ヨリ多大ノ缺點アルヲ免レザリシガ、先ヅ缺點ノ大部分ヲ脱却シタル優秀ナル Novocain (Para-amido-Benzoessäure-

Diäthylamido-äthylester... Einhorn)



ヲ得タリ。

其後次第ニ局所麻醉力ニ於テモ、毒性ニ於テモ實用價值アル優秀品ノ出現アリ、敢テ「コカイン」「ノボカイン」ノミヲ固守スル必要ナキニ至レリ。

C 局所麻醉ノ適應症ト禁忌

Indikation und Kontra-

indikation zur Lokalanästhesie

此光輝アル局所麻醉法ハ注射時ニ輕痛若クハ知覺異常 (傳達麻醉ノ時)ノ如キ多少ノ不快ヲ除キ患者ノ全身狀況或ハ氣分ヲ氣遣フ要ナキノミナラズ、手術中常ニ醫患兩者間ニ意志ノ連絡ヲ得、患者ハ手術ノ成否ヲ自ラ試驗シ得 (甲狀腺手術時ニ 反回神經ノ損傷如何、髓手術ニ 筋肉ヲ動かカス如キ、中耳根治手術ニ於テハ 顔面神經ノ作用ヲ檢ス)、出血ヲ怖レテ局所驅血ヲナス要ナク手術ヲ急グ要ヲ見ズ、手術後直ニ攝食シ得、全身麻醉ト異リ覺醒期ニ監視ノ要ナク人體到ル處、現今ニ於テ此方法ノ達セザル領域ナク内臟神經ノ傳達遮斷モ可能ナリ (Kappis)。

故ニ全身麻醉法ノ適應ハ次第ニ變遷

シテ現代ニテハ「全身麻醉ヲ要スル特殊ノ事情ナキ時ハ常ニ局所麻醉ヲ用ユルコト」ガ吾人ノ常識トナレリ。Härtel ガイフ如ク恐ラク將來全身麻醉ガ何故ニ用ヒラレシカヲ疑ヒ、顔面ノ手術ヲナスニ軀幹脚肢迄ヲ麻痺センメ患者ヲ時餘ニ亘テ生死ノ境界ニ彷徨セシムル理由ヲ解スル能ハザルノ時期來ラン、故ニ此方法ヲ實際ニ知悉シ熟達セバ、局所、全身兩麻醉法ノ優劣自明ナリ。

而モ猶現在吾人ニ次ノ如キ禁忌アル事ヲ忘ル可ラズ。即チ

- i. 幼兒ニシテ未ダ事理ヲ解セザルモノニ大手術ヲ行フ時
- ii. 興奮性ノ小數ノ神經質大人ニハ所謂「ショック」ヲ怖ルルガ故ニ禁忌トス

其他行ク所トシテ局麻ノ可ナラザル所ナシ、手術局所ガ局所麻醉ノミニ信賴シガタキ範圍ニ亘レル時ヲ禁忌トスル人アレド之ハ範圍ニ從テ追加的ニ注射ヲナシ得ルモノナレバ禁忌トハナシガタシ。

D 局所麻醉藥ノ毒力及效力

Giftigkeit und Wirkung der

Lokalanästhetika

局所麻醉ハ知覺運動神經等ノ神經細胞ノ原形質ニ對スル藥物ノ毒作用ニヨ

リテ發揮セラルル現象即一ノ中毒ナリ。

總テノ藥劑ノ中毒現象ニモ見ル如ク局所麻醉藥ノ毒作用ハ其量 (溶液ニアリテハ濃度) 使用部位、動物ノ種類ニ關係スルモノナリ、而シテ更ニ精細ニ觀察スルニ

- i. 同濃度及同局所 (皮下注射)ニテモ一度ニ用ヒタル時ト少シツツ分割シテ用ヒタル時トハ致死量ニ差アリ
- ii. 致死量ハ主ニ絶對量ニヨルモノニシテ溶液ノ濃度ニハ著シキ關係ナシ
- iii. 同濃度同實質量ニテモ使用部位ニヨリ致死量ニ差アリ (靜脈内致死量ハ皮下致死量ノ 1/6—1/10 ナリ)
- iv. 局所麻醉藥ヲ加温スルコトハ吸收ヲ早メ從テ中毒症狀ノ發現ヲ早クス、以上ヲ約言スレバ局所麻醉藥ノ毒作用ハ

- i. 絶對量
 - ii. 應用局所
- ニ關係シテ現ハレ
- 0.5—2% ノ如キ比較的低調濃度ニテハ溶液ノ濃度ハ殆無關係ナル事
- iii. 動物ノ種類及ビ他ノ器官 (例之肺)ニ疾病ノ有無ハ中毒量ニ大關係アリ。

而シテ從來多ク用ヒラレシモノニツキ致死量若クハ毒力ヲ見ルニ「コカイン」最少量即チ毒力最強ニシテ「ノ

感ヲ呈スルノミナラス、之ニ依テ**食道**上皮ノ糜爛、潰瘍乃至癰疽等ヲ來スヲ怖ルルガ故ニ特ニ酸「アルカリ」類ニヨリテ起リシモノハ少クモ數日間經口の營養ヲ全廢シ、**滋養洗腸法** (Rektal-ernährung)ニヨルヲ可トス、微溫流動食次ニ粥食、次ニ常食ニ移ラシム。

b) 慢性食道炎

嚥下ニ依テ強ク疼痛ヲ來スモノハ微溫粥食ヲトルト雖、其他ノ場合ハ然迄嚴重ニセズ、刺戟性ナキ鹹味ニ乏シキ常食ヲ充分ニ咀嚼シテ攝ラシム。

c) 食道ニ潰瘍アル時

例之、酸、「アルカリ」昇汞等ニヨル腐蝕性潰瘍ハ疼痛強クシテ到底嚥下スルコト能ハズ (Dysphagie)、從テ已ムナク滋養洗腸法ヲトルカ乃至**氷冷ノ牛乳**ヲ極テ僅少ツツ嚥下セシムレバ却テ快ク感ズ、尤モ是等毒物ヲ嚥下シタル直後ニハ夫々ノ解毒的處置例之、酸ニ對シテハ硫酸「マグネシウム」ヲ牛乳ト共ニ、「アルカリ」ニ對シテハ醋酸水、「チトローネ」水、「リゾール」ニ對シテハ「オリーブ」油及ビ卵白水ヲ、昇汞ニ對シテハ胃洗後牛乳及ビ卵蛋白多量ヲ注意シテ胃管「カテーテル」ニヨリ解毒的作用ヲ講ジ置クコト勿論ナルベシ。

潰瘍形成例ニ於テモ數日間ハ洗腸法

ヲ用ヒ、其後ニ至テ冷却シタル牛乳、重湯、「スープ」ニ糖分ヲ混ジテ與ヘ、日ト共ニ次第ニ刺戟的ナラザル粥食ヲ供スベシ、斯ル液食ノ場合ニハ一日 5-6 回ニ分割シテ與フルヲ可トス、癰疽形成ヲ防退スルニハ多少效アリ。

刺戟的ナラザル粥食トシテ米粥ノ代リニ馬鈴薯ノ裏漉シタル「ピューレ」(purée)(バター、砂糖、鹽等ニテ調味ス)ヲ、或ハ大根卸シニテ卸シタル**林檎**(適宜調味)ヲ適宜ノ粘度トナシテ用ユルモ可ナリ、常ニ變化アラシムル爲ニ交互ニ用ユ、野菜「スープ」又甚可ナリ。

d) 食道狹窄

其原因ガ食道自己ニアルモ或ハ食道以外ヨリノ壓迫ニアルモ共ニ營養法ハ殆同一ナリ。

原則トシテハ出來ルダケ長ク經口のナラシメ、充分ノ「カロリー」ヲ供給スルニアリ、尤モ**食道痙攣**ハ強重症ニアリテハ餘儀ナク鎮痙劑、麻醉劑ノ援助ニヨリ胃管「カテーテル」ヲ用ユルモノナリ、胃管「カテーテル」ニヨル營養料(一日量)

牛乳	800 c.c.	} 數回ニ分用
「クリーム」	200 c.c.	
卵黃	2 個	
蛋白製品	80 gr.	
糖分	50 gr.	

故ニ後段述ントスル使用法ニハ充分注意ヲ怠ル可ラス。

以上略述シタル中毒ノ場合其防止法ハ

甲) 局所麻醉藥其モノノ使用法

乙) 局所麻醉藥ニ解毒的配劑ヲナシ、且ツ防止的處置ヲトルニアリ。

甲) ハ要スルニ(イ) 冷溶液ヲ(ロ) 分割的ニ必要ナル部分宛應用シ、(ハ) 注射ハ臥位、安靜時ニ行ヒ(ニ) 婦人ト肺疾者ニハ特ニ注意シ(ホ) 無益ニ副腎劑ヲ加ヘズ後段述ル如キ有效量ヲ加ヘ血管收縮ヲハカル等ノ諸點ヲ實行シ

乙) ハ(イ) 顔面蒼白冷汗ノ如キ輕症ニハ亞硝酸「アミール」(Amylnitrit)ノ吸入ニヨリ頭部ノ充血ヲ促スベク、(ロ)「カルチウム」劑ノ豫防的前注射ハ又多少ノ效ヲ認メ得ル事アリ、時ニ用ヒ得ベシ(ハ) 有效ナルハ「ロベリン」(Lobelin)ト共ニ強心劑呼吸中樞刺戟劑ノ注射ニシテ中毒症狀ノ現ハレタル前後ヲ論ゼズ用ユベキモノナリ、(ニ) 局所麻醉藥溶液ニ硫酸加里ヲ附加シ麻醉效力ヲ高メ之ニ依テ主藥ノ濃度ヲ低減シ以テ中毒量ヲ遠ザカラシメントスル企圖ナキニアラザレド之ヲ有害トナス人アリ (Mayer)、(ホ) 其他局所ノ機械的鬱血ハ明ニ麻醉效力増進ノ一手段

ナリト雖、手術局所ニヨリテハ全ク之ニ倚リガタシ、要之、積極的ノ方法トシテ卓效ヲ有スルハ甚少シ、唯余ガ動物實驗上(ヘ)體溫生理的食鹽水ノ靜脈内及ビ腹腔内注射及導尿ヲ最有效ナリト信ズ、呼吸絶止後ニ用ヒテ猶有效ナリ、毒力ニ於テ一方ノ尤タル「**コカイン**」ニ於テ著效アリキ、此血管及ビ腹腔内生理的食鹽水注射法ヲ以テ治療シタル臨牀上ノ報告ハ余ノ寡聞ナル未ダ之ヲ知ラズ、唯 Whitthaus ガ注射方法ノ可ナルヲ記シ (Manual of Toxicology), Roger ガ中毒ノ防止方法トシテ毒物使用前ニ用ヒシヲ見ルノミ。

然レドモ此方法ハ吾人ノ容易ニ考ヘ及ブ所ナルヲ以テ余ハ醫界ニ此方法ノ經驗家ノアル事ヲ信ズ。

余ガ嘗テナシタル防止法實驗ノ結果**腹腔及靜脈内ニ微溫生理的食鹽水ヲ注射シ後導尿**スル方法ハ重症必死ノ中毒例ニ於テ**恢復率**比較的高ク、一旦斃死シタル如ク呼吸絶止シタルモノモ絶止後直ニ此注射法ヲ行ヘバ恢復シ得ルコトヲ示シ、且ツ之ニヨリテ全身痙攣ノ再現スルモノ及ビ自然的ニ或ハ人為的ニ排尿スルコト多キモノ程、佳良ノ轉歸ヲトルコトヲ知レリ。

生理的食鹽水ノ腹腔内注射ハ嚴密ナ

ル滅菌の處置ノ下ニ行ハルレバ決シテ憂フベキ處置ニアラザルヲ以テ余若シ不幸ニシテ局所麻醉藥ノ重症急性中毒ニ遭遇セバ他ノ救急の方法ト共ニ之ヲ試ミン。

F 天然或ハ集成副腎劑ノ併用法

Gebrauchsanweisung der natürlichen und synthetisch dargestellten Nebennierenpräparate

「アドレナリン」ハ「ブレンツカテヒーン」ノ誘導體ニシテ通例吾人ノ用ユルハ其「アルカロイド」ノ鹽酸鹽即鹽化「アドレナリン」ニシテ 1000 倍稀釋ノモノヲ用ユ、1905 高峯氏發見以來化學的集成品モ種々ノ名稱ヲ以テ現ハレ作用ニ於テモ殆天產品ニ均シ、「ズブラレニン」、「ボスミン」、「エビネフリン」、「エビレナリン」其他皆殆同効ナリ、其集成品ニシテ効力ニ乏シキハ光學的右旋性ノモノナリ。

是等ノ副腎劑ハ交感神經ノ末梢ニ作用シ血管心臟及平滑筋ヲ有スル臟器及分泌腺ニ働キ中樞神經系ニハ直接作用ヲ及サズ殊ニ小動脈及ヒ毛細管ニハ收縮作用最強シ。

本劑ノ有效物質ハ鹽酸化シ易シ、故ニ鹽酸鹽トナシテ幾分酸化ヲ防止ス、而モ猶空氣中ニ露出シ置ケバ暫時ニシテ酸化

シ赤褐色ヲ帶ビ僅ニ酸度ヲ增加ス、但シ其効力ニハ殆ド差違ナシ。

斯ノ如キ血管收縮劑ニヨル收縮度ハ大體ニ於テ用量ニ比例スト雖、吾人ガ臨牀上ニ本劑ヲ用ユルハ先ヅ血管ノ收縮ヲ圖リ之ニ依テ局所麻醉藥ガ早く吸收セラレザル様（吸收制限）ニスル事モ目的ナルヲ以テ血管ノ收縮度ノミナラズ其持續時間ノ或程度迄長キコトヲ希望スルモノナリ。

是等ノ關係ヲ實驗シ知り得タル所ニヨレバ單ニ副腎劑若シクハ其集成品ヲ増量スレバ組織ヲシテ一時無血ノ状態トハナシ得テモ之ヲ長ク持續セシムルコト能ハズ、後ニハ却テ末梢血管ノ反動的擴張ニヨリ充血ヲ將來スルモノニシテ、注射麻醉法ニ於テ最長ク組織ノ貧血状態ヲ保タシメ局所麻醉劑ヲ長ク且ツ最有效ニ作用セシムル爲ニハソコニ最適量（Optimum）アルモノナリ。

此事實ハ余親シク臨牀上ニ經驗シタルヲ以テ更ニ實驗ノ結果（精密ニイフトキハ製品ニヨリ多少ノ差異アレドモ市販副腎劑及ヒ其集成品ハ殆ド同様ト見ナン得）局所麻醉主藥ニ附伴シテ用ユベキ副腎劑及其集成劑ハ注射ノ場合主藥 1 c.c. ニ對シテ 5—7 滴（此一滴ハ $\frac{1 \text{ c.c.}}{122}$ ナリ、通例用ユル滴瓶ノ一滴ハ $\frac{1}{13-16}$ c.c. ニシテ前者ノ滴量ノ約

7—9 倍ニ相當ス、其心シテ用ユベシ）ヲ最適量ナリト知レリ。

此最適量ヲ用ヒテヨリ余ハ嘗テ屢遭遇シタル局所麻醉法ニヨルト思ハルル手術後ノ後出血（Nachblutung）ヲ見ルコトナキニ至レリ、歐米ノ専門家界ニ於テモ現在至ル所 20 年前ノ如ク副腎劑ヲ多量ニ注加シテ用ユルモノナキコトモ此間ノ消息ヲ裏書スルモノナリト信ズ。

G 局所麻醉藥ノ種々ノ應用法

Die verschiedenen Verwendungsarten der Lokalanästhetika

a) 粘膜炎、創面、漿液膜ノ如キ部位ヘノ表面麻醉 Oberflächenanästhesie 等調ナラシメタル局所麻醉藥溶液ハ是等ノ表面ニ用ヒテ皆其作用アリ、而シテ其作用ハ藥液ノ吸收ニヨルニアラズシテ寧ロ表面ニ應用セラレタル藥液ガ滲散シテ粘膜炎、創面等ニアル神經末梢端ニ觸接スルニヨル、故ニ此目的ニハ塗布、噴霧、滴下等ニテ充分ナリ。

唯作用ヲシテ充分ニ目的ニ適合セシムルニハ其藥劑ノ指定ニ從ヒ溶液ノ濃度（Konzentration）ヲ高クセザル可ラズ、例之、強力ナル「コカイン」ハ 10—20%、「バントカイン」ハ 3% ノ如シ。

但シ局所麻醉劑ニモ表面麻醉ニ特ニ

有效ナルモノ或ハ浸潤麻醉ニ有利ナルモノ等夫々特徴アルヲ以テ之ヲ顧慮シテ夫々ノ使途ヲ定ムベシ。

余ハ從來種々ノ無限ニ出現スル局所麻醉藥ヲ試ミシガ表面麻醉ノ如キ殆ド吸收ヲ憂慮スル要ナキ我領域ノ使用法ニテハ價格ヲ除キ總テノ點ニ於テ今猶「コカイン」ノ右ニ出ルモノナキヲ思フモノナリ、殊ニ後段述ントスル末梢血管收縮劑例之、鹽化「アドレナリン」或ハ「ズブラレニン」等ノ如キ作用増進劑ノ併用ヲナスニ於テ然ルヲ感ズ、恐ラク他領域ニ於テモ然ラン。

皮膚ハ表面塗布麻醉法ノ作用シガタキ部位ナルヲ以テ「アルコール」、「エーテル」或ハ「クロロフォルム」溶液トセバ稍効アリ（Parisot）、又所謂カタフォレーゼ（Kataphorese）ト稱シ平流電氣ノ媒介ニヨリ局所麻醉藥液ヲアノード（Anode）ニ浸シテ一種ノ表面麻醉ヲ短時間可能ナラシムルコトアリ、強テ用ユレバ僅ニ鼓膜麻醉ニ應用シ得ベキモ實用價值ニ乏シ

b) 浸潤麻醉

Die Infiltrationsanästhesie

之ハ局所麻醉液ヲ知覺神經ニ直接接觸セシムル結果起ル所ノ無痛覺状態ニシテ擴散（Diffusion）ヲ起シテ附近一帯ニ浸潤區域ヲ擴グ、故ニ之ヲ間接浸潤麻醉（Indirekte Infiltrationsanästhesie...Schleich）トイフ。

Schleich ハ三種ノ濃度ヲ異ニスル

「コカイン」及「モルフィーン」溶液ヲ用ヒシガ、現今浸潤麻醉ニ對テハ最目的ニ適合スル「ノヴォカイン」(邦製ニテハ「パンカイン」トイフ)ノ如キ最良劑アルヲ以テ好デ不適當ナル「コカイン」ヲ注射ニ用ユル人ナシ、即現今ニテハ、0.5—1.0%「ノヴォカイン」或ハ之ニ均シキ有效ナル最新劑ノ低濃溶液ニ1000倍鹽化「アドレナリン」或ハ「ズブラレニン」ノ如キ天然及ビ集成副腎製劑ヲ加ヘ(「ノヴォカイン」液2c.c.ニ對シ副腎劑一滴ノ割…普通滴瓶)手術計畫ニ從テ適當ノ部位ニ細注射針ヲ以テ順次浸潤セシム、此方法ハ藥液ノ吸收ヲナルベク遲延セシメ作用ノ持續時間ヲ長カラシムコトヲ心ガクベシ。

c) 傳達麻醉

Die Leitungsanästhesie

局所麻醉藥ハ神經幹ニ作用シテ知覺及ビ運動兩神經ノ傳導ヲ遮斷スル事ヲ得、コノ爲ニ種々ノ局所麻醉液(浸潤麻醉ニ於ルヨリモ濃度ノ稍高キモノ「ノヴォカイン」ナラバ通例2%)ヲ細針ヲ以テ露出セル纖維性神經鞘直下ニ、或ハ神經幹中ニ注射ス、之ヲ神經内注射(Endoneurale Injektion)トイフ、此直接法ハ手術的ニ神經ヲ露出スルカ或ハ表層ニ近キ僅少ノ神經幹ニ

對シテノミ行ヒ得レドモ通例吾人ガ行フモノハ皮膚ヲ切り或ハ手術的ニ露出セザル状態ニ於テ行フ神經周圍注射(Perineurale Injektion)ナリ、之ハ神經幹ノ走行徑路ヲ測定シテ稍々盲的ニ入ルモノナルヲ以テ幹ノ附近ニ注射スルコトトナリ神經幹ニ滲散(Diffusion)ニヨリ藥液ノ作用スル迄ニ稍時間ヲ要シ且神經内注射法程ニ適確ナラザルコトアリ。

又吾領域ニテハ殆用ユル事ナキ腰椎麻醉(Lumbalanästhesie)ナルモノハ一ノ傳達麻醉ニシテ局所麻醉液ヲ脊髓管(Bier)ニ入ルルカ或ハ薦骨部硬腦膜内(Cathelin-Läwen)ニ入ルルカニ依テ成立スルモノナリ、故ニ此處ニハ主トシテ實際上ニ必要アル神經周圍注射法ニ就テ述ベシ。

此神經周圍傳達麻醉法ハ、末梢ニ近キ程早く、且ツ容易ニ麻醉ノ效ヲ奏シ、末梢ヨリ遠ザカル(即チ脊髓ニ近ヅク程)緩徐ニ麻醉ニ入ル、加之、後ノ場合ニ於テハ濃度ヲ高メ、且ツ注射量ヲ増加スル必要アリ、之ハ知覺神經枝ガ中樞ニ近キ程、其太サヲ増シ、且ツ其結締織性被覆ガ厚サヲ増スヲ以テナリ。

此神經周圍傳達麻醉法ハ稍々盲的ニ行フガ如ク見ユト雖、解剖學の知識ヲ

以テ注射ノ要領ヲ知悉シ、注射針ガ神經ニ突當ル時ハ其末梢部ニ痛ヲ感ズルコト等ヲ目標トセバ殆下常ニ確實ニ實行シ得ベシ。

以上ノ浸潤及ビ傳達麻醉法實施ノ詳

細ニ就テハ本書各科篇ニ於ケル療法中ノ代表的手術法ニ記述シ置タレバ、夫ニ依テ會得シ得ベシ、故ニ茲ニ一々ノ注射部位注射量等ヲ省略セリ。

XIII れんとげん線近接放射法

Röntgenbestrahlung nach Prof. Chaoul

最近進歩セル悪性腫瘍ノ放射線療法ニ於テハ口唇、頬、女性生殖器等比較的表層ノ癌ニ對シテ「れ」線深部治療ガ甚ヨク作用スルニ至リシモ、猶之ヲ「ラヂウム」ニ比スレバ、可ナリ劣レルコトハ吾人ノ等シク認ムル所ナリ、然レドモ「ラヂウム」ハ甚不廉ニシテ多クノ治療機關ニ於テハ充分ノ量ヲ準備シガタキ憾アリ。

癌ノ發生率ト之ヲ充分ニ治療スルニ要スル「ラヂウム」量トハふゑるせる(Forsell ハ Stockholm ノ Radiumhemmet 在勤)ニ依レバ瑞典人口百萬ニ對シ「ラヂウム」2.5 grヲ要シ其ノ他各大學ニ25 臺ノ「ラヂウム」治療椅子ヲ準備スベシトイフ、シャウー(Chaoul)ハ之ヲ獨逸ノ必要量ニ計算シテ170 grヲ要ストナセリ、假ニ之ヲ我國ニ充當セバ驚クベキ多量ヲ要スベク、之ヲ吾人ガ準備スルコトハ不可能ニ屬ストイフベシ。

是等ノ事實ガ動機トナリ、各方面ニ研究ノ結果 Hamann, Holthusen, Braun, Langendorff, Reuss, Simon u. Stahel 等ハ應用ノ方法ニヨリテハ性質的ニ異ル「ラヂウム」トソレヨリ波長ノ長キ「れ」線モ放射線其モノノ同量ハ同ジ生物學的作用ヲ有シ、「ラヂウム」ガ「れ」線ニ優レルハ使用方法ノ物理的技術的的要約ノミニ依ルモノナルコトヲ證明セリ。

從來吾人ガ放射線ノ使用法ヲ見ルニ「ラヂウム」ハ比較的少量ヲ長ク數日間ニ亘リ作用セシメ、「れ」線ハ一度ニ或ハ短時日間ニ必要ナル大量ヲ用ユルヲ通例トセリ、而シテ斯ル使用法ノ時間的ノ差異若クハ或單位時間ニ作用スル放射線量ノ重要ナルコトニ就テハ餘リ注意ヲ拂ハザリキ、之レ兩種放射線作用ノ優劣ヲ來セル原因ニアラザルカ。

茲ニ於テ考フベキ兩者ノ使用法ノ差

異ハ

1) 放射線ヲ作用セシムル時間、換言スレバ時間的ニ放射量ヲ幾何量ニ分配スベキカ (Dosisverteilung in der gewissen bestimmten Zeitdauer)。

2) 放射部ノ組織内ニ放射線「エネルギー」ヲ有效ニ分配シ、悪性腫瘍以外ノ部分ニ障礙ヲ受ルコトナキ様ニ空間的ノ放射量分配法 (Räumliche Dosisverteilung)ノ問題

3) 放射量其モノノ問題 (Dosishöhe)ノ三點ニアリトシ夫々ノ問題解決ニ力ヲ注ギ、遂ニ現今ノ近接放射法ハ生レタリ。

即此問題 1)ハ Regaudノ實驗以來、放射量ヲ分割シ、「一治療」ヲ 4—16日間放射ニ延長シ、一方ニ皮膚ノ耐容量 (Toleranz)ヲ増シ、悪性腫瘍細胞ノ盛ナル發育機能ヲ果進的ニ抑滅シ、遂ニ滅却セントスルコトニ依リテ解決シタリ、くたゝる式分割遲延放射法 (Coutard'sche fraktionierte protrahierte Bestrahlung)ハ實ニ此問題解決法ニ先驅シタルモノナリ。

次ニ問題 2)ニ對シテハ單ニ悪性腫瘍ニノミ限局放射ヲナスコト (isoliert zu fassen)即チ放射線作用ヲ廣サト深サニ於テ悪性腫瘍以外ノ組織ニ及サズ而シテ傷害セザル様ニスルコトニ依テ

目的ヲ達シ得、悪性腫瘍以外ノ部分ヲ有害無益ノ放射ヨリ遮蔽スルニハ表面面積ヲ適當形ノ鉛板ヲ以テス雖、深サニ於テハ完全ニ腫瘍隣接組織ヲ保護スルコトハ不可能ナリ、茲ニ於テ此放射法ノ創案者ハ透過力ノ弱キ比較的軟線ヲ用ヒ、且ツ特殊ノ「れ」線管球ヲ造リテ皮膚焦點距離ヲナルベク短縮シ、腫瘍ノ彼方ニアル健康深部組織ニ於テ惡影響ヲ減スルコトニ依テ解決セントセリ、故ニシャウーハ充分ニ危險防止ヲナセル短皮膚焦點距離 (4—5 cm)ノ特別管球ヲ使用シ、以上ノ 1), 2)ヲ解決セリ。

次ニ來ルハ問題 3)即放射量ノ問題ナリ、從來ハ放射時間ト、被放射部面積トガ皮膚紅斑 (Erythem)トイフ生物學的反應ヲ起ス量ニ關係アルコトヲ無視シテ此大切ナル放射量標準ハ「れ」線ニヨルモ「ラヂウム」ニヨルモ全ク均シキモノト考ヘタリ、然ルニ三年前親シクほるとふうぜん (Holthusen)ニ面會シ、聞ク所ニヨレバ、氏ハ當時「ラヂウム」ト「れ」線トノ用量ヲ各他覺的ニ比較スル確實ナル測定法ヲ研究シ、時間的ニモ、空間的ニモ兩者ノ分布量ヲ嚴密ニ均シクスレバ兩放射線ノ生物學的反應ハ「r」ヲ以テ測定スベク、其割合ヲ以テスレバ、兩放射線共ニ均シ

ク有效ナリトイヘリ。

之ヲ實際ニ充當シほるとふうぜんノ測定ニ依レバ、有效ニ癌治療ヲ行フニ必要ナル「ラヂウム」ノ病量 (Herd-dosis)ハ之ヲ「れ」線放射量ニスレバ約 8000 „r”ニ相當ストイフ、嘗テ吾人ハ所謂癌量 (Karzinomdosis)トシテ一時ニ皮膚反應ノ許ス限りノ量ヲ放射シ、是ヲ以テ満足シ居タリシガ、今ニシテ思ヘバ此癌量ハ „r”ヲ以テ測定スル時ハ「ラヂウム」ノ癌有效量ノ $\frac{1}{11} - \frac{1}{12}$ ニスラ相當セズ、癌ニ對シテ從來ノ「れ」線法效果ノ甚シク劣レル眞ニ故アリトイフベシ。

以上ノ如ク三問題ヲ解決シタル前記ノ諸先輩殊ニシャウーハ特殊ノ裝置ヲ以テ

○放射時間ヲ分割シテ巧ニ利用シ

○皮膚焦點距離ヲ小ニシ、癌病叢ヲ手術ニヨリテ體表ニ持來リ、軟線 (電壓ヲ低クシ 50—60 KV……キロヴォルト)ヲ用ヒ、放射野ヲ悪性腫瘍部ノミニ限定シテ被放射部ノ容積ヲ必要ダケニ縮小シ

○「ラヂウム」有效量ニ均シク「れ」線量 „r”ヲ増加シタリ。

* Chaoulハ深部療法ニ於テ電壓ノミヲ高クスルコトハ根本的ニハ大ナル意味ナシトイフ、之ニ對シ米國ニテハ「ラヂウム」ノ最有效線ニ近キモノヲ得ントシテ 1000 K.V.ノ豪壯ナル裝置ヲ使用セルモノアリ興味アル對照ナリ。

嘗テシャウーハ 103人ニ於テ殆 90% 癌ヲ消失セシメタリトイフ、其良效眞ニ驚クベシ、癌全治ヲ確定スル年限ハ三年以上ヲ要スルヲ以テ、余ガ親シクシャウーハト會シタル時ハ、漸ク此確定期ニ達セン時ナルヲ以テ、全治ヲ斷言シ得ザリシモ、余ハ親シク其成績ヲ患者ニ就テ知リ驚嘆シ他ノ「れ」線深部療法ニ比シ背壞ノ差アルヲ感ジタリ (第三百四十三圖参照)。

近接放射法ノ適否ヲ見ルニ

1) 悪性腫瘍ガ直接外界ニ見ユルカ或ハ體ノ外表ニ手術的ニ移動シ得ルコトヲ要シ

2) 該腫瘍ノ範圍ガ餘リ廣汎ニ互リ、若クハ轉移アルモノニハ適セズ

3) 既ニ他ノ放射線療法ヲナシタルモノニハ結果不良ニシテ

4) 該腫瘍ガナルベク限局シ、周圍組織ガ健康ナルコトヲ必要トスルモノナリ。

以上ノ如キ組織の研究ノ下ニ發達シ、合理的ニ行ハルル此放射法ハ直ニ其價値ヲ想像シ得ル如ク、低電壓ヲ以テシ、甚經濟的ニシテ普及シ易ク、癌部ヲ體表ニ露出スルコトハ胸腔内器官

第三百四十三圖
下唇癌，近接放射法ノ前(左)後(右)



第三百四十四圖
深キ潰瘍ノ上唇癌，放射前(右)後(左)



第三百四十五圖
右内背部皮膚癌放射前(左)後(右)



第三百四十六圖
深キ崩壞ノ側頭部癌放射前(左)及經過(右)



Chaoul = ヨル

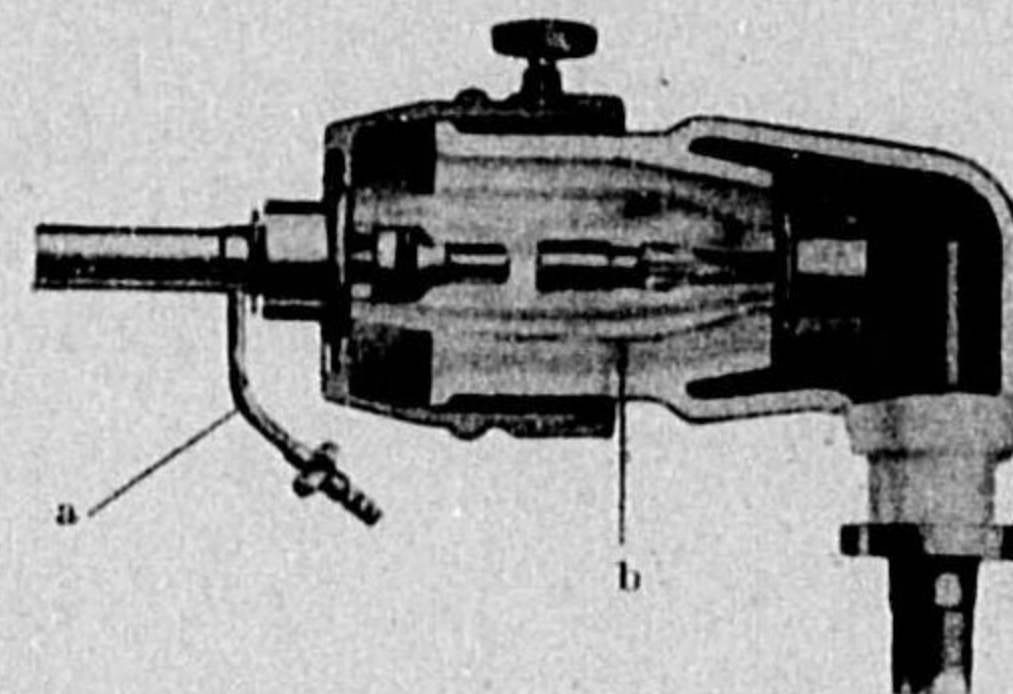
除キ，多クハ可能ニ屬スルヲ以テ，本療法ノ一大缺點トハナラザルベシ，殊ニ吾人ノ領域癌ハ多ク此療法ノ其儘達シ得ル所在ナルガ故ニ便益甚大ナリ。

近接放射法ノ實施

茲ニ圖ニ示ス如キ特殊ノ「れ」線管球^{**}ノ短キ「カトーデ」管ヲ種々ノ必要ナル放射筒^{***}(Tubusse)或ハ「ゴム管」ニ包ミ直接ニ或ハ此治療中手術的ニ體表ニ露出シタル悪性腫瘍部ニ密接セシム，之ニ依テ腫瘍ト焦點間距離ヲ5—6cmニ接近セシム，電壓ハ60 K.V.ニ

第三百四十七圖

近接放射用れ線特殊管球ト之ヲ包ム陶製被覆帽
a. 冷却管 b. 特殊れ線管球



第三百四十八圖

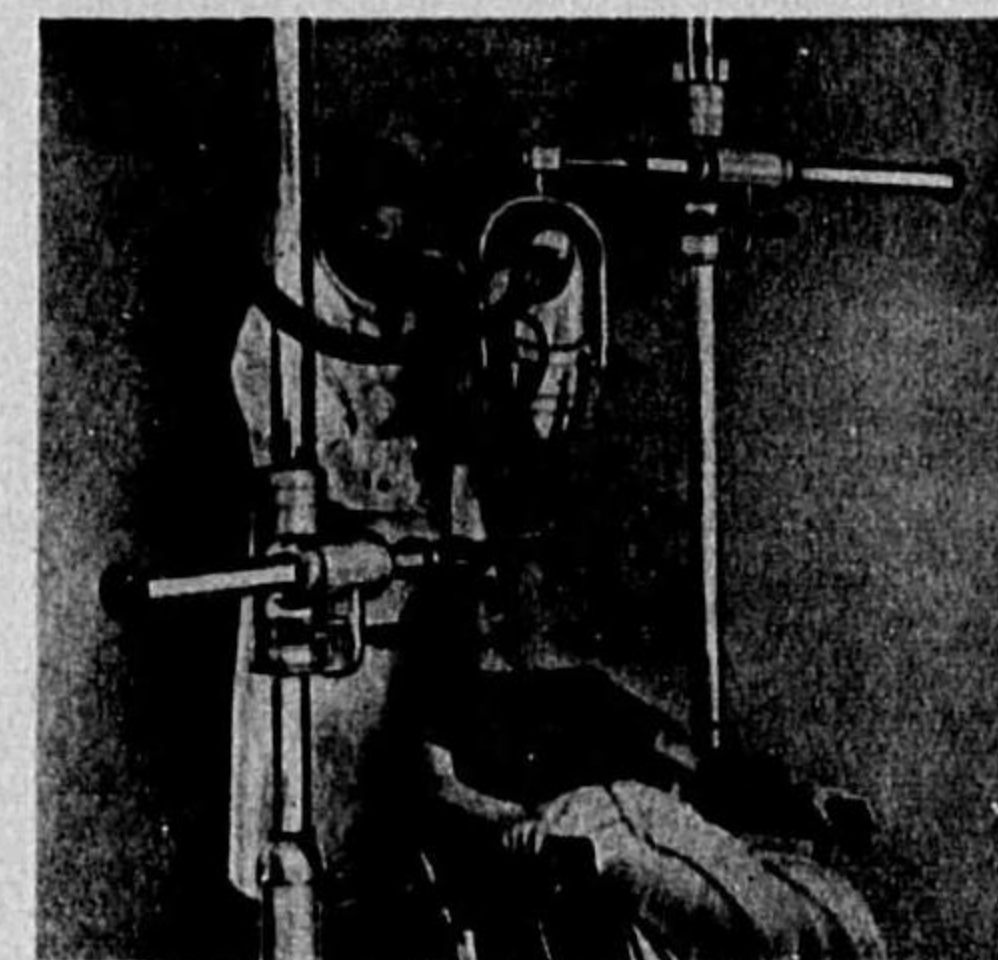
近接放射用放射筒ノ種々



22 21 31 41 26 20-30 20-40 21-70

第三百四十九圖

レウーニ式近接放射装置一式
放射筒ノ口内ニ裝填シ「れ」線管球ヲ挿入スルヲ示ス



シテ2—3分間放射シ300—400, "r"ヲ得，毎日或ハ隔日此放射ヲ約三週間持續シテ總量7000—8000, "r"ニ至ラシム，以上ヲ一治療週トシ必要ニ應ジ六週間ノ後同様ノ放射ヲ反復ス。

* 吾人ガ今以テ手術的ニモ放射線療法的ニモ治癒不可能トスル食道癌ニ對シテ Chaoul モ近接放射法ノ經驗ハナシ，食道ヲ體表ニ露出スル手術ニスラ遺憾ナガラ成功シタルコトナシトイヘリ。

** 近接放射用特殊管球ハ物理學的目的ニ用ヒタル「カトーデ」線管球 (Kathodenstrahlenröhre)ニ類シ，此線ヲ「れ」線ニ變化セシムル裝置トシ，冷却管ヲ附シ，冷却管底部ハ放射線ノ力ヲナルベク減弱セシメザランガ爲ニ極メテ薄キ「ニッケル」板ヲ用ヒ，且ツ大部分ハ陶製被覆帽内ニ置キ夫ニ連絡スル完全高壓防護電線ヲ附シ，是等ヲ更ニ棗形無間隙金屬製接地被覆器ニテ包ム，故ニ作業中觸接ニ危險ナシ，用ユル「れ」線ハ管ノ末端ヨリノミ放射セラル(第三百四十七圖)。

*** 筒端ハ病巣ニ應ジテ圓，橢圓等種々ノ形アリ，筒其モノハ直管及ビ30°屈曲セルモノ等アリ，屈曲セルハ殊ニ口腔内用トシテ便ナリ，放射筒ノ側部ニ圓形孔ヲ設ケタルハ病的局所ニ確實ニ接觸セルカヲ檢スル爲ナリ(第三百四十八圖)。

症 狀

ヲ求ムル
ヨリ病名

索 引

(左半ヲ、細キハ右半ヲ示ス
頁ヲ示ス數字ノ太キハ本文)

索引凡例

索引中、本文頁ヲ示ス太キ數字ハ各頁ノ左側、細キ數字ハ右側ニ當該件名、人名ノ記載サレアルヲ示ス。

畸形、外傷ノ如キ一見シテ大體ノ診斷ヲ下シ得ルモノハ卷初ノ目次ニヨリ本文中ノ當該記述ヲ見出シ得ルヲ以テ總テ此索引ニハ省略セリ。

主訴病歴等ヲ質問ノ際、吾人ガ最強調サレテ聞ク所ノ症狀ヲ順次ニ配列シ、夫等症狀ノ來ル疾病名ヲ列記シタリ、故ニ訴フル所ノ自他覺的諸症狀ヲ此表ト照合シツツ行ク間ニ其孰レノ症狀ニモ共通ニ現ハルル一病名ヲ見出サバ、之ヲ診斷トシテ傍記ノ本文番號、頁數字ヨリ本文ヲ引出スベシ、例之、一患者耳痛ト耳前ノ腫脹ト強壓痛ノ三ヲ訴フル時ハ此索引ニヨリ四、五種ノ病名ヲ見ル、次ニ患者難聽、發熱ヲ缺ケル時ハ上記四、五種ノ病名ヨリ次第ニ該當セザルモノヲ除外シ行キ、遂ニ急性限局性外耳炎ノミヲ見出スベシ、之レ求ムル疾病ナリ。

症狀ヨリ病名ヲ求ムル索引

耳 科

症 狀	備 考		病 名	本 文 頁	本 文 番 號	症 狀	備 考		病 名	本 文 頁	本 文 番 號	
	局 所 性 質 等	所 程 度 等					局 所 性 質 等	所 程 度 等				
耳	概	多クハ	急性限局性外耳炎	52	12	耳 痛	強弱種々	神經性耳痛	"	"		
	"	"	急性化膿性中耳炎	60	27		"	"	結核性咽頭炎	"	"	
	突	急	外傷性鼓膜破裂	58	24		"	"	下咽頭ノ腐潰瘍	"	"	
	概	急	麻疹ニ併發スル急性中耳炎	70	36	耳 壓	多ク急	強激	急性限局性外耳炎	52	12	
	"	"	急性乳様突起炎	64	29		"	"	急性乳様突起炎	64	29	
	突	急	外聽道有生異物	54	16		"	多ク輕	急性歐氏管及ビ中耳「カタル」	59	25	
	概	急	耳介軟骨膜炎	46	2		"	"	(急性)上皮塊栓塞ノ軟化	54	15	
	概	急	急性瀰蔓性外聽道炎	53	13		"	"	橫洞靜脈炎	69	56	
	概	急	急性鼓膜炎	57	22	耳 痛	緩	"	急性中耳炎	60	27	
	概	急	慢性中耳炎ノ急性發作	71	39		"	"	中耳眞珠腫	71	39	
	甚	緩	中耳眞珠腫	77	40		"	"	橫洞血栓	90	56	
	概	急	急性中耳及ビ歐氏管「カタル」	59	25		"	"	頸靜脈球及ビ内頸靜脈ノ血栓靜脈炎	"	"	
	多	急	運動時增強	31	總IV 1.C		耳 痛	急	搏動強混血種々	急性穿孔性中耳炎初期	66	27
	"	"	急性耳下腺炎	52	12-13	緩		"	慢性穿孔性中耳炎	71	39	
	"	多ク輕	急性耳前後淋巴腺炎	52	12-13	"		"	骨機轉ヲ伴フ慢性穿孔性中耳炎	71	39	
緩	"	潜伏性微毒性腦膜炎	53	13	甚	緩		輕惡臭種々	上鼓室化膿症	60	27	
多	強	三叉神經痛	31	總IV 1.C	"	惡臭種々		結核性中耳炎	78	41		
多	強	急性扁桃膜炎	"	"	"	多ク強		急性傳染病後變直ヲ伴フ中耳炎	69	39		
多	強	急性扁桃腺周圍炎	"	"	"	純		輕	外聽道惡性腫瘍	51	11	
多	強	急性咽頭側索炎	"	"	"	膜		概	強	橫洞靜脈炎ヲ伴フ中耳炎	90	56
多	強	慢性扁桃腺炎	"	"	"	膜		惡臭輕	迷路囊ノ腐骨	81	43	
多	強	慢性扁桃腺炎	"	"	"	性		多ク強	中耳惡性腫瘍	63	28	
多	強	慢性扁桃腺炎	"	"	"	性	惡臭種々	耳茸	71	39		

症 狀	備 考		病 名	本文 頁	本文 番號	症 狀	備 考		病 名	本文 頁	本文 番號
	局 所 程 度	所 立 性 質 等					局 所 程 度	所 立 性 質 等			
耳 漏	急	多ク強	急性乳様突起炎	64	29	耳	主傳 低調 概ニシテ	概ニ 輕度	鼓膜ノ介達の損傷	58	24
	"	"	急性穿孔性中耳炎	60	27				急性歐氏管及ビ中 耳「カタル」	59	25
	緩	悪	中耳結核	78	41				急性中耳炎	60	27
難	生來	概ニ強	先天性及後天性外 聽道閉鎖	56	18	鳴	高調 音系 概ニシテ	種々	固有鼓室ノ慢性穿 孔性中耳炎	71	39
	多ク急	"	傳染性疾患ニ來ル 聽神經炎	69-70	35-38				慢性中耳「カタル」	60	26
	緩	"	體質病ニ來ル聽神 經炎	105	63				耳垢栓塞	53	14
	"	"	中毒性聽神經炎	85	49				諸種ノ迷路疾患	79	42
	突然	"	「ヒステリー」性聽 覺障礙	104	61				聽神經疾患殊ニ中 毒症	85	49
	緩	"	耳硬化症ノ後期	100	59				耳硬化症	100	59
	"	"	限局性及ビ廣汎性 迷路炎	79	42				職業性難聴	84	47
	"	"	迷路囊腐骨	81	43				迷路出血	81	45
	種々	多ク輕	急、慢性穿孔性中 耳炎	71	39				めにゑる病	82	46
	"	"	急、慢性中耳「カ タール」	59	25						
	緩	"	腺様増殖症	60	27				急、慢性鼻咽腔 「カタル」	145	9
	"	種々	職業性難聴	84	47				急性中耳炎	60	27
	"	"	老人性難聴	85	48						
	"	輕	上鼓室ノ化膿症	77	40						
	"	極輕	耳垢栓塞	53	14						
難 聽	種々	"	外聽道閉塞異物	56	18	眩	體如 ノキ 動揺 純ヲナル	概輕度	鼓膜介達の損傷ノ 瞬間	58	24
	急	"	急性限局性外耳炎 ニヨル聽道閉鎖	52	12				中耳結核	78	41
	高調 音性	種々	職業性難聴	84	47				めにゑる病 (輕病症)	82	46
	"	"	進行性慢性迷路性 難聴及ビ老人性難 聴	85	48				内耳ノ腫瘍	87	53
	"	"	中毒性聽神經炎	85	49				貧血	81	45
	"	"	迷路及ビ聽神經ノ 微毒	86	50				迷路出血	81	45
	"	"	遺傳微毒性迷路炎	87	52				動脈硬化症	82	46
	"	"							神經症	82	46
	"	"							迷路及ビ聽神經ノ 微毒	86	50
	"	"							中耳炎ノ續發迷路 炎	79	42
難 聽	高調 音性	種々	職業性難聴	84	47	暈	周眼 震盪 回轉	稍高度	迷路血管ノ栓塞	82	46
	"	"	進行性慢性迷路性 難聴及ビ老人性難 聴	85	48						
	"	"	中毒性聽神經炎	85	49						

症 狀	備 考		病 名	本文 頁	本文 番號	症 狀	備 考		病 名	本文 頁	本文 番號
	局 所 程 度	所 立 性 質 等					局 所 程 度	所 立 性 質 等			
眩 暈	嘔吐 來ス	稍高度	めにゑる病	82	46	頭	頭頂部	種々	硬腦膜外膿瘍	89	54
	"	"	迷路損傷	81	43				急性中耳炎	60	27
耳 及 ビ 其 附 近 ノ 腫 脹	稍急	骨可 ナリニ 強	顳骨蜂窩ニ蔓延セル 急性乳様突起炎	64	29	耳 及 ビ 其 附 近 ノ 腫 脹	主ニ 側頭部	概ニ 輕度	硬腦膜内膿瘍	89	55
			急性限局性外耳炎	52	12				粘液性連鎖球菌性 乳様突起炎	65	30
	軟テ 部可 ノナリニ 強	急性耳下腺炎	52-53	12-13	後頭部		種々	硬腦膜外膿瘍	89	54	
			外耳丹毒	47				3	めにゑる病	82	46
	時期ニ ヲリ種 々	急性乳様突起炎	64	29	無シ		耳疾	横洞血栓靜脈炎及 ビ膿毒症	90	56	
			べつおると乳様突 起炎	65				29	耳性腦膿瘍	93	57
	種々	急性限局性外耳炎 ノ沈下膿瘍	52	12	所在 不定		種々	迷路及ビ聽神經ノ 微毒	86	50	
			耳後淋巴腺炎	52				12	内耳ノ腫瘍	87	53
	種々	急性	丹毒	47	3		眼 球 震 盪	種々	限局性及ビ廣汎性 迷路炎	79	42
			横洞、S字狀洞栓 塞	90	56				内耳ノ腫瘍	87	53
種々	急性	横洞周圍膿瘍	90	53	特發性 迷路性 其他	種々	耳性腦膿瘍	93	57		
		粉瘤腫	51	10			半規管ニ骨崩壞ノ 及ベル中耳結核	81	41		
種々	急性	乳様洞内骨炎症	64	29	腫 脹	種々	めにゑる病	82	46		
		急性乳様突起炎ニ ヲル聽道骨膜炎	64	29			横洞血栓靜脈炎、 膿毒症	90	56		
種々	急性	哺乳兒ノ急性中耳 炎	70	38	嘔	種々	耳性腦膿瘍	93	57		
		急性限局性外耳炎	52	12			幼兒急性中耳炎	60	27		
種々	急性	急性耳介軟骨膜炎	46	2	反射的	種々	轉移性迷路炎	81	44		
		丹毒	47	3			迷路出血	81	45		
種々	急性	耳血腫	49	6	吐	種々	めにゑる病	82	46		
									内耳ノ腫瘍	87	53

症 狀	備 考	病 名	本文頁	本文番號	症 狀	備 考	病 名	本文頁	本文番號
熱	悪寒伴フコトアリ	慢性化膿性中耳炎ノ急性發作	71	39	顔面ニ表ハル九變化	種々	迷路囊ノ腐骨	81	43
		急性乳様突起炎	64	20			内耳ノ腫瘍	87	53
		急性、慢性化膿性中耳炎ノ膿漏	60, 71	27, 39			迷路及ビ聴神經ノ蝕毒	86	50
		外耳丹毒	47	3			中耳眞珠腫	77	40
		乳兒ノ急性中耳炎	70	38			迷路震盪	104	62
		横洞周圍炎	90	53			外旋神經麻痺	68	33
		膿毒敗血症	90	56			内耳腫瘍	87	53
		肺炎ニ併發ノ急性中耳炎	70	37					
		轉移性迷路炎	81	44					
		横洞周圍炎膿毒症	90	56					
		硬腦膜外膿瘍	89	54					
		硬腦膜内膿瘍	89	55					
		急性限局性外耳炎(大人)	52	12					
		慢性穿孔性中耳炎	71	39					
		粘性連鎖狀球菌性中耳炎	61	27					
弛張性	著明	中耳ノ痛	63	28	赤	種々	耳血腫	49	6
		中耳結核	78	41			耳介軟骨膜炎	46	2

鼻 科

症 狀	備 考	病 名	本文頁	本文番號	症 狀	備 考	病 名	本文頁	本文番號
鼻 閉	多クハ急性ニ	内外鼻外傷	144, 143	8, 7	鼻 閉	現代ニ來ル	急性鼻炎	145	9
		鼻腔異物、結石	168	31			淋毒性鼻炎	156	17
		鼻内丹毒	156	18			鼻腔「デフテリー」	154	15

症 狀	備 考	病 名	本文頁	本文番號	症 狀	備 考	病 名	本文頁	本文番號	
										局所
鼻 出血	甚ダ強度ニシテ、炎症性粘膜炎ノ他、分泌過多ニヨル	纖維素鼻炎	156	16	鼻 出血	概シテ輕シ	「インフルエンザ」ニ來ル鼻症狀	157	20	
		枯草熱	198	55			鼻癩	160	25	
		初生兒性急性上顎洞炎	174	33			重ニ漿液性ニシテ、不斷ニ現ル著明ナル時ハ勿論膿性	鼻茸	189	45
		急性上顎洞炎	174	32			發作性ニ來リ、重ニ漿液性ニシテ著明ナルハ膿性、強度	慢性肥厚性鼻炎	147	11
		急性楔狀洞炎	185	39			同上眼結膜ニモ「カタール」涙漏アリ	鼻性反射性喘息	195	50
		前篩骨骨胞	186	40			初メ漿液性、後ニ膿性、粘黄色アリ多ク強度ナリ	神經性鼻感冒	197	54
		慢性肥厚性鼻炎	147	11			同上眼結膜ニモ「カタール」涙漏アリ	枯草熱	198	55
		慢性惡臭性削瘦性鼻炎	151	13			急性鼻炎	145	9	
		鼻中隔血腫及ビ特發性鼻中隔膿瘍	165	29			急性前頭洞炎	180	38	
		鼻茸	189	45			急性上顎洞炎	174	32	
		鼻前庭濕疹	135	1			其他ノ急性副鼻腔炎	181-186	37-39	
		鼻孔閉鎖及ビ癒著	136	3			器械的化學的急性鼻炎	147	10	
		鼻中隔彎曲及ビ樞	162, 162	28, 29			慢性上顎洞炎	175	34	
		鼻微毒	157	23			其他ノ慢性副鼻腔炎	181-185	37-38	
		鼻結核	159	24			鼻癩	160	25	
鼻癩	160	25	淋毒性鼻炎	156	17					
鼻 漏	急ニ現ハレ、強シク反復シ易シ、重種々ニヨリ、甚ダ強クレドモ止メ得	鼻外傷	143	7	鼻 漏	洗液ニ惡臭アリ、其他同上、淡赤血性膿性、惡臭アリ、強ク不斷ニアリ混血膿性強度	鼻腔異物、結石	168	31	
		鼻血	165	30			鼻硬化症	162	27	
		頭蓋底類纖維腫ノ鼻内突起	191	46			齒性上顎洞蓄膿症	179	35	
		惡性腫瘍	192	48			鼻腔「デフテリー」	154	15	
		乾性前鼻炎	153	14			纖維素性鼻炎	156	16	
		鼻腔「デフテリー」	154	15			馬鼻疽	161	26	
		麻疹時ニ來ル鼻症狀	157	19			鼻、副鼻腔惡性腫瘍	193	49	
鼻 閉	多クハ急性ニ	鼻内丹毒	156	18	鼻 閉	多クハ急性ニ	初生兒性急性上顎洞炎	174	33	

症 狀	備 考	病 名	本 文 頁	本 番 文 號	症 狀	備 考	病 名	本 文 頁	本 番 文 號	
後方へ鼻漏	程度ハ種々ニシテ粘膿性不	慢性上顎洞炎	175	34	頭 痛	瀰蔓的ニテ輕重種々	鼻腔異物、結石	168	31	
	"	慢性前頭洞炎	181	37		"	"	齒性上顎洞蓄膿症	170	35
	"	慢性楔狀洞炎	185	30		瀰蔓的ニシテ可ナリ強	"	枯草熱	198	55
嗅 覺 異 常	多ク脱失、豫後良輕重種々、豫後失種々、豫後良呼吸性減失ナリ	鼻外傷	143	7	頭 痛 或ハ頭内腫脹感	部位不定限局的強	鼻微毒	157	23	
	"	急性鼻炎	145	9		主ニ前頭部ニテ輕	慢性上顎洞炎	175	34	
	"	慢性肥厚性鼻炎	147	11		"	慢性前頭洞炎	181	37	
	"	鼻茸	189	45		主ニ後頭部限局的輕	慢性楔狀洞炎	185	39	
	"	鼻「ヂフテリー」	154	15		主ニ前頭部ニ、輕頭部全體、可ナリ強	鼻茸	189	45	
	"	「インフルエンザ」ニ來ル鼻症狀	157	21		"	枯草熱	198	55	
	"	慢性上顎洞炎	175	34		疼	外鼻 可ナリ強	鼻前庭癬及毛囊瘡	135	2
	"	急性楔狀洞炎	185	39			" 強	鼻外傷	143	7
	多ク失脱、中樞性眞性失嗅ナリ	腦下垂體腫瘍	199	56			内外鼻	鼻丹毒	158	18
	"	慢性惡臭性削瘦性鼻炎	151	13			鼻内 輕	鼻結核	159	24
惡 臭	他覺的ニ不斷ニシテ強度	惡臭性削瘦性鼻炎	151	13	"	鼻微毒	157	23		
	" 輕	鼻腔「ヂフテリー」	154	15	"	鼻腔異物及ビ結石	168	31		
	"	鼻微毒	157	23	前頭	急性前頭洞炎	180	36		
	"	鼻癩	160	25	後頭	急性楔狀洞炎	185	39		
	自覺的ニシテ時々ニ感ズ輕	急性副鼻洞炎	174	32	鼻内	副鼻腔結核「アクチノミコーゼ」	187	41		
頭 痛	部位不定、多ク瀰蔓的、強主ニ前頭部ニ來リ多ク輕	頭蓋内合併症	189	44	鼻附近 時トシテ強	副鼻腔骨腫	192	47		
	"	鼻性鼻炎	145	9	壓 痛	外鼻 強	鼻前庭癬及ビ毛囊瘡	135	2	
	"	慢性肥厚性鼻炎	147	11		上顎部 輕	急性上顎洞炎	174	32	
	"	急性上顎洞炎	174	32		" 強	幼生兒急性上顎洞炎	174	33	
	"	急性前頭洞炎	180	36						
	瀰蔓的ニテ輕	鼻茸	189	45						
	"	惡臭性削瘦性鼻炎(臭鼻症)	151	13						

症 狀	備 考	病 名	本 文 頁	本 番 文 號	症 狀	備 考	病 名	本 文 頁	本 番 文 號
壓 痛	前頭部 輕	急性前頭洞炎	180	33	腫	鼻内外 強	内外鼻丹毒	156	18
	鼻梁 強	鼻中隔血腫及所謂特發性鼻中隔膿瘍	165	29附		"	"	鼻外傷	143
叩 打 痛	内背部 輕	急性篩骨蜂窠炎	182	38	鼻内	"	枯草熱	198	55
	上顎部	急性上顎洞炎	174	32	"	輕	急性鼻炎	145	9
	前頭部	急性前頭洞炎	180	33	"	"	麻疹ニ來ル鼻症狀	157	19
齒 痛	齒槽突起	齒性上顎洞蓄膿症	179	35	脹	"	慢性上顎蓄膿症	175	34
	無感覺	鼻癩	160	25		外鼻 輕	鼻中隔血腫及所謂特發性鼻中隔膿瘍	165	29附
粘 膜 發 赤	鼻内 輕	急性鼻炎	145	9	浮 腫	口蓋 種々	内外鼻外傷	144	8
	" 強	丹毒	156	18		眼周 輕	初生兒急性上顎洞炎	174	33
	呼吸道全部 強	麻疹ニ來ル鼻症狀	157	19		眼窩上縁	急性前頭洞炎	180	36
	鼻内 輕	馬鼻疽	161	26		氣 腫	眼周 種々	内外鼻外傷	143
氣管	初生兒急性上顎洞炎	174	33	"	"		副鼻腔送氣ノ際ノ不快現象	耳總 27	
腫 脹	鼻中隔	鼻性反射性喘息	195	50	骨 壁 ノ 膨 隆	中甲介附近 種々	篩骨蜂窠粘液胞	186	40
	鼻内 輕	鼻中隔血腫及所謂持發性鼻中隔膿瘍	165	29附		顔面 鼻腔	副鼻腔ノ結核微毒	187	41
	眉間部	神經性鼻感冒	197	54		"	副鼻腔骨腫	192	47
	骨部	頭蓋内合併症	189	44		主ニ大齒窩	上顎囊腫	192	48
	眼窩縁皮膚局所粘膜	副鼻腔微毒結核「アクチノミコーゼ」	187	41		波 動	下眼瞼内下方 多ク輕	初生兒急性上顎洞炎	174
"	急性前頭洞炎	180	33	鼻中隔 種々	鼻中隔血腫及所謂特發性鼻中隔膿瘍		165	29附	
"	急性楔狀洞炎	185	39	主ニ顔面	穿破シタル慢性副鼻腔炎		181	37	
腫 脹	鼻内粘膜	急性篩骨蜂窠炎	182	38	浸 潤	鼻孔上唇 種々	鼻前庭癬毛囊瘡	135	2
	"	慢性肥厚性鼻炎	147	11		鼻内外	鼻微毒	157	23
	"	初生兒急性上顎洞炎	174	33		" 輕	鼻結核	159	24
		化學的器械的急性鼻炎	147	10					

症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號	症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號
	局所	程度					局所	程度			
淺 潤	鼻内外	種々	鼻硬化症	162	27	外鼻變形	全外鼻	種々	鼻茸ノ高度ナルモ	189	45
	主ニ外鼻	"	鼻癩	160	25		多ク多ク片側	種々	副鼻腔骨腫	192	47
肥 厚	鼻尖	輕	酒渣鼻	137	5	鼻 聲	原因	種々	惡臭性削瘦性鼻炎	151	13
	外鼻	種々	鼻瘤	137	5		鼻内	"	鼻茸	189	45
	鼻根部	"	鼻癩	160	25		"	"	慢性肥厚性鼻炎	147	11
	鼻内殊ニ甲介	"	慢性肥厚性鼻炎	147	11		"	輕	慢性肥厚性鼻炎	147	11
萎 縮	鼻内	種々	慢性單純性削瘦性鼻炎	151	12	噴 嚏	緩 急	輕 可ナリ 強	急性鼻炎	145	9
	"	強	惡臭性削瘦性鼻炎 (臭鼻症)	151	13		"	強	神經性感冒	197	54
乾 燥 感	鼻中隔前方	"	乾性前鼻炎	153	14	鼻中隔穿孔	鼻中隔	種々	急性鼻炎 (化學的器械的刺戟ニヨル)	147	10
	鼻内	輕	急性鼻炎	145	9		"	"	乾性前鼻炎	153	14
	鼻中隔前方多少痛不快	種々	人工的鼻中隔穿孔 (手術的)	164	29		"	"	鼻癩	160	25
結 核	外鼻	種々	鼻前庭濕疹	135	1	鼻 爛	前下方ニ多クハニ多クハ	種々	人工的鼻中隔穿孔 (手術過誤ニヨル)	164	29
	"	"	瘡瘡	137	4		鼻孔	種々	デフテリー性鼻炎	154	15
	"	強	鼻結核	159	24		"	"	鼻腔異物, 結石	168	31
	鼻内	"	惡臭性削瘦性鼻炎	151	13		齒齦	"	齒性上顎洞炎	179	35
痴 癩	鼻中隔前方	輕	乾性前鼻炎	153	14	潰 瘍	鼻内外	種々	鼻微毒	157	23
	鼻内外	種々	鼻微毒	157	23		"	"	結核	159	24
	鼻内	"	鼻硬化症	162	27		"	"	鼻癩	160	25
	後鼻孔	輕	慢性楔狀洞炎	185	39		"	"	馬鼻疽	161	26
	至ル所	種々	先天及後天性外鼻畸形	139	6		鼻及ビ口腔	"	進行セル鼻, 副鼻腔惡性腫瘍	193	49
外鼻變形	"	"	鼻外傷	143-144	7-8	瘻	鼻内外	"	れいしゆまん一どのザあん病「エスブンヂア」	239	24
	鼻梁	輕	惡臭性削瘦性鼻炎	151	13						

症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號	症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號
	局所	程度					局所	程度			
黏膜形成或ハ苔	鼻内	強	デフテリー性鼻炎	154	15	發 熱	急	小ニハシ大ニハシ人ハ輕	急性鼻炎	145	9
	"	"	纖維素性鼻炎	156	16		"	種々	デフテリー性鼻炎	154	15
	"	種々	猩紅熱時ニ來ル急性鼻症狀	157	20		"	輕	纖維素性鼻炎	156	16
	"	"	鼻腔異物, 鼻結石	168	31		"	高	急性上顎洞炎其他ノ副鼻腔急性炎	174-185	32-39
結節或ハ瘰癧	鼻内外	種々	鼻癩	160	25	熱	"	高	急性初生兒性上顎洞炎	174	33
	"	"	馬鼻疽	161	23		"	輕	鼻丹毒	153	18
腫點ト腫疱	外鼻上唇	種々	鼻前庭癬及ビ毛囊瘡	135	2	急 熱	中等度	種々	鼻微毒	157	23
	外鼻	輕	瘡瘡	137	4		高	種々	鼻血腫特發性鼻中隔膿瘍	165	20附
	内外鼻	強	馬鼻疽	161	23		高	種々	鼻性眼窩内合併症	187	42
惡 寒	急	輕	急性鼻炎	145	9	急 熱	急	種々	鼻丹毒	156	18
	"	"	鼻性眼窩内合併症	187	42		急	種々	馬鼻疽	161	26
	"	強	鼻性頭蓋内合併症	189	44		急	種々	鼻微毒	157	23
	"	"	鼻丹毒	158	18		急	種々	鼻結核	159	24
倦 怠	"	"	内鼻癩	160	25	急 熱	急	種々	鼻孔閉鎖及瘡著	136	3
	急	輕	急性鼻炎	145	9		鼻内	種々	慢性肥厚性鼻炎	147	11
	"	"	急性上顎洞炎	174	32		"	"	デフテリー性鼻炎	154	15
	"	"	急性楔狀洞炎其他ノ副鼻腔炎	181-185	37-39		"	"	纖維素性鼻炎	156	16
	"	"	鼻性反射性喘息	196	51		"	強	急性初生兒性上顎洞炎	174	33
貧 血	急	種々	鼻微毒	157	23	急 熱	"	種々	乳兒急性鼻炎	145	9
	"	"	枯草熱	198	55		"	種々	鼻腔内腫瘍	189-192	45-48
貧 血	急	種々	鼻微毒	157	23	急 熱	緩	輕	慢性肥厚性鼻炎	147	11
	"	"	鼻微毒	157	23						

症 狀	備 考			病 名	本文頁	本文番號	症 狀	備 考			病 名	本文頁	本文番號
	局所	所	程度					局所	所	程度			
難 聽 耳 鳴	緩	輕	鼻茸	189	45	眼 球 突 出	急	輕	時トシテ急性節骨	182	38		
	"	"	惡臭性削瘦性鼻炎	151	13		緩	"	蜂窠炎	186	40		
	"	種々	頭蓋底類纖維腫	192	46附		"	種々	時トシテ節骨蜂窠	192	47		
	"	"	惡性腫瘍	193	49		"	"	副鼻腔骨腫	193	49		
癢	緩	中等大	初生兒急性性上顎	174	33	眼 瞼 浮 腫 及 結 膜 炎	下眼瞼	輕	初生兒急性性上顎	174	33		
	"	"	洞炎	182	38		"	"	洞炎	182	38		
	"	"	急性節骨蜂窠炎	187	41		上下眼瞼	種々	時トシテ急性節骨	189	44		
孔	口蓋大	"	副鼻腔結核及「ア	187	41	全結膜	可ナリ	高度ノ鼻茸	189	45			
	齒高等	"	クチノミコーゼ」	193	49		強	"	鼻涙管狭窄	202	57		
腐 骨 排 出	緩	小	初生兒急性性上顎	174	33	強	強	枯草熱	198	55			
	孔ヨリ	種々	洞炎, 慢性節骨前頭	181, 37, 38			"	"	鼻, 副鼻腔惡性腫	193	49		
穿 刺 液	緩	鼻	節骨蜂窠, 前頭洞	196	40	急	種々	急性前頭洞炎	180	36			
	中	種々	粘液胞	182	38		稍急	種々	鼻性眼窩内合併症	187	42		
呼 吸 困 難	緩	鼻	上顎囊腫	192	48	急		種々	鼻腔惡性腫瘍	193	49		
	氣管支	種々	鼻性反射性喘息	196	51	急	種々	時トシテ急性前頭	180	36			
涙	急	種々	鼻外傷	143	7		急	種々	時トシテ慢性上顎	175	34		
	"	"	デフテリー性鼻炎	154	15	急	種々	洞炎	180	36			
	"	"	急性前頭洞炎	180	36	急	種々	鼻性頭蓋内合併症	189	44			
	緩	"	鼻茸	189	45	半側盲	急	種々	時トシテ急性楔狀	185	39		
急	輕	神經性鼻塞同	197	54	急		種々	洞炎	199	56			
漏	急	種々	枯草熱	198	55	中心盲	稍急	種々	時トシテ急性楔狀	185	39		
	緩	種々	鼻涙管狭窄	202	57		急	種々	洞炎	199	56		
急	輕	初生兒急性性上顎	173	33									

症 狀	備 考			病 名	本文頁	本文番號	症 狀	備 考			病 名	本文頁	本文番號
	局所	所	程度					局所	所	程度			
上 下 唇 腫 痛	急	輕	急性上顎洞炎	174	32	咳	種々	惡臭性削瘦性鼻炎	151	13			
	"	"	急性前頭洞炎	180	36		"	"	慢性上顎洞炎	175	34		
	"	"	"	"	"		"	"	鼻茸	189	45		

口 腔 科

症 狀	備 考			病 名	本文頁	本文番號	症 狀	備 考			病 名	本文頁	本文番號
	局所	所	程度					局所	所	程度			
疼	急	強	口唇及頬粘膜炎	223	5	臭	緩	強	壞血病性口腔炎	230	15		
	急	中等	「ロイコプラキ」	224	6		"	種々	口腔=現ハルル紫	230	17		
	緩	輕	齒槽骨膜炎=「パ	226	10		急	強	水 痛	231	18		
	"	"	ルース」	228	12		"	中等度	口唇, 口腔腐蝕	247	29		
	"	"	表層性舌膿瘍	229	13		緩	強	舌 痛	252	34		
	"	"	汞毒性口腔炎	230	15		"	"	口唇痛	253	35		
	"	可ナリ	強	強	232		19	稍急	種々	淋毒性口腔炎	258	51	
	"	強	強	強	237		22	咽 嚥 障 礙	緩	輕	單純性「カタル」	221	1
	稍急	"	強	強	247		27d)		"	"	性口腔炎	226	10
	急	強	強	強	250		34		"	中等度	齒槽骨膜炎=パ	229	13
緩	"	強	強	253	35	"	強		壞血病性口腔炎	230	15		
痛	"	"	強	強	255	41	"	種々	微 毒	233	20		
	稍急	中等度	強	強	221	2	急	"	舌咬傷	247	27d)		
	緩	輕	強	強	221	1	"	"	口唇, 口腔ノ腐蝕	247	28		
	"	中等度	強	強	226	9	"	強	口腔ノ熱傷	248	29		
口 臭	緩	輕	強	強	226	10	緩	種々	強	248	31		
	"	"	強	強	226	10	"	"	強	248	31		
	金屬的	"	強	強	229	13	"	"	強	249	32		

症 状	備 考			病 名	本文 頁	本文 番 號	症 状	備 考			病 名	本文 頁	本文 番 號
	局 所	程 度	性 質					局 所	程 度	性 質			
咽 嚥 障 礙	緩	種々		舌 痛	252	34	談 話	急	強		口腔底蜂窠織炎	227	11
	"	"		口唇痛	253	35		緩	多ク輕		結核及ビ狼瘡	232	19
	"	"		唾液腺ノ混合腫瘍	255	40		"	"		微 毒	233	20
	"	"		耳下腺ノ悪性腫瘍	255	41		急	種々		舌咬傷	247	27d)
	比較的 急	"		淋毒性口腔炎	258	51		"	"		口唇, 口腔ノ腐蝕	247	28
嚥 下 障 礙	可ナリ 急 緩	中等度		「アフタ」性口腔炎	221	2	淋 巴 腺 腫 脹	緩	輕		蝦蟇腫=「ラヌラ」	248	31
	急	"		齒槽骨膜炎=「パル-リス」	226	10		"	種々		舌 痛	252	34
	急	強		口腔底蜂窠織炎	227	11		"	"		口唇痛	253	35
	緩	多ク輕		表層性舌膿瘍	228	12		"	"		唾液腺ノ混合腫瘍	255	40
	生來	種々		先天性口蓋破裂	242	25		"	"		耳下腺ノ悪性腫瘍	255	41
	"	"		兎 脣	245	26		"	輕		營養及ビ分泌異常ニヨル障礙	257	44
	急	"		舌咬傷	247	27d)		可ナリ 急	強		齒槽骨膜炎=「パル-リス」	226	10
	"	"		口唇, 口腔ノ腐蝕	247	28		可ナリ 急	種々		汞毒性口腔炎	229	13
	"	"		口腔ノ熱傷	248	29		緩	"		水 痛	231	18
	緩	強		舌 癌(後期)	252	34		"	輕		結核及ビ狼瘡	232	19
	可ナリ 急 緩	輕		急性耳下腺炎=「オ-タフカカゼ」	254	38		無痛	強		微 毒	233	20
	"	"		唾液腺ノ混合腫瘍	255	40		緩	輕		齒槽突起腫瘍=「エ-プ-リス」	249	32
"	"		耳下腺ノ悪性腫瘍	255	41	"	輕		舌 痛	252	34		
多ク緩	種々		舌運動障礙	256	42b)	可ナリ 急	可ナリ 強		淋毒性口腔炎	258	51		
"	輕		營養及ビ分泌異常ニヨル障礙	257	44	"	"		軟性下疳	258	52		
稍急	種々		「ヂフテリー」	258	47	時トシ	輕		單純性「カタル」性口腔炎	221	1		
談 話 障 礙	可ナリ 急	輕		單純性「カタル」性口腔炎	221	1	齒 牙 弛 緩	緩	種々		齒槽膿漏	226	9
	"	多ク輕		「アフタ」性口腔炎	221	2		"	"		汞毒性口腔炎	229	13
	緩	中等度		表層性舌膿瘍	228	12		"	強		壞血病性口腔炎	230	15
	"	"						"	"		結核ト狼瘡	232	19

症 状	備 考			病 名	本文 頁	本文 番 號	症 状	備 考			病 名	本文 頁	本文 番 號	
	局 所	程 度	性 質					局 所	程 度	性 質				
齒 牙 弛 緩	緩	強		「アクチノミコーゼ」 齒槽突起腫瘍=「エ-プ-リス」	238	23	潰 瘍	緩	強		口唇痛	253	35	
	"	"			240	32		急	可ナリ 強		天然痘	258	50	
粘 膜 發 赤	急	中等度		「アフタ」性口腔炎	221	2	齒 齦 出 血	稍緩	強		微 毒	233	20	
	"	"		口唇及ビ頬粘膜「ヘルペス」	223	5		稍緩	種々		「アクチノミコーゼ」	238	23	
	緩	"		汞毒性口腔炎	229	13		緩	輕		汞毒性口腔炎	229	13	
	急	種々		口唇, 口腔ノ腐蝕	247	28		"	種々		壞血病性口腔炎	230	15	
	緩	強		口腔ノ熱傷(輕度ノ時)	248	29		"	"		ぼろろ病	230	16	
浸 潤 硬 結	緩	輕		唾液腺及腺管ノ結石ト異物	254	37	腫 脹	"	"		口腔ニ現ハルル紫斑病	230	17	
	急	中等度		麻 疹	257	46		急	輕		麻 疹	257	46	
	"	輕		「ヂフテリー」	258	47		"	"		猩紅熱	258	48	
	"	強		猩紅熱	258	48		緩	持續		血友病	259	55	
	緩	可ナリ 強		微 毒	233	20		急	種々		口唇打撲	246	27a)	
潰 瘍	急	輕		舌咬傷	247	27d)	壓 痛	"	"		舌咬傷	247	27d)	
	緩	可ナリ 強		舌 痛	252	34		"	"		口唇, 口腔腐蝕	247	28	
	"	"		口唇痛	253	35		"	"		口腔ノ熱傷	248	29	
	"	強		耳下腺ノ悪性腫瘍	255	41		緩無痛	"		蝦蟇腫=ラヌラ	248	31	
	"	可ナリ 強		馬鼻疽	259	53		急	輕		唾液腺及腺管ノ結石ト異物	254	37	
	"	"		癩	259	54		"	種々		急性耳下腺炎	254	38	
	稍緩	可ナリ 強		汞毒性口腔炎	229	13		可ナリ 急	多クハ 輕		淋毒性口腔炎	258	51	
	"	"		蒼鉛中毒口腔炎	229	14		潰 瘍	緩	輕		齒槽膿漏	226	9
	"	"		壞血病性口腔炎	230	15			"	種々		齒槽骨膜炎=「パル-リス」	226	10
	"	強		水 痛	231	18			急	強		口腔底蜂窠織炎	227	11
緩 淺シ 緩	種々		結核ト狼瘡	232	19	急	輕			唾液腺及腺管ノ結石ト異物	254	37		

症 状	備 考		病 名	本文 頁	本文 番 號	症 状	備 考		病 名	本文 頁	本文 番 號
	局 所 程 度 若 成 ク ハ 立 性 質 等	局 所 程 度 若 成 ク ハ 立 性 質 等					局 所 程 度 若 成 ク ハ 立 性 質 等	局 所 程 度 若 成 ク ハ 立 性 質 等			
壓 痛	急	可ナリ強	急性耳下腺炎	254	38	齒 齦 腫 脹	緩	輕	單純性「カタル」性口腔炎	221	1
	"	輕	軟性下疳	258	52		"	"	口唇及頬粘膜「ヘルペス」	223	5
白 色 苔	時トシテ	輕	單純性「カタル」性口腔炎	221	1	出 血	"	"	齒槽膿漏	226	9
	緩	種々	「ロイコプラキヤ」	224	6		"	中等度	汞毒性口腔炎	229	13
	急	"	鷓口瘡	237	22		"	可ナリ強	壞血病性口腔炎	230	15
	"	"	口唇、口腔ノ腐蝕	247	28		"	輕	ばろう病	230	16
	緩	"	舌運動障礙	256	42b)		急	種々	舌咬傷	247	27d)
口 内 分 泌 増 加	可ナリ急	輕	單純性「カタル」性口腔炎	221	1	"	緩	口腔ノ熱傷	248	29	
	"	可ナリ強	「アフタ」性口腔炎	221	2	"	種々	舌 痛	252	34	
	"	"	慢性再發性「アフタ」	223	4	"	"	口唇痛	253	35	
	"	"	水 痛	231	18	"	輕	淋毒性口腔炎	258	51	
	急	"	舌咬傷	247	27d)	"	持續スル故ニ強	血友病	260	55	
發 熱	緩	輕	齒槽骨膜炎「バルーリス」	226	10	浮 腫	緩	輕	水痛	231	18
	"	種々	汞毒性口腔炎	229	13	急	種々	口唇整傷	246	27c)	
	"	輕	口腔ニ現ハルル紫斑病	230	17	"	輕	口唇、口腔ノ腐蝕	247	28	
	"	輕	結核及ビ狼瘡	232	19	"	種々	口腔ノ熱傷	248	29	
	急	種々	急性耳下腺炎	254	38	緩	輕	唾液腺及腺管ノ結石ト異物	254	37	
熱	緩	輕	淋毒性口腔炎	258	51	灼 熱 痛	稍緩	強	「アフタ」性口腔炎	221	2
	"	輕	馬鼻疽	259	53	緩	輕	地圖狀舌	224	7	
	急	強	口腔底蜂窠織炎	227	11	急	強	口腔ノ熱傷	248	29	
	可ナリ急	可ナリ強	水 痛	231	18	"	輕	麻 疹	257	46	
	"	"				"	輕	淋毒性口腔炎	258	51	

症 状	備 考		病 名	本文 頁	本文 番 號	症 状	備 考		病 名	本文 頁	本文 番 號
	局 所 程 度 若 成 ク ハ 立 性 質 等	局 所 程 度 若 成 ク ハ 立 性 質 等					局 所 程 度 若 成 ク ハ 立 性 質 等	局 所 程 度 若 成 ク ハ 立 性 質 等			
紫 赤 色 ノ 齒 齦	緩	強	壞血病性口腔炎	230	15	瘻 孔 形 成	緩	單發	齒槽骨膜炎「バルーリス」	226	10
	"	"	ばろう病	230	16		"	多ク單發	結核ト狼瘡	232	19
	"	種々	齒槽突起腫瘍「エプーリス」	249	32		緩	多發	「アクチノミコーゼ」	238	23
顎 下 頸 腺 腫 大	緩、固	可ナリ大	舌 痛	252	34	呼 吸 困 難	緩	種々	齒牙囊腫	250	33
	"	"	口唇痛	253	35		稍急	強	口腔底蜂窠織炎	227	11
	"	"	唾液腺ノ混合腫瘍	255	40		急	種々	口腔熱傷	248	29
	"	"	耳下腺ノ悪性腫瘍	255	41		緩	"	耳下腺ノ悪性腫瘍	255	41
崩 壊	緩	種々	汞毒性口腔炎	229	13	薄 苔	急	種々	「アフタ」性口腔炎	221	2
	急	強	水 痛	231	18		"	"	慢性再發性「アフタ」	223	4
	緩	輕	馬鼻疽	259	53		緩	"	結核ト狼瘡	232	19
	後期	"	癩	259	54		急	"	麻 疹	257	46
鼻 内 逆 流	緩	種々	微毒性口蓋穿孔	233	20	主トシテニ來ル乳歯病	緩	種々	べどな「アフタ」	222	3
	初ヨリ	強	先天性口蓋破裂	242	25		"	"	ばろう病	230	16
	稍緩	輕	軟口蓋片側下垂	256	42a)		稍急	"	鷓口瘡	237	22
糜 爛	緩	種々	微 毒	233	20	主トシテニ來ル乳歯病	急	種々	口唇及頬粘膜「ヘルペス」	223	5
	急	"	腸「チフス」	258	49		可ナリ急	"	水 痛	231	18
	緩	"	癩	259	54		生來	"	兔 唇	245	26
噴 乳 困 難 症	急	拒否	鷓口瘡	237	22	波 動 性 疾 病	緩	種々	蝦蟇腫＝ラヌラ	248	31
	生來	困難	兔唇(口蓋破裂)「ラフ」	245	26		緩	種々	齒牙囊腫	250	33
牙 關 緊 急	緩	種々	齒槽骨膜炎「バルーリス」	226	10	下 痢	緩	種々	蝦蟇腫＝ラヌラ	248	31
	"	"	唾液腺ノ混合腫瘍	255	40		比較的急	"	表層性舌膿瘍	228	12
	"	"	耳下腺ノ亞性腫瘍	255	41		緩	中等度	汞毒性口腔炎	229	13
	"	"					"	"	蒼鉛中毒口腔炎	229	14

症 狀	備 考			病 名	本文 頁	本文 番 號	症 狀	備 考			病 名	本文 頁	本文 番 號	
	局 所 程 度 若 成 立 性 質 等							局 所 程 度 若 成 立 性 質 等						
再 發 性 傾 向	可ナリ	強		「アフタ」性口腔炎	221	2	膨	緩	輕		口唇粘液囊腫	248	30	
	急	〃		口唇及頬粘膜「ヘルペス」	223	5		〃	〃			齒牙囊腫	250	33
	緩	〃		齒槽突起腫瘍	249	32		〃	種々			唾液腺ノ混合腫瘍	255	40
難 聴	急	種々		急性耳下腺炎	254	38	隆	〃	輕		表層性舌膿瘍	228	12	
	緩	〃		耳下腺ノ悪性腫瘍	255	40		〃	〃					

咽 頭 科

症 狀	備 考			病 名	本文 頁	本文 番 號	症 狀	備 考			病 名	本文 頁	本文 番 號	
	局 所 程 度 若 成 立 性 質 等							局 所 程 度 若 成 立 性 質 等						
熱	持續的	輕		咽頭周囲或ハ咽後膿瘍	280	4	嚥 下 痛	食ヲ拒ム程	強		舌根扁桃腺周圍膿瘍	286	8	
	〃	高		咽頭丹毒	281	5		概ネ輕	〃	可ナリ		ぶらうと一ツあんさん「アンギーナ」	287	9
	〃	小兒ニ大人ニ中		急性扁桃腺炎	281	6		〃	〃	〃		單核細胞性「アンギーナ」	288	10
	〃	概ネ中以上		扁桃腺周圍炎	283	7		〃	〃	〃		顆粒細胞消耗性「アンギーナ」	289	11
	〃	〃		舌根扁桃腺周圍膿瘍	286	8		甚ハ食ヲ拒ム	輕	可ナリ		咽頭「ヂフテリー」	295	16
	〃	〃		ぶらうと一ツあんさん「アンギーナ」	287	9		〃	〃	〃		咽頭結核	299	20
	弛張性アリ	高		單核細胞性「アンギーナ」	288	10		位置ニヨリ消失ス	〃	〃		痛 腫	306	26
	弛張性アリ	〃		顆粒細胞消耗性「アンギーナ」	289	11		〃	〃	〃		咽頭異物	309	33
	比較的持續多ク急弛張ス	小兒ニ大人ニ輕高		咽頭「ヂフテリー」	298	16		持續的	輕			口蓋扁桃腺肥大	290	12
	〃	〃		猩紅熱性咽頭炎	297	17		〃	〃			舌根扁桃腺肥大	294	14
嚥 下 痛	持續的	強		扁桃腺炎ヨリ來ル敗血症	297	18	〃	種々			頭蓋底基礎膜類纖維腫	304	25	
	飲食時外ハ輕	種々		咽頭丹毒	281	5	〃	強			咽頭筋麻痺	308	31	
	食ヲ拒ム程	強		急性扁桃腺炎	281	6	痛ヲ伴フ	種々			咽頭異物	309	33	
	〃	強		口蓋扁桃腺周圍炎	283	7	持續的	〃			下咽頭憩室	310	36	
〃	〃					〃	〃			瘻 著	311	37		

症 狀	備 考			病 名	本文 頁	本文 番 號	症 狀	備 考			病 名	本文 頁	本文 番 號		
	局 所 程 度 若 成 立 性 質 等							局 所 程 度 若 成 立 性 質 等							
發 熱	新鮮調	種々		急性咽頭炎	278	1	咽 頭 痛	ヒリスル感	可ナリ		結 核	299	20		
	〃	強		咽頭丹毒	281	5		〃	〃			咽頭痛	306	26	
	〃	〃		急性扁桃腺炎	281	6		異物ノ種類ヨリ	〃			咽頭異物	309	33	
	〃	〃		扁桃腺周圍炎	283	7		出 血	刺戟時	種々			頭蓋底基礎膜類纖維腫	304	25
	〃	〃		舌根扁桃腺周圍膿瘍	286	8			〃	〃			咽頭痛	306	26
	〃	〃		猩紅熱性咽頭炎	297	17			尖鋭ナル時強シ	〃			咽頭異物	309	33
	〃	概ネ輕		第一期微毒	300	21a)			潰 瘍	苔下ニ	中			ぶらうと一ツあんさん「アンギーナ」	287
	稍暗調	種々		慢性咽頭炎	279	2		廣シ		〃			單核細胞性「アンギーナ」	288	10
	〃	中等度		ぶらうと一ツあんさん「アンギーナ」	287	9		廣		強			顆粒細胞消耗性「アンギーナ」	289	11
	〃	可ナリ強		顆粒細胞消耗性「アンギーナ」	289	11		淺シ		中			狼 瘡	298	19
赤 腫	〃	輕		狼 瘡	298	19	瘻	〃	種々			結 核	299	20	
	可ナリ暗調	概ネ中		第二期微毒	300	21b)		深シ	〃			第三期微毒	301	21c)	
	〃	〃		第三期微毒	301	21c)		概ネ深	〃			咽頭痛	306	26	
	〃	中咽頭		咽頭痛	306	26		苔	汚穢灰白厚	輕			口蓋扁桃腺周圍炎	283	7
腫 脹	瀰蔓性	強		咽頭丹毒	281	5	〃		強			ぶらうと一ツあんさん「アンギーナ」	287	9	
	扁桃腺附近多ク扁側性	輕		急性扁桃腺炎	281	6	〃		可ナリ強			單核細胞性「アンギーナ」	288	10	
	〃	強		扁桃腺周圍炎	283	7	〃		〃			顆粒細胞消耗性「アンギーナ」	289	11	
	〃	輕		ぶらうと一ツあんさん「アンギーナ」	287	9	〃		強			咽頭「ヂフテリー」	295	16	
	新鮮發赤ヲ缺ク	〃		咽頭扁桃腺肥大	292	13	〃		強			猩紅熱性咽頭炎	297	17	
	浸潤性	〃		第二期微毒	300	21b)	充血強		輕			結 核	299	20	
	〃	〃		第三期微毒	301	21c)	淺薄	〃			第一期微毒	300	21a)		
咽 頭 痛	損傷ト共ニアリ	〃		咽頭外傷	309	33	豚脂様	中等度			第三期微毒	301	21c)		
	瀰蔓的	強		猩紅熱性咽頭炎	297	17	咽 頭 痛	〃							
	多クハ刺戟的	輕		狼 瘡	298	19									

症 状	備 考			病 名	本文頁	本文番號	症 状	備 考			病 名	本文頁	本文番號
	局所成	所ハ立	程度等					局所成	所ハ立	程度等			
乾燥微熱感(咽頭)	移動ス	輕	急性咽頭炎	278	1	口	不快	強	顆粒細胞消耗性「アンギーナ」	289	11		
	持続性	可ナリ強	乾性咽頭炎	279	3		"	"	ぶらうと一ザあんさん「アンギーナ」	287	9		
	"	"	扁桃腺炎ヨリ來ル敗血症	297	18		"	"	咽頭「ヂフテリー」	295	16		
	女ニ多シ	種々	咽頭知覺異常	307	28		臭	時ニ強	咽頭異物	309	33		
領域淋巴腺ノ腫大ト壓痛	軟	輕	急性扁桃腺炎	281	6	呼吸障礙	緩	種々	咽後膿瘍	280	4		
	"	可ナリ強	扁桃腺周圍炎	283	7		"	"	咽頭丹毒	281	5		
	"	"	舌根扁桃腺周圍炎	286	8		"	"	舌根扁桃腺周圍炎	286	8		
	"	"	ぶらうと一ザあんさん「アンギーナ」	287	9	鼻呼吸障礙	"	"	口蓋扁桃腺肥大	290	12		
	"	"	單核細胞性「アンギーナ」	288	10		鼻	閉鎖性	種々	咽頭扁桃腺肥大	292	13	
	"	"	咽頭「ヂフテリー」	295	16				漸次進ム	多ク強度	頭蓋底基礎膜類纖維腫	304	25
	"	"	扁桃腺炎ヨリ來ル敗血症	297	18	鼻	閉鎖性	輕	口蓋扁桃腺周圍炎	283	7		
	緊痛ハ殆ナシ	輕	第二期梅毒	300	21b)		閉鎖性	多ク強	頭蓋底基礎膜類纖維腫	304	25		
	唾液分泌増強	急	輕	急性扁桃腺炎	281		6	開放性	"	咽頭筋麻痺	308	31	
		"	強	扁桃腺周圍炎	283	7	閉鎖性	"	咽頭癒著	311	37		
緩		"	結核	299	20	惡	急	輕	急性扁桃腺炎	281	6		
急		"	咽頭異物	309	33		"	"	口蓋扁桃腺周圍炎	283	7		
壓痛	舌骨部	強	扁桃腺周圍炎	283	7	"	"	舌根扁桃腺周圍炎	286	8			
	"	"	舌根扁桃腺周圍炎	286	8	感	"	"	舌根扁桃腺周圍炎	286	8		
	"	可ナリ強	ぶらうと一ザあんさん「アンギーナ」	287	9		"	"	咽頭「ヂフテリー」	295	16		
	"	"	扁桃腺炎ヨリ來ル敗血症	297	18	惡寒戰慄	急	強	顆粒細胞消耗性「アンギーナ」	289	11		
異物感	咽頭	輕	舌根扁桃腺肥大	294	14		"	"	扁桃腺炎ヨリ來ル敗血症	297	18		
	"	"	咽頭角化症	394	15	耳放散痛	緩	強	口蓋扁桃腺周圍炎	283	7		
	"	"	咽頭纖維腫	303	24		可ナリ強	強	扁桃腺炎ヨリ來ル敗血症	297	18		
	初期ノミ	"	咽頭癌	306	26								

症 状	備 考			病 名	本文頁	本文番號	症 状	備 考			病 名	本文頁	本文番號
	局所成	所ハ立	程度等					局所成	所ハ立	程度等			
耳放散痛	可ナリ強	"	咽頭癌	306	26	虛癆	急發	強	咽頭丹毒	281	5		
	虛癆時	強	咽頭異物	309	33		"	"	急性扁桃腺炎	281	6		
談話障礙	痛ミ爲	強	扁桃腺周圍炎	283	7	食ル如キヲ嚥メテ	徐發	強	口蓋扁桃腺周圍炎	283	7		
	"	"	舌根扁桃腺周圍炎	266	8				高度ノ時	強	口蓋扁桃腺肥大	290	12
	軟口蓋運動不十分	輕	口蓋扁桃腺肥大	290	12				強	強	顆粒細胞消耗性「アンギーナ」	289	11
	"	種々	咽頭筋麻痺	308	31				粘膿乾燥	表面ニ綠黄色アリ	種々	乾性咽頭炎	279
頭痛	廣汎性	種々	急性扁桃腺炎	281	6	表面赤	強	咽頭丹毒		281	5		
	"	強	顆粒細胞消耗性「アンギーナ」	289	11	哺乳痛	疼痛ノ爲メ	著明	乳兒咽後膿瘍	280	4		
腰痛	初發ヨリ	可ナリ強	急性扁桃腺炎	281	6		拒	"	"	口蓋扁桃腺周圍炎	283	7	
	"	"	顆粒細胞消耗性「アンギーナ」	289	11	"		"	顆粒細胞消耗性「アンギーナ」	289	11		
女性好發	種々	單核細胞性「アンギーナ」	扁桃腺炎ヨリ來ル敗血症	297	18	鼻内逆流	後壁側	著明	咽後膿瘍	280	4		
			狼瘡	298	19				咽頭筋麻痺	308	31		
血液像特殊變化	比較的ナルコトアリ	著明	單核細胞性「アンギーナ」	288	10	波動腫脹	咽頭	著明	咽後膿瘍	280	4		
			顆粒細胞消耗性「アンギーナ」	289	11				扁桃腺周圍膿瘍	283	7		
			扁桃腺炎ヨリ來ル敗血症	297	18				種々	咽後膿瘍	280	4	
			左移動著シ	強	口蓋扁桃腺周圍炎					283	7	咽頭扁桃腺肥大(腺様増殖症)	292
扁桃腺炎ヨリ來ル敗血症	297	18			頭蓋底基礎膜類纖維腫	304	25						
			咽頭癒著	311	37								

喉 頭 科

症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號	症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號		
	局所成	所ハ立					局所成	所ハ立					
吸 氣 性 呼 吸 困 難	急	可ナリ強	急性聲唇下喉頭炎	325	2	無 響 音	緩	種々	内喉頭痛	341	14a)		
	緩	多ク強	喉頭「ヂフテリー」	326	3		"	"	外喉頭痛	349	14b)		
	"	種々	喉頭軟骨骨膜炎	327	4		可ナリ急	輕	輕	内喉頭痛	350	22	
	急	強	喉頭蜂窩織炎	328	5		多ク緩	中等度	中等度	横披裂間筋麻痺 (横筋麻痺)	359	23	
	緩	輕	喉頭結核	330	8		"	種々	種々	側輪狀披裂筋麻痺 (側筋麻痺)	360	24	
	"	種々	喉頭乳嘴腫	340	13		喘	急	強	急性聲唇下喉頭炎	325	2	
	"	"	内喉頭痛	341	14a)			可ナリ急	"	"	喉頭「ヂフテリー」	326	3
	"	"	外喉頭痛	349	14b)			緩	種々	種々	内喉頭痛	341	14a)
	種々	"	喉頭狭窄	349	16			"	"	"	外喉頭痛	349	14b)
	多ク急	"	喉頭異物	357	17			種々	"	"	喉頭狭窄	349	16
	種々	"	喉頭外傷	357	18			"	"	"	喉頭異物	357	17
	多ク緩	"	末梢性麻痺	361	26		鳴	"	"	末梢性麻痺	361	26	
急	強	小兒喉頭痙攣	362	27	發作的	強		強	小兒喉頭痙攣	362	27		
"	"	大人喉頭痙攣	363	28	浮腫	急	輕	急性喉頭炎	325	1			
音 聲 障 礙 …… 不 純 音 …… 啞 聲 ……	急	輕不純	急性喉頭炎	325	1	浮 腫 脹	多ク急	種々	喉頭軟骨骨膜炎	327	4		
	急	強	急性聲唇下喉頭炎	325	2		急	強	急性聲唇下喉頭炎	325	2		
	可ナリ急	"	喉頭「ヂフテリー」	326	3		緩	輕	慢性喉頭炎	328	6		
	"	"	喉頭軟骨骨膜炎	327	4		"	強	喉頭蜂窩織炎	328	5		
	"	"	喉頭蜂窩織炎	328	5		"	緩	慢性喉頭炎	328	6		
	緩	輕不純	慢性喉頭炎	328	6		"	種々	喉頭結核	330	8		
	"	"	慢性乾性喉頭炎	330	7		"	種々	喉頭結核	330	8		
	"	強	喉頭結核	330	8		"	"	喉頭結核	330	8		
	"	種々	喉頭微毒	338	10		"	"	外喉頭痛	349	14b)		
	"	中度	諸者結節	339	11		"	"	外喉頭痛	349	14b)		
	"	強	喉頭微毒	338	10								

症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號	症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號		
	局所成	所ハ立					局所成	所ハ立					
嚥 下 痛	可ナリ急	可ナリ強	喉頭軟骨骨膜炎	327	4	嚥 下 痛	緩	輕	内喉頭痛	341	14a)		
	"	"	喉頭蜂窩織炎	328	5		"	強	外喉頭痛	349	14b)		
	緩	後期ニ強	喉頭結核	330	8		肥 厚	緩	輕	慢性喉頭炎	328	6	
	"	輕	喉頭狼瘡	338	9			"	種々	喉頭狼瘡	338	9	
	"	後期ニ強	内喉頭痛	341	14a)			"	輕	諸者結節	339	11	
	"	強	外喉頭痛	349	14b)			"	漸強	内喉頭痛	341	14a)	
	"	急	種々	喉頭異物	357		17	"	"	外喉頭痛	349	14b)	
	急	"	喉頭外傷	357	18		耳へ放散痛	緩	高度	喉頭結核後期	330	8	
	發 熱	可ナリ急	強	喉頭蜂窩織炎	328			5	"	中度	喉頭狼瘡後期	338	9
		急	後期ニ強	喉頭結核	330			8	"	高度	喉頭軟骨骨膜炎	327	4
"		"	内喉頭痛	341	14a)	"		"	喉頭蜂窩織炎	328	5		
"		強	外喉頭痛	349	14b)	緩	種々	外喉頭痛	349	14b)			
潰 瘍	可ナリ急	中度	喉頭「ヂフテリー」	326	3	咳	急	中度	急性聲唇下喉頭炎	325	2		
	"	"	喉頭軟骨骨膜炎	327	4		"	高度	喉頭「ヂフテリー」	326	3		
	"	高度	喉頭蜂窩織炎	328	5		緩	輕度	慢性喉頭炎	328	6		
	緩	輕	喉頭結核	330	8		"	"	慢性乾性喉頭炎	330	7		
癢	緩	種々	喉頭結核	330	8	一 般 症 狀	可ナリ強	種々	喉頭結核	330	8		
	"	"	喉頭狼瘡	338	9		"	"	喉頭狼瘡	338	9		
	"	種々噴火孔狀	喉頭微毒	338	10		急	強	喉頭異物	357	17		
	"	概ネ輕	内喉頭痛	341	14a)		略 痰	稍々急	輕	急性喉頭炎	325	1	
"	種々	外喉頭痛	349	14b)	"	種々		喉頭「ヂフテリー」	326	3			
緩	種々	喉頭結核	330	8	緩	"		喉頭結核	330	8			
潤	"	喉頭狼瘡	338	9	稍急	可ナリ強	喉頭「ヂフテリー」	326	3				
	"	喉頭微毒	338	10									

症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號	症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號
	局所成	程度等					局所成	程度等			
略 痰	緩	種々	慢性喉頭炎	328	6	狹 窄 音	多ク緩	多ク輕	(喉頭神經)末梢性麻痺	361	26
	"	可ナリ強	喉頭結核	320	8		"	強		小兒喉頭痙攣	362
疼 痛	急	可ナリ強	喉頭軟骨膜炎	327	4	異常感覺	緩	多ク輕	急性喉頭炎	325	1
	"	"	喉頭蜂窩織炎	328	5		"	"		慢性喉頭炎	328
發 赤	緩	"	喉頭結核	330	8	"	頑固		知覺異常	359	21
	急	新鮮發赤	急性喉頭炎	325	1	チ	發作的	多ク輕	急性聲門下喉頭炎	325	2
"	淡紅強	喉頭軟骨骨膜炎	327	4	"		急	末期ニ強	喉頭「ヂフテリー」	326	3
赤 斑	緩	可ナリ強	喉頭蜂窩織炎	328	5	ア	"	種々	喉頭軟骨骨膜炎	327	4
	"	輕	慢性喉頭炎	328	6		"	"		喉頭蜂窩織炎	328
溢 血 斑	緩	中等度	喉頭結核	330	8	ノ	緩	多ク輕	喉頭微毒	338	10
	急	強	喉頭異物	357	17		"	多ク輕		外喉頭痛	349 (14b)
發 熱	急	輕	急性喉頭炎	325	1	ゼ	種々	種々	喉頭狹窄	349	16
	"	種々	喉頭異物	357	17		急	"		喉頭異物	357
狹 窄 音	緩	"	喉頭外傷	357	18	"	"		喉頭外傷	357	18
	急	強	喉頭異物	357	18	多ク緩	"		兩側後筋麻痺(末梢性麻痺)	361	26
發 熱	急	強	喉頭「ヂフテリー」	326	3	惡寒戰慄	發作的	多ク輕	小兒喉頭痙攣	362	27
	"	"	喉頭軟骨骨膜炎	327	4		"	"		大人喉頭痙攣	363
發 熱	緩	種々	喉頭結核	330	8	口内乾燥	急	種々	喉頭軟骨骨膜炎	327	4
	"	"	喉頭纖維腫	339	12		"	"		喉頭蜂窩織炎	328
發 熱	緩	"	喉頭肉腫	349	15	急 強	急	強	喉頭蜂窩織炎	328	5
	"	"	喉頭肉腫	349	15		緩	"		慢性乾性喉頭炎	330
發 熱	緩	種々	喉頭狹窄	349	16						
	急	強	喉頭異物	357	17						
發 熱	緩	"	喉頭外傷	357	18						
	急	"	喉頭外傷	357	18						

症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號	症 狀	成 立	潤 度	音 聲	發聲時ノ聲門ノ形	病 名	本文頁	本文番號				
	局所成	程度等															
血 痰	急	輕微	急性喉頭炎	325	1	喉頭運動異常	緩	可ナリ頻	初メ無聲		左病側	反回神經麻痺(左側)	361	26			
	"	"	喉頭軟骨骨膜炎	327	4						稀	正常	吸氣時			右後筋麻痺	361
	"	"	喉頭蜂窩織炎	328	5									異常		稀	正常
	"	"	喉頭結核	330	8												
痰	緩	輕	喉頭結核	330	8	症 狀	性 質	成 立 等	程 度 等	病 名	本文頁	本文番號					
	"	多ク輕	內喉頭痛	341 (14a)													
	"	時ニ中度	外喉頭痛	349 (14b)													
	急	種々	喉頭異物	357	17												
"	"	喉頭外傷	357	18	急發作的	重症ノ時ノミ	小兒喉頭痙攣	362	27								
症 狀	急	種々	喉頭異物	357	17	急發作的	"	同上	362	27							
	"	"	喉頭外傷	357	18	失 神	"	大人喉頭痙攣	363	28							
喉頭運動異常	多ク急	頻	不純		內聲門筋麻痺	359	22	呼吸困難	急發作的	"	大人喉頭痙攣	363	28				
	緩	稀	"		橫披裂間筋麻痺	359	23	舌句脫落	曲線描寫ニヨリ著明	種々	吃	364	29				
喉頭運動異常	緩	稀	"		橫披裂間筋麻痺	359	23	舌句脫落	談話速度ノ爲ニ起ル	種々	早口(談話障礙ノ中)	364	29				
	急	稍強	稀		側輪狀披裂筋麻痺	360	24	發聲時ノ強聲	舌下神經支配下諸筋強痙攣ニシテ獨立症ニ非ズ	種々	音聲雜發症(談話障礙ノ中)	365	29				

氣 管, 氣 管 支 科

症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號	症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號
	原因成	程度等					原因成	程度等			
咳	粘膜炎	種々	氣管及ビ氣管支ノ異物	383	1	咳	粘膜炎	種々	氣管支喘息	389	4
咳	粘膜炎	種々	氣管及ビ氣管支「ヂフテリー」	388	2	咳	粘膜炎	種々	氣管及ビ氣管支ノ微毒	395	8
咳	粘膜炎	種々	氣管ノ出血	388	3	咳	化學的強刺激	強度	「イペリット」性喉頭氣管炎	397	10

症 狀	備 考		病 名	本文 頁	本文 番號	症 狀	備 考		病 名	本文 頁	本文 番號
	局 所 程 度	若 成 立 性 質 等					局 所 程 度	若 成 立 性 質 等			
呼 吸 困 難	機械的閉塞	種々	氣管及ビ氣管支ノ異物	383	1	呼吸不全	多ク輕	氣管及ビ氣管支ノ異物	383	1	
	"	多ク強	氣管及ビ氣管支「デフテリー」	388	2	呼吸困難	多ク輕	氣管及ビ氣管支「デフテリー」	388	2	
	粘膜炎	呼吸數減	氣管支喘息	389	4	呼吸困難	"	肺膿瘍, 肺壞疽	392	5	
	呼吸面積小	多ク輕	肺膿瘍, 肺壞疽	392	5	呼吸困難	機械的	氣管及ビ氣管支ノ腫瘍	396	9	
	機械的閉塞	種々	氣管及ビ氣管支ノ狭窄	393	6	音聲障	呼吸困難	氣管, 氣管支「デフテリー」	388	2	
	"	"	氣管及ビ氣管支ノ腫瘍	396	9	"	"	氣管支喘息	389	4	
	呼吸面炎	"	「イペリット」性喉頭氣管炎	397	10	"	"	氣管及ビ氣管支ノ狭窄	393	6	
	咯 血	炎性機械	種々	氣管及ビ氣管支ノ頭物	383	1	呼吸困難	機械的	氣管及ビ氣管支ノ腫瘍	396	9
		血液ノ刺激	"	氣管ノ出血	388	3	呼吸困難	炎症性	「イペリット」性喉頭氣管炎	397	10
		全粘膜炎變化	多量	氣管支喘息	389	4	呼吸困難	中等度	氣管及ビ氣管支ノ微毒	395	8
化膿		甚多量	肺膿瘍, 肺壞疽	392	5	呼吸困難	強	氣管及ビ氣管支ノ痛	396	9	
炎性		種々	氣管及ビ氣管支ノ微毒	395	8	呼吸困難	"	肺膿瘍, 肺壞疽	392	5	
痰	化學的炎性	多ク強	「イペリット」性喉頭氣管炎	397	10	不安・冷汗・嘔吐	可ナリ強	氣管支喘息	389	4	
	異物ノ種類	多ク輕	氣管及ビ氣管支ノ異物	383	1		緩				頻
		種々	氣管及ビ氣管支ノ微毒	395	8		強				強
疼 痛	化學的炎性	多ク強	「イペリット」性喉頭氣管炎	397	10	熱・紅腫・下痢・失嗅	高度	「イペリット」性喉頭氣管炎	397	10	
	炎性	多ク輕	肺膿瘍, 肺壞疽	392	5		"				"
體 位	呼吸安易ノ爲メ	輕	氣管支喘息	389	4	氣管內膿	小滑異物	種々ノシテ管等	氣管及ビ氣管支異物	383	1
	"	"	氣管及ビ氣管支ノ狭窄	393	6		動				
	"	"	氣管及ビ氣管支ノ腫瘍	396	9		鈍				
喘 鳴	機械的及炎性	種々	氣管及ビ氣管支ノ異物	383	1	氣管內膿	小滑異物	種々ノシテ管等	氣管及ビ氣管支異物	383	1
	炎性	特有ニシテ強	氣管支喘息	389	4		動				
	機械的及炎性	種々	氣管及ビ氣管支ノ狭窄	393	6		鈍				

症 狀	備 考		病 名	本文 頁	本文 番號	症 狀	備 考		病 名	本文 頁	本文 番號
	局 所 程 度	若 成 立 性 質 等					局 所 程 度	若 成 立 性 質 等			
遺溺	多ク喉	輕度	氣管及ビ氣管支ノ結核	395	7	結核	種々				
頭	ヨリ	種々									

食 道 科

症 狀	備 考		病 名	本文 頁	本文 番號	症 狀	備 考		病 名	本文 頁	本文 番號	
	原 因 成 立 等	程 度 性 質 等					原 因 成 立 等	程 度 性 質 等				
飲 食 物 通 過 ノ 障 礙	異物其モノニヨリ或ハ二次的腫脹ニヨリ	異物ノ種類ニヨリ種々	食道異物	413	2	呼吸ノ障礙	機械的	多ク輕	食道纖維腫	418	3	
	機械的ニ妨グ	多ク輕	食道纖維腫	418	3		"	"	食道癌	420	4	
	機械的, 持續的	漸次強	食道癌	420	4		"	アレバ強	食道ノ異物	413	2	
	機械的	"	食道肉腫	422	5		炎性浸潤	強	急性食道周圍炎, 縱隔洞炎	433	11	
	主ニ機械的ナリ持續的	多ク強	癒痕性食道狭窄	423	6		壓 迫 感	機械的	輕	食道纖維腫	418	3
	神經的多少不定	"	食道痙攣	426	7			"	"	食道痙攣	426	7
	通路ノ不均等ニヨル	多ク輕, 唯圓滑ノ缺ク	特發性食道擴大症	427	8			"	"	特發性食道擴大症	427	8
	主ニ機械的壓迫	種々	食道憩室	429	9			"	"	食道憩室	429	9
	炎性腫脹ノ爲ナリ	"	腐蝕性及中毒性食道炎	431	10			高 瘦	營養不足ヨリ	輕	食道纖維腫	418
	化膿性炎	強	急性食道周圍炎, 縱隔洞炎	433	11		惡液質ニヨリ		強	食道癌	420	4
							"		"	食道肉腫	422	5
疼 痛	周圍ヲ壓迫スルニヨリ或ハ二次的ニ炎症ヲ起ス	種々	食道異物	413	2	口内分泌增加	營養不足	輕	特發性食道擴大症	427	8	
	周圍ヲ壓迫	多ク輕度	食道癌	420	4		刺戟ニヨル	輕	食道異物	413	2	
	腐敗炎性ト周圍壓迫	輕	特發性食道擴大症	427	8		"	中等度	食道癌	420	4	
	化學的腐蝕ニヨル	強	腐蝕性及ビ中毒性食道炎	431	10		"	"	癒痕性食道狭窄	423	6	
	化膿性炎症性	"	急性食道周圍炎, 縱隔洞炎	433	11		炎性刺戟ニヨル	強	腐蝕性及ビ中毒性食道炎	431	10	

症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號	症 狀	備 考		病 名	本文頁	本文番號
	原因成立等	程度性質等					原因成立等	程度性質等			
惡寒戰慄	二次的傳染ヲ起ス時敗血症ニ同ジ	可ナリ強	食道異物	413	2	飢渴感	強	食道痛	420	4	
		強	急性食道周圍炎、縱隔洞炎	433	11		種々	癒痕性食道狭窄	423	6	
發熱	二次的傳染ヲ起ス時中毒ニヨル化膿性	種々	食道異物	413	2	不安	憂慮附近ヲ患痛腫脹的嘔吐	種々			
		多ク強	腐蝕性及ビ中毒性食道炎	431	10		可ナリ強	食物ヲ増ス爲メ二次的傳染ノ微反射的	種々		
口臭	食物ノ滯留等ニヨル潰瘍形アル腐敗的機構	種々	食道異物	413	2	嘔吐	疼痛ヲ増ス爲メ二次的傳染ノ微反射的	種々			
		可ナリ強	食道痛	420	4		種々	嘔吐	種々		
淋巴腺腫脹	二次的ニ化膿アル時轉移性	種々	食道異物	413	2	嘔吐	疼痛ヲ増ス爲メ二次的傳染ノ微反射的	種々			
		種々	食道痛	420	4		種々	嘔吐	種々		
背部鈍痛	壓迫機械的炎症的化膿性	多ク輕	食道異物	413	2	嘔吐	疼痛ヲ増ス爲メ二次的傳染ノ微反射的	種々			
		強	腐蝕性及ビ中毒性食道炎	431	10		種々	嘔吐	種々		
嘔吐・逆吐・嘔氣	反射性炎症的反射性機械的	種々	食道異物	413	2	嘔吐	疼痛ヲ増ス爲メ二次的傳染ノ微反射的	種々			
		種々	腐蝕性及ビ中毒性食道炎	431	10		種々	嘔吐	種々		
嘔吐・逆吐・嘔氣	反射性	種々	食道異物	413	2	嘔吐	疼痛ヲ増ス爲メ二次的傳染ノ微反射的	種々			
		種々	癒痕性食道狭窄	423	6		種々	嘔吐	種々		
嘔吐・逆吐・嘔氣	反射性	種々	食道異物	413	2	嘔吐	疼痛ヲ増ス爲メ二次的傳染ノ微反射的	種々			
		種々	食道纖維腫	418	3		種々	嘔吐	種々		

物件索引

邦歐語五アルファベット順

(左半ヲ、細キハ右半ヲ示ス) 頁ヲ示ス數字ノ太キハ本文

物件索引

【邦語】

<p>ア</p> <p>啞 105, 105, 聴覚アル—兒 106</p> <p>アヴェルチン 228, 435, 436 —麻酔 83</p> <p>アウチフォン 43</p> <p>亜鉛板 239</p> <p>赤鼻 138</p> <p>悪臭 64</p> <p>アクチノメーター 160</p> <p>アクチノミコーゼ 187, 212, 226, 238, 238, 239</p> <p>亜酸化窒素 437</p> <p>アスピリン 146</p> <p>アセトン臭 215</p> <p>壓痛 61, 91 乳様突起部— 64</p> <p>壓迫 38 —磨損 352</p> <p>アレルギー 147, 195, 197, 197, 444 花粉性— 197</p> <p>アレルギーン 197, 197, 444</p> <p>アドレナリン 134, 146, 149, 156, 168, 198, 199</p> <p>アトロピン 391</p> <p>アトロピン中毒 217</p> <p>アナトクシン 442, 442 精製— 442</p> <p>アナフィラクシー 197, 260, 442, 443, 444</p>	<p>197, 260, 442, 443, 444</p> <p>アネステジン 220, 233, 247, 300</p> <p>アフタ 257 —性口腔炎 221, 222, 235</p> <p>ペドナ— 222, 223 慢性再發性— 223</p> <p>アプロゲル 373</p> <p>アミノ酸 441</p> <p>アラビアゴム 137</p> <p>アリピン 40</p> <p>アルコール 38, 74, 253 —中毒 214</p> <p>暗 —紫紅色, (チアノーゼ) 227</p> <p>口唇紫赤色(口唇チアノーゼ) 363, 453</p> <p>アンギーナ(口峽炎) 59 150, 288 外傷性— 150 潰瘍性— 60 顆粒細胞消耗性— 288, 289, 289</p> <p>猩紅熱— 60 —錠劑 219</p> <p>腺窩性— 288, 295</p> <p>單核細胞性— 288</p> <p>鼻後— 292</p> <p>ぶらうとーごんさん — 287, 287, 295</p> <p>暗示 367</p>	<p>安静 42</p> <p>安息香酸 46</p> <p>アンチアナフィラクシー 443</p> <p>アンチウイルス 74, 135, 156, 222 特殊— 93</p> <p>葡萄狀球菌— 136</p> <p>アンチフォルミン 233</p> <p>鞍鼻 139, 152 觀劇鏡狀— 139</p> <p>生理的— 139</p> <p>第一度— 139</p> <p>第二度— 139</p> <p>第三度— 139</p> <p>電法 温— 49, 52</p> <p>氷— 247</p> <p>氷冷— 322, 328</p> <p>冷— 63</p> <p>電法或ハ濕布 37</p> <p>電法料 46</p> <p>按摩(マッサージ) 41 —器 41</p> <p>鼓膜— 102</p> <p>振動空氣—法 41</p> <p>按摩法 震顫— 152</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

イ, 辛

胃	
—洗	432
—洗滌法	454, 455

胃炎 418, 421, 430, 434
 急性— 221
 慢性— 197
 イオン
 活動性亜鉛— 75
 移行型 122
 遺残
 上皮— 250
 異所的— 249
 意識
 —混濁 47, 91, 97
 —朦朧 81
 萎縮
 顔半面— 50
 伊太利法 141, 141
 いたる法 27
 一時的繙捲法 306
 一半鹽化鐵 166
 溢血
 膈— 103
 —斑 325
 イヒチオール-グリセリン 47
 異物
 咽頭— 309
 海綿頭—除去子 415
 氣管, 氣管支ノ— 383
 喉頭— 350, 357
 食道— 413
 唾液腺及腺管ノ— 254
 鼻— 133, 168
 副鼻腔— 168
 舞跳性— 383
 慢性— 385
 イベリット 397, 398
 胃瘻 422
 —造設

陰嚢 175
 咽峽 216
 咽頭 130
 —喉頭カタル 163
 —萎 129
 下—壁 312
 上—(後)壁 124, 128
 側—壁 122
 中— 125
 咽頭炎
 猩紅熱性— 297
 慢性— 136
 印度法 141
 インフルエンザ 62, 64, 81, 85, 165
 —ニ來ル鼻症狀 157
 飲料
 ダンチヒ産酒精— 251

ウ

ウムブラトール 129, 373
 ウロトロピン 98, 99, 328
 (ヘキサメチレンテトラミン)
 運動
 横隔膜— 366
 横隔膜—曲線 365
 呼吸時—(食道) 401
 呼吸時性— 371
 受動的— 371
 聲帶逆— 364
 能動的—(氣管) 372
 搏動性—(氣管) 372
 搏動性—(食道) 401
 —不良(肺) 392
 —變換不能症 94

エ, エ

鋭匙
 耳用— 75
 映寫法
 胸背— 373
 影像
 線狀— 374
 肺— 374
 營養
 人工—法 342
 營養障礙
 脂肪性生殖器性— 199
 營養法 237
 食道疾患ニ對スル— 453
 英領植民地 239
 會厭軟骨
 —舉上器 317, 319
 エヰパン-ナトリウム 228, 406, 435
 エキス
 花粉— 198

肝— 290
 腦下垂體後葉— 99
 副甲状腺— 102
 エスブンヂア 240, 301
 エゼリン 218
 エソ
 瘰癧
 潰瘍性—性炎 229
 瓦斯— 227
 局所— 140
 軟骨— 346
 肺— 386, 392
 —性骨炎 69
 エーテル 74
 エーテル臭 214
 エフェドリン 130
 エプーリス 226, 249, 250
 纖維腫性— 249
 肉腫性— 249
 エリジベロール 47
 エルステン 146, 174
 炎
 横洞— 68
 氣管支— 396
 視神經— 91, 94
 縦隔洞— 309, 328
 食道周囲— 402
 膈— 93
 副睪丸— 254
 分界— 433
 蜂窠織— 322
 慢性變形の骨— 100
 卵巢— 254
 嚥下
 —困難 422
 食物— 241
 反射的— 383
 嚥下痛 91, 241

一側— 92
 縁(或ハ椽)下痙攣 259
 鹽化鐵
 —液 389
 圓窓
 正— 101
 卵— 101
 鹽酸 213
 —加里 380
 炎症 33
 慢性— 232, 328,
 食道周囲— 402
 圓柱上皮腫 194
 延髓 87, 360
 小腦及—ノ疾患 17

オ, ヲ

歐氏管 3
 —開口 128, 130
 急性—カタル 59
 —通氣法 59
 —ブチ— 58
 —蜂窠 71
 慢性—カタル 60
 慢性癒著性—カタル 60
 —隆起 128
 殴打 58
 黃疸 91
 オウチオメーター 12, 13
 嘔吐 61, 75, 81, 82, 91,
 97, 104, 168
 —運動 126
 惡寒
 —戰慄 61, 70, 91, 97, 328, 389

オキシダーゼ 209
 オキシフル 73, 77
 惡心 82
 オスミウム酸 147
 オタフクカゼ 254
 オタルガン 38
 オトアウヂオン 13
 オトスクレロール 102
 おどわいあ式挿管法 327
 オプトヒン 199
 オホスゞメノテツボウ 198
 親知ラズ 206
 オルトフォルム 300, 324
 オレーフ油 74, 196
 音
 紙管— 390
 音界
 下— 15
 下—上昇 72, 101, 104
 上—下降 101, 104
 音叉 10, 13, 14
 低— 10
 兩— 108
 連續—11, 13, 107, 108
 音聲
 —構成 207, 208
 —異常 148
 音的象徵化 367
 カ
 壞血病
 —性口腔炎 230,
 外口
 喉頭上— 340
 開口器 213
 咳嗽 2, 126

クロープ—	322	—ノ清淨法	40	97, 217, 227, 255	
犬吠様—	322	—痛	21, 33, 33, 52, 57	蝸牛殼	5, 5, 9, 101
痙攣性—	148	—洗滌	57	—管	6, 9
痙攣的—	384, 384	先天性—閉鎖	106	—孔	8
喉頭—	322	—内注入	38	—鼓室階	6, 8
反射性—	330, 352	—軟骨部	52	—神經	5, 7, 8, 9, 15, 85
外耳	1, 14	—皮脂腺	52	—神經退行變性	85
—枝	3	病的—所見	21	—前庭階	6, 8
—炎症	23, 46	—閉鎖	50	—導水管	5, 79
急性限局性—炎	52	瀰蔓性—炎	21	核	
—疾患	46	—ノ瘻孔	22	顔面神經—	257
外傷	105, 246	回轉	17	上唾液分泌神經—	257
咽頭—	309	—椅子	18, 18	だいてる—	257
外聽道ノ—	57	海馬—	196, 209	角化症	
喉頭—	357	穹隆—	209	咽頭—	294, 294
鼓膜ノ—	58	後頭側頭—	196	擴大鏡	
聽器ノ—	107	外鼻	114, 115	凹面—	317
頭部—	104, 106	閉腹		咯痰	390
海水浴	42	經肋膜性—術	429	擴張	
閉塞	119	解剖		血管—現象	83
閉塞(しゅわつ式)	66	臨牀的—學(鼻科)	114	靜脈—	388
外聽道	1, 2, 10, 21, 52	臨牀的—學		肺—	390
—異物	58	(氣管, 氣管支)	369	—用金屬ブチ—	
急性限局性—炎	72	臨牀的—學(食道)	399	(氣管狹窄)	394
—峽	1	臨牀的—學(口腔)	203	擴張器	
—狹窄	48	海綿		ぎぜ—式電解的—	426
—腔内	21, 52	迷路囊ノ—化症	100	擴張法	420, 425
—後上棘	67, 67	—體	116, 117, 121	—(氣管)	394
—後上壁ノ下垂	22, 33	會話語	10, 10	—(食道)	401
—後壁皮下	67	—聽距	110	急激—	433
—後壁皮瓣	76	高		消息子—	202
骨部—	50, 52	犬齒—	203	漸進—	433
骨部—後上壁ノ腫脹	33	梨子狀—	313, 318	隔膜	
—ノ疾患	51	化學者	196	食道先天性不全—	413
—ノ腫瘍	57	下顎沈下	435	角膜	
—深部	40	化學的組成	259	—炎	187
—ノ整形	50	牙關緊急			

—混濁	87	家畜	238	禾本科植物	198
痲結	46	脚氣	361	蝦蟇腫	248, 249
驚口瘡	215, 237	乳兒—	361	過滿淹酸加里	
過酸化水素		活栓		—水	179, 218, 219
稀釋—水	39	四道—	450	—水	73, 155
—水	73	カットグート(腸線)	243	紙屑球	168
假治職	85	合併症		嚙煙草	211
潰瘍		眼窩内—	187	カミツレ茶	146
壓迫性—	356	耳—	61, 61, 62	カラアザール	240
胃—	215	耳性頭蓋内—	88, 97	顆粒	
頑固ナル—	158	頭蓋内—	18, 66, 66,	黃色膿—(Druse)	238
十字形—	302	68, 72, 76, 77, 80,		カリエス	71, 72, 76
尋常的—	235, 252	81, 111, 144, 165,		骨—	78
葡行性—	253	181, 185, 189		カルチウム	46, 48
噴火孔狀—	338	内耳—	72	—量低減	100
—面	158	腦—	90	かるつと氏液	74
火傷	248	肺—	328, 398	管	
臥褥	42	敗血症的—	259	延長—	405
ガス	248	敗血膿毒症の—	211	談話—	344
刺激性—ノ吸引	322	鼻性頭蓋内—	187	内—(食道直達鏡)	405
毒性—	85	カテーテル		ねらとん—	342
ガーゼ		胃管—	336, 253	排(流)液—	347
壓抵—	246	管腔—	394	ふろび—	35
コカインヲ浸シタル		金屬氣管—	394	癌	193, 194, 236
—片	75	喉頭—	350	—惡液質	86
—片	112, 135, 150	しゅれってる—	356	胃—	215
滅菌—	45	ねらとん—	57, 354	咽頭—	306
沃度フォルム—	45, 57, 68	化膿	52	外喉頭—	340, 349
68, 89, 90, 92, 92, 97		關節—	92	外耳—	51
—片タンボン	58	—性炎症	226, 227	口唇—	253
苛性アンモニア	146	—性疾患	33	硬性—	255
カタール		轉移—	92, 93	齒齦—	253
歐氏管—	34	化膿症		食道—	420
—性鼻炎	180	中耳慢性—	38, 44	深部侵蝕性下唇—	253
増殖性中耳—	82	上鼓室—	75	舌—	252
中耳—	34	慢性—	76	髓質性—	255
慢性中耳—	34, 102	慢性上鼓室—	77	内喉頭—	

340, 341, 344	眼窩(窠)	鑑定(耳科的)	107
内皮細胞—	118, 119, 122, 129, 187	看破法	
扁平上皮—	下—神經	耳科的—(くるた—ど,	
64, 193, 253	—合併症	しめてんげる)	108
頬粘膜—	—骨膜炎	管筧	
253	甘采	旋軸性—	409
眼	158, 234, 236	直達—	362
—運動障礙	ガンゴ—ザ	顔鼻經由法	200, 201
187, 188	239	カンフル	137
開—及ヒ閉—	顛骨弓	感胃	
17, 19	33	—劑	146
—結膜浮腫	乾燥	神經性鼻—	195, 197
134	口内—(症)	沃度—	147
—險	216, 217	乾酪化	160
—險浮腫	合嗽		
175, 188	218		
—精疲勞	口腔—		
180	218		
—底検査	喉頭—		
96	324		
—底變化	防腐—法		
188	221, 228		
膿漏—	感作		
156	444		
感音器	鉗子		
9, 10	異物—		
—系ノ疾病	406		
10, 42	切除—		
—系ノ難聴	293		
34, 86, 87	—分娩		
眼球	143		
—突出	麥粒—		
134, 175,	166, 285		
186, 188, 194, 194, 305	慣熟		
210	210		
眼球震盪	關節		
18, 78, 84,	輪狀披裂—		
94, 97, 104, 109	313		
回轉性後—	關節運動		
16, 17	217		
回轉性後—検査法	感染		
18			
眼性—	急性膿膜菌—		
17	47		
氣壓變化性—	血行—		
17	78		
後—	血行性—		
18	330		
實驗的迷路—	初期—		
16	240, 302		
前庭性—	二次的—		
17	49		
電気刺激性—	線膜菌ノ—		
17	46		
特發性迷路性—	感染劑		
	細菌—		
16, 17, 80	33		
迷路性—	浣腸		
16			
冷温性—	滋養—		
17, 17	248, 336		
間隙	カンチロス		
	47		
上下顎—	看破(詐病ノ)		
204	365		

キ

期	春機發動—	298
	代償—	350
	窒息—	350
	不全代償—	350
	無呼吸—	354
	吃	364
	氣壓	
	—ノ振動	42
	嗅	
	—覺	145
	—覺異常	134, 197
	—覺計	132
	—覺検査法	131
	—覺障礙	
	148, 151, 157, 196	
	—覺單位	131
	—器	123
	—球	196
	呼吸性失—症	134, 196
	刺戟的—素	131

尖—(嗅覺脫失)	144,	氣管支	371	—前壁	117
148, 154, 196, 398		—擴張	384	寄生性疾患	237
純正—素	131	—幹	371	寄生蟲	240
—素液	131	氣管支管		動物性—	239
—素筒	132	銀製—	395	き—せるばっは部	
—中樞	196	氣管支鏡		116, 133, 166	
中樞性—覺脫出	196	定型的—像	378	クセロフォルム	39
眞正—覺脫出	196	機關手	85	基礎膜	6, 9
—部	120, 121, 123	氣管切開		機轉	
不快—症	197	358, 358, 378, 382		炎症—	37
綿浸—液	132	下—	328, 354	骨—	33
—裂	118, 125, 134	上—	352, 353, 370	骨破壊—	78
嗅症		—用器	355	再分泌—	39
他覺的不快—	197	特殊食道用器具器械	408	氣導—	8
牛乳	247	畸形	162, 242	キ—ネ	85
飢餓感	420	咽頭ノ—	310	—中毒性	86
機械製造者	85	外鼻先天性—	139	機能	
器官		食道ノ—	413	一般内分泌—低下	100
こるち—	106	鼻ノ—	139	—ノ恢復	73
内臓—	241	起子		松果腺ノ—低下	100
氣管	241, 312, 313	輕彎鈍—	164, 164	—障礙	9
—壓迫(嚥下時ノ)	372	鈍—	177	靜學的—及ヒ検査法	
—及氣管支分枝ノ内徑		義齒		15, 80	
	369	有鈎—	416	前庭—	35
—及氣管支分枝		義耳	50, 51	代償性過超—	362
	370, 371	セルロイド製—	50	義鼻	
—及氣管支分枝ノ長サ		氣腫	144, 355, 383, 384	セルロイド製—	143
	369	眼窩附近ノ—	172	義膜	156, 157
—創開張器	356	皮膚—	414	樹枝狀—	388
—切開	247, 326, 327, 350	氣象學的關係	198	ぎ—むぎ液	240
—軟骨輪	354, 355	楔狀骨		弓	
—粘膜ノ機能	372	—嘴	115, 116, 200	咽頭口蓋—	206
—粘膜隆起	370	—翼狀突起内板	117	口蓋咽—	205
—分岐部		楔狀洞	120, 129, 130	口蓋舌—	205, 206
		—炎	185	吸引法	73
	318, 370, 377	—ノ開口	118, 120, 125	吸氣	
—膜部或ハ後壁		—消息	172	急深—	383
	369, 372				

球菌		下咽頭——	327
化膿性葡萄狀——	61, 63	氣管及氣管支ノ——	393
化膿性連鎖狀——	61	氣管外性——	394
粘液性連鎖狀——		氣管支——	375
	61, 62, 63, 65	氣管内性——	394
肺炎双——	61	甲狀腺部——	370
葡萄狀——	52, 62	喉頭ノ——	327, 349
給血		喉頭——症狀	338
共通(或ハ萬能)——者		先天性——(食道)	413
	447	第一——部(〃)	399
丘疹	86, 158, 338	第二——部(〃)	399
楕圓形粘膜——		第三——部(〃)	400
	300	大動脈——部	399
急性炎症	120	大動脈弓——	370
吸入	379	癆痕性食道——	423, 423
酸素吸入	437	鼻淚管——	202
蒸氣——	196	幽門——	424
吸入法	323	輪狀軟骨——部	399
橋		狹窄音	321
がゑろる橋	87	凝集原	446
鏡		凝集素	446
喉頭——	317	強心利尿劑	328
自保直視——	321	矯正	
凹面——	20	齒列——	368
ぶりにんぐす型擴大		強直	
喉頭——	318	項部——	97
境界領域		小聽骨關節ノ——	73
他科——ノ疾病	199	輪狀披裂關節ノ——	
他科——ノ手術的療法			327, 328
	199	強直性	256
驚愕	383	共鳴器	123, 315
胸廓		局所麻醉	76, 77
一側——不動	384	鼓膜ノ——法	40
——音	315	虛弱小兒	222
狂犬病	257, 427	巨噬細胞	239
狹窄		巨大耳	51
橫隔膜——部	400	虛脫	449

距離		放射——	239
		きよるねる卷法	45
錐		骨穿孔——	250
氣流	123	氣流	123
輝裂	47, 224	口唇——	259
菌		菌	
絲狀——	237	絲狀——症	294
絲狀——症	294	長線狀——	294
長線狀——	294	葡萄狀球——	221
葡萄狀球——	221	紡錘——	221, 229
紡錘——	221, 229	紡錘狀桿——	231, 287
紡錘狀桿——	231, 287	放線狀——	238, 239
放線狀——	238, 239	螺旋——	221, 229,
螺旋——	221, 229,		231, 287, 300
	231, 287, 300	連鎖狀球——	221, 231
連鎖狀球——	221, 231	筋	
		——萎縮	325
		頤舌——	256
		頤舌骨——	204
		圓錐韌帶——	314
		橫——(橫披裂間筋)	
			314, 314
		外甲狀披裂——	
			313, 313, 314
		顔面——運動	113
		胸骨舌骨——	312
		胸鎖乳樣——	65, 67
		夾板——	65
		莖狀舌骨——	256
		肩胛舌骨——	312
		咬——	113, 208
		後——(後輪狀披裂筋)	
			314, 314

口蓋張——	243	不快ナル——	43
甲狀會厭——	314	金屬片插入法	140
甲狀舌骨——	312	緊張	
口輪——	203	過——	82
後輪狀披裂——(後筋)		患側上下肢ノ——減弱	94
	360, 361	筋——力	15
聲(帶)——(甲狀披裂筋)		斷續的過——	82
	313, 314	迷走神經——	427
聲門開大——		迷走神經——症	390
	314, 315, 360, 361	金箔	112
聲門閉鎖——	360	筋膜	
舌骨舌——	204	頸——	312
側——(側輪狀披裂筋)		廣——繼植法	112
	314, 314		
側頭——	113, 113, 208		
長頭——	65		
內聲唇——	325		
二腹——窩	65		
二腹頸——	256		
披裂——	313		
翼狀——	208		
輪狀甲狀——	314, 314		
輪狀甲狀軟骨——	314		
銀			
コロイド——	93		
硝酸——	380		
均衡			
——作用	15, 16		
身體ノ——	16		
身體——障礙	17		
均衡障礙	81, 82		
體位——	17		
筋群	314		
開放——	314		
緊張——	314		
閉鎖——	314, 315		
金屬音			

——酸球	74
クロール	
過——鐵液	380
クロールエチール	168
クロロフォルム	364
クワルツ(人工太陽燈ニ於ケル)	160
薰蒸	391
ケ	
型	
一側限局——	332
齒齦炎——	221
舌炎——	221
腺樣增殖症——	292
披裂會厭——	331
狼瘡類——	332
鷄冠	117
計算盤	
ふっくす—ろうぜんた—	
る型——	439
憩室	
下咽頭——	310, 429
機能性——	429
境界——	429
牽引性(食道)——	
	429, 429
食道——	429
つゑんける内壓性	
擴張——	403
内壓性——	310
内壓性(食道)——	
	429, 429, 430
輕咳	151, 294, 321, 329
經舌の應用	219
頸腺	

深部——	315	血液凝固時間	259, 260	——困難	165, 195
卷縮子		血液循環		結喉	328
咽頭——	220	——系	37	結紮	
食道, 氣管用——	376	結痲	151, 162	外頸動脈——	286
直達用——	406	結核	64, 136, 139, 159,	舌動脈——	247, 252
瘡癤	64, 94, 97, 256		187, 196, 212, 238	結晶	
咽頭筋——	308	粟粒(狀)——	78, 395	しゃるこーらいでん——	390
咽頭諸筋ノ——	34	咽頭——	299	血小板	259, 260
橫隔膜——	391	開放性——	330	——減少症	260
間代性——	257	氣管及氣管支ノ——	395	血清	
氣管支筋ノ——	391	——菌	78, 159	異種——	389
血管——	82	口腔——	232, 232	乾燥——	155
喉頭筋——	362	喉頭——	324, 329, 330,	——過敏症	155
項部——	97		330, 331, 333, 334	抗チフテリ——	296
小兒喉頭——	362	——腫	159, 330	抗毒——	297
食道——	426	中耳——	35, 78	抗毒的——	93
聲門——	148, 195	肺——	233, 337	丹毒——	156
大人喉頭——	363	鼻ノ——	159	チフテリ——	154, 167
——的運動失調	362	——療法	160	馬——	
噴嚏發作性——	195	血管			167, 199, 230, 260
贛門——	427	胃腸——	37	——療法	152
下疳	233	——擴張現象	37	血清診斷	
硬性——	158	後腺狀導——	91	中川式痛——	252
軟性——	258	——收縮劑	147	血清反應	
血		新生怒張——	138	わっせるまん——	86, 87
惡性貧——	165	腎, 脾ノ——	37	血清病	444
壞——病	165	——栓塞	67	結石	
偽白——病	165	乳腺導——	7, 31, 70, 91	唾液腺及腺管ノ——	254
白——病	165	表在——收縮	37	鼻——	168, 168
血壓ノ上昇	165	放線狀怒張——	78	結節	51, 232
血液		血球		楔狀——(リナべるく	
——凝固促進劑	434	多核白——	95, 97	結節)	313
——成分	259	白——減少	289, 289	甲狀軟骨——	336
——像	241, 66	白——增多	95, 289	後頭——	441
脫纖維素——	445	血型		小——	240
——中毒	162	——判定法	446	小角——(さんとりん	
——變化	165, 380	月經			

結節)	313	リゅうにんぐす式)——	375, 376	食道直達——	433, 433, 434, 434
小兒——	339	氣管直達——(じゃくそ		聽力——	87
讀者——	328, 329, 339	ん式)	376	定性——(腦脊髓液)	440
血栓	92	検査法		定量的——	12
橫洞靜脈——	31	うまーべる——		——用器	20
橫洞——靜脈炎	90		41, 80, 101	りんね——	14
顔面靜脈ノ——	91	下氣管, 氣管支直達——		「れ」線——	214
血像			377, 377	りんね——	101
——ノ變化	298	樂器ヲ以テスル——	11	「れ」線——(氣管及氣管	
血族婚	105	管腔直達——	375	支)	372
血痰	338	間接喉頭鏡——	316, 318	犬齒窩	168, 179
結締織		胸部ノ理學的——	379	現象	
——小桿	9	懸垂喉頭——		くぼすてく——	296
——増殖	137		316, 320, 320	直達的气管及氣管支檢	
血癌		喉頭——	316	査法ノ不快——	378
——形成	23	喉頭鏡——	375	懸垂頭位	242
結膜炎	187, 190, 198	上氣管, 氣管支直達——		「ゲンチアナ」紫	238
血友病(口腔)	165, 259		377	原蟲	240
血友病素質者	259	食道鏡直達——ノ可能性		健聽	10
解熱劑	38, 42, 63		410	減張	
ゲラチン	389	食道ノ「れ」線——	410	鉛板銀線——法	244
減菌——	167, 230	直達喉頭鏡——		——切開	242
下痢	229		316, 317, 318	——縫合	243
眩暈	16, 35, 38, 42, 58,	直達的气管及氣管支——		健聽者	18
	75, 81, 82, 84, 97, 101,		375	臆跳躍	298
	102, 104, 104, 111	氣管, 氣管支鏡直達——			
回轉——	35		385		
喉頭——	363	逆進性食道直達——	404		
迷路性——	35	きりあん式——位置	318	コアグレン	167, 230
原音	10	じょれ——	14	口	
言語		耳科臨牀——	19	經——法	306
——構成	123	しゅうわばつは——	14	溝	
內的——	367	上氣管直達——	326	分界——	204
検査		上, 下直達食道——	404	鈎	
うまーべる——	109	食道——	403	口角——	213
検査管		食道鏡直達——	403	小鈍——	168
伸長性氣管支直達(ぶ					

—ピンセット	243	毎日—繃帯	96	硬腫	259
翼狀—	243, 243	口臭	213, 214, 241	高周波	
硬化		金屬感—	229	—電流	138
骨質—	76	後弓反張	97	咬傷	144
甲介		口皸炎	150	舌—	247
下—	117, 117	外傷性—	150	咬錠劑	219
最上—	118	抗菌作用	37	甲状腺	
止—	117, 121	口腔	203, 241	—峽部	351
—切除器	184	壞血病性—炎	230	鈎狀突起	117
—切除法	150	潰瘍性義膜性—炎	229	口唇(或ハ口唇)	203, 241
—の代償性肥大	162	—乾燥症	257	—小帯	203
中—	116, 117	—ノ結核	232	光維	3, 22, 23, 24
119, 120, 125, 125		—検査法	212	喉聲(ファルセット)	315
口蓋	139, 241	汞毒性—炎	159, 229	鑛泉	380
—穹隆	133	固有—	203, 204	光線	
經—法	200	蒼鉛中毒性—炎	229	頭部—浴	146, 174
—鈎	127	—除臭用	219	搏動性—反射	32
硬—	204, 234, 242	滲出性—炎	221	—反射	23, 62
—骨鉛直板	117	—清潔法	229	反射—東	19
—骨ノ水平突起	115	—清淨用	218	後胎症	58, 349
—垂	210, 241, 242	—前庭	203	絞斷器	285, 286
—櫛	115	單純性カタル性—		電氣—	150
軟—		炎	221	無熱—	150, 191
34, 204, 206, 234, 242		—底	204	膠着	
軟—局側下垂	256	—底蜂巢織炎	204, 227, 227	骨性—	100
—破裂	208, 242, 245	—ノ狼脊	232	剛直(強直)	
—垂破裂	242	口腔炎		下顎關節—	252, 256
—穹	241	急性—	248	喉頭	208, 312
咽頭—穹	204	淋毒性—	258	急性—炎	322, 325
鈎貨子	415	硬結		—曠置法	395
硬化症	35	初期—	300	—固定器	320
耳—	35, 42, 100	抗原		人工—	344, 345, 346
耳—初期	34	非特異性—	146, 174	—中部	312
多發性—	188	光源	20, 20	—入口部	312
動脈—	35	虹彩炎	187	—發症	359, 363
交換		喉(頭)室	313, 318, 327	喉頭炎	
繃帯—	68			急性—	325

急性聲唇下—	325	196, 199, 323	鼓室内組織ノ癒着	73	
慢性—	328	コカインアドレナリン液	75	鼓室内粘膜炎	73
喉頭鏡		呼吸		弧狀暗線	24
—検査	19, 316	強直性痙攣—	364	骨	
喉頭曠置法	332, 337	—曲線	364, 366	魚—	254
後頭骨鱗	88	—困難	204, 228, 248	—腫	192
抗毒素	155, 327	—障礙	216	—彫子	200
—成生	443	—狀態	355	—胞	149, 191
硬腦膜	84	人工—	354	骨化	
好發部	229, 235	—中樞	435	異常ノ—	101
好發部位	330	鼻—	136, 145	—點	101
紅斑		鼻—障礙	207	骨化症	71
—疹	137	—部	121, 121, 123	骨細胞	
背部ノ—疹	158	無—	354	喰—	100
—量 H.E.D	160, 239	呼吸器		造—	100
後鼻鏡	126	—系	37	骨養生	21
—検査法	125, 128, 129	呼吸困難		骨折	144
後鼻孔	115, 128	吸氣性—	328, 331	頭蓋—	134
—像	126, 126	殼基底	9	頭蓋底—	57, 57, 58, 196
硬皮症		枯草熱	133,	骨傳導	9, 13, 43, 44
喉頭—	328, 329, 329	134, 147, 195, 198	鼓索		
興奮		—神經(神經ヲモ見ヨ)	36	—延長	34
過—性	18	鼓室	3	—音	14
前庭性過—	82	—岬	7, 40, 60, 71, 72, 101	—検査法	14
硬變		—岬癒着	24	—短縮	34
多發性—	360	上—	7	骨電話	13
絞扼		—洗滌管	38, 68	骨蜂巢	
漏斗形—部	399	—天蓋	103	觀骨弓内異常—	33
口話法	103, 107	内—壁	35	骨崩壞	
誤嚥		—粘膜炎	111	結核性—衰	78
—防止法	336	—粘膜炎	68	骨膜炎	
鼓音	379	る—つゝ式—洗滌管	38	—炎	134
語音		鼓室搔爬法	75	—下膿症	65, 66, 67
—ノ構成	105	鼓室内=血液	23	齒槽—炎	226
コカイン	128, 134, 146,			骨膜炎	
149, 166, 168, 191,				喉頭軟骨—	327
				骨螺旋板	5
				—緣	5

骨裂隙	35	—像	21, 61
壺腹	6, 6,	—ニハ大欠損	69
—楠	6, 7	—態度ノ變化	24
こぶりっ斑	257, 258	第二—	79
鼓膜	1, 2, 2, 4, 22, 24,	—弛緩部	2, 22, 22, 39
	50, 52, 103	—中間帶	22
—ニ萎縮	24	—ノ中心穿孔	61, 111
—ノ運動不良	60	—中心部	22
—運動變化	24	透過性—	23
—ノ永久欠損	73	—内陷	292
—ノ外傷	58	乳房狀—穿孔	62
外傷性—破裂	39	—白色變化	24
介達的—損傷	58, 59	—破裂	58
—陷凹	60	—ニ瘢痕	24
—ノ陷沒	24	—ノ肥厚	42
急性—炎	57	病的—像	23
—ノ緊張部	2, 22, 39	—ノ物質欠損即穿孔	24
健全—	22, 22	—邊周帶	22
固有—	24	—ノ邊立性穿孔	111, 72
—臍	24	—放射狀纖維	40
—ノ色澤	58	—放射線狀細血管	
—ノ疾患	57	(或ハ血管)	23
—充血	58	—放射線狀發赤	23
人工—	44	慢性—炎	58
—ノ水疱	58	—ノ裂傷	57
青色—	8, 23	—ノ萎縮	42
—青色變化	23	鼓膜緊張ノ緩解	40
—赤色變化	23	鼓膜溝	1
—石灰沈着	62, 73	—反射(或ハ溝反射)	22, 23
—切開刀	84	鼓膜自己ノ混濁	73
—穿孔	39, 63, 71,	鼓膜皺襞	
	72, 73, 75, 75	后—	22, 24
—自然穿孔	40	前—	22
—穿孔溢血	59	鼓膜穿刺(穿刺ヲモ見ヨ)	40
—穿孔形	59	—針	40, 40
—穿刺	62, 63, 70		
前, 後—皺襞	22		

ゴム	
—管嚥下法	245
—球	149
送氣—球	39
「ゴム」管	
細—	96
複道小—	96
「ゴム」腫	104, 196,
	227, 236, 238
—性浸潤	158
固有中耳	3
こるち器官	5, 85
「コロイド」銀	47
「コロチウム」	140
混濁	
—觀	23
根治手術「手術ヲモ見ヨ」	76
コンチローム	302, 396
困難	
嚥下—	227
咀嚼—	57, 57

サ

坐位(垂直)	124, 438
再生機能	37
再發性	64
細胞	
エオジン嗜好—	390
顆粒—	288
巨態—	232, 239
多—症	439
サイレン	13
電氣的發振—	13
醋酸礬土水	136
醋水	247
錯聽	

ういりす—	35, 102
癒着	137, 138
挫傷	357
撮影	
運動描寫—法	374
横徑—	129
おすてるわると實體—	
装置	28
後頭下前頭—	129
實體—装置おすてるわ	
ると型	130
上下徑—	129
嘔嘶	322
嘔聲	315
雑音	
バタバタスル—	384
不快ナル—	43
舞跳性—	384
失調値性—	363
殺菌消毒劑	380
詐病(詐病ノ看破ヲ見ヨ)	
	365
サフラビン	153
作用	37
局所—	37
深達—	37
ザリチール酸	85
サルツァルサン	86, 159,
	226, 229, 231, 235, 241
ネオ—	287
詐藥鑑定	108
ザロール	218, 219
三角窩	2
三主徴(三大徴候ヲモ見ヨ)	
	87
殘胎症	73
殘聽	106

三大徴候	151
べつあると—	101
酸敗	237
撒布	39
藥劑ノ—	220
—法	323

シ

齒	206
遺殘—	251
齶—	197, 238, 252
永久—	206
—冠	206, 236
下顎白—	206
白—	122
犬—	233
齒齦ノ—際	213, 238
小白—	203
—石	226
切—	236
大白—	206, 236
智—	206
—髓	211
乳—	206
指壓法	286, 291
屍位	361
ジエム(補聽器)	44
齒牙	
完成—	250
耳介	1, 2, 2, 8,
	21, 49, 50, 51
—緣	51
—ノ畸形(後天性)	49, 51
—ノ畸形(先天性)	49
—ノ疾患	46

—損傷	49
—軟骨	49
—軟骨ノ化骨	48
—軟骨膜炎	46, 51
耳介腔	2
紫外線	42, 102, 220
—ノ放射	47, 78
耳科學會	
國際—	74
視覺	
後遺—	210
耳下腺	152
—炎	57
—管	152
耳下腺炎	
急性—	33, 103, 254
齒冠	
—間橋狀連絡	250
齒基	250
拭清	38
色素	
鹽基性—	239
—沈著	240
耳鏡	20, 21
擴大—	21
—検査所見	21
じゑぐる—	24
代表的—	21
とれ—るち型—	21
る—つゑ型—	21
齒齦	
—ポリーフ	250
死腔	179
刺戟	
化學的—	147
器械的—	147
適合—劑	209

—點	195	—骨膜炎(ハルーリス)	226	延髓—	257
—劑	380	—神經枝	177	口腔内筋—	256
—症狀	17	—突起	119, 122, 208, 250	口腔内神經性—	256
止血	37, 150	—膿漏	226	失血	416, 434
—劑	166	自殺	102	衄血	133, 157, 157, 165, 398
—法	167	四肢萎弱	88	常習性—	154
耳血腫	41, 49, 51	指示検査	—不能 94	失語症	—健忘性— 94
試驗		獅子面	160	知覺性—	94
化學的—	424	耳珠	51	實質纏絡	247
生物學的前—(輸血)	449	刺傷	144	濕潤	52
豫備—	446	絲狀菌病	—頭部— 46	濕疹	33, 46, 47, 147
呬語 10, 101, 109, 110, 367		酵母—	301	鼻前庭—	135
—聽距	66, 110	肺—	303	鼻入口部—	157
耳垢		自淨作用	211	失調	—共同— 104
—硬固—蓄積	38	視診	212	—半側—	94
—栓塞	34, 34	外—	123, 124	濕布	—アルコホル— 49
軟膏樣—	21	内—	123	アンチウイルス—法	48
耳垢腺	1, 52	耳垂	51, 52	溫—	37
嗜好品商	196	—=皸裂	49, 50, 51	冷—	37, 47, 66
思考力		齒石	—蓄積 249	紫斑病	165, 230, 260
—遲徐	94	耳洗	38	嗜眠狀	432
嗜好料	42	—ノ禁忌	39	嗜眠狀態	437
耳後角	33	四象限	22	耳鳴	33, 34, 42, 53, 61, 73, 81, 82, 152
節骨		耳聾	64, 66, 71, 75	高調—	101, 102, 102, 103
下—甲介	117, 120	舌ノ根レ	368	他覺的—	34, 257, 308
後—蜂窠	120	齒髓	—壞疽 250	低調—	34
—節板	117, 122	—ボリーブ	250	—防除劑	42
—垂直板	115, 116, 162	屍體	240	視野	
前—蜂窠	117, 120	耳痛	30, 63	求心性周邊—狹少	189
—胞	117	—強度ノ—	61		
—蜂窠	119, 120, 122, 129, 130, 134	持續的—	64		
—蜂窠炎	182	疾患			
節骨蜂窠					
—擴張	186				
—粘液胞	186				
齒槽					

—狹小	180, 187	—ノ時期	95	縱隔洞—	361
偏側—狹小	120, 189	耳内—	21	小腦—	104
—縮小	182	耳内上鼓室乳様洞—	77	小腦橋脚—	88
遮響器	45	上顎洞根治—法	194	腺—	199
寫眞		上顎洞蓄膿症ノ—根治	203	唾液腺ノ混合—	255
「れ」線活動—	412	すたっけ式—	76	中耳ノ—	63
集音器		整形—	50, 51, 76	聽神經—	17
小—	44	整形的—	361	腦—	103, 196, 441
充血		前頭洞根治—法	182, 194, 201	腦下垂體—	199, 200
活動性—	322	中耳根治—	64, 89	鼻腔ノ—	189
收斂劑	329, 380	つゝうぶる式—	76	副鼻腔ノ惡性—	133
收斂用	219	囊腫—	252	良性—	51, 189, 248
集合體(結締織細胞)	304	はっれ式—法	180	良性—(咽頭)	303
摺擦音	34	半側喉頭剔出—	342	纖維腫	57, 64
臭素加里	363, 363	鼻中隔—	134	中耳肉腫	64
重碳酸曹達	218	鼻内—	63	乳嘴腫	57
重碳酸ソーダ水	225	鼻淚管—	202	腫脹	
周波數	43	保存的中耳穿開—	78	—體	121, 123
臭鼻症	60, 330	—野三角部	67	—體	121, 123
受血		リゅうこくどうる式		反動的—	326
共通(或ハ萬能)者—	447	根治—	119, 153	瀰漫性骨膜—	230
手指震顫	229	鼻内淚管—	202	出血	68, 144
手術		淚管囊鼻内—	202	咽頭ノ—	309
咽頭扁桃腺肥大—	292	淚囊鼻外—	202	氣管ノ—	388
うっふまのるで—法	80	腫瘍	18	後—	286
—禁忌	291	惡性—	51, 111, 133, 139, 238, 241, 252, 340	鼓膜破裂時ノ—	58
憩室絞扼—法	311	外聽道—	57	—時間	260
けよーにっひ式憩室—	431	氣管及氣管支ノ—	396	齒齦—	229, 257, 259
喉頭外—	337	喉頭—	339	食道ノ—	434
喉頭ノ小—	324	混合—	255	—性素因	135
喉頭全剔出—	337, 341, 342, 343, 351	耳下腺ノ惡性—	255	大—	247
喉頭内—	337	耳下部—	57	中耳橋ノ—	64
喉頭裂開—	337, 341, 342, 346	齒槽突起—	249	聽道上壁ノ—	57
根治—	194, 256			點狀—斑	230
				鼻—	23

迷路——	81, 104	營養——	230	急性——	433
出血素因		營養異常=ヨル口腔——		耳浴法	74
——者	81		257	鋤骨	115, 116, 164, 235
腫痛		營養神經——	225	——接合部	162
粗大顆粒性——	255	嚥下——	242, 420	除毒的作用	48
手話法	107	音聲——	321	視力	
準備		眼——	397	——障礙ト副鼻腔炎	187
一般的——(食道直達檢		感覺——	257	磁力桿	168
査法)	405	關節の運動——	41, 41	耳漏	35, 62, 64, 75
消炎	37	交叉性錐體道——	94	慢性——患者	42
上音界	15	呼吸——(喉頭病)	321	耳漏斗	
——聽覺	85	循環——	229	「エボナイト」製——	75
——聽力降下	85	消化管——	224	耳輪	
消化		食物攝取ノ——	216	——起始部	50
口腔——	208	視力——	104	前——	49, 51
——不良	237	身體均衡——	17	疹	
上顎		舌運動——	256	紅斑——	234
——骨	114, 133	前庭機能——	104	蓄薇——	234
——骨口蓋突起	115	代謝——	100, 226, 230	苔狀——	223
——骨ノ口蓋板	118	談話——	217, 364	粘膜丘——	234, 235
——骨髓炎	168, 174	知覺——	257	唇	
——前頭突起	117	知覺——(咽喉)	307	兔——	245
上顎洞	117, 118,	知覺——(喉頭)	358	腎炎	47, 85, 133
122, 128, 129, 161		聽覺——	103	心悸亢進	230
——ノ開口		低音聽取——	34	真空管	12
	170, 170, 176	傳音器系——	102, 104	神經	
乾酪性慢性——炎	176	發育——	49	——移植法	112
急性——炎	174	發音——	217, 242	——枝	101
經——法	200, 306, 306	副甲狀腺——	100, 102	橫隔膜——	334, 335, 430
齒性——蓄膿症		分泌異常=ヨル口腔——		蝸牛殼——	106
	134, 169, 179		257	顏面——	
初生兒性急性——炎	174	味覺——	36	7, 8, 81, 210, 256	
——粘膜鼻內翻轉法	153	常規混合劑	140	顏面——ノ萎縮	36
慢性——蓄膿症(炎)		食道入口部	399	顏面——管	67, 111
	119, 175, 192	食道炎		嗅——	118, 121, 122
松果腺	129	腐蝕性及中毒性——	431	頸部交感——緣帶	392
障礙		食道周圍炎		——外科家	95

口蓋——	243	螺旋——節細胞5, 85, 101	24
交感——	370, 401	神經炎	——線 59
鼓室——囊	257	球後視——炎	188
視——	119, 120, 122, 187	視——炎	86
視——萎縮	87	聽——	17, 85
齒科用——拔去針	150	中毒性傳染病性聽——	34
上喉頭——		傳染病性多發——	296
	314, 314, 315, 336	神經核	
自律——系	392	舌下——	256
心——症	195	神經系	
——衰弱	197, 216	血管運動——	82
舌咽——	209, 210, 256	神經症	
舌骨下——	210	外傷性——	104, 196
——節細胞	106, 106	機能的——	307
——接穗	111, 112	蝴蝶口蓋神經節——	307
——纖維	111, 112	反射性——	163, 195
前庭——	106	神經節	
前股皮膚——	112	星狀——	392
——退行變性	85	神經痛	
第八對——	84	三叉——	305
第八對——幹	101	神經麻痺	
中毒性聽——炎	85	外旋——	97
聽——	8, 103	顏面——	35, 64, 68, 72,
聽——萎縮	106	77, 97, 104, 111, 111,	
聽——疾患	14	216, 256	
聽——退行性萎縮性變性		交感——	257
	85	耳性外旋——	68
聽——中樞纖維	104	耳性顏面——	76
——痛	174	同側性動眼——	94
——拔去法	392	末梢性顏面——	84
反回——	314, 315, 361	人事不省	144
361, 362, 417, 418, 420		眞珠腫	
——分布	210	假性——	24, 63, 69, 71,
三叉——	197, 210	71, 76, 76, 77, 77, 90, 111	
三叉——痛	216	中耳假性——	21, 75
迷走——		滲出	
	210, 314, 370, 401	炎性——	37
		滲出液	
		——線	59
		滲出線	24
		滲出物	37
		炎性——	40
		急性炎性——	40
		振子樣運動	
		水平ナル——	16
		侵蝕	388
		靱帶	
		甲狀舌骨——	312
		輪狀——	370
		深達作用	37
		深達量	239
		震盪	17
		迷路——	104
		振動數	10, 11, 14
		——範圍	13
		複——	11
		深部療法	
		「れ」線——	340
		蕁麻疹	444
		症候群	82
		れるもあいえ——	83
		猩紅熱	86, 258
		——ニ來ル急性鼻症狀	
			157
		敗血症的——	69
		硝酸	247
		——銀	223
		——銀桿	74
		小耳	49, 50
		剩耳	51
		燒灼	
		電氣——法	150, 231
		症狀	
		壓迫——	94

アナフィラクシー的	多列纖毛圓柱	371	低調	99
—	上皮化	76	嗅細胞作用	43
狭窄	靜脈		觸診	123, 212
後遺	横洞	67	指尖	292
口腔	外頸—ノ不充實		食道	241
後發	下甲狀腺	370	特發性—擴大	427
前驅	頸—ノ壓痛	92	食道内嵌入	413
第二期	頸—球	7, 23		
腦	頸—血栓	328		
膿毒敗血的	後顔面	207		
病叢	骨	103		
不快	總顔面	297		
上唇	上行咽頭	297		
—小帶	食道—痛	434		
消息	栓塞性—炎	189		
—法(食道)	大淺在岩	103		
消息子	—洞炎	137		
銀製	内頸	8, 91, 297		
頰室	内頸—ノ壓痛	92		
前頭洞	内頸—ノ結紮	92		
デアテルミー	—内注射劑	161		
鼻淚管	皮膚	23		
小帶	—壓	439		
舌	靜脈(洞)炎			
舌會厭	横洞血栓	69, 90		
小體	血栓性血栓	90, 93		
好染	骨	93		
消退	孤立性壁立性	92		
自然的萎縮	栓塞性血栓	91, 92		
消毒	照明			
小腦	管外—法	403		
—及ビ延髓ノ疾患	管内—法	403		
—前庭根道	聳立	33		
小腦橋	—耳翼	65		
—角隅	食鹽水			
上皮	生理的—	75, 96, 241		
—小體	生理的—注射	167		

ス

水痘(壞疽性口腔炎)	231
水銀	235, 241
—軟膏	46
水銀劑	87
水銀石英燈	333
衰弱	
呼吸及心臟	378
水腫	
内臟	201
水銃	
耳洗用	38, 73
髓鞘	188
水素「イオン」濃度	43
錐體緣	7
水蛭	45
錐體道障礙	
交叉性	94
衰憊	185
吹粉器	
かびるすけ	39
吹粉法	73
水痘形成	48
皺襞	116
顎骨間	253
三角	285
上下顎間	217
スギウロン	373

スチブチチン	166	聲門		切開	
ストリキニーネ	102, 196, 308	急性—浮腫	322	下氣管	342, 348
スポイド	73	—裂	313	氣管	247, 253, 337, 340, 340, 347, 350, 395
		性慾減退	199	胸廓	298
		生理		頸部縱隔洞	434
		臨牀—學	123, 134	頸部食道外	417
		臨牀的—學	371	減張	242
		臨牀的—學(食道)	400	耳後皮膚—(Wilde)	76
		石英曲桿	333	上氣管—法	351, 352
		石英燈	78, 160	食道外—法	402, 404
		整傷		食道内—法	402
		口唇ノ—	246	短—線	41
		赤唇部	203	中氣管	351, 351
		石炭酸	247	肺	393
		脊髓		—排膿	46
		—空洞症	257, 308	非觀血的食道内	426
		—癆	196, 257, 362	賁門	401
		石灰		豫備的氣管	342, 351
		—沈著	62	淚囊鼻外—法	202
		石灰水	137	わいんど皮膚	67
		說		切割	
		營養神經障礙	151	—ノ方向	40
		局所	151	穿孔	145
		甲介	151	ゴム腫性	236
		素因	151	筋狀—(鼓膜)	26
		微菌	151	多發性	26, 78
		瘡		截痕	
		外聽道	21, 33	さんとりん	2, 52
		耳	1, 52	鑷子(久保猪式)	285
		舌	204, 206	穿刺	
		急性—炎	248	後頭下	95, 98
		—谷	318	硬腦膜	96
		黑毛	225, 225	試驗的	169
		—骨大角	204	—汁	240
		地圖狀	224	しゅみっと型—針	170
		表層性—炎	224	小	49
		舌壓子	125, 126, 212		

探膿的—	251	甲狀—側葉	312	迷路—	96
電氣—	338	混合—	209	腺(導)管	205
腦室—	100	耳下—	205, 203, 423	すてのん—	205, 255
脾—汁	240	漿液—	203	ばるとりん—	205
腰椎—	92, 98	舌下—	205, 209	わるとん—	205
—器		舌下唾液—	248	前驅期	161
腰椎—器	99	切齒—	248	前驅徴	197
穿刺法		唾液—	205	嚙語	97
後頭下—	441	蛋白—	208	栓塞	91
大槽腔—	441	粘液—	205, 209, 248	悪臭アル—	92
腰椎—	437	囊狀—	205	横洞—	91, 92
接種		微小—	209	海綿洞ノ—	91
皮下—	442	—様増殖症	292	空氣—	92, 171
切除	241	線		「ゴム」管—	165
粘膜下窓形—		白色正中頭—	352	耳垢—	34, 34
163, 163, 164, 165, 200		纖維凝固酵素	259	腦血管—	103
扁桃腺—	286, 291	纖維腫(咽頭)	303	壁立—	90
まっけんぢ—式扁桃腺		楔狀筋骨性基礎膜類—		—法	152
—器	291	基礎膜類—		迷路血管ノ—	35
切傷	144	304, 304, 305		藥液—	149
口唇ノ—	246	喉頭—	339	壅塞性—	91
雪狀炭酸	138	喉頭—	339	栓子	242
切斷		蝴蝶上顎性基礎膜類—		全耳炎	69
義齒「ゴム」板電動—器		305		結核性—	78
409		若年性鼻咽腔—		腺腫	
電動性義齒板—器	387	191, 304		甲狀—	361, 394
切斷法		食道—	418	洗滌	
上喉頭神經—	336	神經—	87	—管	
前筋骨神經—	199	頭蓋底基礎膜類—		169, 170, 171, 172	
穿破		192, 305		胃—法	454
腦室内—	95	鼻咽腔—	191	試験的—	169
接吻	211	鼻咽腔血管—	192, 304	鼻—	
セナチゾール	47	鼻咽腔類—	304	130, 149, 152, 156	
セルロイド様感	186	浮腫狀—	191	副鼻腔ノ—	132
腺		鑿開		—法	73
咽頭—	209	頭蓋骨ノ—	100	洗滌管	
顎下—	205, 209	乳様突起—	90	る—つゝ式鼓室—	77

喘息	148, 195	遺傳—	101	側溝	
—煙草	391	造影劑	129, 130, 174	鼻中隔—	116, 162
氣管支—	381, 389	—ノ粥	411, 412	側頭骨	
熱性—	390	硬キ—粥	411	危險性—	67
鼻性反射性—	196	「れ」線—	313	組織標本	159
前庭	6	蒼鉛	159, 235, 236	咀嚼	208
—器官	17	酸化鹽素—	412	—運動	145
—枝	6, 84	次硝酸—	412	ソーダ	
—刺戟試験	109	炭酸—	412	重炭酸—	241
—症狀	81	次炭酸—	372	ソビエット—ロシア	162
小腦ノ—根道	16	蒼鉛末	74	ゾルガナル	99, 299
—神經		—劑	86	損傷	
6, 7, 8, 15, 16, 106		挿管	425	皮質性腦—	257
—裂(喉頭)	313	おどわいゑる—	373		
—蝸牛殼枝	6	おどわいゑる—法	356	夕	
前頭		ぎぜ—ノ—法	421	帶	
—斷面	116	遊離—法	394	びゆんぐねる—	112
—突起	114	挿管法		苔	
前頭洞	117, 119, 119,	おどわいあ式—	327	舌—	215, 215
120, 129, 134, 171		送氣箱		纖維素性滲出—	257
—開大法	181	匏形—	345	「フィブリン」性—	325
急性—炎	180	象牙質	140	フィブリン様—	248
慢性—炎	181	爪痕	33	豚脂様—	78
腺病質虛弱體質	325	創傷		對壓子	319
潛伏期	233	—傳染	49	體位(食道直達検査時)	407
蟬鳴	34	増殖		體向	19
喘鳴	321, 384, 394	腫瘤性組織—	100	大槽	84
染毛劑	218	挿置		體質	
纖毛上皮	121	くるとつゝん式無端環		虛弱—	46
専門家	178	—法	421	滲出性—	390
腺様増殖症	60, 109, 124,	挿入		腺病性遺傳—	159
133, 135, 145		検査管—法	407	代謝	
—顔貌	133	挿入法		エネルギー—	43
		消息子—	428	新陳—	37
		騒鳴器	109	水分—異常	82
		搔痒	52	代謝病	
		足趾	19		
		素因			

新陳——	436, 441	單舍利別	213
對照現象	209	斷續性(或ハ間代性)	256
代償作用	18	單蹄類	161
胎生期ノ遺殘	129	丹毒	33, 47, 49, 322
大腸		再發性——	157
——皮質	360	水泡性——	47
代表音	13	——治療液	48
大楓子酸	383	鼻——	
大楓子油	161		133, 135, 156, 157
耐容性	372	——連鎖狀球菌	47
太陽燈		探膿針	165
人工——	78, 160, 333	蛋白	
唾液	208, 212	異種——	167
——ノ作用	209	細菌性——	444
——分泌ノ異常	215	——尿	229
——分泌量	209	「タンボン」	45, 63, 103,
精圓囊	6, 7		144, 150, 166, 167, 175,
——斑	6, 7		179
多耳	51	壓迫——	52, 92, 136, 136
打診	379	べろく——	167
脱溝(Luxation)	145	談話	107, 211
脱出		——粘膠性	232
粘膜腫脹——	329		
腦——	97		
多發			
——鼓膜穿孔(鼓膜ヲモ			
見ヨ)	78		
打撲	49, 246		
口唇ノ——	246		
單位	12		
絶對的物理學的——	12		
單核白血球			
——增多症	86		
單弦琴			
すとるいけん——	12		
探子			
壓迫——(るーつゑ)	41		

開放安全「ピン」用——	409
直達管用異物——	381
抽出法	
異物——	381
チオノール—グリセリン	47
知覺	
異常ノ——	321
咽頭——異常	307
咽頭——過敏	307
咽頭——脱失	308
——障礙	88
——脱失(喉頭)	358
——脱出	161
——鈍麻	37
チガーレン	48
置換法(造影劑)	
	129, 130, 174
チギタミン	48
軸索	112
ヂスクレーン	149
持續時間	
聽能——	11
蜘蛛膜	84, 121
——下腔	
	96, 97, 99, 99, 100
窒息	358, 384
ヂフテリー	
	61, 86, 106, 208, 258
咽頭——	295
假性——	322
假性——菌	152
氣管, 氣管支——	388
——ニ來ル鼻症狀	157
——菌	156
抗——血清	296
喉頭——	321, 326, 326

チ

チアテルミー	42, 138
外科的——	194, 253
「チアノーゼ」(暗紫色變化)	
	227, 230, 326, 350
鞣酸	380
抽出	
安全「ピン」——器	387
異物ノ——(食道)	416
——後ノ處置	388
直達的氣管, 氣管支	
——法	386, 386, 387
抽出器	

——後麻痺	155
猩紅熱——	69, 297
痴呆	
麻痺性——	440
地方病	102
「チモール」錠	219
治療	
自然——	49
持續的——	252
中顎部	115
充血	
線狀——	23
反動性——	37, 37, 48
反應性——	37, 37
中耳	1, 2, 14, 24, 73
惡臭アル——分泌物	70
——カタル	59
乾性——カタル	59
——化膿症	21, 52, 111
——瘡ノ出血	64
——急性炎	23, 24, 39
——骨質カリエス	71
固有——	3
固有——疾患	59
——根治手術(手術ヲ	
モ見ヨ)	
	76, 77, 80, 81, 111
——ノ全整開(整開ヲモ	
見ヨ)	76
——疾患	57
——腫瘍	35, 63
——滲出液腺	59
——送氣法	39
——内滯留膿	73
——排膿過多	46
——分泌	45, 68
——分泌過多	52

——結核	35, 78
中耳炎	34
急性——	60, 141, 167
急性化膿性——	
	64, 66, 111
急性上鼓室——	62, 63
急性穿孔性——	63, 69
急性中鼓室——	62
廣汎性急性——	61, 63
固有鼓室ノ慢性穿孔	
性——	71
猩紅熱ニ併發スル——	69
猩紅熱ニ併發ノ急性——	69
前兆の急性——	70
哺乳兒ノ急性——	70, 71
麻疹ニ續發——	70
慢性化膿性——	
	57, 68, 111
慢性穿孔性——	63, 71
急性——ノ鎖痛	38
結核性——	81
廣汎性急性——	31
猩紅熱時——	80, 81
——ノ治療機轉	77
慢性——	22, 34
慢性化膿性——	76
肺炎ニ併發スル急性——	
	70
惡臭性——	69
——經過後胎症	58
注射	
アルコール——	328
アルコール——法	335
筋肉内——	155
——針	140
パラフィン——	324

——法	333
連鎖狀球菌血清——	328
注射針	
ぶらうつ式——	47
中心暗點	188
中樞器官	105
重碳酸ソーダ水	325
注腸	
點滴——	434
中毒	
鉛——	218
コカイン——	378
臭素——	218
水銀——	229
砒素——	218
藥物——	86
沃度——	218
燐——	218
注入	
間接管針——法	130
直接管針——法	130
藥液——	218
注入器	
喉頭——	323
耐壓——	373
注入法	333
聽域	11, 11, 12
聽音器	
齒牙傳導——	44
聽覺	8, 50
機能的神經的——障礙	
	104
——中樞	103
中樞性——障礙	104
——練習	107
聽器	
——機能上ノ障礙	51

聽距		104
平均——	13	傾——減退 58
聽距離	10	皮質性——障礙 103
聽隙	11	聽力計 13, 15
微候		聽力検査
ぐりーちんげる——		國際——成績記載法 15
	31, 66	直視法 319
けるにひ——	30, 97	直達管
三主——(きりあん)	414	鴨嘴形扁平異物用——
釣骨子	415, 416	409, 415
聽砂膜	16	延長性—— 403
殘聽	106, 107	擴張性食道—— 409
聽取障礙		扉付切込—— 409, 409
低音——	34	直達鏡
聽小骨 3, 8, 50, 71, 76, 101		氣管—— 373
——カリエス	72	直腸鏡
——關節強直	60, 72	しゆとらうす式—— 409
——連鎖	35	直立 17
聽診	379	治療
聽石	6	特殊—— 241
聽梯	15, 16	丁幾
超短波療法(療法ヲモ見ヨ)		亞片—— 381
	42, 43	ミルラ—— 325, 380
腸チフス	61, 81, 85,	鎮咳剤 325
	106, 165, 258	鎮痛 37
聽度	11	——劑 52
聽島(嶼)	11, 104	——内服劑 38
聽斑	15, 16	鎮痛法 247, 335
聽毛	16	持續的—— 328, 336
跳躍	17	沈黙 322
聽力		
——改善 50, 85, 103, 103		
——恢復 85		
——障礙 58, 72, 73,		
80, 81, 103, 104, 105		
全——缺損者 106		
中樞性——障礙		

ツ

通氣		
歐氏管——	24, 102, 104	
通氣法	24, 40	
痛風	85	
頭蓋		
——氣導	9	
後——高	4, 8	
——ノ叮打痛	95	
前——高	119, 120, 122	
中——高	3, 8	
——底骨折	35, 57	
——ノ内歴	96	
——内合併症		
	18, 76, 77, 80, 81	
植骨	2, 3	
——頭	103	
——把柄		
	3, 22, 23, 23, 24, 24	
——把柄動脈	23, 23	
頭痛	42	
——側ニ偏スル——	89, 90	
頑強ナル——	104	
小兒ノ——	98	
不定ナル——		
	61, 91, 94, 97, 98	
放散スル——	89	
ツトカイン	168, 198, 199	
頭内膿瘍	34	
ツベルクリン	333	

テ

蹄係		
寒——	291	
耳用小——(Wilde)	75	
蹄傷	144	
定性的検査	131	

定量的検査	12, 131	
笛		
筒形閉——	11	
適應ト禁忌(輸血)	449	
適應症(リビオドール注入		
ノ)	373	
適應症	40, 76	
剔出		
口蓋扁桃腺——法		
	285, 292, 295, 298	
舌——	252	
テナニ	362	
徹照電燈	128, 129, 169	
徹照燈(ヘーリング式)	213	
鐵泉	42	
「テルベンチーン」	147	
轉移	239, 298	
肺ノ——	92	
淋巴腺——	420	
傳音器	9, 10, 15	
——系疾患	10	
——系障礙	102, 104	
——ノ障礙ニヨル難聽	34	
——系統ノ急性炎症	42	
電解法		
周縁——	426	
線狀——	426	
癩病		
皮質性——	257	
電氣		
平流——	380	
——燒灼器	381	
——燒灼絞斷器	150	
——燒灼法	335	
——分析法	150	
砧骨	3, 103	
點耳	37	

ト

——ノ禁忌	39	
電照把柄	375	
ぶりゆにんぐす型		
萬能——	319, 376	
電閃光刺	138	
傳染		
歐氏管——	75	
傳染性		
——疾患	237	
副鼻腔ノ慢性——		
	187	
傳染病		
急性——	61, 71, 295	
創傷——	211	
——侵入門トシテ口腔		
ノ意義	210	
轉倒	383	
顛倒		
——角	19	
——角度計	19	
電燈		
額帶——	376, 403, 404	
きりあん式額帶——	319	
傳導		
介達の骨——	9	
氣——	101, 109	
骨——	72, 101, 104, 109	
骨——時間延長	59	
點頭運動	16	
天然痘	258	
天疱瘡	222	
電流	75	
電話交換手	85	

きりあん—ばれんぢや		
型——	164	
小臑切——	84	
べっくまん式輪狀——	293	
増田式咽頭扁桃腺——	293	
洞		
S字狀——	7	
海綿狀——	7	
上岩様骨——	7	
乳様——	3, 3, 4, 7, 32	
乳様——口	77	
銅貨	416	
套管		
氣管——	348, 388	
氣管——拔去困難症	351	
——拔去	327	
——拔去困難症	352	
套管針	170	
筋骨蜂巢治療——		
	172, 173, 185	
りひとらいつ——	170	
詢語ニ賦滑言語	368	
瞳孔		
——散大	97, 421	
——縮小	97	
——反應遲鈍	97	
瞳孔反應		
——異常	87	
錠骨	3	
——環狀韌帶	79	
——板	3, 14	
湯傷	48	
凍傷	46, 48, 48, 51	
導水管(Aqueductus)		
じるぐい——	104	
蝸牛殼——	5	
前庭——	5	

疼痛	34, 41, 49	時計		内鼻	115
鼓膜—	58	懷中—	13	内分泌	
耳後ノ—	64	吐血	23, 389, 420, 432	—異常	101
持續的—	64	吐酒石	241	—臟器製劑	102
耳内—	61, 63	兎脣	245	ナタゴン	333, 333
頂部ノ—	91	咽	365	ナルコボン	66
糖尿病	64, 85, 211, 214	咽或ハ訛癖	368	軟膏	135
動脈		突起		水銀—	159
外頸—	204	筋—	314	鎮痒的—	135
下甲狀腺—	370	上頸—	245	白降汞—	234
氣管支—	370	聲(帶)—	313	沒食酸—	160
口蓋—	243	腰椎棘狀—	438	軟口蓋	124, 126, 128
口唇冠狀—	246	塗布	38	—鈎	128
—硬變	165	喉頭内—法	323	軟骨	49, 51, 241
上甲狀—	315	硝酸銀水—	48	會厭—	208, 312, 312,
舌—	204	軟膏ノ—	46	313, 317, 318, 319, 322	
大—弓	315	藥劑ノ—	220	—壞疽	46
大—瘤	396	るご—る液—	330	—壞死片	328
内頸—	7	塗布麻醉		壞死—片	396
網膜中心—	186	局所—	299	氣管—輪	318, 369
—瘤	361	トリウム	422	甲狀—	
動搖		トリバノゾーマ	303	312, 313, 313, 318	
身體ノ—	17	トリバカラビン	39	さんとりん—(小角結節	
吐氣	367	トルコ鞍部	120, 200	部)	314
特異質	445	ドレーン(排尿管)	90, 97	種子—	115
特殊取栓	214	トロトラス	373	小翼狀—	115
毒素		トロムブリン	166, 324	—性基質	115
花粉—	198			側鼻—	115
抗—	155			大翼狀—	115
—作用	154			鼻中隔—	115
—説	188			披裂—	312, 312, 313,
トクソイド	442, 442			313, 314, 318	
毒素, 抗毒素混合液	442			ふしゆけ—	116
特徴				—片	51
ヒステリー性—	104			—片挿入法	140
特發疾患				方形—	164
迷路囊ノ—	100			—膜	40, 141

ナ

—膜炎	49	乳酸	160, 323	肉腫	
リナベるく—(楔狀結		—鐵	424	咽頭—	307
節部)	314, 318	—礬土水	48, 136	圓形細胞—	349
輪狀—弓	313, 313	乳嘴腫	149, 192, 303	喉頭—	349
輪狀—後板		喉頭—	340	食道—	422
312, 313, 318, 399		乳頭		紡錘形細胞—	422
軟骨膜炎		鬱血—	88, 91,	肉芽	
喉頭—	328	94, 95, 96, 97, 442		暗赤黃色—	238
難聽	10, 34, 40, 61, 63,	絲狀—	205, 203, 225	出血性ノ—	226
81, 82, 100, 101, 103,		蕈狀—	205	日本耳鼻咽喉科學全書	173
148, 152, 190		輪—列	204, 225	尿素	441
學令兒童ト—	109	乳様		妊娠	101
感音器系障礙ニヨル—		—洞	67, 68, 96	妊婦	322
	34	—導血管	70		
感音, 傳音器混合性—		—洞天蓋	96		
	35	—突起ノ氣胞化	71		
輕度—	10	—蜂窠ノ境界	65		
交叉性中心性—	94	—蜂窠創	112		
高度—	10	乳様高	76		
高度—兒	107	—ノ開放, 抵爬			
早發性老人性—	100	(Schwartz)	76		
—者	43	乳様突起			
職業性—	84	—尖端	65		
神經性—	104	—鑿開	90		
進行性—	102	—部	14		
進行性迷路性—	100	急性—炎	32, 52, 64,		
中等度—	10	76, 77			
低音性—	59	結核性—炎	70		
傳音器ノ障礙ニヨル—		潜伏性—炎	65		
	34	—炎 61, 63, 65, 72, 174			
慢性的—	42	粘液性連鎖狀球菌性			
迷路性—	254	—炎	65		
—ノ隱蔽詐病	108	べつゝると—炎			
—者ノ特別學級	110	65, 66, 67			
		慢性—炎	68		
		乳幼兒	174, 237		
		ニキビ	137		

ヌ

ネ

ヌベルカイン	66, 378	ネオアルセミン	301
		ネオサルヴァルサン	87
		ネオバルマン	46
		猫耳	49
		熱	40, 42, 61,
			64, 68, 70, 97
		解—劑	146
		高—	81
		稽留性高—	91
		弛張性高—	91
		發—	180
		不變的高—	98
		熱傷	48, 48, 322
		口腔ノ—	248
		熱性病	
		慢性—	239
		熱帶病	239

粘液	208	—液壓	98	65, 66, 67, 175	
—腫	191	—液ノ特性	95	耳後—	67
—腺	121, 126, 149	—液ノ分泌ト循環	99	耳周—	66
粘滑劑	380	—液ノ漏洩	57	耳性膜—	93
粘稠度		強制的—	99	縱隔洞—	416
血液—	390	持續的—液排除		小腦—	79, 94, 96
捻髮音	192		98, 99, 100	食道周圍—	417
皮紙様—	251	流行性—膜炎		舌—	204
粘膜			81, 97, 106, 106	舌根扁桃腺周圍—	286
—固有層	339	腦脊髄液	437	前頭腦—	189
—腫脹	147	ノゾカイン		側頭葉—	96
肥大	134		66, 163, 177, 177, 202	轉移性—	298
披裂—	317, 319	石炭酸加—	40	乳様突起炎兼耳周—	33
—隆起	128	囊腫	123, 149	膜—	18, 36, 68,
—性隆起	115	齒芽—	250		90, 92, 103, 441
		齒芽細胞—	192, 250	肺—	392, 393, 430
		齒根—	192, 250, 251	鼻中隔—	134
		上顎—	192	表層性舌—	228
		粘液—	248	瘰癧性内—	89
		皮様—	249	耳性膜—手術法	88
腦		膜		膿點	
—溢血	208	稀薄—	238	—自潰	52
—下垂體後葉エキス	99	—栓	52, 136	膿毒症	90, 91
—腫瘍	134	探—(食道)	402	耳性—敗血症	93
前頭—	122	—點	136	敗血—	91, 92, 92
—中樞	105	膿疱	52, 161, 240	腦膜	
内—	103	—點	52	—外膿瘍	68, 90, 93
—内合併症(合併症ヲ		膿疱疹		硬—	96, 96, 121
モ見ヨ)	76	觸接性—	33	—内膿瘍	89
—軟化	437	膿瘍	51	腦膜炎	47, 79, 89, 254
—ノ刺戟症狀	64	横洞周圍—	91	化膿性—炎	189, 438
—皮質	97, 103	下垂—	65	耳性軟—炎	97, 99
—貧血	164	後頭葉腦—	95, 96	軟—炎	61, 90
—膜炎	63, 69	硬腦膜外—		限局性—	18
腦室	100, 104		68, 90, 93, 189	早期微毒性—	86
側—	96	硬腦膜内—	89	—性迷路炎	103
腦脊髄		骨膜下—		鑿	
—液	84, 86, 87, 89,				
	97, 98, 98				

銃創形溝—	164	—第二期	223, 234, 300	早口	365
角形—	181, 182	第三期—	301	ばらう病	230
		聽神經及ビ迷路ノ—	35	バラフィン	139, 140
		變性—	87	—栓塞	140
		迷路及ビ聽神經ノ—		—注射法	152
			34, 86	軟—	140
肺		排膿		—痛	140
—葉分枝	377	—多量	62	流動—	132
—炎	81, 103, 162	白血病		バリウム	
—炎菌	61	急性—	268	—塊	400
—活量	366	白降承ラノリン	38, 53	固形—	412
—殘氣	10	爆笑	383	硫酸—	412
—膨脹不全	383	爆發		バルサム香	131
肺炎		—様音	41	バルーリス(齒槽骨膜炎)	
嚥下—	291	破砕器			226
嚥下性—		電動異物—	409	破裂	
	217, 331, 358	破傷風	257	鼓膜—	58
閉塞性—	375	バシロファゴール	47	上唇—	246
敗血症	93, 154	發育過剩	51	ハロミン	47
—的快夢狀態	298	發育障礙	136	バンカイーン	
扁桃腺ヨリ來ル—	297	發音			47, 66, 163, 202
敗血膿毒症	66	「カ」行—不能症	368	半規管	5, 106
口腔性—	211	「カ」行—變換症	368	下—	6
微毒	64, 102, 134, 136,	機械的—困難	368	外—	68, 103, 103
	139, 151, 157, 158,	機能的—困難	368	後—	16
	160, 161, 187, 212,	「サ」行—不能症	368	骨性—	101
	233, 241	「ラ」行—不能症	368	骨性三—	6
遺傳—	236, 236	發汗法	86, 146, 322	—總脚	6
咽頭—	300	發想(Proposition)	367	三—瘻孔	35
氣管, 氣管支ノ—	395	發症	427	上—	6, 16
驅—療法	107	發振裝置	12	水平—	16, 19
後天性—	236	發聲法	328	水平—隆起部	80
喉頭—	338	ばせどう病	216	前—	6
初期—	86	波動	33, 175	—内壓力	84
—性急性鼻炎	236	灰青色—	249	膜様三—	6
生殖器外—	233	ババヴェリン	428	—瘻	17, 80
先天性—	81, 103	馬鼻疽	161, 259, 445	癩痕	134, 160
—第一期	233, 300				

咽頭— 87
 —形成 51, 73
 —軟化剤 426
 反射
 —運動 126, 126
 嚥下— 324
 —鏡
 124, 126, 212, 316
 —光線 124
 絞扼— 210
 —作用 37, 37
 —症状 148
 反射鏡 20, 375
 額帯— 20
 雙眼— 20
 バントボン 66, 324
 —スコボラミン 66
 反應 199
 アレルギー性— 444
 假性凝集— 448
 寒性凝集— 448
 血清— 235
 シック— 297, 443
 同種血球凝集— 446
 のんね-あべると
 第一— 440
 皮内— 199
 びるけ— 331, 444
 變性— 256
 まんつう— 331
 めんでる-まんとう—
 445
 わっせるまん— 159, 252
 半盲症
 交叉性— 94

ヒ

筥
 管狀— 317, 319, 319
 鼻
 萎縮性—炎
 133, 133, 134
 神経性—炎 133, 134
 前乾性—炎
 133, 134, 153
 カタル性—炎 180
 急性—炎 133, 134,
 145, 147, 197
 血管運動神経性—炎 195
 單純性割痰性—炎 151
 ギフテリ-様—炎 154
 傳染性義膜性—炎 156
 慢性—炎 147
 慢性肥厚性—炎
 147, 149
 淋毒性—炎 156
 —分泌 133, 145, 197
 惡臭性—分泌 133
 —分泌過多 134
 —分泌過多ヲ起ス疾病
 133, 135
 外—ノ損傷 143
 —科學 114
 義— 140, 143
 經—法 200, 306
 —結核 159
 —硬化症 162
 —硬化症菌 162
 —骨 114
 —根部 114
 酒渣— 134, 137, 137

—出血 23
 —神經性障礙 195
 —唇溝 133
 —背 114
 —整形法 139
 —性喘息 195
 纖維素性—炎
 156, 168
 —洗器 170
 —洗滌法 39, 456
 —前頭管 171
 —茸 125, 133,
 139, 149, 189
 —堤 116, 180
 —天蓋 121, 122, 125
 —尖窩 124
 —毛 123, 163
 —翼 123, 123, 139, 159
 —瘤 137, 137
 —梁背) 123, 139, 139
 鼻咽腔 63
 皮革觀 161
 飛行機 45
 鼻鏡 19
 前—検査法 124
 中—検査法 125
 長— 125, 166
 鼻棘 115, 162
 前— 115, 116
 鼻腔 114, 115,
 117, 117, 208
 —像 125
 肥厚
 上皮膀胱様— 329, 329
 皮脂腺 137
 —ノ滯留囊腫 51
 脾腫 91

ヒステリー 195, 197, 257, 257
 鼻聲 368
 開— 368
 開放性—
 151, 217, 236, 242
 閉塞性— 133, 148, 217
 鼻整形
 追増的—法 139
 砒素
 ギフェニール鹽化— 307
 砒素劑 85, 223, 241, 256
 肥大
 咽頭扁桃腺—(腺様増
 殖症) 292
 口蓋扁桃腺— 290
 指端—症 199
 舌根扁桃腺— 294
 鼻茸
 後鼻孔— 190
 出血性— 191
 洞性後鼻孔— 190
 鼻中隔 115, 115, 116, 121
 123, 125, 158, 241
 移動— 139
 經—法 200
 —血腫 165
 —後端肥大 148
 後—肥大 148
 —後方除去法
 200, 201
 —手術法 194
 —皸裂 148
 —瘤 115, 116, 162
 特發性—膿瘍 165
 —彎曲 162
 ビチロール 46, 135

鼻道
 下— 117, 124
 最上— 118
 上— 117, 120, 125
 中— 117
 ヒドノカリン 161
 被囊
 外— 417
 皮膚
 —ノ強壯 145
 —強壯法 322
 —焦點距離 195
 —發疹 86, 157
 —肥厚 49
 慢性—病 240
 有莖—瓣 137, 140
 皮膚移植(Thiersch) 76
 ビベット
 混合— 439
 ヒボコンドリ- 427
 被膜
 扁桃腺—
 94, 94, 95, 96
 ヒマハリ 198
 百日咳 106
 病
 狂犬— 257
 とむせん— 256
 舞蹈— 256
 —癩疾患 308
 病原體
 濾過性— 145
 病叢症状 189
 標準距離 10, 15
 米囊 37
 強度ノ寒冷即— 37
 漂白粉 398

表皮
 —剝脱 58
 ヒョロステリン結晶
 192, 251
 ヒョロステロール
 —増多 100
 ビラミドン 146
 糜爛 224
 鼻漏
 後方— 176
 膿— 156
 ビロカルピン 218, 428
 貧血 133, 166
 局所— 48
 —現象 83
 腦— 164, 172
 ひんすべるく法 80
 ビンセット 166, 168
 貧民病 162
 フ
 不安 81
 好發部位(憩室) 429
 フィブリノゲン 440
 フィブリン 222
 フィルム 129, 214
 —取替 129, 173, 185
 フェナセチン 146
 フェノバルビタール 102
 フォルマミント錠
 219, 421
 フォルモクチン 443
 フォレスチザチオン 138
 不快症状
 後發— 327
 副開口 118

複視	84	425	—ノ排泄	45	
副耳	51	ブチアリン	209	噴霧瓶	39
副腎		沸騰酸	411	噴霧法	
—製劑	147, 163, 169	葡萄酒	146	鼻—	39
副鼻腔		葡萄糖	248, 437, 441	竇門	399
118, 120, 129, 130, 144		—液	48	分葉狀肥大	148
—ノ異物	168	—注射	48	紛瘤腫	51
—炎ト視力障礙	187	舞蹈病	365		
急性—炎	133	ブバ	239, 301		
—疾患	168	ぶふあんねんすち—る法			
—ノ腫瘍	189		160, 233		
全—炎	169	浮遊液		平衡	
—蓄膿症	133	着鉛或ハ「バリウム」—	411, 412	—障礙	
腐骨				閉鎖	
—片	145, 175	ブラジル	239	歐氏管—	24, 40
迷路囊ノ—	81	ブラストミコーゼ(酵母糸		前鼻孔—	136
浮腫	247	狀菌病)	301, 302	—音	217
眼瞼—	91	フルグラチオン	138	鏡子	84
顔面—	91	ブレンデ		併發症	
くいんけ血管神經性—		ぶっきい式遮光格子板	29	異常ノ—	49
	322	リナほるむ—	29, 374	襲	
喉頭—	356	プロタルゴール	149, 156	咽頭會厭—	318
聲門—	414	プロントシル	219	會厭披裂—	
副行性炎症性—	188	噴火口狀	235	312, 313, 318, 322	
腐蝕		分割放射	64	粘膜—	313
クローム酸—	166	吻合		ヘサチラミン	298
口唇, 口腔ノ—	247	瘤室胃—	430	ヘノボヂ油	85
酸及「アルカリ」ノ—	322	食道胃—	401	ヘモタイプ	447
食道—	423, 432	噴嚏 134, 145, 197, 211, 390		ヘ—リんぐ型徹照電燈	128
乳酸—法	233, 332	分泌		ベル—	239
肉芽—法	74	血性膿性—	133	ベルカイン	378
—藥	166	口内—	237	ベルゾン	73
腐蝕法	74	口内—尤進	423, 432	へるつ波	42
弗素	147	膿性鼻—	161, 162	—長	43
ブヂ—		分泌中樞		ヘルベス	97
オリブ—	424	唾液腺—	257	口蓋—	223
ぶしや—式錐體狀—		分泌物		口唇—	218, 258

口唇及ビ頰粘膜—	223, 224	近接—法	195, 220, 239
帶狀—	223, 257	左側後方ヨリ—	411
單純性—	223	石英燈—	233
偏倚(氣管血管)	370, 374	—野	239
偏視		放射法	
共同—	97	遠距離—	397
變質		近接—	346, 422
組織—	239	くた—る式分割遷延—	
ベンジル			348
臭化—	397	表面—	397
變性		れ線—	233
—化性	106	法則	
海綿様—	101, 102	ゑ—わると—	19
蝸牛殼神經退行—	85	ろ—ぜんばつは—ぜもん	
脂肪—	151	ノ—	360, 361
退行—	100, 112, 112	繃帶	
内皮細胞ノ退行—	106	壓迫—	41
ベンゼン環	289	纏絡—	45
扁桃腺	241	耳ノ—	45
咽頭—	145	膨脹	
壞疽性—	295	肺—不全	388, 397
炎性—	211	—不全	384, 385
急性腺高性—炎		防毒	
	295, 296	—衣	398
口蓋—	205, 238	—吸收罐	398
振子様—	303	業團的—法	398
腺高性—炎	197	—覆面	398
偏舌		—法	398
音ノ—	14	膨隆	24, 40
便秘	97	珫瑯質原基	250
扁平	24	保菌者	154
扁平上皮		步行	17
—癌	64	步行失調	35
—細胞	68	ホシノフォン	44
—細胞變化	64	ホスゲン	397
鞭毛	240, 240	補聴器	43, 60, 85, 103
		齒牙傳導—	103

盲腸炎 212
 毛囊 135
 —疥 135, 136
 摸型練習 324
 モルフィウム 248
 門脈系統 484

ヤ

やこぶそん器官 116
 鑑(はつれ型) 180
 ヤトレン 74
 ヤマナラシ(アメリカ産) 198
 やんぜん一のいまん法 80

ユ

憂鬱症 151
 ユウカリ油(オイカリプト油) 323
 輸血 167, 230, 260, 290, 389, 445
 間接— 449
 自家— 445
 —實施法 449
 少量反復— 93, 298, 449
 直接— 449
 同種他家— 445
 反復— 228, 288, 290, 449
 —ノ量 449
 おえ-れつける—器 450
 どれ-ぜる式—器 450
 癒合不全 242
 癒着 150
 —(咽頭) 311

膜性— 145

ヨ

溶解剤 380, 380
 溶血現象 449
 腰椎間隙(脊椎間隙) 438, 438
 沃度 74, 79
 發生機ノ— 74, 79
 —加里 159, 160, 235, 239, 241, 334
 —加硼酸末 74
 —カルチウム 83
 —丁幾 219
 沃度フォルム 74, 175, 229, 234
 —ガーゼ 45, 46, 245
 溶融點 140
 エヅィパン ナトリウムノ 用量 435
 浴 電氣— 323
 ヨノン 132
 豫防 442
 ギフテリーノ— 442
 「ヨモギ」 198

ラ

癩 259
 外鼻— 160
 —菌 161, 259
 結節— 160
 混合型— 160
 神經— 160
 鼻— 160

らいたー型 Leiter 43
 螺旋 くるしゅまんノ— 390
 —鼓軸 5
 ラタニア丁幾 219
 ラヂウム 64, 160
 220, 239, 241, 397
 食道癌用—照射器 422
 —針埋設法 346
 —針埋没創 348
 卵圓窓 3, 10
 亂切 138
 ランセット形針 41
 濫費 空氣ノ— 362
 ランプ アルコホル— 166
 ソルックス— 60

リ

リヴァノール 73, 222
 —千倍液浸漬ガーゼ 46
 —水 90
 隆起 横— 208
 歐氏管— 26
 骨— 87
 扁平— 158
 堤狀— 161
 硫酸 147, 217
 —キニーネ 83, 213
 —亞鉛 75
 流涎 216
 隆鼻 —的整形法 140
 ロイマチス

急性關節— 212
 裏急後重 449
 梨子狀孔 114, 115, 139
 リンボラ 47
 リーナほるむ「ブレンデ」 129
 リゾール 423
 リッカフォン 44
 利尿劑 83
 リビオドール 373
 リブヨドール=リビオドール
 療法 亞鉛イオン— 74
 亞鉛イオン—ノ禁忌 75
 暗示— 429
 一般— 221
 —一般(喉頭) 322
 一般内科— 42
 鉛— 349
 温泉— 149
 觀血的— 75, 306, 336
 乾燥— 73, 73
 顔面神經麻痺ノ外科的— 111
 氣管内— 392
 氣胸— 334
 境界領域ノ手術的— 199
 金屬— 349
 金屬コロイード— 397
 驅蠱— 104, 107, 223, 235
 外科— 83
 結核— 160
 血清— 152
 血清學的— 98
 高周波— 226

姑息的— 112, 153
 紫外線— 299, 333
 自家膿ワクチン— 303
 刺戟— 63, 86, 87
 自宅— 38, 39
 充血— 426
 手術— 98, 103
 精神— 102, 366
 全身— 332
 治—一般(氣管, 氣管支) 379
 沈黙— 332, 395
 電氣— 102, 104
 内服— 334
 ばんねんすち-る— 79, 299
 非觀血的— 73, 305
 非觀血的—(喉頭結核) 332
 放射線— 64, 194, 220, 333, 397, 421
 保存的— 52, 73, 74
 マラリア— 87
 藥劑— 218
 藥物—(吃) 366
 藥物的— 98
 沃度鹽— 303
 れ線深部— 305, 333
 「れ」線深部治— 395

療養 轉地— 102
 —所(サナトリウム) 332, 334
 —地 42
 綠膿菌 61
 —ノ感染 46
 隣接器官 148

淋巴 —管系路 315
 —管經路圖説 207
 —球減少 223
 —腔 122
 —系 122
 —細胞 121
 内—高 84
 内—囊 84
 淋巴液 外— 9, 10
 内— 5, 9, 16, 18, 19
 淋巴管 外— 5
 淋巴腫 頸部惡性— 394
 淋巴腺 顎下—硬結 158
 頸— 211, 241
 頸部—膿瘍 57
 項部—腫脹 52
 耳下ノ—ノ腫脹 52
 耳前—炎 33
 —腫脹 159, 161
 —轉移 252
 肺門— 371, 374
 領域— 61

ル

涙 —溝 202
 —骨 117, 122
 —漏 144, 148
 涙管 鼻— 117, 122, 148, 159, 202

- 瀉腹 420, 422
 るご-る液 323
 る-つ式鼓室洗滌管 77
- レ**
- れいしゅまにあ 239
 熱帯—— 240
 れいしゃまん-どのダニ
 人病 301, 303
 「れ」線(れんとげん線)
 —深部療法 64
 —造影液剤 373
 —造影剤 313, 393
 「れ」線放射
 脾, 肝ノ—— 389
 れんとげん(れんとげん線)
 —近接放射法 195, 239
 —検査 129, 174
 —撮影法 129
 —診断 130, 185, 187
 —深部治療 194, 199, 201, 239, 239
 れんとげん線
 — 160, 162, 239
 ————写真 173, 179,
 180, 180, 186, 192, 199
 ————写真 89
 ————写真像 78
 ————深部治療 79
 ————表面治療 397
 瘻孔
 先天性—— 68
 先天性耳—— 50, 51
 レプロール 161
 連鎖状球菌
 —アンチウイルス 47
- 血清 48
 練習
 發音—— 245
 練習法
 呼吸發聲——
 366, 367, 367
 發語—— 366
- ロ**
- ロイコプラキー 224, 224, 235
 聾 64, 78
 遺傳的退行性全—— 100
 —教育 103
 後天性—— 105, 106
 —啞 81, 105
 クレチン性——啞=甲狀
 腺劑 107
 —啞聽器病理 103
 —啞ノ特殊教育 107, 107
 詐—— 108
 猩紅熱=ヨル—— 108
 小兒ノ—— 81
 進行性—— 104
 全—— 10, 70, 101, 102, 104
 全音階—— 105
 先天性—— 105
 瘻
 唾液—— 255
 膿—— 251
 胃——造設 253
 狼咽 242
 瘻孔 238
 外聽道下壁ノ—— 22
- 骨—— 67, 79
 —症狀 78
 側頭—— 50
 狼瘡 159, 159, 161
 口腔ノ—— 232
 喉頭—— 338
 濾過器 241
 ローズ水 137
 ろ-ぜんみゆれる窩 27
 ロダーン加里 212
 ロベリン 437
 膈胞
 齒牙—— 250
 ろんべるく症候 17
- ワ**
- ワクチン
 自家—— 48
 自家膿—— 393
 鼻丹毒—— 153
 ワゼリン 140

物件索引

【歌 語】

- A**
- Abbau und Anbau 100, 101
 Abduktor 360, 361
 — des Glottisraumes 315
 Abduzens
 otogene —lähmung 68
 Abfachtung 24
 Abgeschlagenheit 185
 Abscessus
 — frontalis 189
 — pulmonalis 392
 — linguae superficial-
 is 228
 abstehen 33, 65
 Abszess
 Extradural—— 89, 189
 Hirn—— 93
 kalter —— 280
 —membran 94
 Para-oder retropharyn-
 geal—— 280
 Retropharyngeal——
 263
 Senkungs—— 280
 Subdural—— 89
 Abtupfen 38
 Abweichung 374
 Acne
 — rosacea 137
 — vulgaris 137
 Acousticon 44
 Adduktoren 360
 — des Glottisraumes 315
 Adenoide Vegetationen 292, 124
 Adenom 199
 Adeps suillus benzoatus 46
 Adiadochokinese 94
 Aditus 340
 — laryngis 262, 312
 — ad antrum 77
 Adrenalin 134
 Adstringentia 380
 Aethylbisulfid=
 Mercaptan 132
 Ätzung
 Milchsäure—— 332
 — der Granulation 74
 Ageusie 398
 zentrale —— 209
 Agglutination
 Isohaem—— 446
 Kälte—— 448
 Pseud—— 448
 Akoin 460
 Akromegalie 199
 Akt
 Schluck—— 266
 Aktinimeter 160
 Aktinomykose 187, 212, 238
 Akumeter 13
 Ala
 — cinerea 268
 Alaun 380
 Albumose 441
 Allergen 197, 444
 Allergie 195, 444
 Alypin 40, 460
 Ampulla 6, 6
 amputieren 67
 Amylnitrit 465
 Anästhesie 358
 indirekte Infiltrations-
 — 467
 Leitungs—— 177, 459
 Infiltrations—— 459
 Oberflächen—— 467
 Lumbal—— 468
 Die wichtige Beziehung
 zwischen dem chemi-
 schen Bau u. der
 —tischen Wirkung 460
 Anästhesin 220
 Anaphylaxie 197, 442, 443
 Anti—— 443
 Anastomose
 Oesophagogastro——
 401

- Anatomie
Die klinische — u. Physiol. d. Kehlkopfes **312**
Die klinische — (Trachea u. Bronchus) **369**
Die klinische — der Nase **114**
Die klinische — des Ohres **1**
Die klinische — des Rachens **261**
Die klinische — der Speiseröhre **399**
Anatoxin **442**
Aneson **460**
Aneurysma **361**
Anfall
apoplektiformer — **82**
anfrischen **242, 246**
Angina **150, 277**
— agranulocytotica **230, 289**
habituelle — **283**
Monozyten — **230, 288**
— Ludovici **227, 287**
— pastillen **219**
— Plaut-Vincenti **287, 287**
— retronasalis **292**
— scarlatinae = Scharlach — **297**
— traumatica **150**
Anginose **281**
Angiofibrom des Rachens **304**
Ankylose **298**
- Anomalie
Sensibilitäts — **274**
Anosmia
— centralis **196**
— essentialis **196**
— respiratoria **134, 148, 196**
Anosmie **144, 398**
Anschwellung
subglottische — **379**
— der Nasenschleimhaut **147**
— und Oedem **322**
Antiphon **45**
Antivirus **74, 135**
Antralamp **213**
Antrotomie
intraotale Attiko — **77**
Antrum **68**
— mastoideum **3**
Aortenaneurysma **396**
Apertura
— piriformis **114**
Aphanozoen **145**
Aphasie
amnestische — **94**
sensorielle — **94**
Aphonie **322, 339, 362, 398**
Aphtha
Bednar'sche — **222**
Aphthen **221**
chronisch-rezidivierende — **223**
Aphthongie **365**
Aplasia **105**
Appendicitis **212**
- Aqua
— calcariae **137**
— destillata **218, 340**
— menthae piperitae **218**
— Rose **137**
Aquaeductus
— cochleae **5**
— Sylvi **104**
Arcus
— palatoglossus **205, 262**
— palatopharyngeus **205, 262**
— pharyngopalatinus **204**
Areflexie **308**
Argentum nitricum **380**
Arrosion **388**
Artemisia californica **198**
Arteria
— auditiva interna **6**
— bronchialis **370**
— carotis externa **204, 265**
— carotis interna **7, 266**
— laryngea **315**
— lingualis **204**
— thyreoidea inf. dextra et sinistra **370**
— thyreoidea superior **315**
— thyreoidea sup. et inferior **402**
Aa. palatina et pharyngea ascendens **265**

- Articulatio cricoarytaenoidea **313**
Artikulation
— sorgane **368**
— svorgänge **217**
Aryknorpel **312**
Asthenopsie **180**
Asthma
— bronchiale **389**
— febrile **390**
nasales Reflex — **196**
Atelektase **384, 385**
Atherom **51**
Atmung
künstliche — **354**
— störung **216**
Atrophie **151**
Atropin **391, 428, 461**
Attikoantrotomie
intraotale — **77**
Audiometer **12**
Audiophon **43**
Auermantel **20**
Aufklappung
temporäre — **306**
Aufmeisselung
Schwartz'sche — **66**
totale — des Mittelohres **76**
Aufnahme
axiale — **129**
fronto-okzipitale — **129**
röntgenkymographische — **374**
transversale — **129**
Aufschwemmung **411**
- Aura **197**
Aurikularanhänge **51**
Auris
— externa **1**
— interna **4**
— media **2**
— media propria **3**
Ausführung
— der Bluttransfusion **449**
— gang **205**
Auskratzung
— der Paukenwand **75**
Auskultation **370**
Ausatz **259**
— der Nase **160**
Ausschaltung
— des Kehlkopfes **337**
Aussschneuzen **144**
Ausspritzung **38**
Ausspülung **152**
Auswurf
blutiger — **384**
Autophonie **274**
Autopyovakzin **393**
Autoskop **273**
Stütz — **273**
Autoskopie **319**
— spatel =
Röhrenspatel **319**
Avertin
— **228, 406, 435, 436**
— -Narkose **83**
- B
Bacillophagol **47**
Bacillus fusiformis **221, 229, 287**
Ballon
Poltzer'scher — **149**
Bancaïn **47**
Baradiol-Bernhard Hadra **412**
Barium **411**
Cito — -Merck **412**
festes Bissen von — **412**
— pasta **412**
— sulfat **412**
Basalfibroid **192, 304**
basilares — **305**
pterygomaxillares — **305**
sphenoethmoidales — **305**
Basis stapedis **3**
Becher
Schmeck — **206**
Bedingungen als Luftfahrer **457**
Befund
otoskopischer **21**
otologische — **107**
Begutachtung
otologische — **107**
Behandlungen
— im allgemeinen (Rachen) **276**
— der Oesophaguskrankheiten **401**
— nach der Extraktion **388**
blutige — **75**
endotracheale — **392**

- medikamentöse — 24
 operative — 218
 trockene — 73
 unblutige — 73
 Allgemein — 221
 Bäder — 277
 Blei — nach Blair Bell 372, 401
 interne Allgemein — 371
 na 318, 370
 Bismutum — carbonicum purissimum 412
 — oxychloratum 412
 bitter 209
 Blastomykose 301, 302, 302
 Bleisaum 218
 Blende
 Lysholm — 65, 374
 Lysholm'sche — 129
 Blenorhoe 156
 Blut
 defibriertes — 446
 — transfusion 167, 290, 389
 Blutgruppe
 Bestimmung der — 446
 Bluttransfusion
 Gefahr der Bluttransfusion 453
 üble Erscheinung bald nach der — 453
 üble Erscheinung wäh-

rend der — 453

Nebenerscheinung der

— 452

Blutung

— der Trachea 388

— des Rachens 309

— in der Mundhöhle

bei Haemophilie 259

Nach — 286

Bogengang

— fistel 80

Bougie 41, 402

— mit Elfenbeinolive

englische — 424

Oliven — 424

Bouton d'Orient 240

Brausemischung 411

Brei

Kontrast — 412

Steifer — 411

Bronchialbaum 370

Bronchialtuben 395

Bronchiektasie 384

Bronchiolen 371

Bronchus

Haupt — 370, 371

Stamm — 371

Bruststimme 315

Buba 239, 301

Bulbärparalyse 256, 358, 365

Bulbus

— olfactorius 196

— v. jugularis 7

Bulla

— ethmoidalis 117

- tubaria 71
 Bursa
 — pharyngea 129, 264

C
 Calyculi gustatorii 206
 Camphor depuratum 137
 Canal
 — es semicirculares 5, 6
 — is Fallopii 35
 — is semicirculares anterior s. superior 6
 — is semicircularis horizontalis s. lateralis 6
 — is semicircularis posterior s. inferior 6
 Cancer
 — extrinsèque 349
 — intrinsèque 341
 Capsula
 — externa 417
 — labyrinthi ossea 5
 Carcinoma
 — auriculae 51
 — buccae 253
 — labii oris 253
 — laryngis 340
 — linguae 252
 — oesophagi 420
 — processus alveolaris 253
 Cardia 399
 Carina tracheae—Luschka 371
 Cartilagine
 — alares minores 115
 — sesamoideae 115
 Cartilago
 — alaris major 115
 — arytaenoidea 312
 — epiglottica 312
 — nasi lateralis 115
 — quadrangularis 116
 — septi nasi 115
 — thyreoidea 312
 Catgut 342
 Cavum
 — conchae 2
 — laryngis 313
 — nasi 114
 — oris 203, 262
 — oris proprium 204
 — pharyngonasale 262
 — tympani 3
 Cellulae
 — ethmoidales 119
 — ethmoidales anteriores 117
 — ethmoidales posteriores 120
 — mastoideae 3, 3
 — petrosae 4
 Cellulitis ethmoidalis 182
 Cerebrum 122
 Chancre
 — espundique 240
 — initial blastomycosique 302
 Chaulmoogra säure 333
 Chinolin 461
 Choana (Choane) 115, 261, 271
 Chorea 256
 — minor 365
 Chorditis
 — tuberosa = Sängerknötchen 339
 Cisterna magna 84, 441
 Clauden 389
 Coagulen 167, 230
 Coast sage-brush 198
 Cocain 125, 459
 Cocainum hydrochloricum 146
 Coccidioides 301
 Coccobacillus foetidus 151
 Cochlea = Schnecke 5
 Coloboma auris 49
 Concha
 — nasalis inferior 117
 — nasalis media 117
 — nasalis superior 117
 — nasalis suprema 118
 Conchotom 184, 201
 — ie 150
 Conjunctivitis 190
 Cornu majus ossis hyoidei 204
 Corona dentis 206
 Corpus
 — alienum oesophagi 413
 — alienum tracheae et bronchi 383
 Coryza 145

- syphilitica 236
Creatinin 441
Crista
 — acustica ampullaris 7
 — ampullaris 6
 — galli 117
 — incisiva 115
 — lateralis 162
 — maxillaris 162
 — palatina 115
 — septi 162
Croix palatine blastomy-
cosique, Escomel 302
Crus commune 6
Cryptococcus 301
Cupula 16
Curette 293
Cyanose 321
Cytoplasma 240
- D**
- Dacryocystorhinostomie**
 extranasale — 202
Dammarharz 219
Danziger Goldwasser 251
Darreichung
 innerliche — 334
Daueranalgesie nach
 Hoffmann 335
Débris épithéliaux para-
dentaires 192
Decoctum althae 295
Defekt 134
Deformität
 erworbene — 51
- des Nasenseptums 397
Dekanülement 162
 erschwertes — 351
Demarkation 433
 demarkieren 235
Dementia paralytica 440
Dens
 — serotinus s. sapiens 206
Dentes 206
 — canini 206
 — decidui 206
 — incisivi 206
 — molares 122
 — permanentes 206
 — praemolares 206
Desinficientia 380
Deviatio
 — septi nasi 162
Diabetes mellitus 214
Diaphanoscopia(-skopie)
 129, 169
Diaphragma
 — congenitum oeso-
 phagi 413
Diätetik bei der Oeso-
phaguskrankheiten 453
Diathermie 42
 chirurgische — 194
Dichlorethylsulphide 397
Diffusion 467
Dilatatio
 — oesophagi idiopa-
 thica 427
Dilatation 275, 394, 425
Diphenylarsine chloride
- Diphtherie** 157, 258
 Rachen— 295
 Scharlach— 297
Diphtheritis
 — tracheobronchialis 388
Diplococcus scarlatinae 297
Discren 149
Displacement method 130
Dissimulation 108
Diverticulum
 — oesophagi 429
Divertikel 275
 — des Hypopharynx 310
 epiphrenales — 430
 Grenz— 429
Hypopharynx— (Kil-
 lian) 429
Oesophagus— 417
 Pulsions — 311
 Traktions— 429
Zenker'sches Pulsions-
 — 403
- Dorsum**
 — nasi 114, 123
- Dosis**
 — höhe 470
 — verteilung in der
 bestimmten Zeitdauer 470
 räumliche — vertei-
 lung 470
 Karzinom— 471
Drain 347

- Drainage**
 Forced — of the cere-
 brospinal fluid 99
Dreh
 — nachnystagmus 17, 17
 — schwindel 35
 — ung 17
Drucksur 352
Drüse
 Balg— 205, 264
 Hilus — 371
 Schleim— 205
 Speichel— 205
Druse 238
Ductus
 — Bartholinianus 205
 — cochlearis 6, 9
 — nasofrontalis 119, 171
 — nasolacrimalis 117
 — parotideus 205
 — perilymphaticus 5
 — Stenonianus 205
 — Whartonianus 205
- Durchgängigkeit**
 — der Nasenhöhle 132
- Durchleuchtung** 129
 dorsoventrale — im
 ersten schrägen
 Durchmesser 411
 — slampe 129
- Dyslalia(-ie)**
 — dentalis 217
 — labialis 217
 — lingualis 217
- funktionelle — 368
 mechanische — 368
Dysphagie 422, 454
Dysphonie 398
- E**
- Eccema**
 — vestibuli nasi 135
Eccymose 325
Einblasung(en) 39, 323
 — der Medikamente 220
 — des Pulvermittels 277
- Einfluss auf die benach-**
barten Organe 148
- Einführung**
 okulare — 407
 palpatorische — 407
 Rohr— und Gang der
 Oesophagoskopie 407
- Einpudern** 73
Einträufelung 37, 218
Einziehung 24
Eisessig 439
Eiterung
 Attik— oder chroni-
 sche — des Kuppel-
 raums 77
Ekgonin 462
Ektasie
 — der Höhle 186
 Venen— 388
Ekzem 46
Elektrokauterisation 335
Elektrolyse 150
- Elevatorium** 177
Embolie 389
 Luft— 92
 Paraffin— 140
Emissarium
 — condyroideum pos-
 terius 91
 — mastoideum 7, 70
Emollientia 380
Empfänger
 Universal— 447
Empfindung
 alkalische — 210
 metallische — 210
Emphysem 144, 172, 383
 Haut— 414
Empyema
 — sini Highmori den-
 talen Ursprungs 169, 179
Encephalitis 93
Ende
 Hinteres — der Car-
 tilago trachealis 402
Endolymph 5
Endomyces 301
Endoskop
 Verlängerbares —
 nach Brünings 408
Endothelium 193
Enge
 erste — des
 Oesophagus 399
 zweite — — 399
 dritte — — 400
 Aorten— 370, 399

- Diaphragma— 400
 Ringknorpel— 399
 Schilddrüsen— 370
 Entartungsreaktion 256
 Entlarvung der Simulation 365
 Entzündung(en) 325
 akute — 325
 chronische— 323, 232
 chronische — des Rachens 290
 demarkierende — 433
 eitrige — 226
 akute infektiöse — 154
 chronische infektiöse — 157
 katarrhalische — (Rachen) 278
 phlegmonöse — (Rachen) 280
 ulzerös-gangränöse — 229
 Tonsillen— 281
 Eosinophilie 390
 Epiglottis 312
 Lublinski'scher heber 317
 Epipharynx 262
 Epiphora 144, 190
 Epistaxis 157, 165
 habituelle — 154
 Epithel
 kubisches — 4
 Epitympanum 7
 Epulis 226, 249
 — fibrosa simplex 249
 — sarcomatosa 249
 Erfrierung 48
 Erkrankung(en)
 allergische — 147
 infektiöse u. parasitische — 237
 Herd— 308
 Erscheinungen
 üble —, die nach dem langen Zeitraum der Ausführung vorkommen 453
 üble — bei der direkten Tracheobronchoskopie 378
 Erschöpfung der Atmung u. des Herzens 378
 Erysipel
 — der Nasenhöhle — des Rachens 281
 Erysipelas 47
 — bullosa 47
 — recidivans 157
 Erythem 158, 470
 Eserin 218
 Espundia 239, 240, 301
 essigsäure Tonerde 221
 Eucalyptusöl 323
 Eukain A 460
 — B 460
 Euphorie
 septische — 298
 Evipan-Natrium 76, 228, 406, 435
 Ewald'sches Gesetz 19
 Exaerese 392
 Excitantia 380
 Exophthalmus 186, 305
 Exostose 21
 Exstirpation
 totale — des Kehlkopfes 337
 Exsudat
 —linie 24, 59
 Extraktion
 — des Trachealfremdkörpers 381
 — des Oesophagusfremdkörpers 403
 tracheobronchoscopische — 386
 Extraktor
 Schwammkopf— 415
 Exzessbildung 51

F

- Facies leonina 160
 Fänger
 Fischgräten— nach Fergusson 415
 Münzen— 415
 Färbung
 Ziel-Neelsen'sche — 161
 Falte=Grenzstrang
 aryepiglottische — 312, 322
 vordere u. hintere — 22
 Farbe

- der Rachenschleimhaut 275
 Fascia
 — colli 312
 — colli mediana 402
 — colli superficialis 402
 — praevertebralis 263
 Fazialislähmung 68
 Fehlschlucken
 Verhütung des —s 336
 Fenestra
 — labyrinthi 79
 — vestibuli 3
 Fenster
 ovales — 3, 79
 rundes — 79
 submuköse —resektion 163
 Fibrinogen 440
 Fibrolysin 426
 Fibrom 192, 303
 Angio— des Rachens 192
 juveniles Nasenrachen — 191, 304
 Nasenrachen— 191
 Neuro— 87
 oedematöses — 191
 Fibroma
 — laryngis= Kehlkopfpolyp 339
 — oesophagi 418
 Fingerschützer 271
 Fissura auris congenita 50
 Fistel 50
 Eiter— 251
 Magen— 404, 422
 Speichel— 255
 —symptome 78
 Bogengangs— 80
 Fistula
 — colli lateralis 50
 — salivalis 255
 Flüstern 367
 Flüstersprache 10
 Fluktuation 33, 175
 Foetor ex ore 213, 214, 430
 Folgekrankheiten
 — der akuten Mittelohrentzündung 64
 Foramen
 — caecum 204
 — rotundum 177
 Forestisation 138
 Form
 gingivitische — 221
 glossitische — 221
 — aldehyd 98
 Formaminttablette 219
 Formovakzin
 Diphtherie— 443
 Fossa
 — canina 118, 203
 — cranii media 3, 8
 — cranii posterior 4, 8
 — endolymphatica 84
 — mastoidea 76
 — suprasternalis 402
 — supratonsillaris 265
 — tonsillaris superior 265
 — triangularis 2
 Fossula 265
 Fox-tail 198
 Fraktur 144
 Fremdkörper
 chronischer — 385
 — der Nasenhöhle 168
 — der Nasennebenhöhle 168
 — des Kehlkopfes 357
 — des Rachens 309
 — der Speicheldrüsen 254
 — des Drüsenganges 254
 tanzender — 383
 Frenulum
 — labiae superius 177
 — labii superioris et inferioris 203
 Frostgefühl 145
 Fulguration 138
 Fulguropunktur 138
 Funktion
 — der Tracheobronchialschleimhaut 372
 statische — u. Untersuchung derselben 15

—untersuchung der Nasenhöhle	130	—sinn	8	—szellen	206
Furunculus		—organ	457	Geschwulst =Tumor	
— vestibuli nasi	135	Gehörgang		— des Mittelohres	63
G		Erkrankungen des äusseren —es	52	— der Nasenhöhle	189, 193
Gähnen	274	knöcherner —	33	— der Nasennebenhöhle	189, 193
Gammazismus	368	Senkung d. hinteren oberen Wand des —es	22	— der Nasen- u. Nasennebenhöhle	189
Gang	17	Verletzung des äusseren —es	57	Geschwülste	248
Ganglion		Gelenkrheumatismus		— des Kehlkopfes	339
— spirale	5	akuter —	212	bösartige —	306
— stellatum	392	Gem	44	gutartige —	339
Gangosa	239	Gentianaviolett	238	gutartige — des Rachens	303
Gangraena		Geräusch		maligne —	340
— pulmonalis	392	frustranes —	363	maligne — der Parotisdrüsen	255
Gangrän		gurrendes —	430	Misch— der Parotisdrüsen	255
— des Rachens	289	knackendes —	274	Geschwür	
Gastritis acuta	221	Flopp—	384	Dekubital—	235, 252
Gastrostomie	253, 418	Rassel—	390	Gesetz	
Marsipo—	430	Stenosen—	321	Rosenbach-Semon'sches —	360
— und nachfolgende Radiumbehandlung mit Sondierung ohne Ende, Kurtzahn	421	Gerbsäure	380	Gesicht	
Gaumen		Gerinnsel	95	adenoider —stypus	133
Schiefstellung des weichen —s	256	Geruch		Gesichtsfeldverengung	
weicher —	268	Prüfung des —ssinnes	131	zentripetale periphere —	189
Gaumenbogen		Störungen des —s	197	Gesichtsfeldverengung	
hinterer —	262	Geschmack	209	—	189
vorderer —	262	perverse —sempfindung	214	Gestank	151
gedunsen	390	—sporus	207	Geusie	
Gegendrucker	319	—sorgan	206	Hyper—	214
Gehör		Prüfung des —ssinnes	213	Hypo— resp. A—	214
—knöchelchen	8	—sstörung	216		
—organ	7				

Para—	214	Grenzgebiet		Hamartom	100
Gewebe		Erkrankungen der —e	199	Hammer	
adenoides — des Rachens	268	Grenzstrang		Entfernung des —s	75
Gewöhnung	210	— des Halssymphathikus	392	Hamulus pterygoideus	
Gingivitis	221	Grube		Hasenscharte	245
Gingivitische Form	221	Rosenmüller'sche —	264	Hauchen	367
Glandula	248	Gumma	158	Hauterythemdosis = H.E.D.	160
— Bartholini et Re-vini	248	Gurgel		Hautfokusabstand = H.F.A.	195
— ceruminalis	1	Gurgelung	218, 278	Hautschnitt nach Wilde	67
— incisiva	248	Guttapercha	219	Heiserkeit	315, 322
— parotis	205	Gyrus		Helianthus annuus	198
— sublingualis	205	— fornicatus	209	Helicotrema	8
— submaxillaris	205	— hippocampi = Ammonshorn	209, 196	Hemianopsie	185
Gleichgewichtsstörung	17	— occipitotemporalis	196	bitemporale —	189, 199
Globulin	444	gekreuzte —	94	Hemiatrophia faciae	50
— Differentialuntersuchung	440	H		Hemilaryngektomie	342
Glossitis		Haarzellen	16	Herdsymptome	89
— acuta	248	Haematom		Herdtheorie	151
— acuta diffusa	228	— des Nasenseptums		Heredopathia acustica	100
— superficialis	224	Haematotympanum	23	Herpes	
Glossitische Form	221	Haemolyse	449	— labialis	97
Glottis		Haemophilie	259	— labialis et buccalis	223
—krampf	148	Haemorrhagia		— simplex	223
Glühlichtbad nach Albrecht	323	— oesophagi	434	— zoster	257
Glycerin	295	— tracheae	388	Heufieber	198
Goniometer		Hämatype	447	Hexamethylentetramin (Urotropin)	98
Stein'scher —	19	Haken		Hiatus	
Granula		Mount-Bleyer'scher —	272	— semilunaris	117
— der Rachenwand	276	Halomin	47		
Granulation					
Aetzung der —	74				

- himbeerartig 258
 Hirn
 Läsion der —rinde 257
 Höhensonne
 künstliche — 333
 Holocain 460
 Homatropin 461
 Hör
 —apparat 43
 —insel 11, 104
 —lücke 11
 —prüfung 9
 —rest 106
 —schärfe 11
 Mittelhirn —störung 104
 funktionell—neurotische
 —störung 104
 Rinden —störung 103
 —störung 103
 zentrale —störung 103
 —strecke 11
 —stummheit 105, 106
 Hordeum murinum 198
 Hüpfen 17
 Husten 151
 bellender — 322
 krampfhafter — 148, 384
 laryngealer — 322
 pharyngealer Reiz — 276
 Hydrocephalus internus 201
 Hypästhesie 358
 Hyperämie 469
 aktive — 322
 reaktive — 37
 Hyperästhesie 358
 Hyperkeratosis tonsilla-
 rum = Pharyngomycosis
 leptothrica 294
 Hyperostose 21
 Hypertrophie
 — septi posterior 148
 — tonsillae palatinae 290
 Hypertrophie
 — der Nasenschleim-
 haut 134
 — der Rachentonsille 292
 — der Zungentonsille 294
 maulbeerartige — 147
 lappige — 147
 Hypochondrie 427
 Hypopharynx 262
 Hypophyse
 —noperation 200
 —ntumor 199
 perseptale —nopera-
 tion 200
 Hyposmia
 — respiratoria 148
 Ictus laryngis 363
 Idiosynkrasie 445
 Ileus 436
 Immunität
 aktive — 442
 passive — 443
 —seinheit 155
 Impetigo
 — contagiosa 33
 Inaktivität 215
 Incisura Santorini 2
 Incus 3
 Indikation
 — der Bluttransfusion 449
 Kontra— der Blut-
 transfusion 449
 indische Methode 141
 Infektionskrankheiten des
 Rachens 295
 Infiltration 276
 gummöse — 158
 Influenza 157
 Infusion 167
 Inhalation
 277, 323, 333, 379
 Trocken— 277
 Initialsklerose 300
 Injektion
 perineurale 468
 endoneurale 468
 Innenohr
 metasyphilitische Ver-
 änderung des —es

- 87
 innerliche Darreichung 334
 Inspektion 212
 — des Naseninnern 123
 Instillation 333
 Instrument
 —e der Oesophago-
 skopie 405
 oesophagoskopische
 —e für besondere
 Zwecke 408
 Untersuchungs—e 20
 Intermaxillarfalte 204, 217, 253
 Internusparese 325
 Intoxikation
 Erscheinungen im
 Munde bei wichtigen
 —en 217
 Kokain— 378
 Intubation 425
 freie — 394
 O'Dwyer'sche — 356
 Intubation nach O'Dwyer 327
 Involution 269, 304
 Ionisation
 Zinc — 74
 Isoagglutinin und Iso-
 haemolysin 453
 Isochinolin 461
 Isthmus
 — faucium 206, 216, 262
 — meati auditorii ex-
 terni 1
 — thyreoidalis 351
 italienische Methode 141
 J
 Jodschnupfen 147
 Joint grass 198
 Jonon 132
 juveniles Nasenrachen-
 fibrom 191, 304
 K
 Kachexie 422
 Kakosmia
 — objectiva 197
 — subjectiva 197
 Kala-Azar 240
 Kalium hypermangani-
 cum (—atum) 219, 221
 Kardioplastik 401
 Kardiotomie 401
 Karies 280
 Karzinom
 — der Nasenhöhle 193
 — des Rachens 306
 — des Zahnfleisches 253
 Medulläres — 255
 Skirrhöses — 255
 Kasette
 intraorale — 214
 Kataphorese 467
 Katheter
 Nélaton'scher — 57, 354, 354
 Katheterismus
 Schrötter's — des
 Kehlkopfes 356
 Kathodenstrahlenröhre 473
 Katzenohr 49
 Kaufen 208
 Kaupastillen 219
 Kehlkopf
 abnormes Gefühl des
 —es 321
 Ausschaltung des —es 332
 Bepinselung des —es 323
 Diphtherie des —es 326
 totale Exstirpation des
 —es 337
 —gurgeln 324
 —polyp 339
 Keilbeinhöhle 120
 Keratoconjunctivitis 397
 Kieferklemme 217
 Kinderknötchen 339
 Kleinhirn
 —brückenwinkeltu-
 mor 88
 Klemme 439
 klossig 290
 Knochen
 —blase 149, 191
 eburnisierte — 3

- stanze 200
Knochenleitung
indirekte — oder
kraniotympanale
Leitung 9
Knochentelephon 13
Knorpel
Huschke'scher — 116
sphenoidaler — fort-
satz = Process. cartilag.
quadrangularis 116
Kolben
Erlenmeyer'scher — 437
Kommissur
vordere — des Stimm-
bandes 317
kompensatorische Hyper-
funktion 362
Komplikation
intrakranielle —
68, 181, 189
intraorbitale — 187
otogene intrakranielle
—en 88
rhinogene intrakrani-
elle — 187
Kompression
deglutatorische —
372
Kondylom 302, 396
Kontraktion 427
Kontrasterscheinung 209
Kontrastmittel 373
Kontusion 357
Konzentration 467
Kopflichtbad 146
Kopfschmerz 148
Körner'scher Tour 45
Körper
Epithel—chen 417
Krampf 256, 274
— des Kehlkopfmus-
keln 362
Glottis— der Erwach-
senen 363
Krankheit
Höhen— 458
Barlow-Möller'sche —
230
Möller-Barlow'sche —
230
Thomsen'sche — 256
—en der Nasenhöhle
145
sonstige Kehlkopf —
349
— d. Speicheldrüsen
u. des Speicheldrüsen-
ganges 254
kraterförmig 235
Krebs
aeusserer Larynx —
349
— der Wangen-
schleimhaut 253
innerer — 341
Kretinismus 105
Krise 427
Kruste
—nbildung 151
Krystalle
Charcot-Leyden'sche
— 390
Kürette 186
Kuppelraum
chronische Eiterung des
—es 77

L

Labium

- oris superius et in-
ferius 203
— vocale 313

Labyrinth

- Apoplexia —i 81
Erkrankungen d. —es
u. d. Hörnerven 79
Fenestra —i 79
häutiges — 5
Syphilis des —es u.
der Hörnerven 86
—ärer Nystagmus 16
—nekrose 81
Frühstadium der —
syphilis 86
—blutung 81
—itis 69
—itis circumscripta
79
—itis bei kongenitaler
Syphilis 87
—itis diffusa 79
Metastatische —itis
81
tertiäre syphilitische
Neuro —itis 86
tympanogene —itis
79
Lähmung
— des M. cricoarytae-

- noideus lateralis 360
— des M. interarytae-
noideus transversus
359
myopathische — 359
postdiphtherische —
296
postdiphtherische Gau-
mensegel— 308
— des Rachens 308
otogene Abduzens—
68
Fazialis— 35, 68
Internus— 359
Lateralis— 360
Lähmungen 275
motorische —en 359
neuropathische —en
360
periphere —en 361
Transversus — 359
zentrale — 360
Lärmapparat 109
lallend 232
Lambdazismus 368
Lamina
— cartilaginosis cricoi-
deae 262
— cribrosa 122
— medialis processus
pterygoidei ossis sphenoidalis 117
— papyracea 120
— perpendicularis
ossis ethmoidalis 115
— posterior cartilagi-
nis cricoideae 399
— spiralis ossea 5
— posterior cartilagi-
nis cricoideae 312
Laminariastift 421
Lampe
Stirn— 403
Laparotomie
peripleurale — 429
Lapisstift 74
Laryngektomie = totale
Kehlkopfstirpation
342
Laryngismus stridulus der
Kinder 362
Laryngitis
— acuta 325
— chronica 328
— chronica sicca 330
— phlegmonosa 328
— subglottica acuta =
Pseudokrupp 325
— syphilitica 338
— tuberculosa 330
Laryngofissur 337, 341
Laryngologie 312
Laryngoskopie 316
direkte — 317
indirekte — 316
Laryngospasmus 363
Laryngostat 320
Laryngotracheitis per
Yperite 397
Larynx 312
—krise 359, 363
künstlicher — 345
Laut 315
Leerschlucken 299
Leishmania tropica 240
Leishmaniose 239
Leitung
indirekte Knochen—od.
kraniotympanale— 9
Luft — 8
Lepra 259
— nasi 160
Leptomeningitis purulenta
189
Leptothrix 294
Leukämie
akute — 288
Leukopenie 289, 289
Leukoplakie = Psoriasis
224, 235
Leukozytose 95, 289
Licht
— kegel 3, 23
— quelle 20
— bogenoperation
(= Forestisation) 136
Ligamenta
— annularia 370
Ligamentum thyreochoi-
deum 312
Limbus spiralis osseus 6
Linea
— mediana colli
albicans 352
— temporalis 67
Lingua 204
— geographica seu
dissecata 224
— nigra 225
Lipiodol 129 373,

- Lippe
 —nkarzinom **253**
 —nklemme **246**
 —nrot **203**
 angeborene —nspalte **245**
- Liquor
 — ferri sesquichlorati **380, 389**
 — Kalii arsenicosi **340**
- Lobelin **465**
- Lobus sinister glandulae thyreoideae **402**
- Locus Kiesselbachii **116, 166**
- Lokalanästhesie
 Zur Kenntnis der — **459**
 geschichtlicher Ueberblick der — **459**
 Indikation und Kontraindikation zur — **462**
- Lokalanästhetika
 Giftigkeit und Wirkung der — **463**
 wirksame Menge der zu den — zugesetzten Nebennierenpräparate **466**
 verschiedene Verwendungsarten der — **467**
- Lösung
 Burow'sche — **136**
 Calot'sche — **74**
- Lugol'sche — **323**
 Lorgnettennase **139**
 Luetin **445**
 Lufteinblasung **39**
 Luftembolie **171**
 Luftemphysem **355, 384**
 Luftfahrt **456**
 Luftfahrtmedizin **457**
 Luftröhrensporn **370**
 Lupus **159, 232, 298**
 — laryngis **338**
 Luxation **145**
 Lymphoglandula
 — cervicalis profunda superior **266**
 Lymphraum
 perineuraler — **122**
 Lyssa **257**
- M**
- Macacusohr **49**
 Macula
 — acustica **15**
 — sacculi **6**
 — utriculi **6, 7**
 Makrotie **51**
 Mallein **162, 445**
 Malleus **2, 3, 161, 259, 445**
 Maltose **209**
 Manubrium mallei **3**
 Mandrin **439**
 Masern (Morbilli) **257**
 Massa
 — lateralis **263**
 Massage
- bei Ohrenkrankheiten **41**
 Mastoiditis
 — acuta **64**
 Bezold'sche — **65, 280,**
 latente — **65**
 Die durch Streptococcus mucosus bedingte — **65**
 Meatus
 — auditorius internus **4**
 — nasi inferior **117**
 — nasi medius **117**
 — nasi superior **117**
 — nasi supremus **118**
 Mediast
 kollare — inotomie **434**
 Medikamente
 perlinguale Applikation der — **219**
 Melancholie **151**
 Melangeur **439**
 Membrana
 — basilaris **6, 9, 304**
 — cricothyreoidea **313**
 — Schrapnelli **77**
 — tympani **2**
 Ménière'sche Krankheit **17, 82**
 Meningitis
 Pachy— externa **89**
 Pachy— interna **89**
 otitische Lepto — **97**
 Menthol **146**
 Mercaptan = Aethylbisulfid

- Mercurochrome **74**
 Mesopharynx **262**
 Metaplasie **106**
 Metastasierung **298**
 Methaemoglobin **380**
 Methode
 deutsche — **107**
 Dilatations— **401**
 französische — **107**
 indische — **141**
 Injektions— **333**
 italienische — **141**
 Jansen-Neumann's — **80**
 Warnicke'sche — **109**
 Zitrat — **451**
 Methylenblau **303**
 Methylviolett **439**
 Mikrotie **49**
 Mineralwasser **380**
 Missbildung **242**
 angeborene — **139**
 angeborene — der Ohrmuschel **49**
 — der Nase **139**
 — des Oesophagus **413**
 erworbene — **139**
 Hemmungs — **49**
 — des Rachens **310**
 Mittelohr
 chronische — katarrh mit Adhaesivprozess **60**
 Erkrankung des eigentlichen —es **59**
- Geschwülste des —es **63**
 totale Aufzisselung des —es **76**
 tuberkulose des —es **78**
 Modiolus **5**
 Monilia **301, 303**
 Monochord nach Struycken **12**
 Morbilli (= Masern) **157**
 Morbus maculosus Werlhofi **230**
 Mucilago Gummi arabici **137**
 Müdigkeit **185**
 Mukosusotitis **62**
 Mukozele **186**
 Multiplizität **78**
 Mump **254**
 Mund
 —boden **204**
 —krankheiten **218**
 —sperrer **213**
 —verdauung **208**
 —winkelabzieher **213**
 Mundhöhle **203, 248**
 Bedeutung der — als Infektionspforte **210**
 Neuro-u. Myopathie der — **256**
 Physiologie u. Pathologie der — **207**
 Tuberkulose und Lupus der — **232**
 Untersuchungsmethode der — **212**
- Verätzung der — **247**
 Verbrühung der — **248**
- Mundlippe
 Insektenstich der — **246**
 Kontusion der — **246**
 Schleimzyste der — **248**
 Schnittwunde der — **246**
- Muschel
 —theorie **151**
- Musculi (Mm.)
 — constrictores pharyngis **263**
 — levatores pharyngis **263**
 Muskarin **218**
- Musculus (M.)
 — biventer mandibularis **210**
 — constrictor pharyngis superior **262**
 — cricoarytaenoideus posterior = Postikus **360, 361**
 — cricothyreoideus **314, 314**
 — cricoarytaenoideus lateralis = Lateralis **314, 360**
 — digastricus **256**
 — genioglossus **210**
 — geniohyoideus **204**
 — hyoglossus **204, 210,**

- interarytaenoideus **263**
 transversus = Transversus **314**
 — levator veli palatini 210
 — longissimus colli 417
 — longitudinalis linguae sup. et inf. 210
 — longus capitis 266
 — longus colli 266
 — masseter **113 208, 210,**
 — mylohyoideus 210
 — omohyoideus **312, 402, 417**
 — orbicularis oris 203, 210
 — palatoglossus 267
 — palatopharyngeus **263**
 — pterygoideus **208, 210**
 — pterygoideus internus 263
 — quadratus labii superioris et inferioris 210
 — sternocleidomastoideus 4
 — sternohyoideus **312**
 — sternothyroideus **402**
 — styloglossus 267
 — stylohyoideus **256**
 — stylopharyngeus
- temporalis **113 208, 210,**
 — tensor veli palatini 210, **243**
 — thyreochoideus **312**
 — thyreoarytaenoideus externus 313
 — thyreoarytaenoideus internus = Internus **314**
 — transversus linguae 210
 — uvulae 210
 — verticalis linguae 210
 — vocalis 313
 — vocalis internus 325
 — vocalis internus thyreoarytaenoideus internus 359
- Muskel
 Ring— 423
 Mytonia congenita **257**
 Myxom **191**
- N**
- Nachbild **210**
 Nachblutung **467**
 Nachgeschmack **210**
 Nachschleppen des Seitenthorax 384
 Näseln-Rhinolalie 368
 Nahbestrahlung
- 220, 230, **346,**
 Röntgen— **469**
 Nahrungsaufnahme
 Störung der — 216
 Naht
 fortlaufende — 418
 Narbe 134
 Narcotica **380**
 Naris **123**
 Narkose
 allgemeine intravenöse — 66
 Die nicht inhalierende — **435**
 Aether— 66
 Avertin— 83
 Basis— **436, 437**
 Chloroformäther— 66
 Injektionskurz— **435**
 Nase
 äussere — **114**
 künstliche — **143**
 —nbluten 165
 —nboden **118**
 Deformitäten des — n. septums **162**
 primäre — ndiphtherie **154**
 —neingang **123**
 —nflügel **123**
 —nhöhle **114**
 Durchgängigkeit der —nhöhle 132
 Reinigung der — und des oberen Rachens 39
 —nkarzinom **193**
 vikarierende Hyper-

- trophie der —nmuschel 162
 —nplastik nach Lexer 141
 —npolyp 149, 189
 —nrücken **123**
 —nsarkom **193**
 —nschleimhaut **121**
 —nsekretion **133**
 —nspekulum **124**
 —nspiegel nach Glatzel 132
 —nspitze **123**
 —nsymptome bei akuten Infektionskrankheiten **157**
 —nsymptome bei Diphtherie 157
 —nsymptome bei Influenza 157
 —nsymptome bei Marseern **157**
 —nsymptome bei Scharlach 157
 —nsyphilis 157
 —nverstopfung **133,** 148
 —nvorhof **124**
 typischer —rachenpolyp **192**
 Nasenrachenfibroid **304**
 Nasenspray 39
 Nasi
 Agger — **116**
 Radix — 114
 Nasus externus **114**
 Natagon **233, 333**
- Natrium benzoatis 219, **295**
 (Natrium benzoicum)
 Natrium bicarbonicum 218, 146
 Nebennierenpräparat
 Gebrauchsanweisung d. natürl. u. synthet. dargestellten — e **466**
 Neoparman 46
 Nephritis **212**
 Nervus(N.)
 — accessorius 266
 — acusticus **8**
 — auriculotemporalis **3**
 — cochlearis 5, **8**
 — cutaneus femoralis anterior **112**
 — facialis 7, 8
 — glossopharyngeus 209
 — laryngeus inferior = N. recurrens vagi **315**
 — laryngeus superior 314, **315**
 — olfactorius 122
 — phrenicus 430
 — recurrens 402
 — recurrens vagi **361**
 — vagus 266, 401
 — vestibularis **6, 8**
 Nester 304
 Neuritis
 — retrobulbaris **188**
 Neurorezidiv **234**
- Neurose
 funktionelle — **307**
 nasale Reflex— **195**
 motorische — des Kehlkopfes 362
 traumatische — 104
 neurosis
 Sphenopalatine ganglion — 307
 Nickbewegung **16**
 Niesen 134, **145 211,**
 Nitrous oxide 437
 Normalmischung **140**
 Novocain **460**
 Para-amido-Benzoesäure-Diäthylamidoäthylester— **462**
 Nucleus
 — lateralis s. internus 256
 — salivalis superior 257
 Nupercain **460**
 (2-Butyloxy-4-chinolin-carbonsäurediethylamino-äthylamido-monohydrochlorid—) **464**
 Nystagmus
 — durch Kompression u. Aspiration **17**
 experimenteller — 16
 galvanischer — **17**
 kalorischer — **17**
 labyrinthärer — 16
 spontaner — 16, 17